

久原瀧ヶ下

—福岡県宗像市久原所在遺跡の発掘調査報告—

宗像市文化財調査報告書 第48集

2000

宗像市教育委員会

KU BARA TAKI GA SHITA

久原瀧ヶ下

—福岡県宗像市久原所在遺跡の発掘調査報告—

宗像市文化財調査報告書 第48集



2000

宗像市教育委員会

序 文

宗像市は、福岡県の北部に位置しており、福岡市と北九州市の両政令市からいずれも約30kmという立地的条件を有しております。かつての純農村は、昭和36年の国鉄鹿児島本線電化を契機に、両都市への通勤圏として大規模な宅地開発が進められました。昭和38年にはじまった自由ヶ丘団地の造成、昭和41年にはじまった日の里団地の造成、さらには2つの大学の進出もあって、人口が急増し、活気ある都市として変貌を遂げました。現在では「快適生活都市・学術文化都市・高福祉都市」を3本の柱として発展を続けております。

急速な都市化は、おのずと自然環境や歴史的景観の変貌を伴うものであり、残念ながらほとんどの文化財は消滅の危機にさらされ、常に緊急な保存対策を迫られています。失われていく埋蔵文化財に対しては、緊急発掘調査を実施して、記録保存に努め、地域の歴史を解明する成果をあげまいりました。

本書は、宗像市総合保健福祉センターの建設に先立って発掘調査した久原瀧ヶ下遺跡の整理報告です。

本書が広く文化財の保護および学術研究に貢献することを念願いたしますとともに、発掘調査全般にわたってご協力をいただいた多くの方々に心からの感謝の意を表す次第であります。

平成12年3月31日

宗像市教育委員会

教育長 原 増 太 郎

例　　言

1. 本書は、平成7年度から11年度にかけて宗像市総合保健福祉センターの建設に伴い、緊急発掘調査を実施した久原瀧ヶ下遺跡（宗像市大字久原字瀧ヶ下108番地ほか）の調査報告書である。
2. 発掘調査は、宗像市教育委員会が事業主体となって実施した。
3. 福岡県文化財番号は、久原瀧ヶ下遺跡（330489）である。
4. 本報告書の遺物番号は、すべて通し番号である。
5. 遺構の名称は次のように記号化した。SC:竪穴住居跡　　SK:土坑・土墳墓・火葬墓
SB:掘立柱建物　　SD:溝　　SE:井戸　　SO:古墳
6. 測量は、国土調査法第Ⅱ座標系を用い、方位は磁北である。
7. 本書に掲載した平板図および遺構実測図の作成は、黒瀬茂文（現　篠栗町教育委員会）・白石康弘（現　大平村教育委員会）・笹栗俊也・江崎靖隆・小樋千鶴子・細川愛・白木英敏・岡崇がおこなった。
8. 本書に掲載した遺物実測図の作成は、安部裕久・秋成雅博・浅倉弥生・石川さやか・小樋・細川・江崎・岡がおこなった。
9. 本書に掲載した遺構および遺物の製図は、多比良佳奈子・中原美知子、遺物の整理は、西村広子・田代貞子・田崎紘子・東和子・浜田広美・浅倉がおこなった。
10. 本書に掲載した遺跡の全景および調査区の写真撮影は（有）空中写真企画、遺構の写真撮影は、安部・白木・白石・岡、遺物の写真撮影は岡がおこなった。
11. 本書の執筆および編集は、岡がおこなった。

目 次

第1章 序 説	1
1. 調査の経過	1
2. 組織と構成	1
3. 位置と環境	2
4. 遺跡の概要	6
第2章 調査の記録	19
1. 壴穴住居跡	19
2. 土坑	117
3. 土塚墓	133
4. 火葬墓	136
5. 挖立柱建物と柵列	138
6. 溝および井戸	143
7. 古墳	148
8. 包含層	150
第3章 まとめ	163
1. 壴穴式住居の変遷	163

挿図目次

第1図 周辺遺跡分布地図 (1/50,000)	3
第2図 事業計画図 (1/2,000)	4
第3図 調査区配置図 (1/2,000)	5
第4図 A区遺構配置図 (1/300)	7
第5図 B区遺構配置図 (1/300)	8
第6図 C区遺構配置図 (1/300)	9
第7図 D区遺構配置図 (1/300)	10
第8図 E区遺構配置図 (1/300)	11
第9図 F・G区遺構配置図 (1/300)	12
第10図 H・I区遺構配置図 (1/300)	14
第11図 J区遺構配置図 (1/300)	15
第12図 K区遺構配置図 (1/300)	15
第13図 L区遺構配置図 (1/300)	16
第14図 M区遺構配置図 (1/300)	16
第15図 N区遺構配置図 (1/300)	16

第16図 O・P・Q区遺構配置図 (1/300)	18
第17図 SC1～3遺構実測図 (1/80・1/40)	20
第18図 SC4～6遺構実測図 (1/80)	22
第19図 SC7～10遺構実測図 (1/80)	24
第20図 SC11～14遺構実測図 (1/80・1/40)	26
第21図 SC15～17遺構実測図 (1/80)	28
第22図 SC18～22遺構実測図 (1/80・1/40)	30
第23図 SC23～28遺構実測図 (1/80)	32
第24図 SC29～34遺構実測図 (1/80)	34
第25図 SC35～38遺構実測図 (1/80)	36
第26図 SC39～45遺構実測図 (1/80)	38
第27図 SC46～50遺構実測図 (1/80)	40
第28図 SC51～54遺構実測図 (1/80)	42
第29図 SC55～57遺構実測図 (1/80)	44
第30図 SC58～61遺構実測図 (1/80)	45
第31図 SC62～65遺構実測図 (1/80)	47
第32図 SC66～69遺構実測図 (1/80)	49
第33図 SC70～72遺構実測図 (1/80)	51
第34図 SC73～80遺構実測図 (1/80)	53
第35図 SC81～85遺構実測図 (1/80)	55
第36図 SC86～88遺構実測図 (1/80)	57
第37図 SC89～92遺構実測図 (1/80・1/40)	59
第38図 SC93・94・96～99遺構実測図 (1/80・1/40)	61
第39図 SC94・95・100～105遺構実測図 (1/80・1/40)	63
第40図 SC2・3遺物実測図 (1/3)	66
第41図 SC3遺物実測図 (1/3)	67
第42図 SC4遺物実測図 (1/3)	68
第43図 SC4～6遺物実測図 (1/3)	69
第44図 SC7遺物実測図1 (1/3)	70
第45図 SC7遺物実測図2 (1/3)	71
第46図 SC8～11遺物実測図 (1/3)	72
第47図 SC11・12遺物実測図 (1/3)	73
第48図 SC15遺物実測図 (1/3)	74
第49図 SC16～21遺物実測図 (1/3)	75
第50図 SC24～33遺物実測図 (1/3)	76
第51図 SC33～36遺物実測図 (1/3)	77
第52図 SC38～48遺物実測図 (1/3)	78

第53図	SC41遺物実測図(1/3).....	79
第54図	SC52遺物実測図(1/3).....	80
第55図	SC51~54遺物実測図(1/3).....	81
第56図	SC55~68遺物実測図(1/3).....	82
第57図	SC64遺物実測図1(1/3).....	83
第58図	SC64遺物実測図2(1/2・1/3).....	84
第59図	SC72遺物実測図1(1/3).....	85
第60図	SC72遺物実測図2(1/3).....	86
第61図	SC72遺物実測図3(1/3).....	87
第62図	SC72遺物実測図4(1/3).....	88
第63図	SC72~86遺物実測図(1/3).....	89
第64図	SC89~93遺物実測図(1/3).....	90
第65図	SC95~99遺物実測図(1/3).....	91
第66図	SC94遺物実測図1(1/3).....	92
第67図	SC94遺物実測図2(1/3).....	93
第68図	SC94遺物実測図3(1/3).....	94
第69図	SC94~105遺物実測図(1/3).....	95
第70図	住居出土石器実測図1(1/3).....	96
第71図	住居出土石器実測図2(1/3).....	97
第72図	住居出土石器実測図3(1/3).....	98
第73図	住居出土石器実測図4(1/1).....	99
第74図	SK3・25・30・31遺構実測図(1/80・1/40).....	118
第75図	SK32遺構実測図(1/40).....	119
第76図	SK3遺物実測図1(1/3).....	120
第77図	SK3遺物実測図2(1/3).....	121
第78図	SK25遺物実測図(1/2).....	121
第79図	SK30・31A遺物実測図(1/3).....	122
第80図	SK31A遺物実測図(1/3).....	123
第81図	SK31B遺物実測図(1/3).....	124
第82図	SK32遺物実測図1(1/3).....	125
第83図	SK32遺物実測図2(1/3).....	126
第84図	SK1・2・4・5・6・14~20・24遺構実測図(1/80・1/40).....	129
第85図	SK6・15・17~20遺物実測図(1/3).....	130
第86図	SK14遺物実測図(1/3).....	131
第87図	SK4・24遺物実測図(1/3).....	132
第88図	SK7・8・21・22・22遺構実測図(1/40・1/20).....	134
第89図	SK8・21・22・28遺物実測図(1/2・1/3).....	135

第90図	SK25~29遺構実測図(1/20).....	137
第91図	SB1~3・7遺構実測図(1/80).....	139
第92図	SB4遺物実測図(1/3).....	140
第93図	SB5遺物実測図(1/1・1/3).....	140
第94図	SB4・5遺構実測図(1/80).....	141
第95図	SB9遺物実測図(1/3).....	141
第96図	SB6・8・9遺構実測図(1/80).....	142
第97図	SD6遺構実測図(1/120).....	144
第98図	SD6土層実測図(1/40).....	145
第99図	SE1遺構実測図(1/40).....	146
第100図	SD6・SE1遺物実測図(1/2・1/3).....	147
第101図	SO1遺物実測図(1/2・1/4).....	148
第102図	SO1遺構実測図(1/40).....	149
第103図	包含層出土遺物実測図(1/3).....	150

表 目 次

第1表	文書整理表.....	1
第2表	周辺遺跡一覧表.....	3
第3表	調査区概要表.....	6
第4表	竪穴式住居計測表.....	64
第5表	竪穴式住居出土土器計測表.....	100
第6表	竪穴式住居出土石器計測表.....	115
第7表	竪穴式住居出土玉類ほか計測表.....	116
第8表	古墳時代土坑計測表.....	150
第9表	中世土坑計測表.....	150
第10表	土壤墓計測表.....	151
第11表	火葬墓計測表.....	151
第12表	古墳計測表.....	151
第13表	古墳時代土坑出土遺物計測表.....	151
第14表	中世土坑出土遺物計測表.....	156
第15表	土壤墓・火葬墓出土遺物計測表.....	160
第16表	掘立柱建物跡出土遺物計測表.....	160
第17表	溝・井戸出土遺物計測表.....	161
第18表	古墳出土金属器計測表.....	162
第19表	古墳出土玉類計測表.....	162
第20表	竪穴式住居新旧関係表.....	163

図版目次

- 図版1 航空写真 全景
- 図版2 南から全景、北から全景、A区全景、B区全景、C区全景
D区全景、E区全景、F・G区全景、H・I区全景、J区全景、K区全景
L区全景、M区全景、N区全景、O区全景、P区全景、Q区全景
- 図版3 SC1・2、SC3、SC3カマド、SC4、SC6、SC7
SC7遺物出土状況、SC8、SC9、SC10、SC11、SC12
SC12遺物出土状況、SC13・14、SC15、SC15遺物出土状況、SC17、SC18
- 図版4 SC19・20・21、SC19遺物出土状況、SC22、SC24、SC27・28、SC29・30
SC31・32、SC33、SC35・36・37・38、SC39、SC46、SC47・48・49
SC51・52・53、SC54、SC55・56、SC58・59・60・61、SC62・63、SC64
- 図版5 SC66、SC68、SC70・71、SC72遺物出土状況、SC72縄文甕出土状況、SC72
SC73・74、SC75・76・77・78、SC81・82・83、SC84・85、SC86、SC89
SC90、SC90カマド遺物出土状況、SC91、SC93、SC94、SC94遺物出土状況
- 図版6 SC95・96・97・98、SC100、SC102、SC105、SK3、SK25
SK31、SK32、SK2、SK4、SK14、SK14遺物出土状況
SK24、SK8、SK22、SK26、SK27、SK28
- 図版7 SB1、SB2、SB3、SB4
SB5、SB6、SD6、SE1、SO1
- 図版8 3-11、3-17～22、3-23、3-28、4-34、4-35、4-40
4-42、4-46、4-47、6-51、6-52、6-55、6-60、7-61
7-65、7-68、7-74、7-81、7-83、8-85
8-86、9-88、10-91、10-93、11-95、11-97、11-98、11-99
- 図版9 11-100、11-104、12-106、12-107、12-111、15-113、15-114
15-115、15-116、15-117、15-118、15-119、15-120、15-122
15-124、15-125、16-126～134、18-137、19-138、19-139
28B-143、28B-144、30-145、32-146、33-147、33-148、33-151、33-152
- 図版10 33-153、33-157、33-159、33-161、33-162、33-163、33-164、33-166、33-170
34-171、35-172、35-173、35-174・175、38-181、38-183、38-184、38-187
38-188、38-189、39-191、41-198、41-200、46A-194、51B-217、52-201
52-202、52-206、52-209、52-215、53-219、53-220、54-222、54-223、54-225
- 図版11 54-227、54-228、54-229、54-231、54-232、54-233、59-235、62-236、64-250
64-251、64-252、64-253、64-258、64-259、64-260
64-261、64-243、64-245、64-246、64-247、64-267、64-271
64-268、64-269、68B-242、89-329、85-323
- 図版12 72-272、72-274、72-275、72-276、72-277
72-273、72-278、72-283、72-279
72-285、72-286、72-287、72-288、72-289
72-290、72-291、72-292、72-293、72-294、72-295～298、72-299～302
- 図版13 72-303、72-304、72-307、72-308、72-309、72-310、72-311、72-312
72-313、72-319、72-320、72-321、86-324、93-340
93-350～353、94-386、94-382、94-388、94-390
94-395、94-387、94-397、94-398、94-399、94-400、94-401、94-402
- 図版14 94-403、94-404、94-405、94-406、94-407、94-408、94-410、94-411
94-413、94-415、94-418、94-420、94-421
94-422、97-356、97-358、98-360、98-368、98-370、99-375
99-376、99-377、瓦石448～451、筋砥石451、円礫435～440、円礫441～447、軽石452・453、玉類ほか455～504
- 図版15 SK3-510、SK3-511、SK3-514、SK3-516、SK3-523、SK3-524、SK3-526、SK30-546、SK30-556・558～562
SK31A-569、SK31A-576、SK31A-595、SK31A-598、SK31B-600、SK31B-602、SK31B-603
SK31B-606、SK31B-608、SK32-619、SK32-620、SK32-622、SK32-624、SK32-625、SK32-631、SK32-632
SK32-633、SK32-635、SK32-638、SK32-639、SK32-645、SK32-646・647、SK32-655、SK25-543
- 図版16 SK4-732～734、SK4-735～737、SK4-741、SK4-742、SK6-660、SK14A-697、SK14A-698、SK14A-699
SK15-677、SK15-678、SK15-679、SK8-751、SK8-752、SK8-753、SK8-756～760、SK22-761、SK22-763
SK22-762、SK21-764、SK28-766、SB9P2-772、SD6-773、SD6-782、SD6-795
SD6-787、SE1-797、SE1-798、SO1金属器、SO1玉類、O区包含層837

第1章 序 説

1. 調査の経過

平成6年9月21日に宗像市都市計画部より宗像市総合保健福祉センター建設の用地造成工事に伴う文化財調査の依頼があった。

これを受け、同年11月17日から12月1日にかけて試掘調査を実施した結果、ほぼ全域に渡って住居、土坑、柱穴などが分布していたことから、平成7年2月1日より調査を実施した。

第1表 文書整理表

年度	地番	調査区	埋蔵文化財発掘の届出	埋蔵文化財発掘調査の届出	埋蔵物発見届	埋蔵文化財保管証	埋蔵文化財発掘調査終了通知
7年度	108 番地ほか	A～L 区	7宗教社173 平成7年5月8日	7宗教社107 平成7年4月1日	8宗教社7 平成8年4月3日	8宗教社8 平成8年4月3日	8宗教社340 平成8年6月18日
8年度	108 番地ほか	M・N 区	8宗教社222 平成8年5月23日	9宗教社104 平成9年4月24日	9宗教社110 平成9年4月24日	9宗教社111 平成9年4月24日	9宗教社120 平成9年4月25日
9年度	109 番地	O区	9宗教社207 平成9年5月15日	9宗教社598 平成9年9月4日	9宗教社918 平成10年1月16日	9宗教社925 平成10年1月19日	9宗教社1010 平成10年2月25日
10年度	110-5番 地	P区	10宗教社47 平成10年4月16日	10宗教社148 平成10年6月1日	10宗教社849 平成11年3月30日	10宗教社850 平成11年3月30日	10宗教社859 平成11年3月31日
11年度	110-2番 地	Q区	11宗教社70 平成11年5月10日	11宗教社92 平成11年5月10日	11宗教社214 平成11年6月11日	11宗教社234 平成11年6月17日	11宗教社236 平成11年6月21日

2. 組織と構成

	7年度	8年度	9年度	10年度	11年度
総括 宗像市教育委員会	(教育長) 森下照清	(教育長前任) 森下照清	林 英典	(教育長) 原田慎太郎	原田慎太郎
		(教育長) 林 英典			
	(教育部長) 中野和人	中野和人	(教育部長) 織戸勝也	織戸勝也	織戸勝也
	(社会教育課長) 藤野英美	藤野英美	(社会教育課長) 藤野英美	井上 弘	井上 弘
			(社会教育課長) 井上 弘		
	(文化係長) 原 俊一	原 俊一	原 俊一	(文化係長) 原 俊一	原 俊一
庶務・会計	(文化係長) 原 俊一	(主任主査) 織戸敏子	(主査) 井上幸恵	(主査) 安部裕久	安部裕久
発掘調査担当	(技術) 岡 崇	(主任技術) 安部裕久	岡 崇	岡 崇	(技術) 白木英敏
		(調査) 白石康弘			
報告書担当					岡 崇

3. 位置と環境

本遺跡は、宗像市のやや西側で、福間町との境に接する許斐山（271.0m）より北西方向から北東方向にかけて八手状に派生する丘陵のうち、北北東にのびる最も長い丘陵上に位置する。

八手状に派生する丘陵のほとんど約218万m²は、昭和41年にはじまった日の里団地の造成にともなって住宅地として姿を変えた。当時、緻密な文化財調査のできる状況ではない中で、福岡教育大学教授波多野院三氏や当時九州大学文学部大学院生である春成秀爾氏等が中心となって、懸命な調査が実施されている。東郷遺跡群は、宗像市内の調査で最も古い報告書である。東郷・高塚古墳は、このときに「数少ない古式古墳で学術上きわめて価値の高いものである。」という理由で造成を免れ緑地として保存された。

近年の調査で、鍛冶関連や滑石工房、畿内系土器の流入や陶質土器の流入、韓国に例をみる特殊なカマドの構造など、古墳時代の社会の様相が少しずつ明らかになってきている。

久原瀧ヶ下遺跡は、昭和57年のほ場整備に伴う発掘調査で、住居跡、溝、貯蔵穴および柱穴群などが検出された。1号住居からは轍の羽口や3号住居から庄内式系甕と板状鉄斧が出土している。

野坂一町間遺跡は、昭和59年のほ場整備に伴う発掘調査で、住居跡が検出された。そのなかで1号住居からは鍛冶炉が検出され、4号住居からは鍛冶炉、そのほか4・5・6号住居から2.5kg相当の鉄滓が出土していることから鍛冶との関連のある住居群と考えられている。

富地原神屋崎遺跡は、平成3年度のほ場整備に伴う発掘調査で、住居跡、土坑、掘立柱建物跡、柱穴群などが検出された。特にSK8からは、滑石の原石や白玉の未製品、チップ、砥石、軽石などが出土し滑石製作跡を示唆する遺跡である。

富地原川原田遺跡は、平成4年度のほ場整備に伴う発掘調査で、住居跡が検出された。ここでは、24号住居より庄内式系甕、二重口縁甕など畿内系土器が出土し、さらに14・32号住居では陶質土器が27号住居では朝鮮系軟質土器が出土しており、外来色の強い遺跡である。

光岡六助遺跡2次調査では、平成7年度に店舗などの開発によって住居跡、土坑、溝が検出された。9号住居は、4本柱の方形住居で西壁の中央にカマドを設け、南西コーナーに向けて壁に沿ってトンネル状に煙道が延びているという特殊な構造で、岡垣町墓ノ尾遺跡や津屋崎町在自下ノ原遺跡で同様な構造の住居が検出されている。

註1 東郷遺跡群 日本住宅公団東郷土地地区画整理事業にともなう埋蔵文化財の発掘調査報告書 日本住宅公団 1967

註2 宗像市史 通史編第1巻 自然・考古 宗像市史編纂委員会 1997 第4章古墳時代p688～p691

註3 宗像 埋蔵文化財発掘調査報告書 宗像市文化財調査報告書 第9集 宗像市教育委員会 1985 第3章4

註4 富地原神屋崎 福岡県宗像市富地原所在遺跡の発掘調査報告 宗像市文化財調査報告書 第41集 宗像市教育委員会 1996

註5 富地原川原田1 福岡県宗像市富地原所在遺跡の発掘調査報告 宗像市文化財調査報告書 第39集 宗像市教育委員会 1994

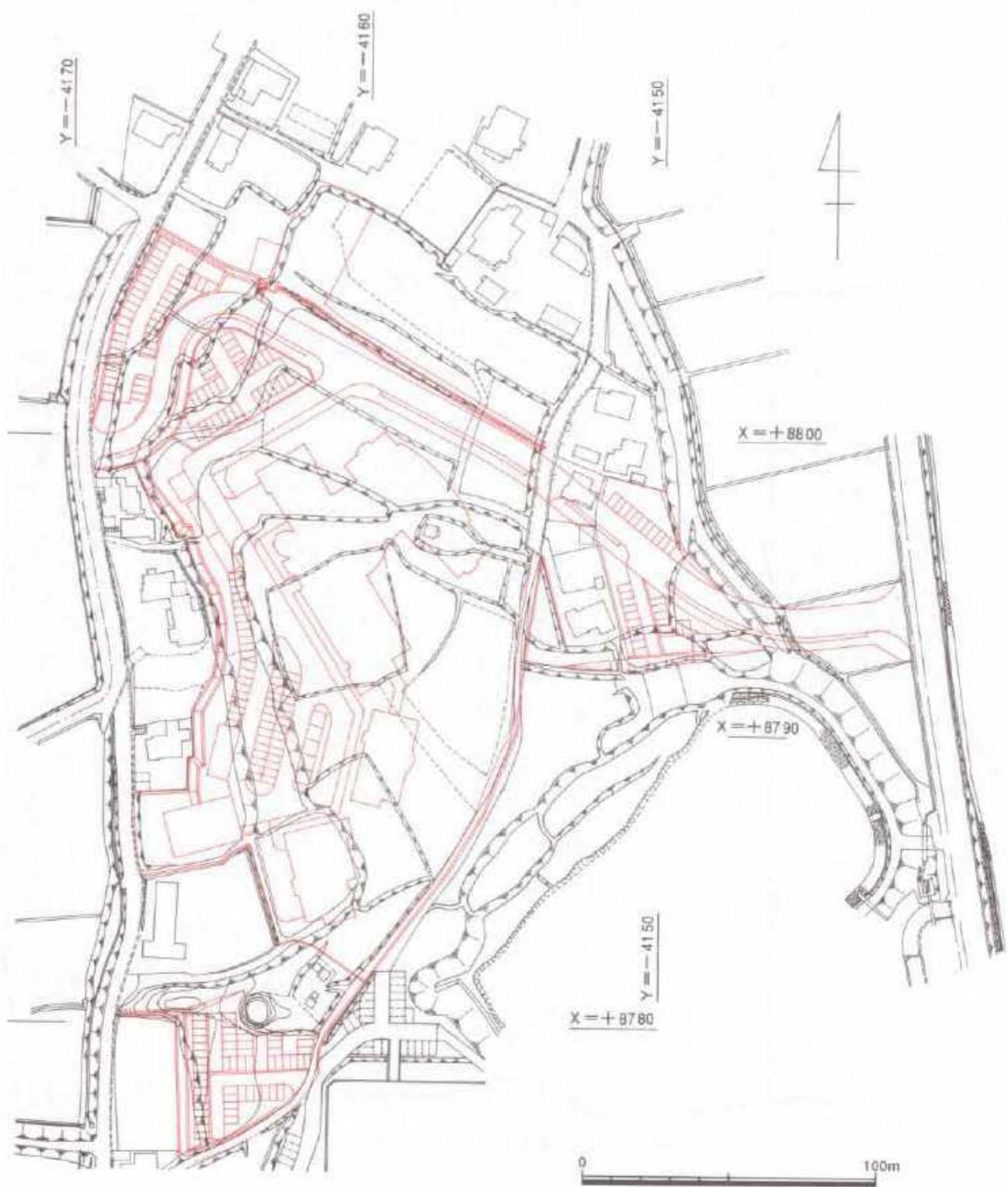
註6 宗像市史 通史編第1巻 自然・考古 宗像市史編纂委員会 1997 第4章古墳時代p680・p681



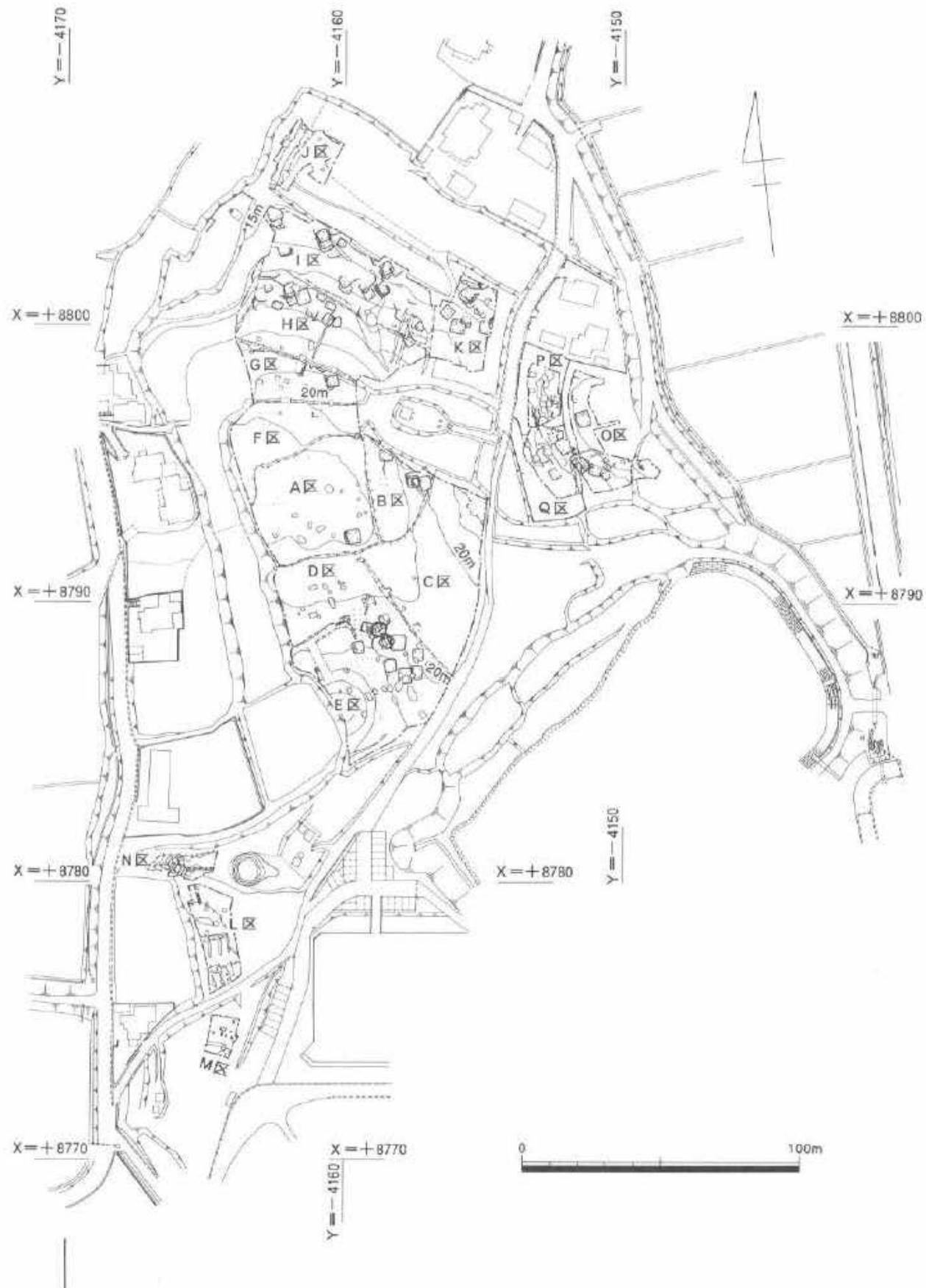
第1図 周辺遺跡分布地図 (1/50,000)

第2表 周辺遺跡一覧表

番号	遺跡名	登録番号	時代	報告書	主な遺構
1	東郷遺跡群	330411～330421	弥生～近世	1967年報告	古墳・住居ほか
2	久原瀧ヶ下遺跡	330489	弥生～中世	今回報告	集落
3	久原遺跡	330506	弥生～中世	第19集	貯蔵穴・墓・溝
4	光岡六助遺跡	330793	古墳		集落・河川
5	野坂一町間遺跡	330499	弥生～古墳	第9集	集落
6	富地原神屋崎遺跡	330530	弥生～古墳	第41集	集落
7	富地原川原田遺跡	330545	弥生～古墳	第39集	集落



第2図 事業計画図 (1/2,000)



第3図 調査区配置図 (1/2,000)

4. 遺跡の概要

本遺跡は、宗像市と宗像郡福間町との境にある許斐山(271m)より北東方向に派生した丘陵上で、東側には朝町川・高瀬川によって形成された平野を臨むことができる。この丘陵は宗像市内でも遺跡の密度の高い地域である。

昭和63年に建設された宗像市民総合センターの建設に伴い、久原遺跡では弥生時代の土塙墓・貯蔵穴群、中世の大溝などが調査された。さらに久原澤田古墳群の古墳50基が確認され、一部は古墳公園として保存されている。

本調査では、古墳時代の住居跡が7割を占め、土坑、土塙墓、掘立柱建物、溝、古墳、柱穴群などが検出された。同じ丘陵上でありながら古墳時代、南側は古墳群、北側は集落といったように異なった性格の遺跡であることがわかった。

調査区および遺構の数は、次の通りである。

第3表 調査区概要表

調査区	標 高	面積 (m ²)	遺 構								備 考
			住居跡	土坑	土塙墓	火葬墓	溝	掘立	柵列	古墳	
A	21.75~21.25m	1500	1	2	-	-	-	-	-	1	-
B	21.25~20.50m	450	6	1	-	-	1	-	-	-	-
C	20.25~19.25m	1200	-	1	-	-	-	-	-	-	-
D	20.75~19.50m	2300	14	2	2	-	2	2	-	-	-
E	19.50~17.75m	1000	2	-	-	-	-	-	1	1	-
F	21.50~20.00m	800	1	-	-	-	-	1	-	-	-
G	19.00~18.00m	600	5	1	-	-	-	-	-	-	-
H	18.00~17.00m	1500	18	5	-	-	2	-	-	-	-
I	17.00~15.25m	1500	26	1	2	-	-	1	-	-	-
J	14.00~11.75m	400	2	-	-	-	1	-	-	-	1
K	16.75~15.00m	550	14	-	-	-	-	-	-	-	-
L	17.50~15.25m	400	-	2	-	-	-	-	-	-	-
M	18.75~18.25m	130	-	-	-	4	-	-	-	-	-
N	18.50~16.00m	200	-	-	-	-	-	-	-	1	-
O	14.25~12.75m	1900	6	-	-	-	-	-	-	-	-
P	15.25~13.75m	500	4	2	-	-	-	1	-	-	-
Q	16.00~13.75m	700	6	1	-	-	-	1	-	-	-
合 計		14730	105	18	4	4	6	7	2	1	1

今回報告する遺構は、竪穴住居跡105棟検出され、そのなかで拡張住居とわかるものは拡張前、拡張後を含め1棟とした。土坑は18基で、古墳時代の土坑5基、中世およびその外の土坑13基に分けられる。土塙墓・火葬墓はそれぞれ4基検出された。掘立柱建物は9棟で、そのうち古墳時代の建物4棟、中世の建物3棟、柵列と考えられる遺構2棟を検出した。このほか溝6条と井戸1基、古墳は横穴式石室の1基である。

今回報告する遺物は次の通りである。

陶質土器（縄縞紋を施す甕、把手付小鉢、小鉢）

須恵器（高壺、壺身、壺蓋、趣ほか）

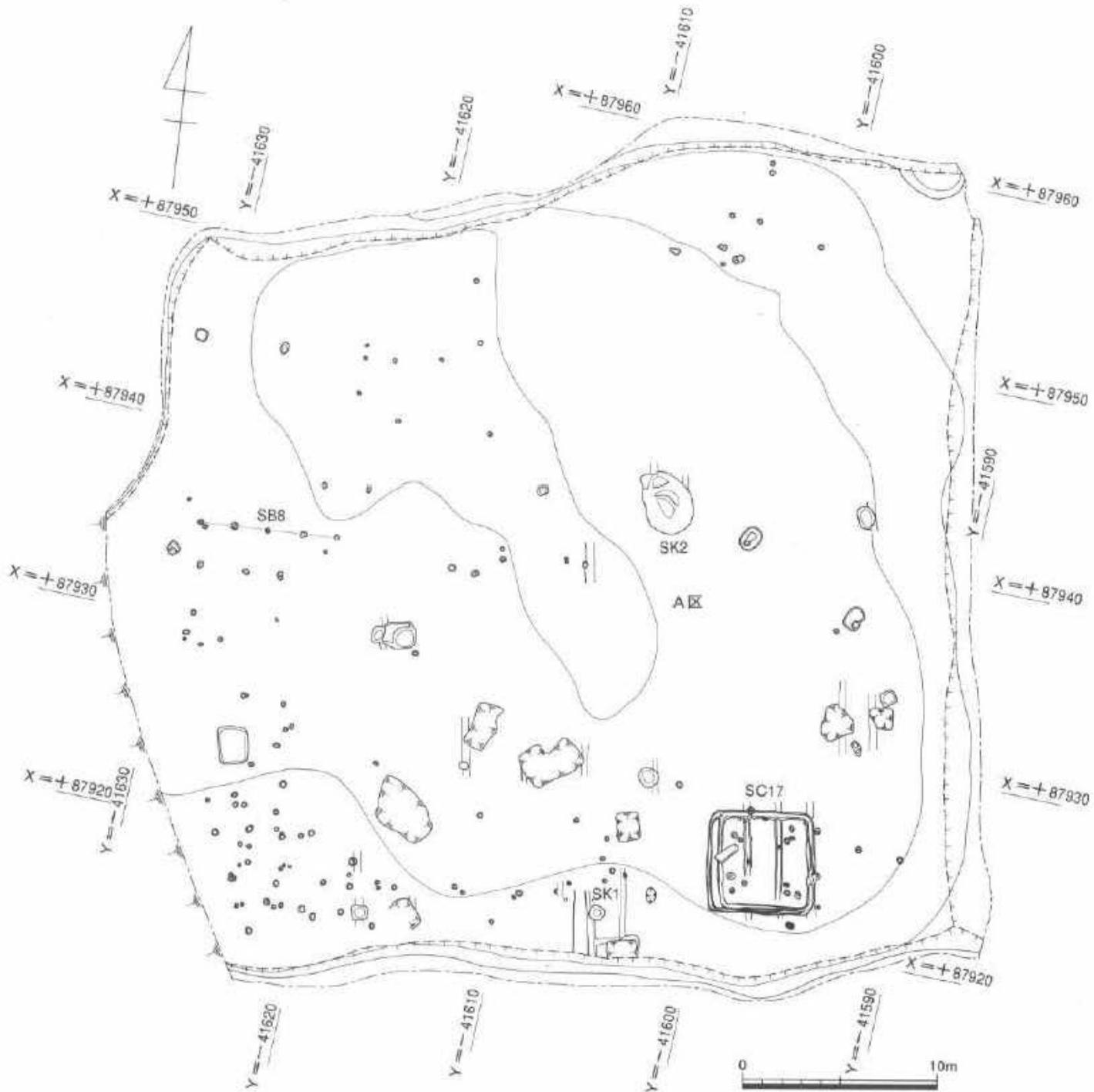
土師器（甕、壺、椀、鉢、高壺、手捏土器、甑、支脚、土玉、鏡型土製品ほか）

石器（砥石、石鍋、臼玉、勾玉ほか）

金属器（釘、鉄鎌、鉄具、耳輪、仏具？ほか）

調査範囲は、おもに畑地として利用されていた部分で、一部は民家除去後に調査を実施した。畑地は、丘陵の高い部分を水平にし、また、区画などによって溝や段を施していたことから、全体的に著しく削平されている。

調査面積は約15000m²と広いため、こうした区画範囲を1つの調査区として設定し、17の調査区を設けてアルファベット順に調査整理をおこなった。



第4図 A区遺構配置図 (1/300)

A区

A区は、本遺跡のほぼ中央で、最高所に位置する。

現状は、畠地であり全体的に開墾時の削平が進んでいる。遺構面は、地表から10~20cmの所で検出された。遺構密度は低く、深い遺構だけが残っている状況である。

遺構は、調査区の南東側より検出された拡張住居1棟と、調査区の西側で検出された柵列状遺構1棟、東側から南側にかけて検出された土坑2基である。

B区

B区は、A区の東側に位置し調査区は三角形を呈している。

現状は、畠地であり全体的に開墾時の削平が進んでいる。遺構面は、地表から10~30cmの所で検出された。遺構密度は、全体的には低く遺構の検出箇所も片寄っている。標高は東側に下っており遺構はおもに北から東側で検出された。北東側では、住居の竪穴の残りが良い。

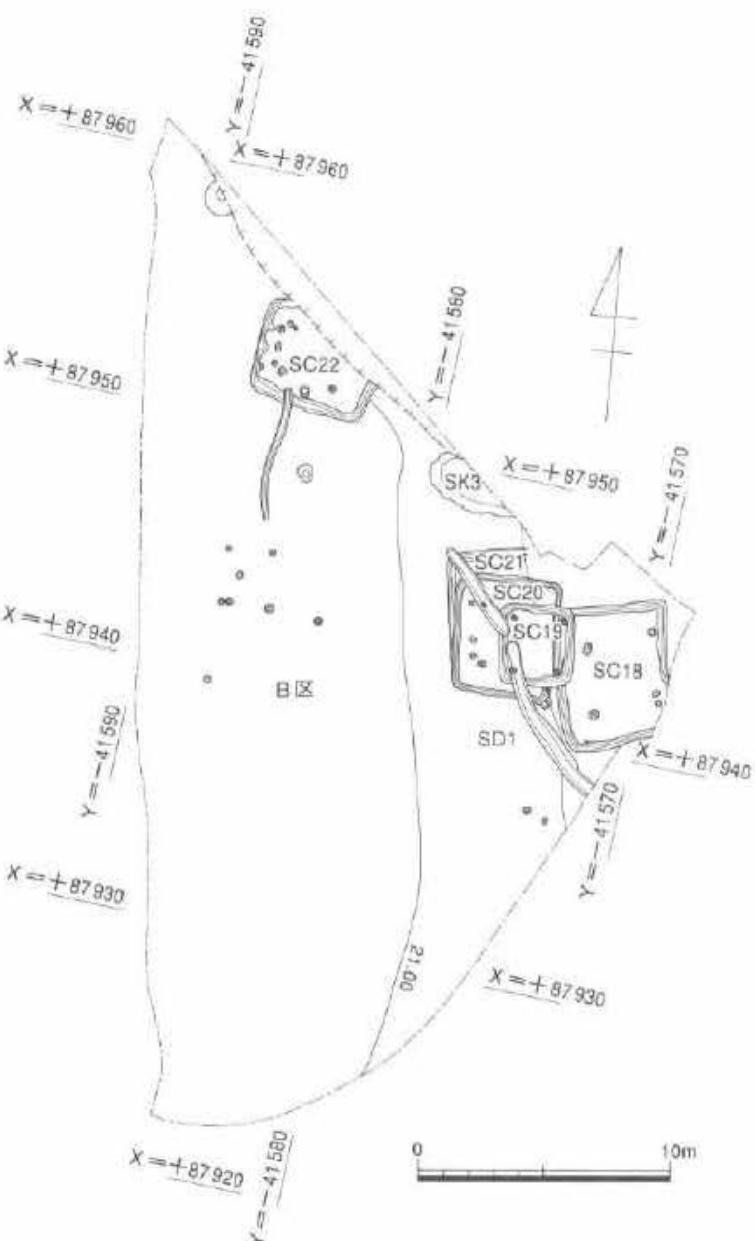
遺構は、住居跡6棟、土坑1基、溝1条である。SC22とSC19・20・21に挟まれてSK3などが検出され、住居の埋土を切って中世の溝が南東~北西方向に検出された。

C区

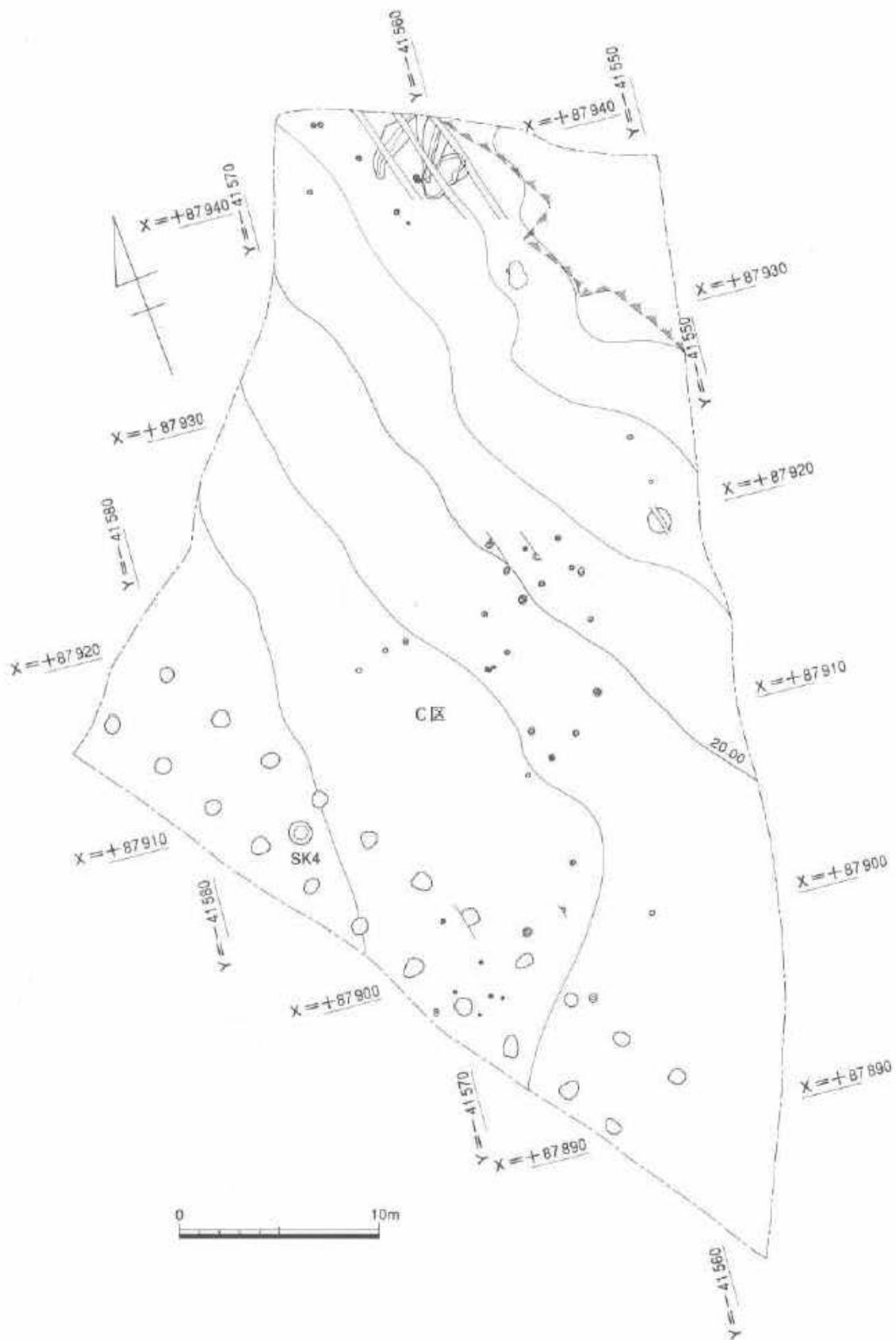
C区は、B区のさらに東側に位置する。

現状は、畠地であり全体的に開墾時の削平が進んでいる。遺構面は、地表から10~20cmの所で検出された。遺構密度は低く、深い遺構だけが残っている状況である。標高は東側に下っているが、B区の北東側で検出されていた住居もC区ではさらに削平されまったく検出されなかった。調査区の中央部分では、小規模な柱穴群が認められるが建物として並ぶ柱は認められなかった。

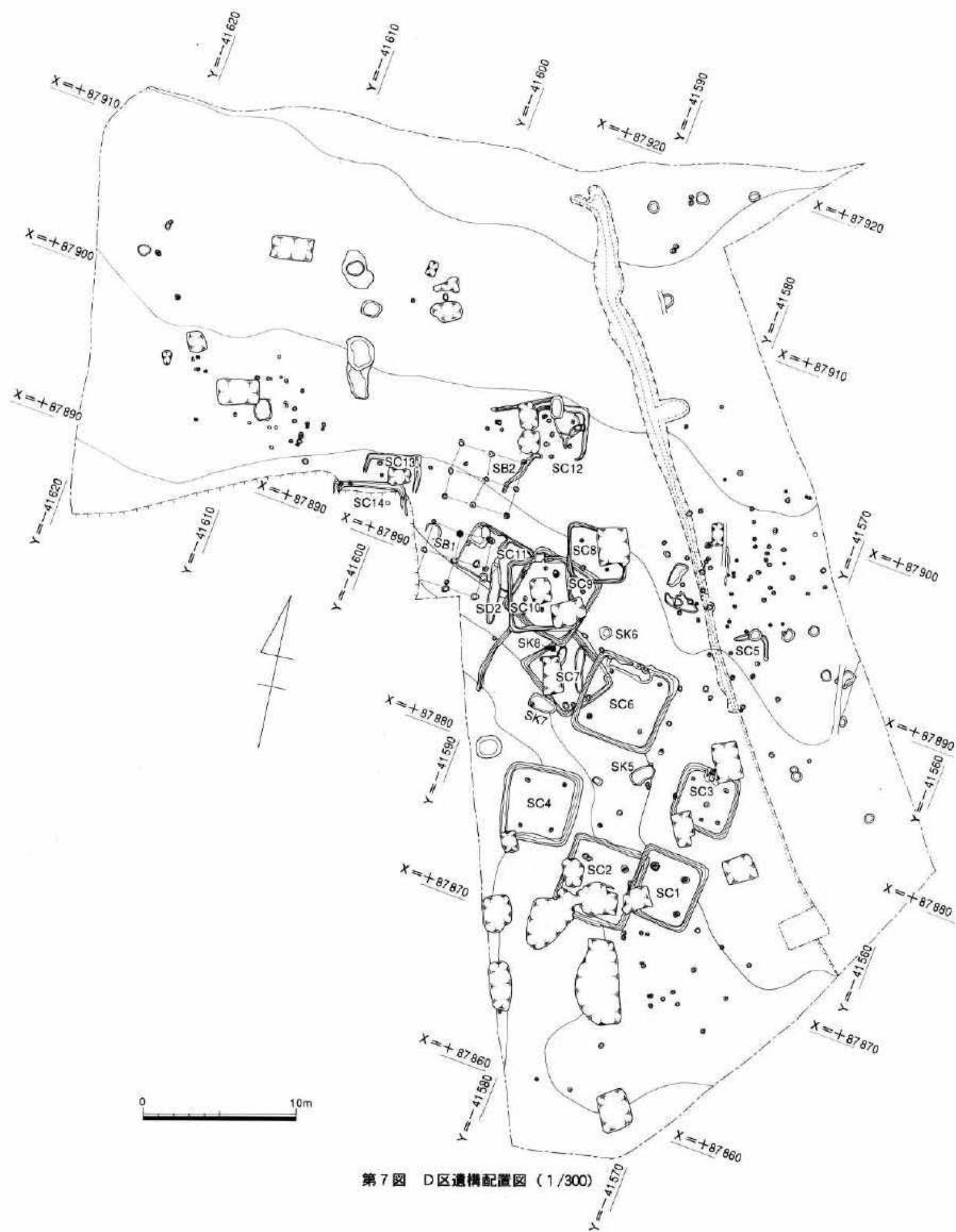
遺構は、調査区の南側より検出されたSK4で中世の遺物を含んでいる。



第5図 B区遺構配置図 (1/300)



第6図 C区遺構配置図 (1/300)



第7図 D区遺構配置図 (1/300)

D区

D区は、A区の南側でE区の北側と東側を縫状に囲むように位置する。現状は、畠地であり全体的に開墾時の削平が進んでいて、北西側と南端は深い遺構および搅乱坑だけが残っている状況である。調査区の中央部分のやや鞍部となっているところは、古墳時代の包含層が認められる。遺構面は、地表から10~30cmの所で検出された。遺構密度は、鞍部が高く包含層除去後多数の住居が切り合っていた。

遺構は、調査区中央部分を中心に検出された住居跡14棟と掘立柱建物2棟、中世の土坑および土塁墓4基である。

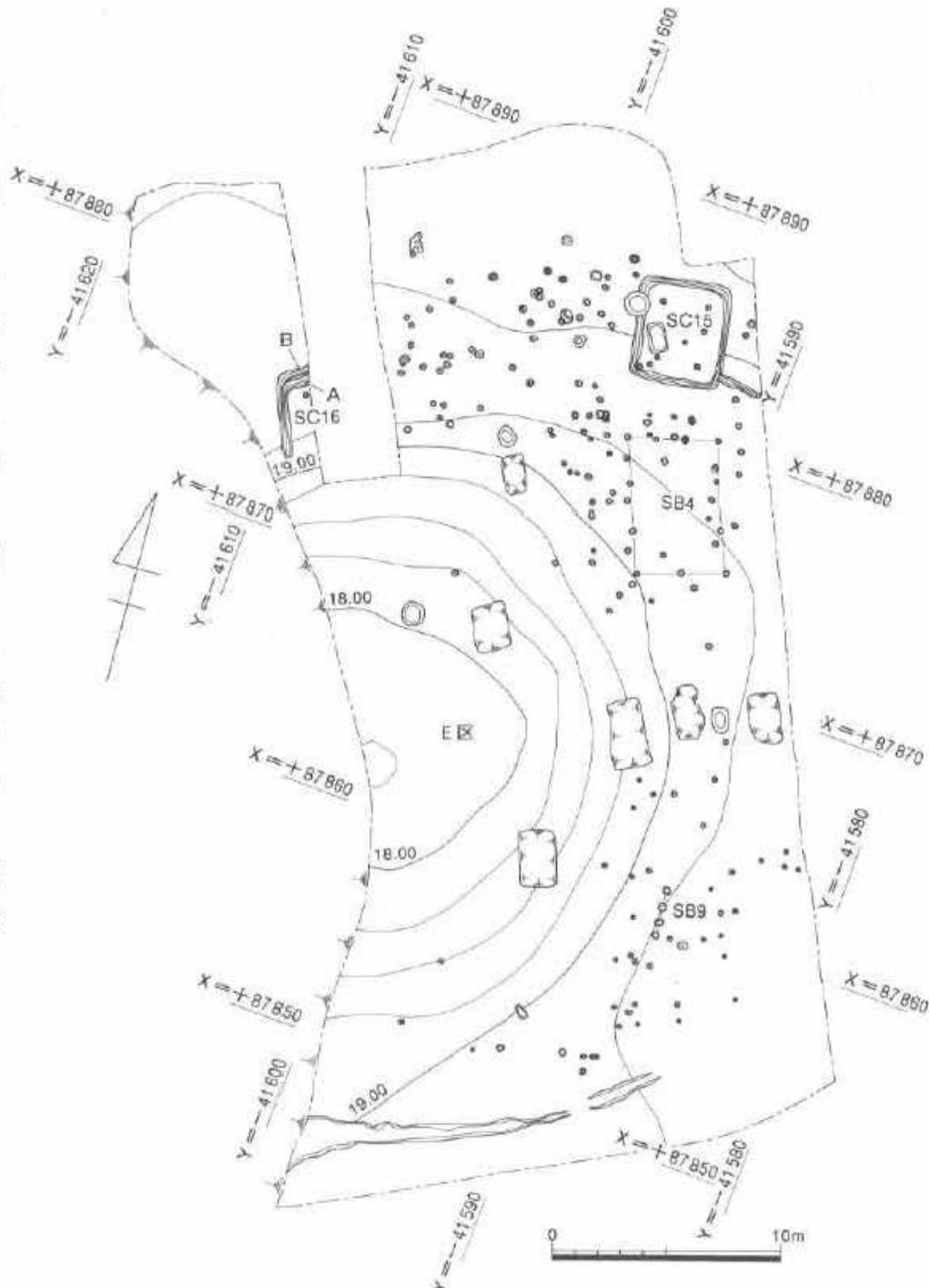
E区

E区は、D区のさらに西側に位置する。

現状は、畠地であるが調査区の中央部分が西へ大きく谷地形となっているため古墳時代の包含層が厚く堆積している。遺構面は2面あり、中世は地表から20~30cmの所で検出され、古墳時代の地山は、最も深いところで地表から1mを測る。

遺構密度は低く、中世の遺構面では主に柱穴が検出され、古墳時代の遺構面では、単発的に住居跡が認められた。

遺構は、住居跡2棟と掘立柱建物1棟と柵列状遺構1棟である。



第8図 E区遺構配置図 (1/300)



第9図 F・G区遺構配置図 (1/300)

F区

F区は、A区の北側に位置する。

現状は、畑地および篠竹林であり全体的に開墾時の削平が進んでいる。遺構面は、地表から10cmの所で検出された。遺構密度は低く、深い遺構だけが残っている状況である。標高は、徐々に北東側へ下っている。

遺構は、調査区の北側より検出された掘立柱建物1棟と住居跡1棟である。

G区

G区は、F区の北側に位置する。

現状は、畑地および篠竹林で一部に薬の木が植林してあり全体的に開墾時の削平が進んでいる。遺構面は、地表から10~20cmの所で検出された。遺構密度は、全体的には低く遺構の検出箇所は片寄っている。標高は、徐々に北側へ下っている。遺構はおもに北側で検出され、南側は削平によって遺構が認められない。

遺構は、調査区の北東側より検出された住居跡5棟と北西端の土坑1基である。

H区

H区は、G区の北側に位置し、G区との高低差は約1mを測る。

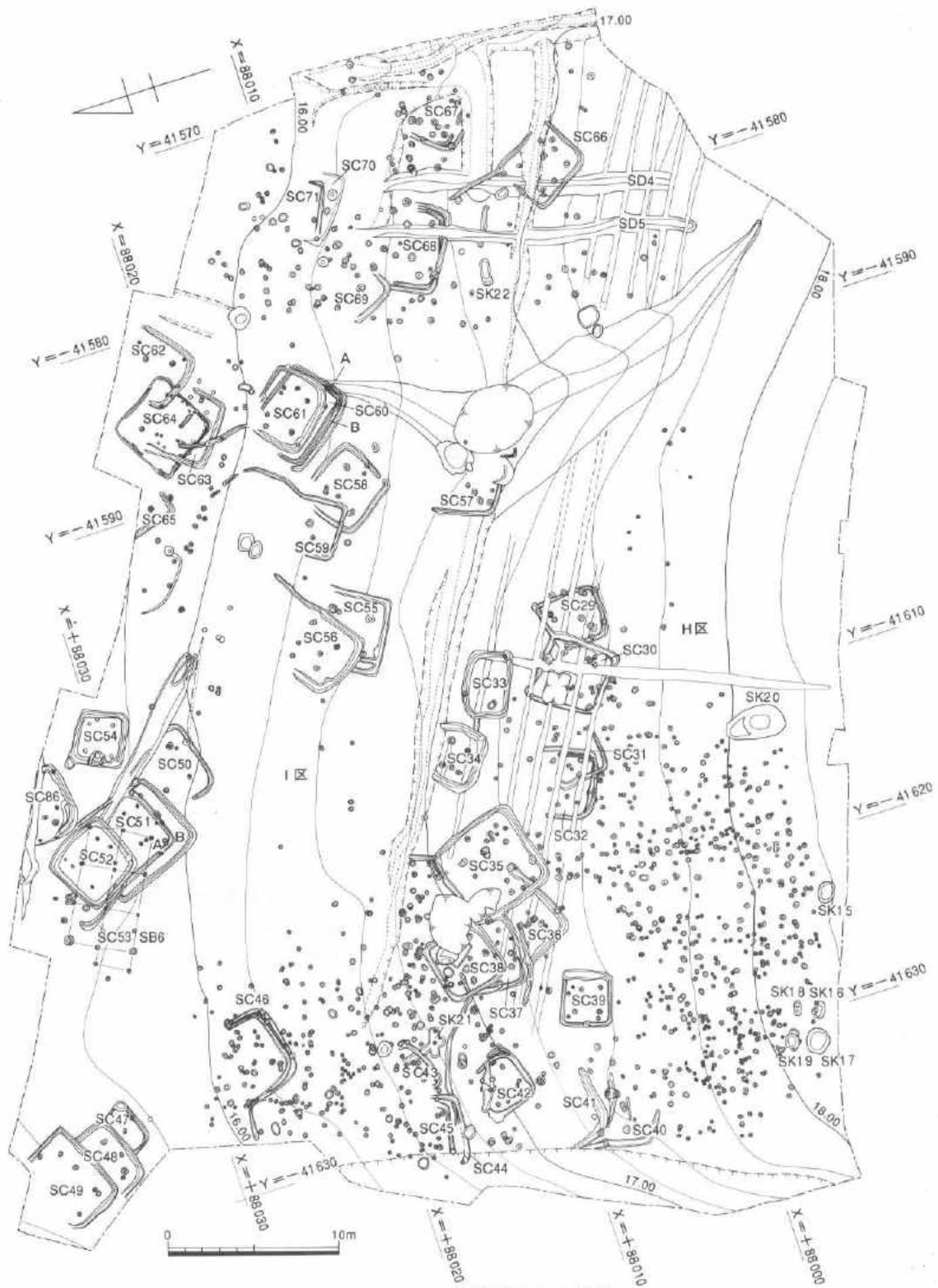
現状は、畑地であり全体的に開墾時の削平が進んでいるが特に南側が著しい。遺構面は、地表から10~20cmの所で検出された。遺構密度は、全体的には北西側で高く、南東側では低い。標高は、徐々に北側へ下っている。遺構はおもに北西側で住居群が検出され、南西側では、中世の土坑および柱穴群が検出された。中世段階では、G区とH区の段差はなかったものと考えられ、近年、畑として段差を設けたのではないかと考えられる。

遺構は、調査区の北~北西側にかけて検出された住居跡18棟、南西側の土坑6基と北西側の土壙墓1基である。

I区

I区は、H区の北側に位置する。I区とH区との境は、畑を区画する溝であるが浅いため明瞭ではない。現状は、畑地であり全体的に開墾時の削平が進んでいる。遺構面は、地表から20~50cmの所で検出された。遺構密度は、全体的に高く住居群の分布を単位で抑えることができるのではないかと考えている。特に西側の遺構空白地は、削平によって住居跡が検出されないのではなく、元々から広場としての空間が考えられる。標高は、徐々に北側へ下っているが、H区に比べ傾斜は緩い。

遺構は、住居跡26棟、北西端より掘立柱建物跡1棟、東側より土壙墓1基である。



第10図 H-I区遺構配置図 (1/300)

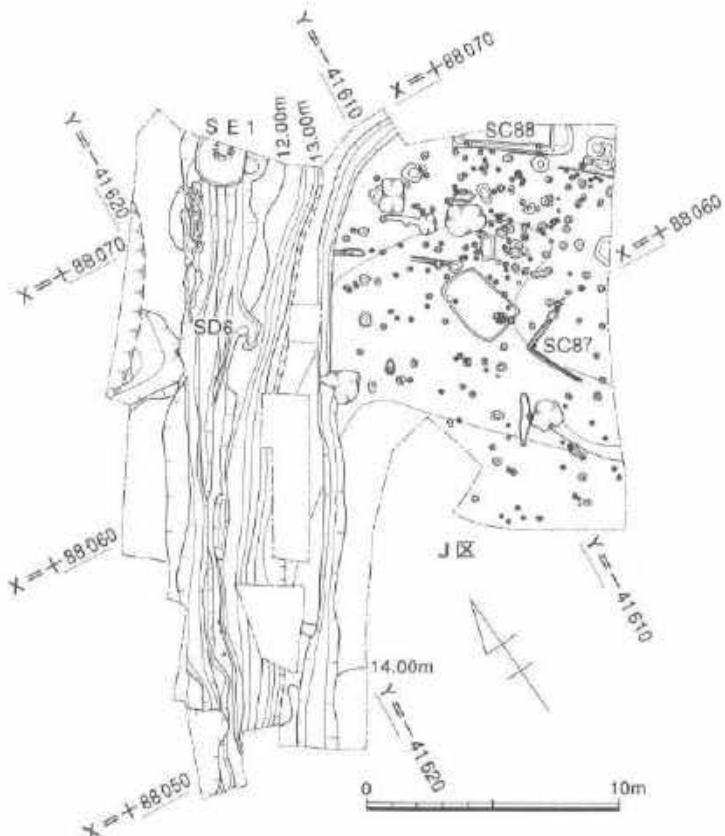
J区

J区は、I区の北側約5mに位置する。工事区内に所在する川崎宮の移転に伴って単独で調査した。

現状は、桧などの植林および雑木林に覆われていた。遺構面は、地表から30cmの所で検出された。遺構密度は、全体的にやや密であるがおもに柱穴群である。標高は、徐々に北側へ下っている。

遺構はほぼ全体的に検出され、西側では法面を大きく削り出して、床面に敷石を伴う溝を検出し、溝の北東端では、井戸も認められた。

遺構は、住居跡2棟、溝1条、井戸1基である。



第11図 J区遺構配置図 (1/300)

K区

K区は、I区の東側に位置する。

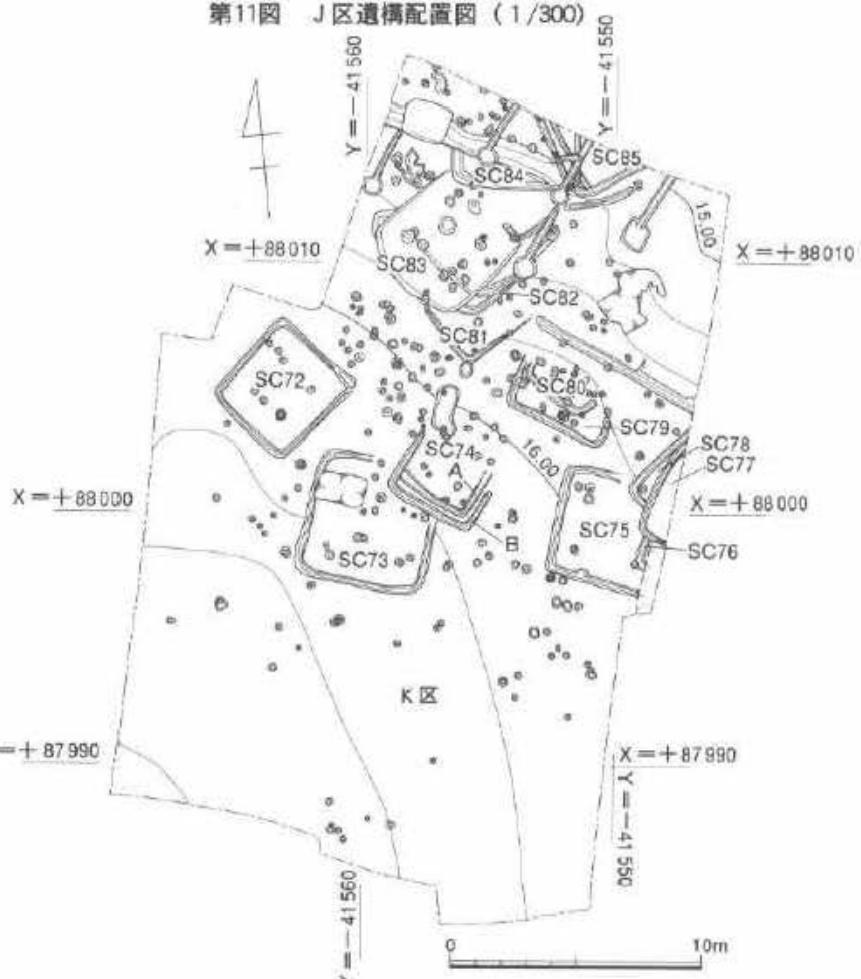
現状は、畑地であり全体的に開墾時の削平が進んでいるが特に南側が著しい。遺構面は、地表から10~30cmの所で検出された。標高は、徐々に北側へ下っている。遺構密度は、北側で高く南側では低い。

遺構は調査区の中ほどから北側にかけて住居跡14棟が検出され、南側は削平によって認められない。

L区

L区は、全工事区内の南側でM区N区の間に位置する。

現状は、畑地であるが調査区の中央部分が西へ大きく谷地形となっている。遺構面は、地表から20~80cmで西側が深くなっているが、遺物包含層は認められなかった。遺構密度は低く、搅乱に伴う土坑や畑地開墾時の溝など



第12図 K区遺構配置図 (1/300)

が検出された。標高は東から西側の調査区中央に向って下っている。遺構は調査区の北側で中世と古墳時代の土坑2基および柱穴群を検出した。

M区

M区は、全工事区内の最も南側に位置する。

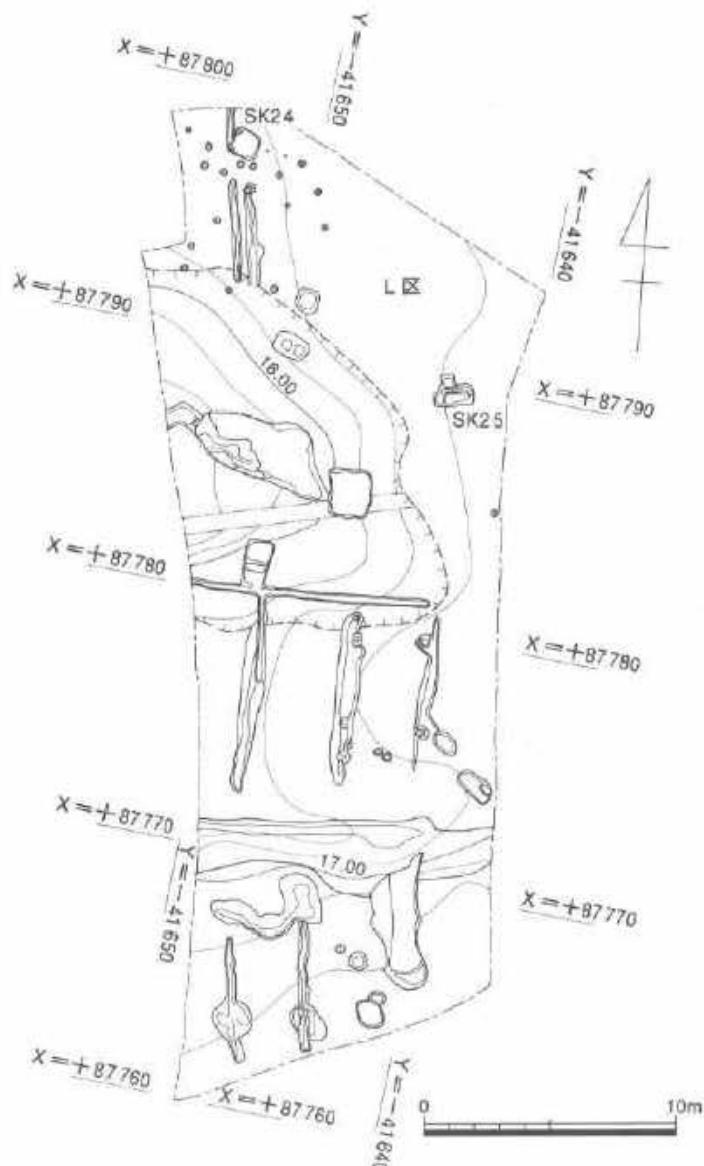
現状は、畠地であり調査区の南側に所在する古墳の盛土を削平して整地している。遺構面は、地表から20cmで検出された。遺構密度は低く、おもに調査区の東側より検出された。標高は徐々に北西側へ下っている。検出された遺構は、火葬墓4基のほか搅乱坑などである。

N区

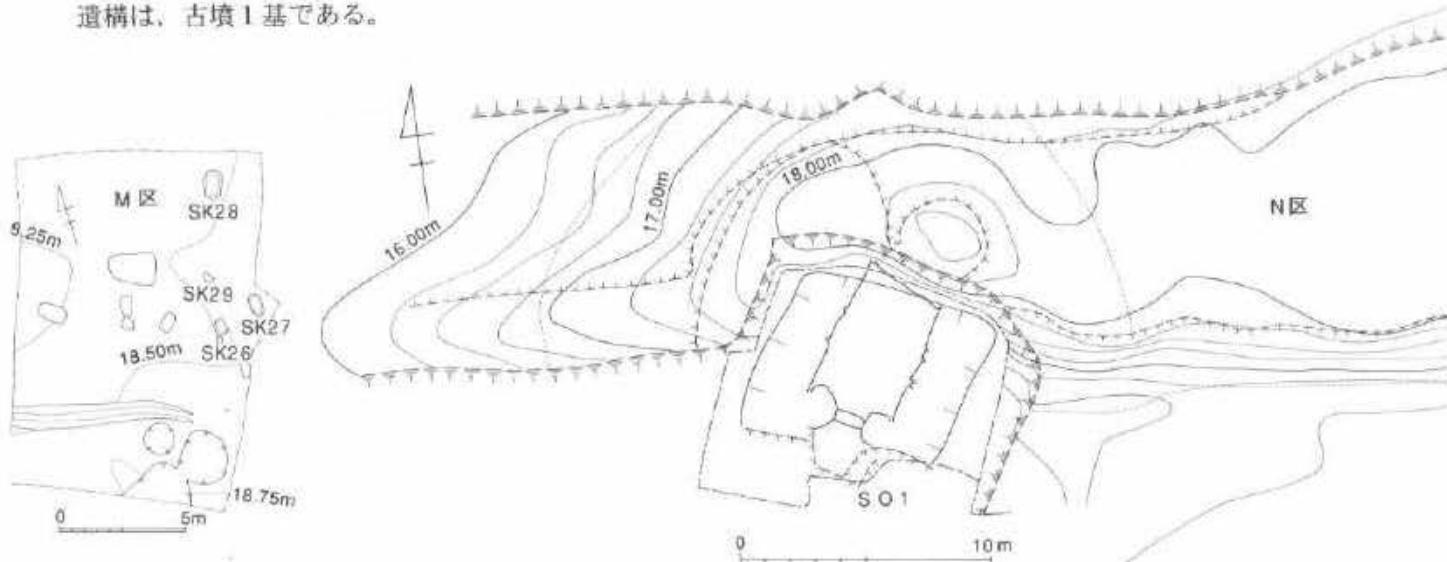
N区は、L区の北側に位置する。

E区の谷とL区の谷の間で細い尾根の稜線が西に派生している。現状は、雑木林であり調査区を設定した東側には盛土を持つ古墳が1基所在する。L区北側の法面を造成中に、石室が検出されたことから調査を実施した。

遺構は、古墳1基である。



第13図 L区遺構配置図 (1/300)



第14図 M区遺構配置図 (1/300)

第15図 N区遺構配置図 (1/300)

O区

O区は、全工事区内の最も東側に位置する。

現状は、田畠地であり地表面は水平を保っている。遺構面は、地表から20~200cmの所で検出され、西側から東側にかけて深くなっている。遺構密度は、西側で高く、東側ではほとんど認められなかった。このため東側は、表土からの土層確認後、廃土置き場とした。

標高は、全体的に東側へ下っているが、調査区の南西側がやや急である。遺構はおもに住居跡でこの急斜面上より住居跡6棟が検出された。

P区

P区は、O区の北西側に位置する。

現状は、宅地であり地表面は水平を保っている。遺構面は、地表から30~150cmの所で検出され、西側から東側にかけて深くなっている。遺構密度は、全体を通して高い。標高は、全体的に東側へ下っているが調査区の中央がやや急な傾斜である。遺構は北側の土坑群と南側の住居群に大きく分けられる。この住居群は、南のQ区へ延びている。

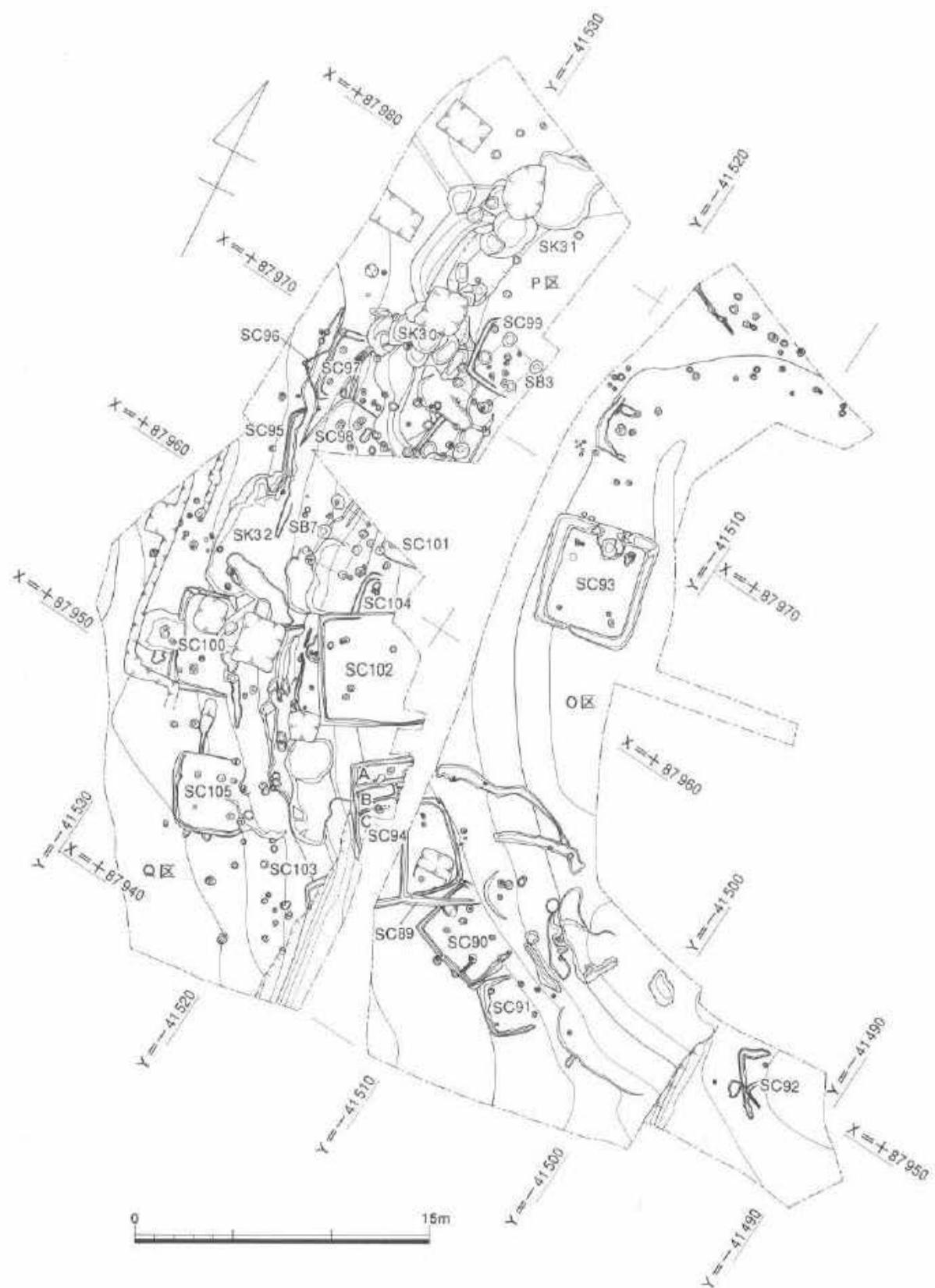
遺構は、住居跡4棟、土坑2基、掘立柱建物1棟である。

Q区

Q区は、O区の南西側でP区の南側に位置する。

現状は、宅地であり地表面は水平を保っている。遺構面は、地表から30~150cmの所で検出され、南西側から北東側にかけて深くなっている。遺構密度は、全体を通して高い。標高は、全体的に東側へ下っており、調査区の中ほどがやや傾斜している。遺構はおもにこの傾斜より検出され、P区Q区を経てO区の南西側へと延びている。

遺構は、住居跡6棟、土坑1基、掘立柱建物1棟である。



第16図 O・P・Q区遺構配置図 (1/300)

第2章 調査の記録

1. 竪穴住居跡

SC 1 (遺構・第17図、第4表、図版3)

SC 1は、D区の南端より検出され、SC 2の東側埋土を一部切って検出された。

竪穴部はほぼ隅丸方形で各辺の中央がやや張る構造である。周壁溝は全周すると考えられるが、南西側のコーナー部分が後世の搅乱によって形状を失う。

溝の断面形は逆台形を呈し床面から深さ7~14cmを測る。

主柱穴は、現状で3本検出されたが、南西側コーナーの搅乱によって1本は消滅したと考えられることから、実際は4本柱であったものと想定される。

北壁側の床面中央より焼土を検出したことから、カマドの存在が考えられたが、埋土が浅かったため詳細な構造については確認できなかった。

SC 2 (遺構・第17図、第4表、図版3、遺物1~10、第40図、第5表)

SC 2は、本住居群の最も南に位置しており、これより南側は主に古墳群である。

本住居はSC 1の西側周壁溝の一部より切られており、住居内の南側半分床面は、後世の搅乱および地下水による地盤沈下などで大きく崩壊している。

竪穴部は、長方形を呈し、各辺は直線的である。周壁溝は、全周していたものと考えられるが搅乱坑等によって失う。溝の断面形は逆台形を呈し床面から深さ8~12cmを測る。

主柱穴は、現状で2本検出されたが、搅乱によって2本は消滅したと考えられることから、実際は4本柱であると想定される。

北壁側の床面中央部には、カマドが検出された。カマドは、90×105cmの範囲で、周囲に黄褐色の細砂粒状の土壤が検出され、その中央には焼土が検出された。焼土内より土器片や石製の支脚などが出土している。

SC 3 (遺構・第17図、第4表、図版3、遺物11~33・448・458、第40・41・72・73図、第5・6・19表、図版8・14)

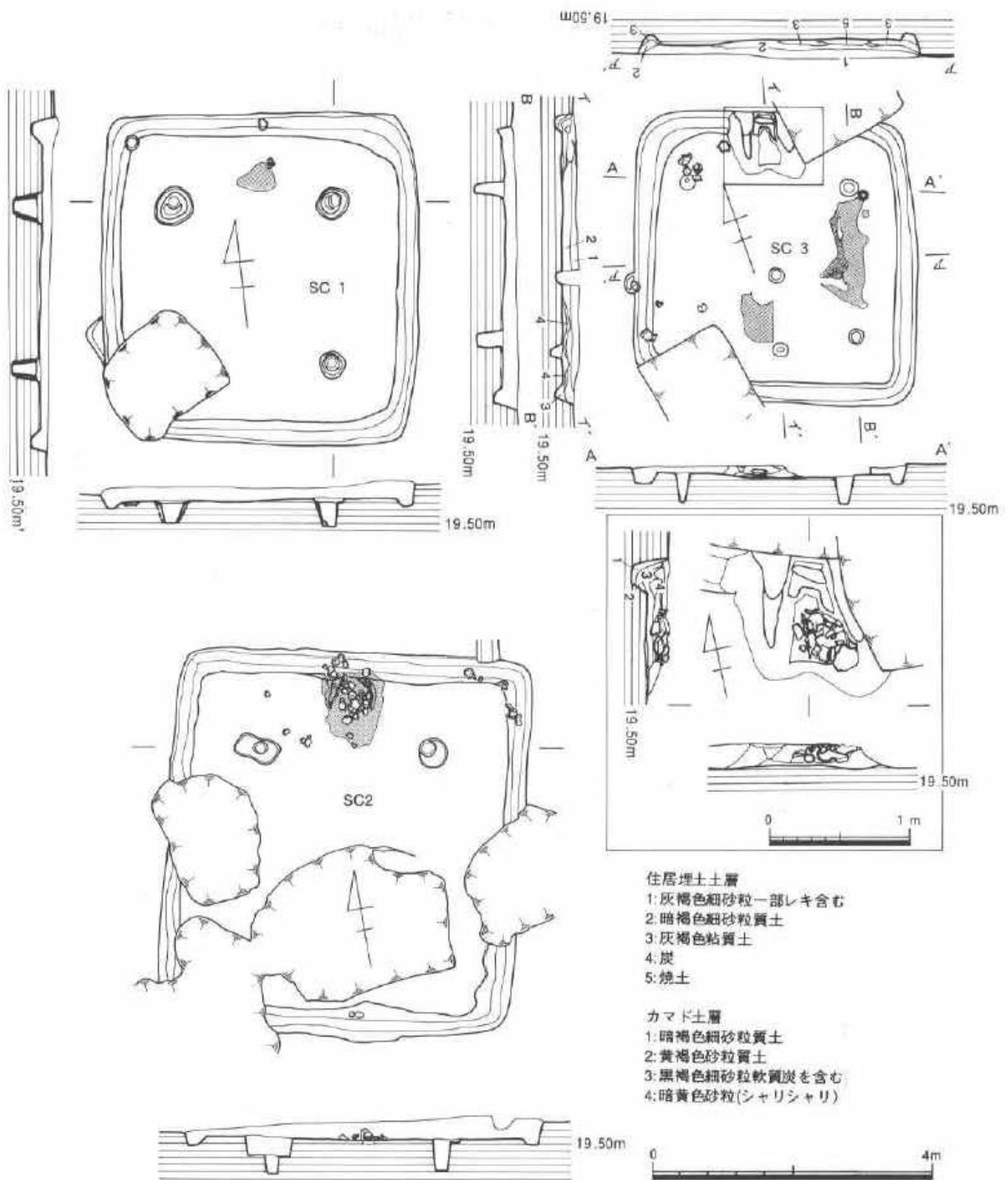
SC 3は、D区の東側でSC 1の北約2mのところより単独で検出された。

竪穴部は隅丸方形を呈している。

周壁溝は、全周すると考えられるが、北東コーナーと南西コーナーがそれぞれ近現代の長方形の搅乱坑によって欠損する。周壁溝の断面形は、逆台形もしくは角の丸い逆台形を呈している。

主柱穴は、現状で3本検出されたが、南西側隅の搅乱坑によって1本消滅したと考えられることから実際は4本柱であると想定される。

北側壁の床面中央にはカマドが検出された。本遺跡の中では比較的残存状態がよく、全体の規模は、現状で幅約110cm、長さ94cmを測り、左側袖部は、長さ88cm、幅35cm、高さ13cmで、右側袖部は長さ97cm、高さ14cmを測る。袖部の粘土は、明黄褐色のサラサラした砂粒から細砂粒質が検出され、その中央に焼土床を検出した。



第17図 SC 1～3 遺構実測図 (1/80, 1/40)

東側と南側の竪穴埋土からは、焼土および炭化物が認められた。

床面は、西側半分が東側半分に対して8cm程高く地山を削り出している。

SC 4 (遺構・第18図、第4表、図版3、遺物34~47・459・499、第42・43・73図、第5・19表、図版8・14)

SC 4は、SC 2の西約40cmほどの所に隣接して検出された。

竪穴部は南側がやや狭く隅丸の不整台形を呈している。

周壁溝は、全周すると考えられるが、南西側コーナーが長方形の擾乱坑によって一部を失う。周壁溝の幅は、周辺で検出された住居に比べ広く36~60cmを測る。

主柱穴は、4本検出された。

焼土は、北東側と西側の壁溝内および南東側の床面の3ヵ所より検出した。焼失住居とは考えがたくその場所において火の使用が考えられる。特に西側壁溝内には、土師器の甕などほぼ完形に復元できる遺物が出土しており、炉およびカマドの機能を果たした施設があったのではないかと推測する。

SC 5 (遺構・第18図、第4表、遺物48、第43図、第5表)

SC 5は、D区の東に検出された。

竪穴部はほぼ方形を呈していたものと想定されるが、全体的に削平が著しく、北東側コーナーの周壁溝がL字状に残っている程度である。溝の幅は最大27cmを測り、深さ4cm程度である。

主柱穴は、4本検出された。

北東側の壁溝内と西側および南東側床面から焼土および炭を検出した。

SC 6 (遺構・第18図、第4表、図版3、遺物49~60、第43図、第5表、図版8)

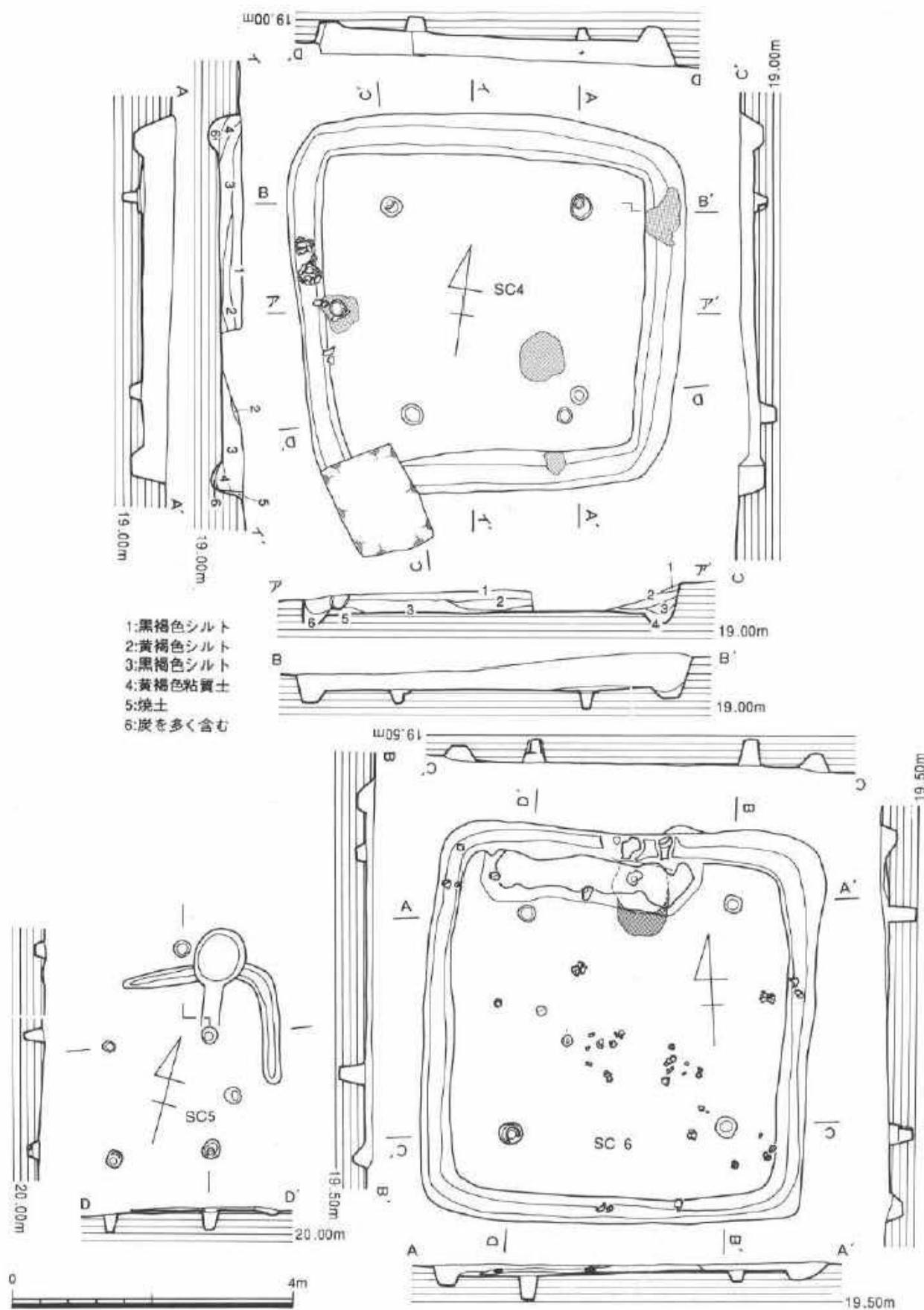
SC 6は、D区の集落群のほぼ中央より検出され、SC 7の東側上面を切って検出された。

竪穴部の形状はほぼ方形で、周壁溝は全周する。

周壁溝の断面形で床からの下場は屈曲するが、外周の下場は曲線である。溝の幅は32~78cmで特に北東側コーナーが広い。

主柱穴は、4本検出された。

北側床面には、長さ東西3.1m、幅60cmの範囲に、厚さ5cmの黄褐色砂粒土が検出され、この砂粒土の東端では、床面中央よりカマドが検出されたが、埋土が浅く平面形のみの調査となつた。



第18図 SC 4～6 遺構実測図 (1/80)

SC 7 (遺構・第19図、第4表、図版3、遺物61~84・435~437・505、第44・45・70・73図、第5・6・19表、図版8・14)

SC 7は、D区の集落群のほぼ中央より検出された。北側コーナーの上面をSC 9に、東側の上面をSC 6にそれぞれ切られている。

竪穴部は長方形を呈し、コーナー部分は比較的シャープである。また、周辺の住居跡の中でも検出面から床面まで最も深く遺存状態の良い住居である。

壁溝は、幅26cmで深さ4~10cmを測る。東コーナーから北東側に80cmのところから長さ1.05mにわたり認められなかったことから当初から意図的に床面を残したものと考えられる。

主柱穴は、北西側の中央床面壁溝側と南東側の中央床面壁溝側に2本検出された。外に主柱穴と断定できそうな柱穴が認められないために当初より2本柱の可能性が考えられる。

床の中央には焼土および炭化物が東西3m、南北1.8mの範囲で厚さ最大20cm検出された。また、遺物なども、焼土および炭の中より検出され、特に南東側では土師器の壺や高杯などほぼ完形の状態で出土したため、住居消失の際破棄されたものと推測する。

SC 8 (遺構・第19図、第4表、図版3、遺物85・86、第46図、第5表、図版8)

SC 8は、D区の北東側より検出され、南西側コーナーがSC 9とSC 10の埋土上面を切る。

竪穴部は、検出時壁溝と柱穴だけで埋土はほとんど認められなかったが、竪穴部の形状は、やや台形を呈している。

周壁溝は全周すると考えられるが、北東側のコーナーが長方形の搅乱坑によって削平されている。

主柱穴は、現状で3本検出されたが、搅乱坑によって1本欠損しており、実際は4本柱であると想定される。

SC 9 (遺構・第19図、第4表、図版3、遺物87・88、第46図、第5表、図版8)

SC 9は、D区のほぼ中央より検出され、SC 10よりほぼ全域を斜めに切られ、北側上面をSC 8に、西側上面をSC 11より切られる。また、南東側コーナーはSC 7を切っている。

竪穴部は隅丸方形を呈し、周壁溝は、全周する。

主柱穴は、現状で3本検出されたが、住居内に穿たれた長方形の搅乱坑によって1本欠損していると考えられることから、実際は4本柱であると想定される。

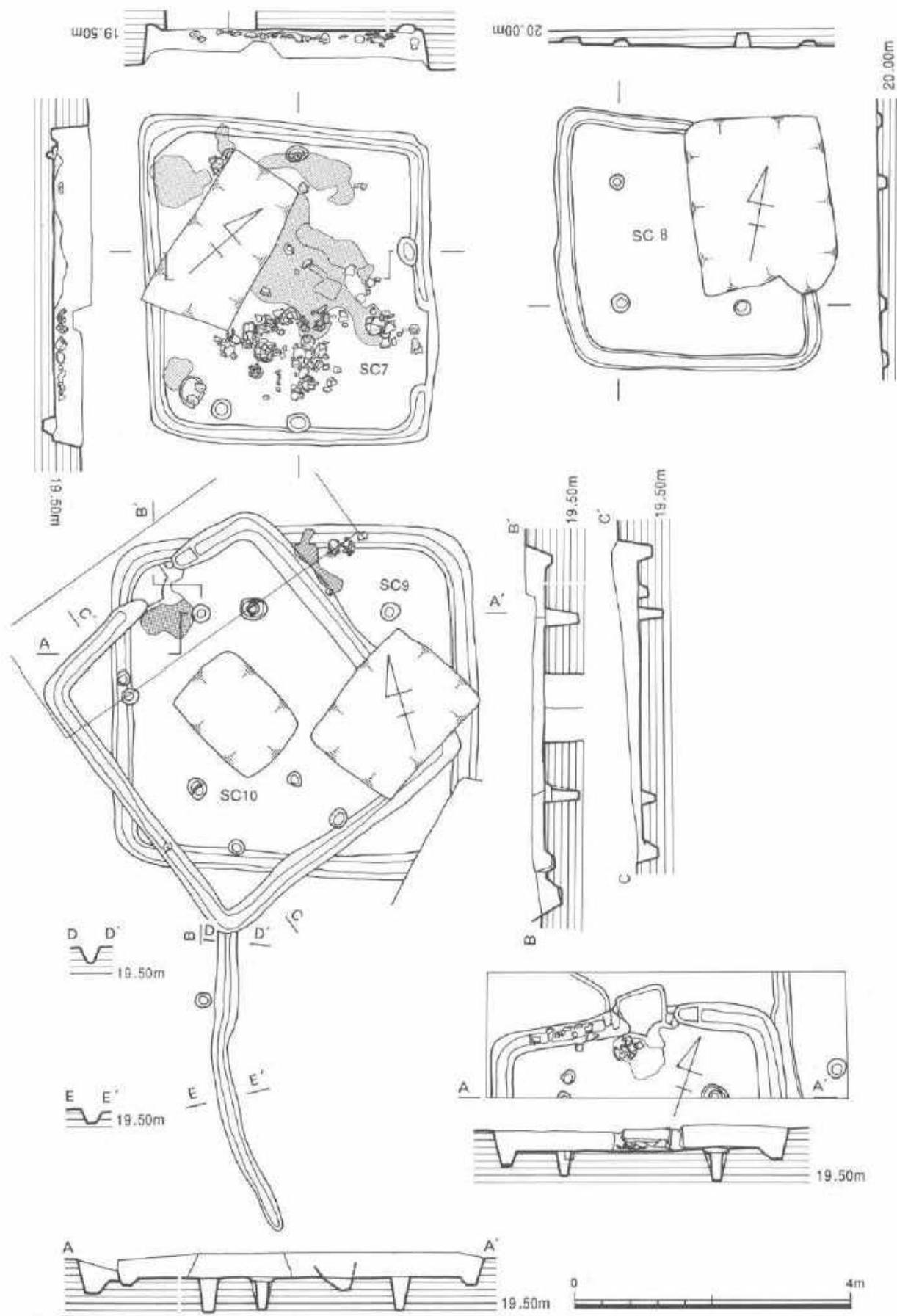
北壁の床面中央にかけて焼土および土師器の壺などが検出され、カマドと考えられるが、SC 10の周壁溝によって削平されている。

SC 10 (遺構・第19図、第4表、図版3、遺物89~94、第46図、第5表、図版8)

SC 10は、D区のほぼ中央より検出され、北東側コーナーの上面をSC 8より切られ、SC 9はほぼ全体を斜めに、南側コーナーの一部をSC 7が、北西側コーナーをSC 11がそれぞれ切っている。

竪穴部の形状は長方形を呈し、壁溝は、全周する。さらに南側コーナーより排水溝が長さ4.35m延びている。

主柱穴は、現状で3本検出されたが、南東側1本は長方形を呈した搅乱坑によって欠損したものと考えられることから、実際は4本柱であると想定される。



第19図 SC 7～10遺構実測図 (1/80)

カマドは、北側壁のほぼ中央床面より検出された。残存状態はあまりよくないが、北壁より30cm程方形状に張り出す構造である。カマドの部分は、本住居が築かれる前に破棄されたSC 9の北側コーナーであることから、この場所を再利用して築かれたものではないか想定される。

SC11 (遺構・第20図、第4表、図版3、遺物95~104、第46・47図、第5表、図版8・9)

SC11は、D区の中央からやや西側より検出され、床面東側をSB 1に南側をSC10より切られる。

竪穴部はコーナーのシャープな長方形を呈している。

壁溝は、北側1辺から両コーナーに延びており、南側は施されていない。北辺の中央からは、南側へ約1mの長さの仕切りと考えられる溝が検出された。

主柱穴は、現状で東側に2本検出されたが、西側はSC10に切られ2本失ったと考えられることから実際は4本柱であると想定される。

SC12 (遺構・第20図、第4表、図版3、遺物105~112、第47図、第5表、図版9)

SC12は、D区集落群の北端より単独で検出された。北側には、A区SC17が単独で検出されているが、全体的に畑などの開墾のよって上面の削平が著しく住居の有無に関しては不明である。

竪穴部は隅丸方形で、周壁溝は全周すると想定されるが、南側および西側が開墾によつて削平され、北側の中央と西側が後世の搅乱坑によつて欠損する。

南西側コーナーからは、排水溝が3.1mの長さで西南西の方向にやや蛇行しながら延びている。

主柱穴は、4本検出された。

カマドは、北壁側の床面中央に施されていたものと想定されるが、搅乱坑によつてその大半を失う。また北東側の埋土から床面にかけて焼土および炭が検出された。

遺物は、主に北東側壁溝内より出土した。

SC13 (遺構・第20図、第4表、図版3)

SC13は、E区の北とD区の境で、畑の畦部分より検出されたため、SC14と共に南側が大きく削平されている。

竪穴部は方形であり、周壁溝は北側1辺と東西2辺が「コ」字状に検出された。

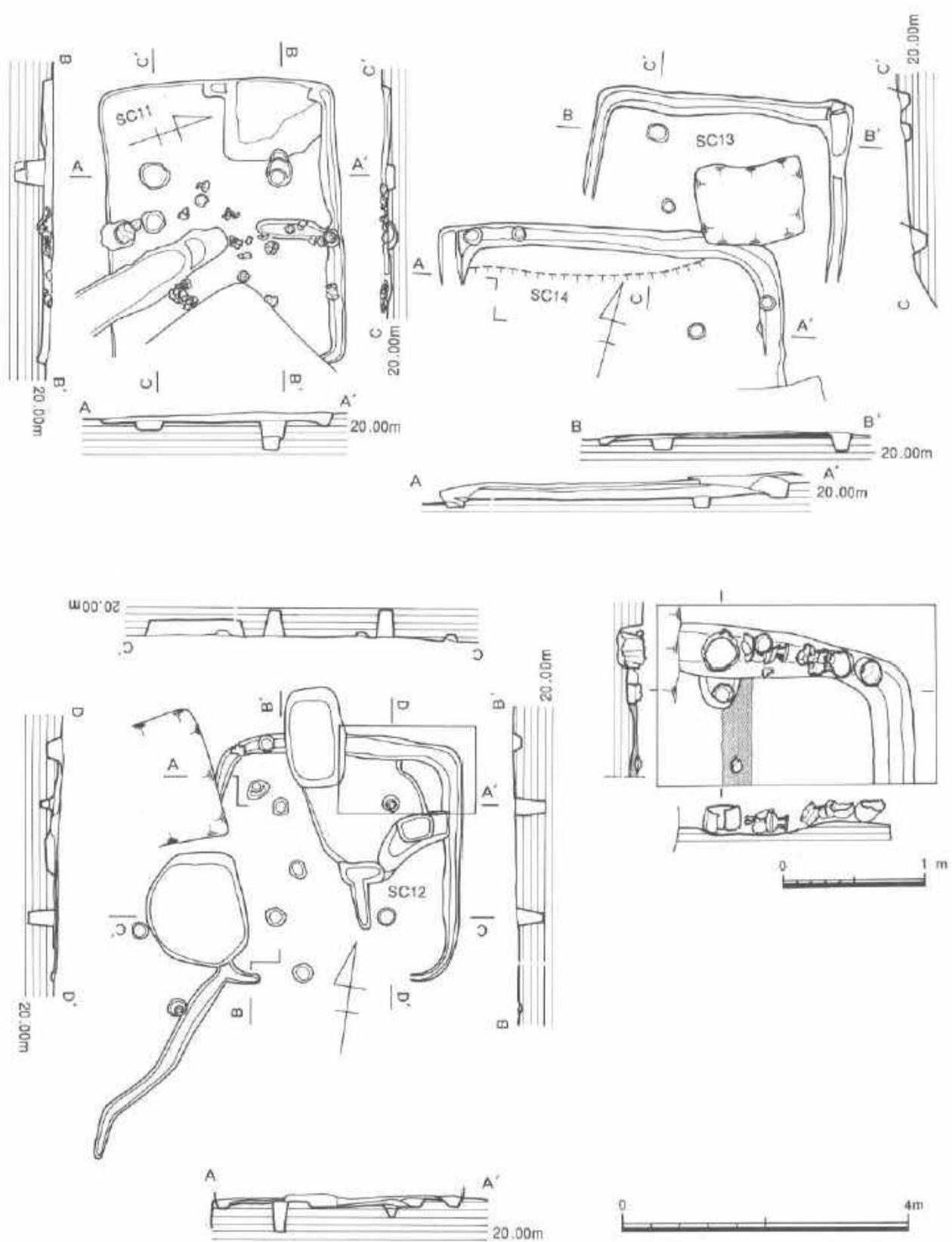
主柱穴は、現状で北西側の1本を検出したが、周壁溝と柱穴の位置関係から実際は4本柱であると想定される。

SC14 (遺構・第20図、第4表、図版3)

SC14は、SC13の南側を切つて検出された。

竪穴部は方形と考えられ、周壁溝は北側1辺と東西2辺の一部が「コ」の字状で検出された。

主柱穴は、現状で1本検出されたが、周壁溝との位置関係から実際は4本柱であると想定される。



第20図 SC11~14遺構実測図 (1/80・1/40)

SC15 (遺構・第21図、第4表、図版3、遺物113~125、第48図、第5表、図版9)

SC15は、E区の北端でD区集落群の西側より単独で検出された。

竪穴部は、南北方向に長軸である隅丸の長方形を呈し、南西側は溝のみの検出で埋土はほとんどない。壁溝は、北西側の一部を円形の搅乱坑によって欠損するほかは全周する。北東側の残りが良く、主柱穴は、4本検出された。

遺物は主に北東側壁溝周辺より出土した。

SC16 (A・B) (遺構・第21図、第4表、遺物126~135、第49図、第5表、図版9)

SC16は、E区の西端より単独で検出された拡張住居で、東側は後世の開墾によって地山から50cmほど削平される。拡張前をA、拡張後をBとする。

A・形状は方形を呈していたと考えられるが、壁溝は北辺の一部と西辺が残るのみである。

B・形状はA住居同様で、北側に40cm程拡張される。西側溝内の中央から土玉が出土した。

SC17 (A・B) (遺構・第21図、第4表、図版3)

SC17は、A区の南東端より単独で検出された拡張住居で、拡張前をA、拡張後Bとする。

A・竪穴部は方形を呈し、壁溝は、南西コーナーを開墾時の削平によって失う他は全周する。主柱穴は、4本検出された。

B・竪穴部は長方形を呈し、壁溝は、Aの北と東を共有して西に60cm南に40cm拡張している。

主柱穴は、現状で3本検出されたが、実際は4本柱であると想定される。

SC18 (遺構・第22図、第4表、図版3、遺物136・137・500、第49・73図、第5・19表、図版9・14)

SC18は、B区の東端で、最も低い位置より検出され、西側上面をSC19およびSC20に切られる。

竪穴部は、南北方向を長軸としコーナーがややシャープな長方形を呈す。

周壁溝は、全周すると想定されるが、南東側を削平によって欠損する。

周辺集落の中でも比較的規模の大きい住居であり、南西側コーナーの竪穴部は、検出面から床面まで60cmと残りが良い。主柱穴は、4本検出された。

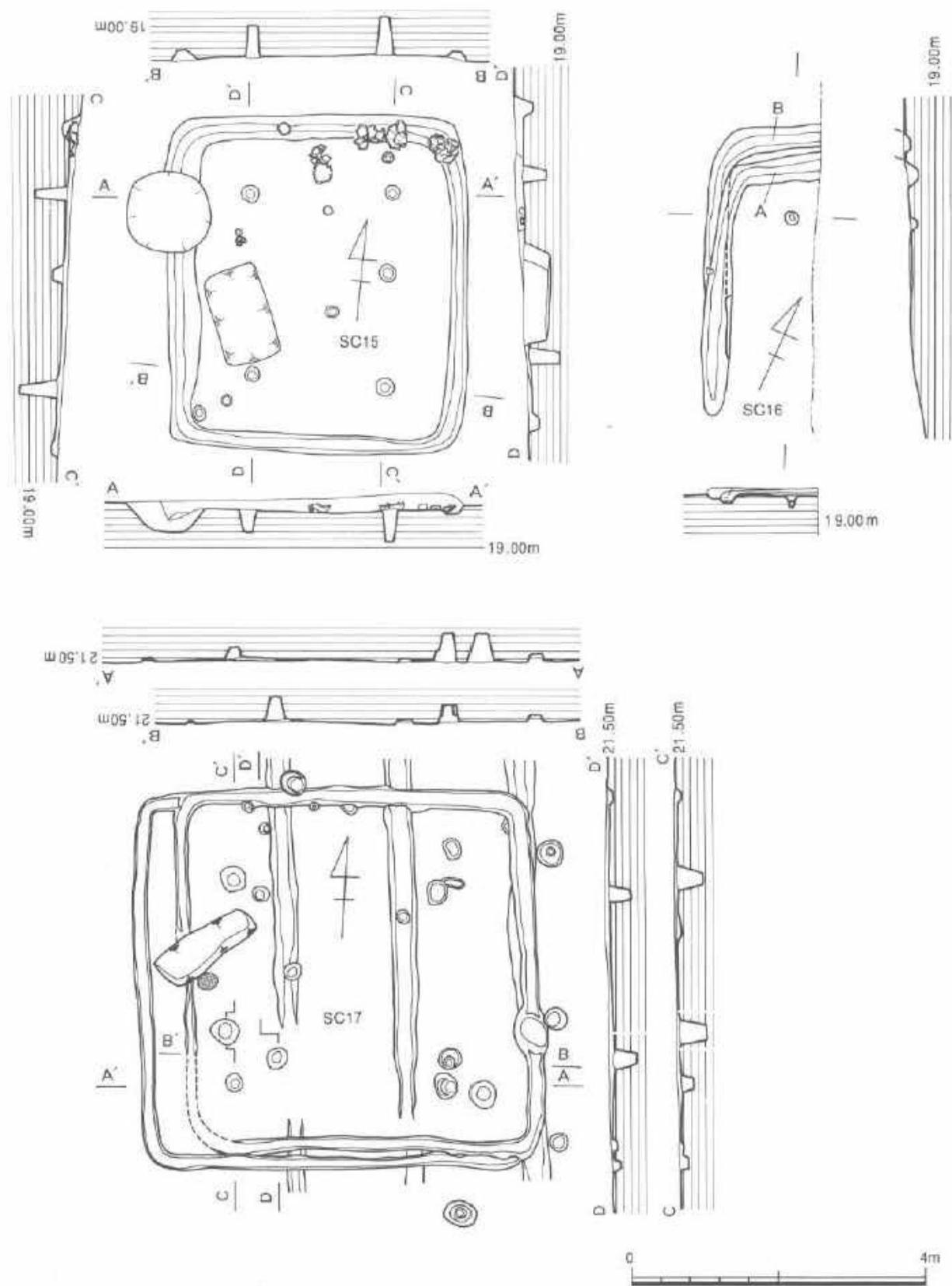
SC19 (遺構・第22図、第4表、図版4、遺物138~140、第49図、第5表、図版9)

SC19は、B区の北東側で、SC18とSC20をそれぞれ切って検出された。

竪穴部は、西側壁が長い台形を呈し、壁溝は、全周する。周辺集落の中でもSC18とは逆に規模が小さい住居である。

主柱穴は、4本ありいずれも壁溝のコーナーに近いところで検出された。

カマドは、北側壁の中央床面に備え付けられていたものと想定され、土台となる黄褐色の粘土層を検出したが残りは悪い。カマドの両袖部分の壁溝埋土から口縁部を上にした土師器の壺が2点出土した。また、南西側コーナーより焼土を検出している。



第21図 SC15~17遺構実測図 (1/80)

SC20 (遺構・第22図、第4表、図版4)

SC20は、B区の北東側で検出され、東側の大半をSC19に切られ、SC21を切る。

竪穴部は、東西方向を長軸とする長方形を呈し、壁溝は、SC19に切られた部分を除き全周する。

主柱穴は、床面の西側で2本検出されたが、東側は壁溝同様SC19に切られたものと考えられ、実際は4本柱であると想定される。

カマドは、現状で確認できなかったが、北側壁の床面中央付近に焼床が楕円状に残っていた。

SC21 (遺構・第22図、第4表、図版4、遺物141、第49図、第5表)

SC21は、B区の北東側より検出され、大半をSC20に切られ、また、ほとんど残りが悪く壁溝もL字に残っている程度である。

主柱穴は、現状で1本だけ検出されたが、実際は4本柱であると想定する。

カマドは、現状で確認できなかったが、北側壁の床面中央付近に焼床が楕円状に残っていた。

SC22 (遺構・第22図、第4表、図版4)

SC22は、B区の北西側より単独で検出された。

竪穴部は、東西方向が長軸である隅丸長方形を呈し、壁溝は全周すると想定されるが、北側および東側半分が後世の削平によって欠損する。

主柱穴は、現状で3本検出されたが、実際は4本柱であると想定する。

カマドは、現状で確認できなかったが、北側壁の床面中央付近に焼床が楕円状に残っていた。

SC23 (遺構・第23図、第4表)

SC23は、F区より単独で検出したが、開墾により上面の削平が著しく、柱穴と溝をL字に検出した程度である。竪穴部は、方形と想定される。主柱穴は、現状で西側に2本検出されたが、実際は4本柱であったと想定される。

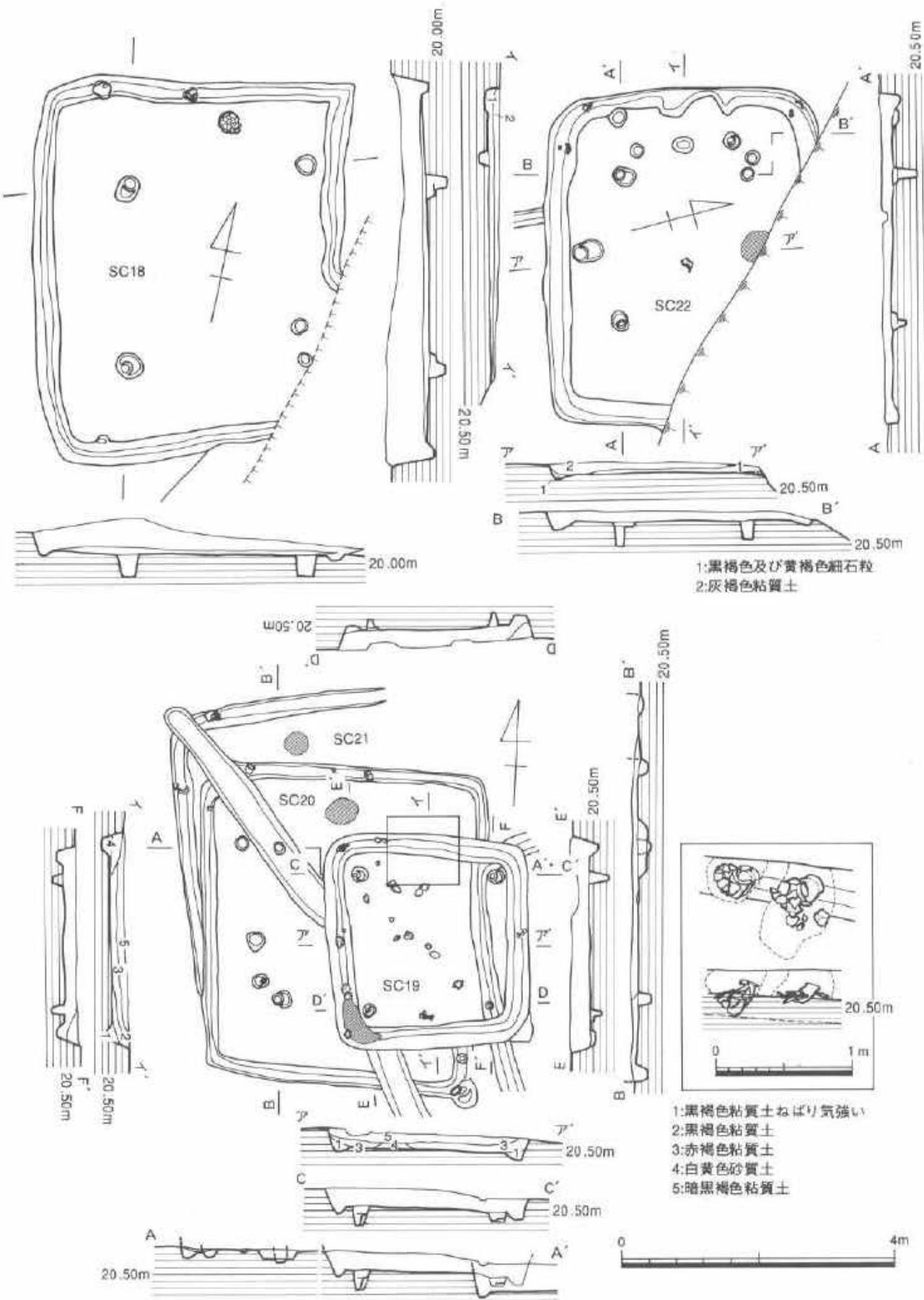
SC24 (A・B) (遺構・第23図、第4表、図版4、遺物142、第50図、第5表)

SC24は、G区より検出された。当初、B住居が先に検出されたが、北側壁が烟の溝を挟んで東側と西側では若干のずれが認められたことと、西壁側の床面よりさらに1条の溝が検出されたことから、拡張住居と考えられる。拡張前をA、拡張後Bとする。

A・竪穴部は、方形を呈している。北側壁からは、溝が検出されなかったが、北東側コーナーより排水溝が延びている。南側壁溝の底の標高は19.44mで、B住居による掘り直しがあったとしても、北側床面の標高19.40mより高いことから、水は排水溝の方へ流れる仕組みと考えられる。

北側床面の中央には、烟の溝に切られた円形状の焼土が長軸0.53m、短軸0.49mの範囲に検出された。また、焼土の東側には、カマドの袖部分と考えられる粘土が検出されたがほとんど削平されていた。

B・竪穴部は、コーナーがシャープな長方形を呈し、壁溝は西側と北側を25~30cm拡張する。A住居に比べ床面は浅かったと考えられ、北東側では壁の立ち上がりは検出されなかった。



第22図 SC18~22遺構実測図 (1/80・1/40)

SC25 (遺構・第23図、第4表)

SC25は、SC24の北側約2mの位置より検出されたが、G区の北端で畠の段の部分として大きく削られているため、南側と西側の溝の一部とコーナーが検出されたに留まる。

SC26 (遺構・第23図、第4表)

SC26は、SC25同様畠の段によって削られる。

竪穴部は、方形と想定されるが、壁溝は、南東側の一部と南西側の溝が検出された。

主柱穴は、南側床面に1つ検出されたが、柱の位置から4本柱だったと考えられる。

SC27 (遺構・第23図、第4表、図版4)

SC27は、SC26の西約4mのところで、SC28の南側が重なるように検出されたが、畠の溝によって新旧関係は不明である。住居は、開墾時の削平が著しくL字に溝が検出したに留まる。

壁溝は、東辺の一部と南辺に検出された。

SC28 (遺構・第23図、第4表、図版4、遺物143・144、第50図、第5表、図版9)

SC28は、SC27の北側で、東側と南側よりL字に壁溝が検出された。

壁溝は、東側で幅40cmと広く、南側は幅30cmより狭くなり、西側では消失する。

主柱穴は、4本検出された。

SC29 (遺構・第24図、第4表、図版4)

SC29は、H区のほぼ中央に位置し、SC30を切って検出された。H区内では、これより南側および東側での住居址は削平などによって検出されていない。

竪穴部は、西側がやや短い台形を呈し、壁溝は全周する。

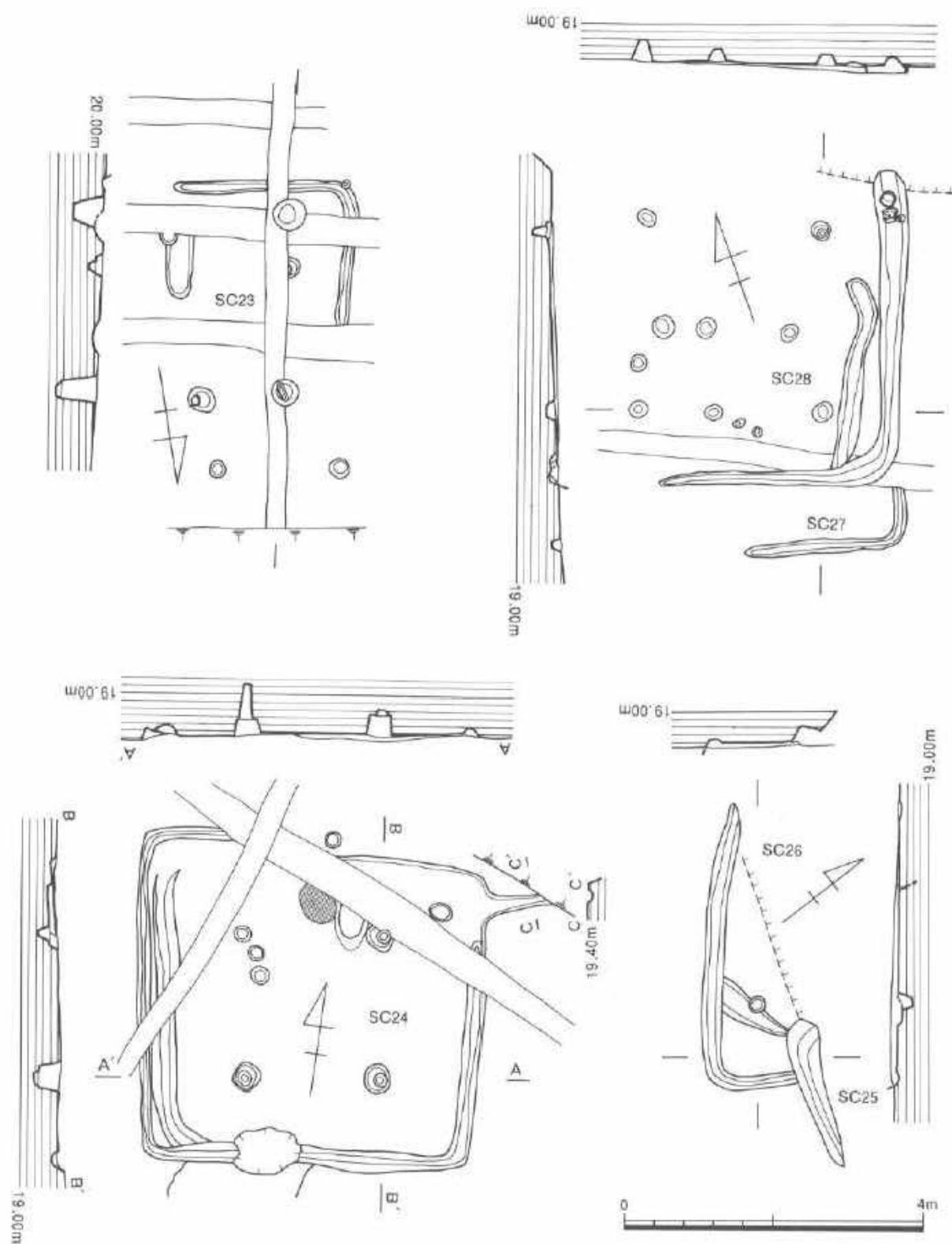
主柱穴は、現状で2本検出されているが、実際は4本柱だったものと想定される。

SC30 (遺構・第24図、第4表、図版4、遺物145・438、第50・70図、第5・6表、図版9・14)

SC30は、東コーナー部分をSC29より切られて検出した。

竪穴部は、方形を呈し、壁溝は、全周する。

主柱穴は、現状で3本検出され、北側床面の長方形の搅乱によって1つ欠損するが、実際は4本柱と想定される。



第23図 SC23~28遺構実測図 (1/80)

SC31 (遺構・第24図、第4表、図版4)

SC31は、SC29・30の西側で、SC35の南東側より検出された。SC32の東側を斜めに切っている。

竪穴部は、方形を呈し、壁溝は、南側と西側、北西側コーナー部分が残る。

主柱穴は、4本検出されたが、西壁の方向よりやや北に振って検出された。つまり、4本柱を復元すると平行四辺形になる。

SC32 (A・B) (遺構・第24図、第4表、図版4、遺物146、第50図、第5表、図版9)

SC32は、南側をSC31より切られて検出された。住居埋土を掘削後、南西側と南東側から周壁溝とは別に溝が検出され、拡張住居であることが確認された。拡張前をA、拡張後をBとした。

A・竪穴部は、コーナーのシャープな方形を呈し、各辺が直線的である。Bが共有している。

B・竪穴部は長方形で、各辺ともやや脛膨らみで隅丸を呈している。壁溝は、北側を削平によって消失するほかは、「コ」字状に検出された。Aより壁溝は、南西側で20cm、南東側で25cm拡張される。

SC33 (遺構・第24図、第4表、図版4、遺物147～169・441・452・453、第50・51・71・72図、第5・6表、図版9・10・14)

SC33は、SC30の北1mの所より検出された。

竪穴部は、北西・南東方向が長軸の長方形を呈し、北東側壁が、やや脣膨らみである。壁溝は、全周する。主柱穴は、西側床面より1本検出されているが、調査の不備で2本柱か4本柱が不明である。

住居の中央には、焼土が検出され、北西壁の中央部分の溝内より白色粘土が認められた。

遺物は、主に床面南側より出土し、滑石製の勾玉2点や壁溝より軽石や円礫なども出土した。

SC34 (遺構・第24図、第4表、遺物170・171・439・460～489、第51・70・73図、第5・6・19表、図版10・14)

SC34は、SC33の西へ約60cmのところより検出された。

竪穴部は、北西・南東方向が長軸の長方形を呈していたと考えられるが、北東側が、後世の畳の畳によって削平されているために、壁溝は3方が「コ」字状に残っている。

溝の幅は、60～70cmで住居の規模に比べ広い。この南側コーナーより白色粘土を検出した。

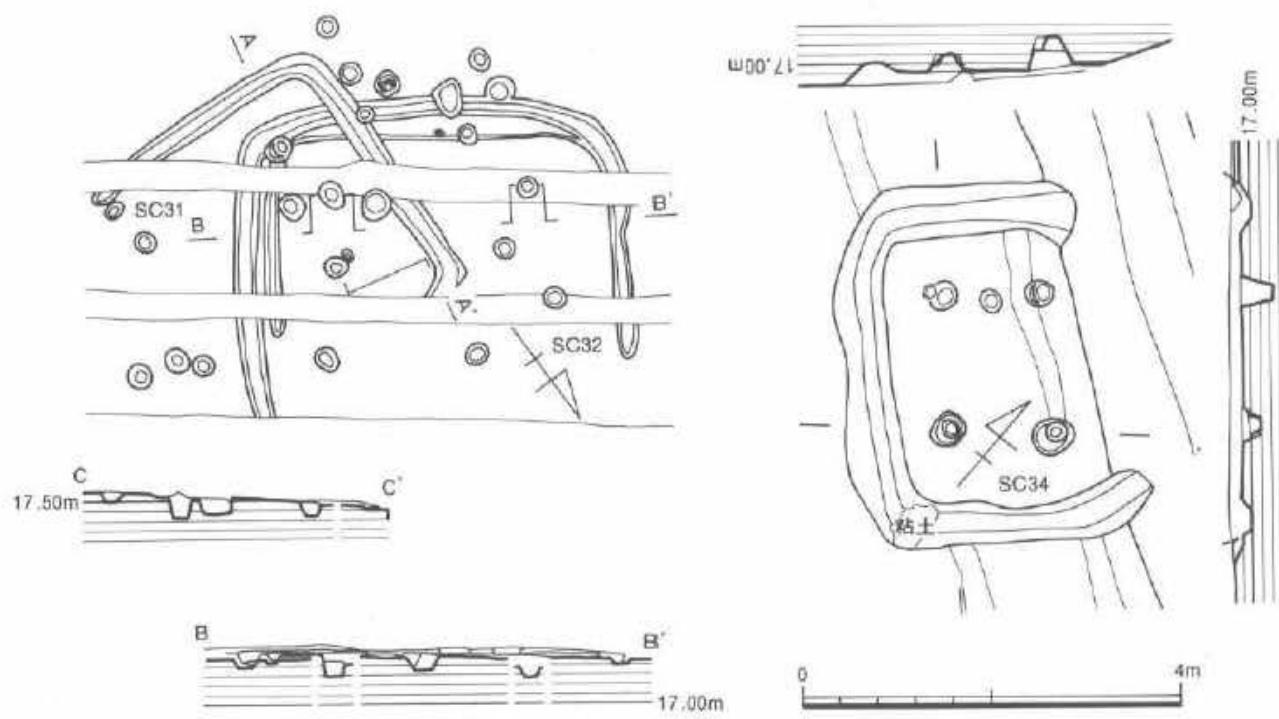
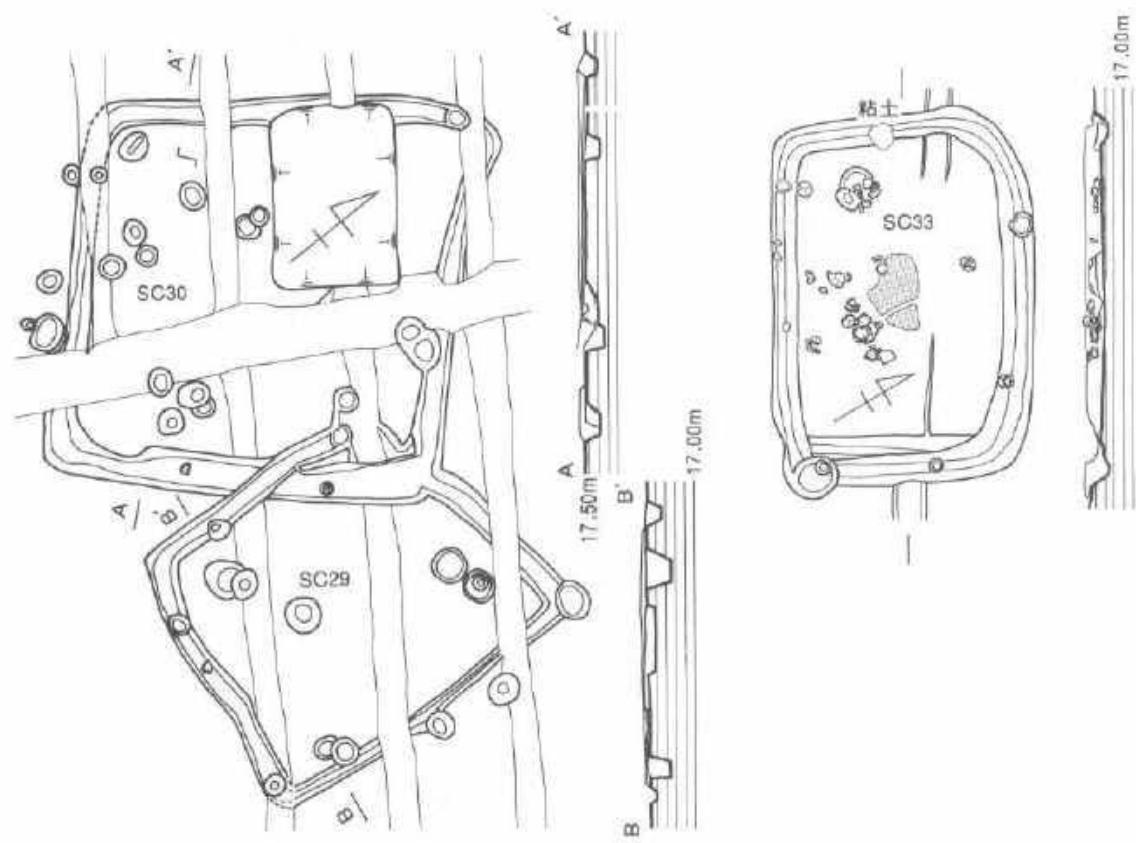
主柱穴は、4本検出された。

SC35 (遺構・第25図、第4表、図版4、遺物172～175・440・449・450・490・501、第51・70・72・73図、第5・6・19表、図版10・14)

SC35は、SC32の北西約2m、SC34の南西約2.5mのところより検出され、H区の範囲では、住居が密集する中心部である。住居の西及び北西部分は、SC36・37を切り、北西側コーナーは、不定形の搅乱土坑に大半を削平され、SC38に切られていると考えられる。

竪穴部は、方形を呈し、壁溝は、北西側の搅乱坑を除き全周する。また、北側コーナーより排水溝が1.7m延びている。

主柱穴は、現状で3本検出されたが、実際は4本柱であったと想定される。



第24図 SC29~34遺構実測図 (1/80)

SC36 (遺構・第25図、第4表、図版4、遺物176～180、第51図、第5表)

SC36は、東側をSC35に、北側をSC37に切られる。よって、東側辺と北側辺は、検出されず、南側辺と西側辺がL字状に検出された。

主柱穴は、4本検出された。

SC37 (遺構・第25図、第4表、図版4)

SC37は、南側でSC36を切り、東側と北側ではSC35とSC38に切られ、排水溝がSC44に切られる。

竪穴部は、やや長方形を呈し、壁溝は、全周していたと想定されるが、SC35・38および搅乱坑によって東側と北側が削平される。

排水溝は、北西側コーナーより西へ約7.5m延びていて本集落の中では最も長い。

主柱穴は、現状で3本検出されたが、実際は4本柱と想定される。

SC38 (遺構・第25図、第4表、図版4、遺物181～189、第52図、第5表、図版10)

SC38は、南西側の大半を占めるSC37を切り、SC35は、南東側の壁溝の一部を切っている。

竪穴部は、方形を呈し、壁溝は、全周していたと想定されるが、搅乱坑によって東側が削平される。

主柱穴は、現状で2本検出されたが、実際は4本柱と想定される。

SC39 (遺構・第26図、第4表、図版4、遺物190・191・451、第52・72図、第5・6表、図版10・14)

SC39は、H区の南西側で、SC36から西側約2m、SC41から東側約2.5mの位置に、単独で検出された。

竪穴部は、やや長方形を呈し、壁溝は全周している。東辺の溝が幅50cm、深さ15cmで他辺に比べると幅広く、床面は、必然的に方形を呈す。

主柱穴は、4本検出された。

SC40 (遺構・第26図、第4表)

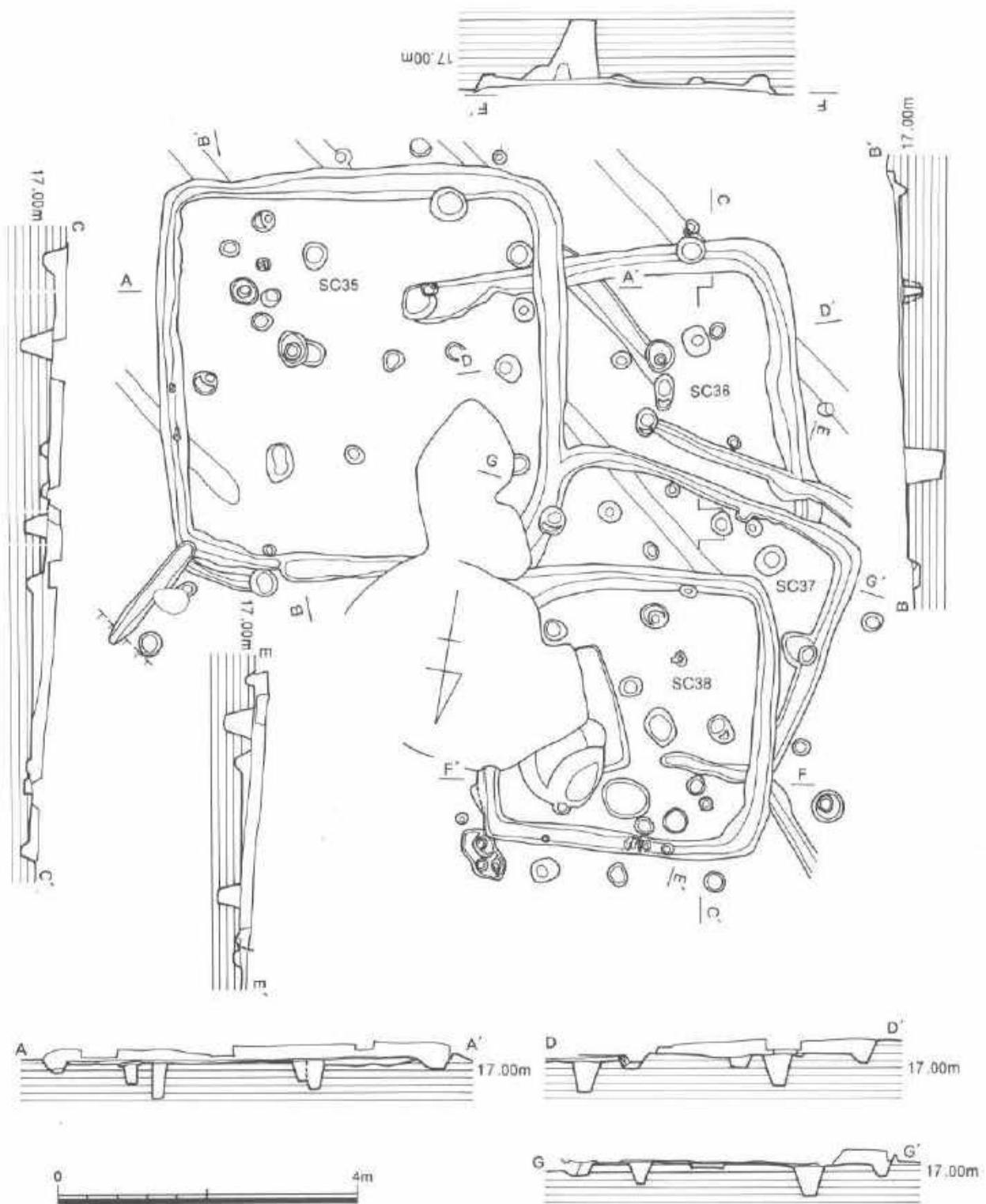
SC40は、H区の北西端より検出され、SC41に切られている。

溝は、南側の一部と西側でL字状に検出されたため住居址の壁溝ではないかと推定したが、主柱穴が不明瞭であることと、西辺の溝が通常より長いことから、住居とは断定し難い部分もある。

SC41 (遺構・第26図、第4表、遺物197～200、第53図、第5表、図版10)

SC41は、H区の北西端より検出され、SC40を切る。

溝は、南側と西側でL字状に検出されたため住居址の壁溝と推定した。南辺の溝の中央より土師器の甕および壺を出土した。



第25図 SC35~38遺構実測図 (1/80)

SC42 (遺構・第26図、第4表、遺物192、第52図、第5表)

SC42は、H区の西側で、SC41より北側約2.5m、SC44より南側約1.5mの位置に単独で検出された。

竪穴部はほぼ方形を呈し、壁溝は全周していると想定されるが、北東側コーナーが先の開墾によって削平される。

南東側コーナーから東辺の一部にかけて壁から26cm外側に溝が検出されたが、拡張に伴うものかどうかは不明である。

主柱穴は、4本検出された。南側の2柱に比べ北側の2柱は広いため、復元すると台形を呈している。

SC43 (遺構・第26図、第4表)

SC43は、H区の西側でSC44と45の東側に隣接するように検出された。どちらの住居も北側で壁溝が削平されているが、残存していれば切り合う位置関係にある。

壁溝は、南側の1辺と東側と西側の辺が一部残る他は、先の開墾によって削平される。

主柱穴は、2本検出されているが、4本柱であると想定される。

SC44 (遺構・第26図、第4表、遺物193、第52図、第5表)

SC44およびSC45は、拡張住居と考えることも可能であるが、ここでは別の住居として取扱う。

H区の北西端で、SC43の西側より検出された。SC45の溝を南西側の主柱穴が切っている。

壁溝は南側の1辺と南東側コーナーから東辺1.4m、南西側コーナーが残る他は、開墾によって削平される。また、SC37より延びた排水溝を切っている。

主柱穴は、2本検出されているが、4本柱であると想定される。

SC45 (遺構・第26図、第4表)

SC45は、H区の北西端で、SC44の北側80cmの所より検出された。

壁溝は南側の1辺と東側の一部が残る他は、先の開墾によって削平される。

主柱穴は、2本検出されているが4本柱であると想定される。

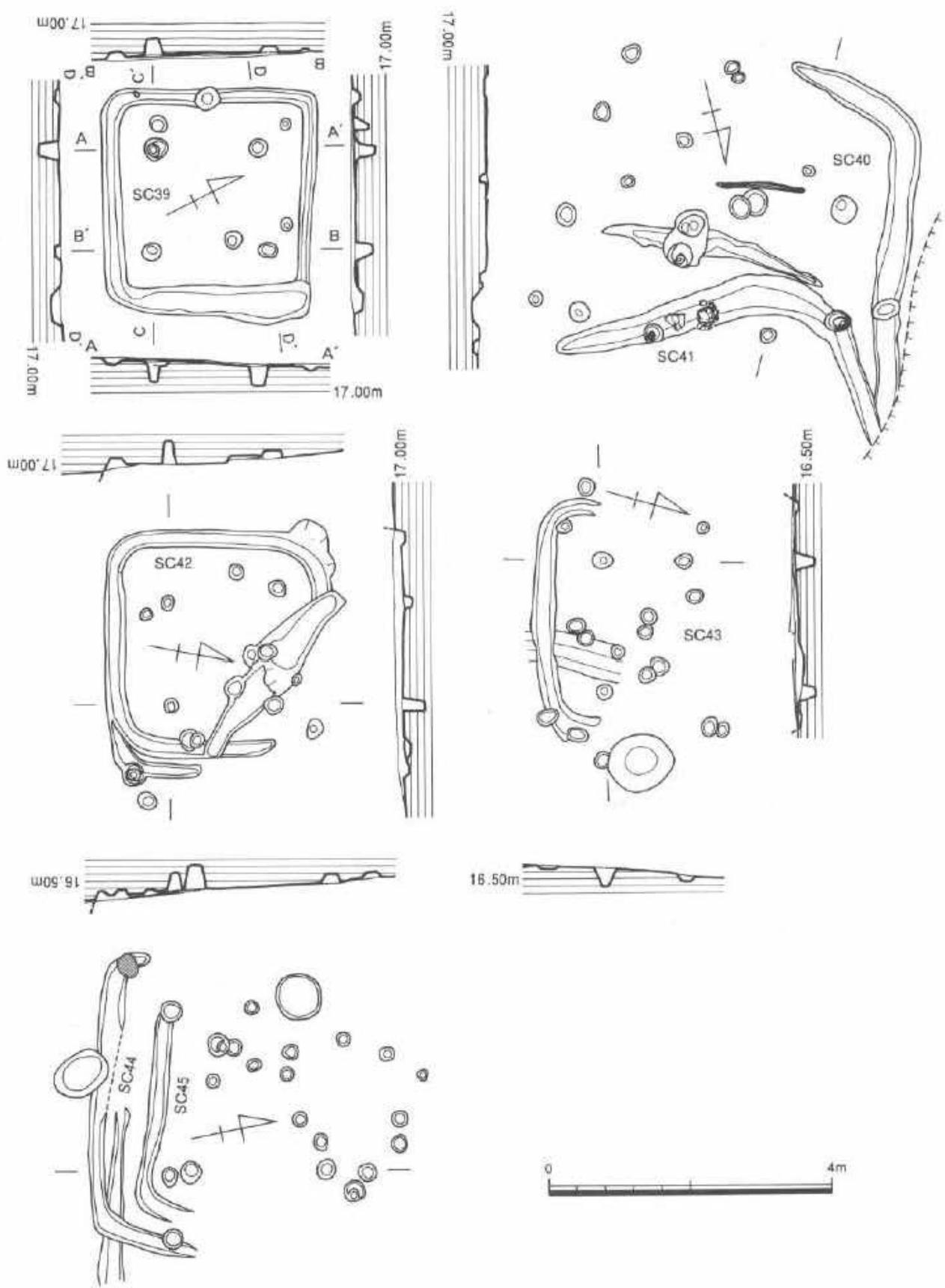
SC46 (A・B) (遺構・第27図、第4表、図版4、遺物194、第52図、第5表、図版10)

SC46は、I区の西端で検出され、SC43の北側約5m、SC51の西側約9m、SC47の南側約6mに位置し、周辺には、近接した住居は認められない。

遺構検出時には、すでに2重の溝が確認され、拡張住居であることがわかった。拡張前をA、拡張後をBとした。

A・壁溝は、南側1辺と東西の辺が途中まで「コ」字状に残存し、西辺ではB住居の壁溝と重なっている。主柱穴は、本検出したが、実際は4本柱と想定される。

B・竪穴部は、隅丸の方形を呈していたと考えられる。また、各辺ともに弧を描いて検出された。壁溝は、南側1辺と東西の辺が途中まで「コ」字状に残存し、北西側コーナーより排水溝が2m程西へ延びている。Aより、最大南東側コーナーで38cm拡張している。



第26図 SC39~45遺構実測図 (1/80)

SC47 (遺構・第27図、第4表、図版4、遺物491、第73図、第19表、図版14)

SC47は、I区の北西端より検出された。これより西側は、丘陵の斜面となっている。北西側には、SC48とSC49が検出され、いずれからも切られていると考えられる。

竪穴部は方形を呈すると考えられるが、壁溝はSC48に切られ東辺は先の削平によって欠損する。

主柱穴は、北側床面より現状で1本検出され、この位置関係から実際は2本柱であったと想定される。

SC48 (遺構・第27図、第4表、図版4、遺物195・196・442、第52・71図、第5・6表、図版14)

SC48は、I区の北西端より検出され、南側はSC47を切り、北側はSC49より切られる。

竪穴部は、方形を呈していたと考えられるが、壁溝は、北側の1辺と東西辺が一部残っている程度で、「コ」字状に検出された。

主柱穴は、4本検出された。

SC49 (遺構・第27図、第4表、図版4)

SC49は、I区の中で最も北西端より検出され、南側でSC48を切る。

竪穴部は、東西方向に長軸をもつ長方形で、壁溝は全周していたと想定されるが、北西側が先の開墾により削平される。

主柱穴は、現状で2本検出されているが、実際は4本柱であると想定する。

SC50 (遺構・第27図、第4表)

SC50は、I区の北側で、北西側にはSC51、北側にはSC54と隣接するように検出された。

竪穴部は隅丸方形を呈し、壁溝は南側の1辺と東西の一部が残っており、他は先の開墾により削平される。本住居の壁溝が完存していれば、SC51と切り合い関係にあったと考えられる。

主柱穴は、現状で3本検出されているが、実際は4本柱であると想定する。

SC51 (A・B) (遺構・第28図、第4表、図版4、遺物216~218、第55図、第5表、図版10)

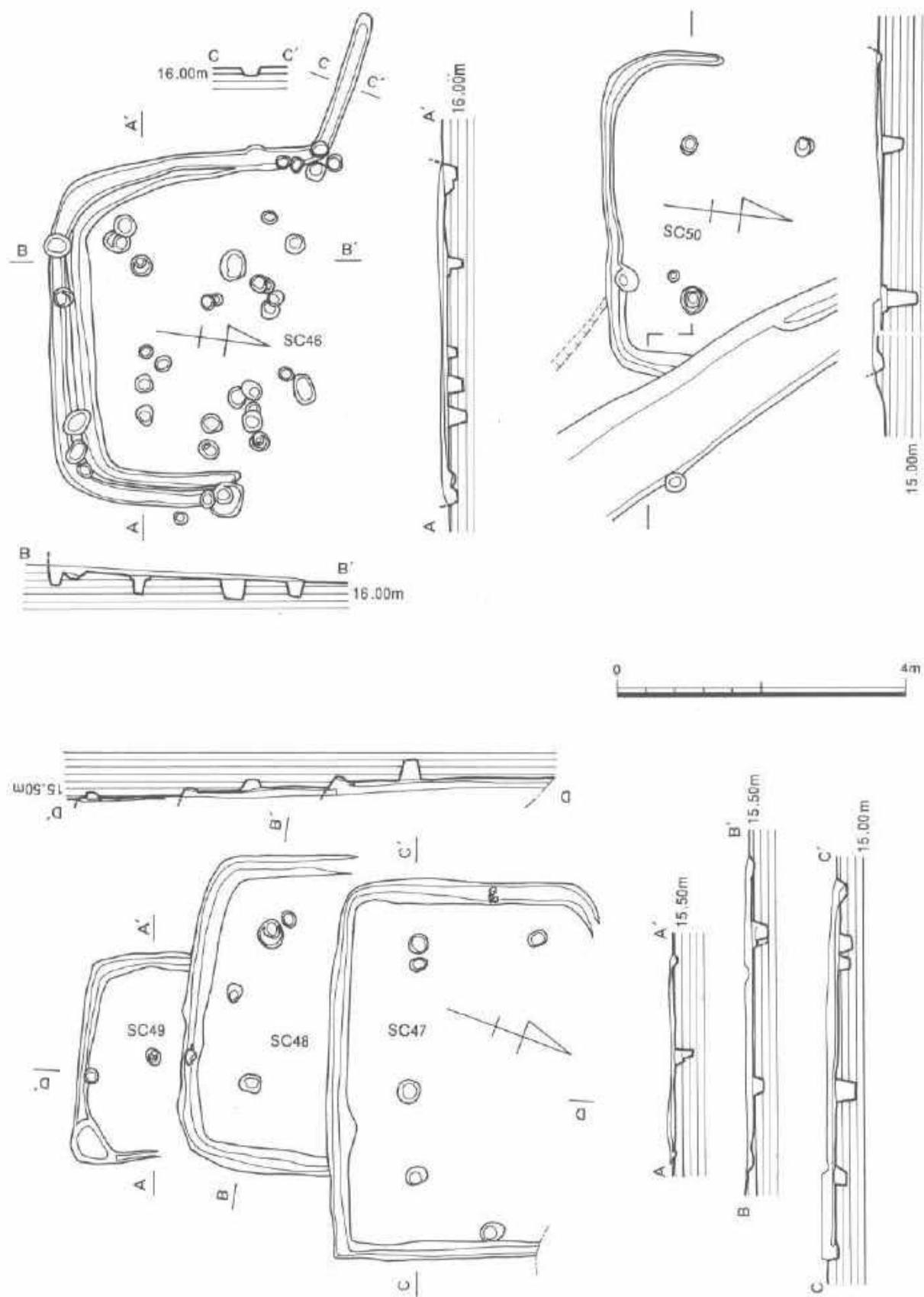
SC51は、II区の北西側より検出された。本住居の南東側にはSC50があり、北西側はSC52と53より切られる。本住居の埋土を除去後床面からは、南側壁から110cm、西側壁から90cm内側に溝が検出され、拡張住居であることが確認された。拡張前をA住居、拡張後をB住居とした。

A・竪穴部は、やや南北に長い方形を呈し、壁溝は、SC52と53によって北辺を失う。

主柱穴は2本検出されているが、実際は4本柱であると想定する。

B・竪穴部は、南北方向に長い方形を呈し、壁溝は、東側でAと共にし、南側と西側を拡張している。

主柱穴は2本検出されているが、実際は4本柱であると想定する。



第27図 SC46~50遺構実測図 (1/80)

SC52 (遺構・第28図、第4表、図版4、遺物201~215・443~445、第54・71図、第5・6表、図版10・14)

SC52は、I区の北西より検出され、住居の南側半分でSC51を切り、西側ではSC53をそれぞれ切っている。

竪穴部は、ほぼ方形を呈し、壁溝は、全周する。

北側壁の中央床面部分には、南北60cm、東西50cmの範囲で焼床が検出された。

主柱穴は、4本検出された。

SC53 (遺構・第28図、第4表、図版4、遺物219~221、第55図、第5表、図版10)

SC53は、I区の北西より検出され、SC51を切り、52より切られる。

竪穴部は、方形を呈していたと考えられるが、壁溝は西側1辺と両コーナー部分が残る程度で残りが悪い。

主柱穴は、現状で北西側に1本検出されているが、実際は4本柱であると想定する。

SC54 (遺構・第28図、第4表、図版4、遺物222~233、第55図、第5表、図版10・11)

SC54は、I区の北側より検出された。本住居の南西から北西にかけてはSC50からSC53が近接して囲うように検出されたが、切り合うことはなく単独で検出された。

竪穴部は、北西辺がやや長い台形を呈し、壁溝は、全周する。住居の面積に対して溝の幅が広い。

北西壁側の床面中央より長軸短軸とも90cmの範囲にカマドを検出した。袖部は明黄褐色細砂粒土が検出され、右側袖部は、長さ75cm、幅14~23cm、高さ7cm、左側袖部は、長さ62cm、幅10~18cm、高さ8cmを測る。燃焼部は、長軸40cm、短軸31cmの円形で、床面を深さ5cm程掘り窪められており、袖の高さまで炭化物が認められた。

遺物は、住居床面の南半分より主に出土している。

主柱穴は、4本検出した。

SC55 (遺構・第29図、第4表、図版4、遺物238、第56図、第5表)

SC55は、I区のほぼ中央より検出され、北西側をSC56に切られている。

竪穴部は、コーナーがややシャープな方形を呈し、壁溝は全周していたと想定されるが、北側が先の開墾により削平される。北西側床面では、壁溝とは別に溝を検出したが拡張住居によるものかは断定できない。

主柱穴は、現状で3本検出されたが、実際は4本柱であると想定される。

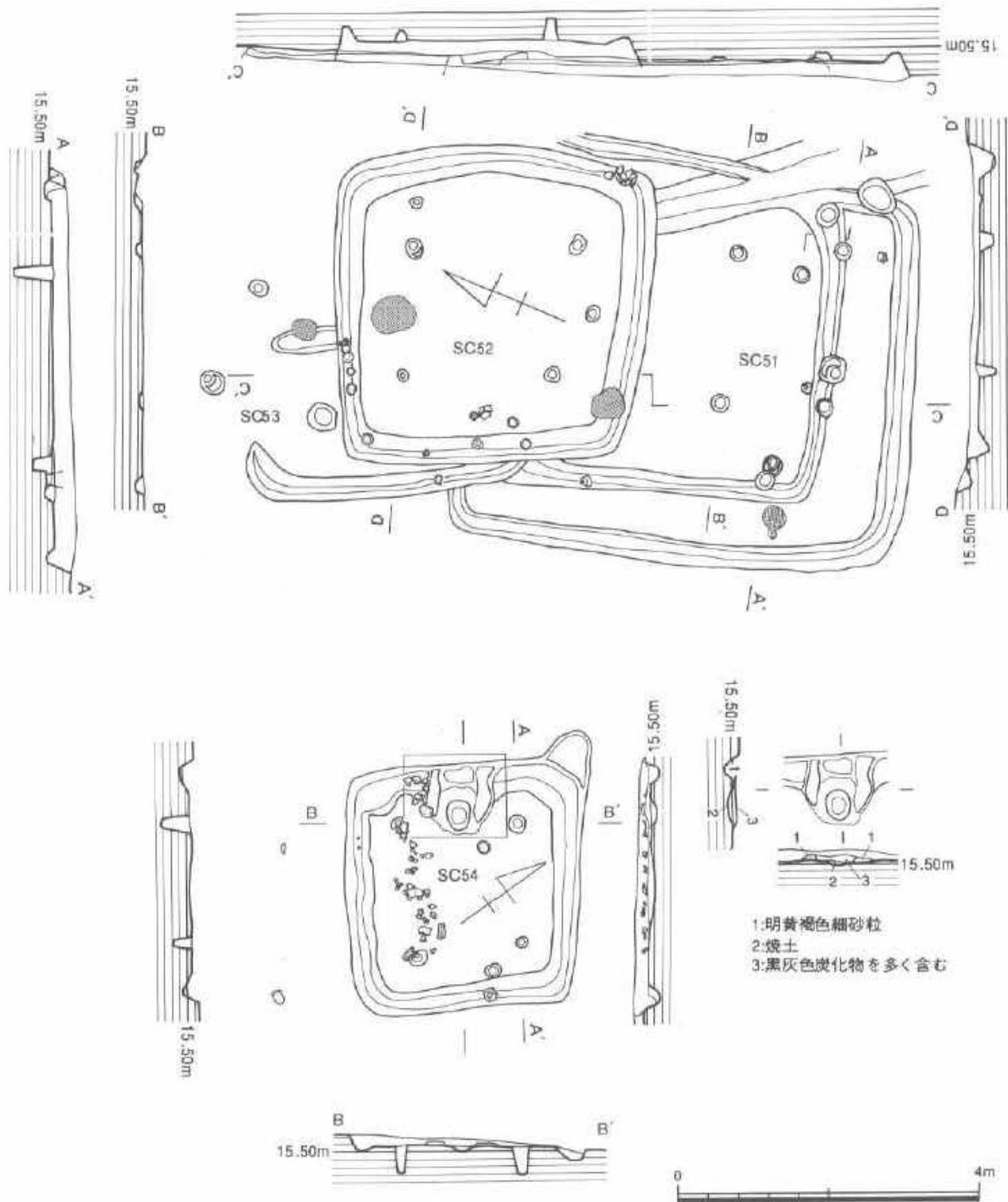
SC56 (遺構・第29図、第4表、図版4)

SC56は、I区のほぼ中央より検出され、南側コーナーでSC55を切る。

竪穴部は方形を呈し、壁溝は全周していたと想定されるが、東側が先の開墾により削平される。

東側コーナーからは、排水溝が北東方向に3m延びている。

主柱穴は、4本検出された。



第28図 SC51～54遺構実測図 (1/80)

SC57 (遺構・第29図、第4表)

SC57は、HとI区の境に検出され、南北に延びる大型の搅乱溝と調査区を分ける畑の溝によって大きく削平される。

形状は方形を呈していたと考えられ、壁溝は南側と西側でL字状に検出された。

主柱穴は、現状で1本検出されたが、実際は4本柱であると想定される。

SC58 (遺構・第30図、第4表、図版4)

SC58は、I区のほぼ中央より検出され、西側にはSC55と56、東側にはSC60と61に隣接して検出された。西側壁溝は、SC59より切られる。

竪穴部は、南北方向にやや長い方形を呈し、壁溝は、南側コーナーを除いて施されていたものと推定されるが、北側コーナーは、先の開墾によって削平される。

壁溝の切れている部分は、南側コーナーから東に20cm程入ったところで幅26cmである。

主柱穴は、現状で3本検出されたが、南側の1本は当初から確認されなかった。

SC59 (遺構・第30図、第4表、図版4、遺物234・235、第56図、第5表、図版11)

SC59は、I区のほぼ中央より検出され、SC58の北側辺を切る。

竪穴部は、方形を呈し、壁溝は全周していたと想定されるが、北東側が先の開墾により削平される。

東側のコーナーからは、排水溝が延びており、そのまま北東方向へ3m延び、途中から北へ向きを変え大きく弧を描いて3m続いている。

主柱穴は、現状で竪穴部のほぼ中央に1本検出され、他に柱穴が検出されなかった。

SC60 (A・B) (遺構・第30図、第4表、図版4、遺物498、第73図、第19表、図版14)

SC60は、I区の中央よりやや東側で検出され、西側にはSC58と59、北側にはSC62と63と64が隣接して検出された。本住居は、検出時既に3重の壁溝が確認され、調査の結果最も外周とその内側の溝が拡張に伴うものと考えられ、拡張前をA、拡張後をBとした。

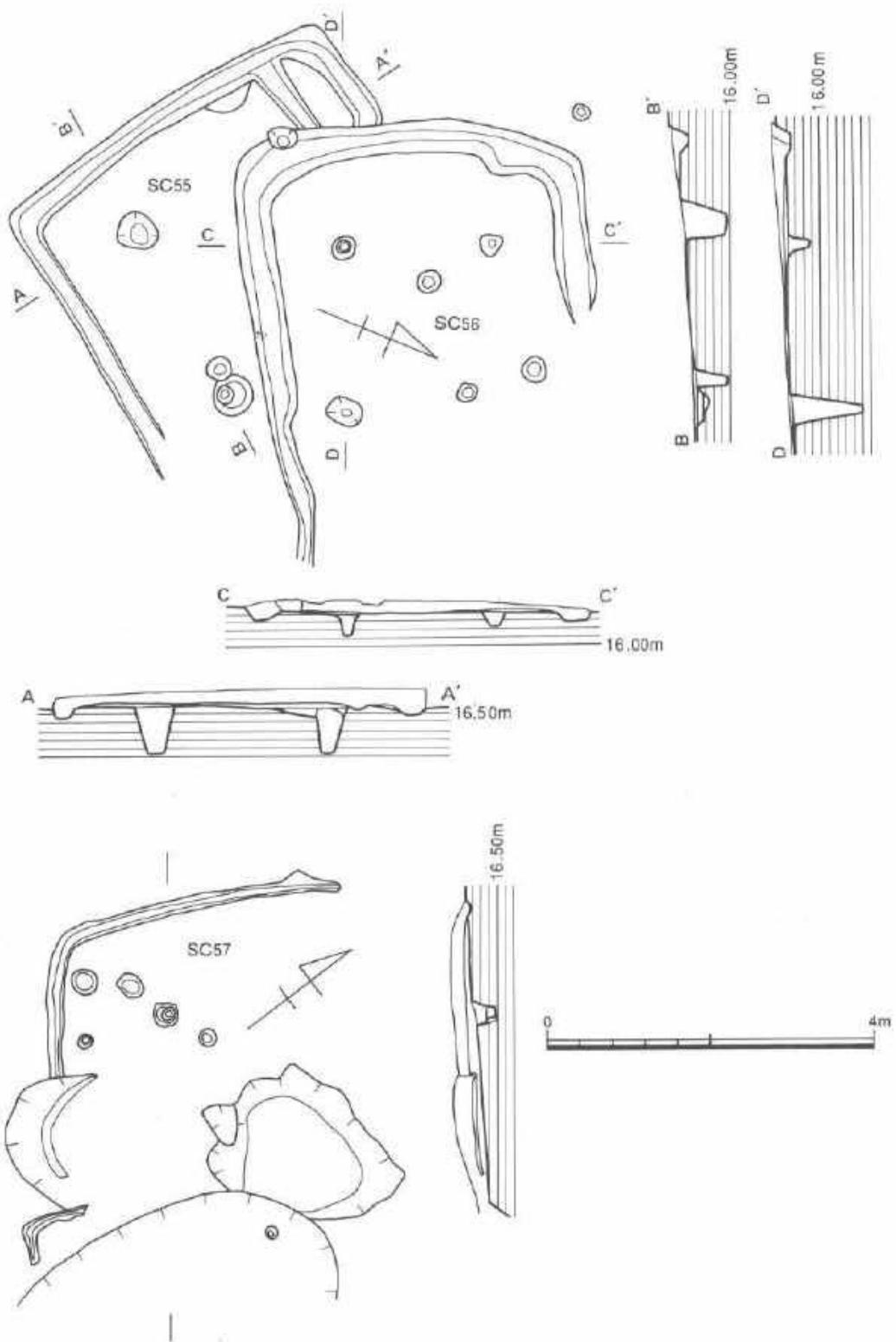
最も内側の溝は、拡張ではなく再度住居を建て換えたと考えられSC61とした。

A・竪穴部は、南北に長い方形を呈し、壁溝は、全周していたと想定されるが、北側コーナーが先の開墾によって削平される。

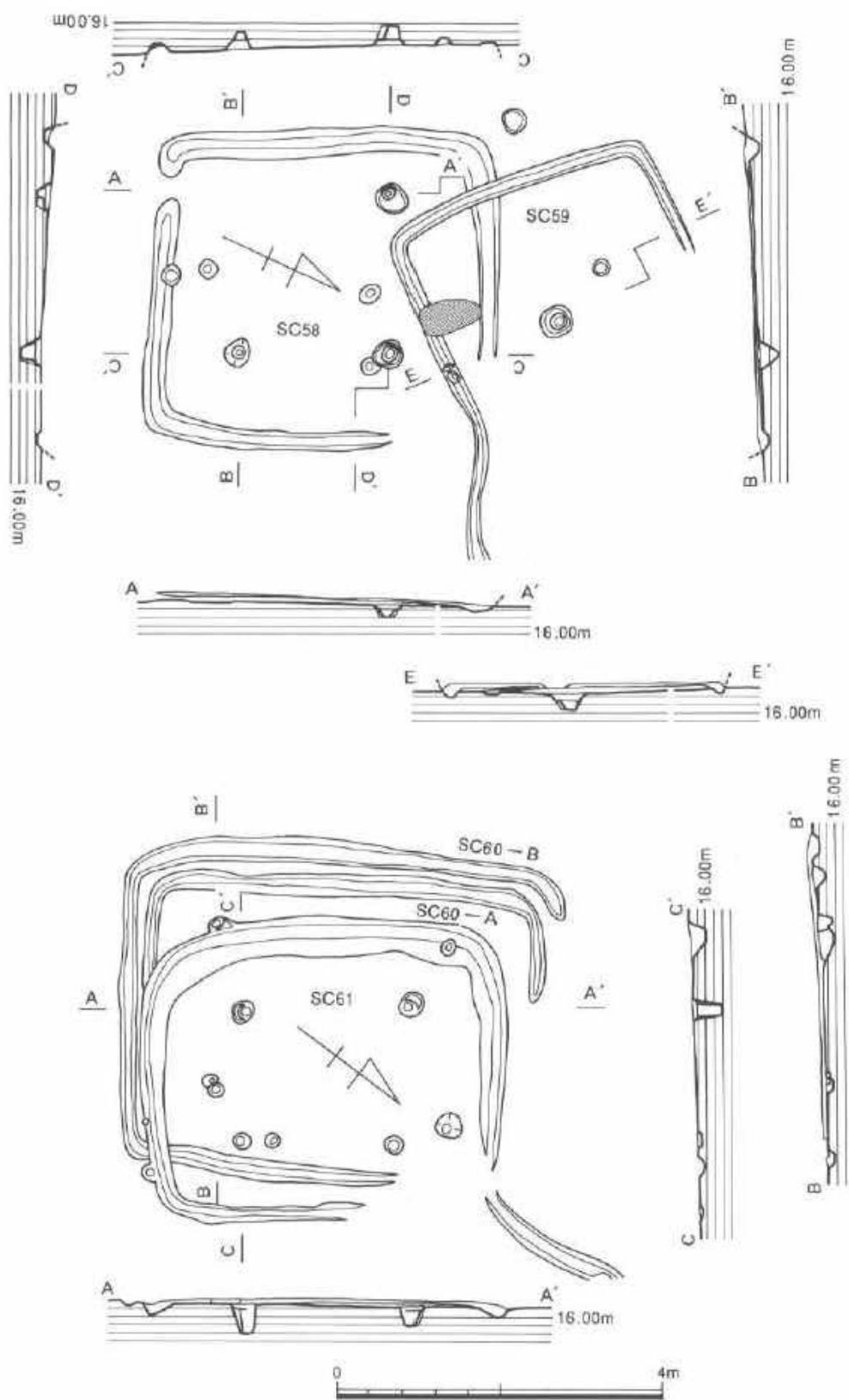
主柱穴は、4本検出された。

B・竪穴部は、南北に長い方形を呈し、壁溝は、東側をAと共有しているが、南側では25cm、と西側では最大48cm拡張している。

主柱穴は4本検出された。



第29図 SC55~57遺構実測図 (1/80)



第30図 SC58~61構造実測図 (1/80)

SC61 (遺構・第30図、第4表、図版4、遺物446・492~496・506、第71・73図、第6・19表、図版14)

SC61は、I区の中央よりやや東で、SC60AとBを切って検出された。

竪穴部は、南北に長い方形を呈し、壁溝は、全周していたものと想定されるが、北側コーナーが開墾時に削平される。

壁溝の幅は、SC60AやBより全体的に広く最大48cmを測る。北側コーナーより排水溝が北方向に弧を蛇行しながら検出され約5m延びており、SC63と64を切っている。

主柱穴は、4本検出された。

SC62 (遺構・第31図、第4表、図版4、遺物236・237、第56図、第5表、図版11)

SC62は、I区の北より検出され、SC64の南側上面を切る。

竪穴部は方形を呈し、壁溝は全周していたと想定されるが、北側が先の開墾により削平される。

主柱穴は、現状で2本検出されたが、実際は4本柱であると想定される。

SC63 (遺構・第31図、第4表、図版4、遺物239~241、第56図、第5表)

63は、I区の北より検出され、SC61から延びた排水溝より南側壁溝が切られ、SC64の南側埋土上面を切る。形状は方形を呈し、壁溝は全周していたと想定されるが、北東側が開墾により削平される。

主柱穴は、4本検出された。

SC64 (遺構・第31図、第4表、図版4、遺物244~271・447、第56・57・58・71図、第5・6表、図版11・14)

SC64は、I区の北より検出され、埋土の上面をSC61の排水溝およびSC62と63より切られる。

竪穴部は、方形を呈し、南側壁はやや蛇行して検出された。

壁溝は、溝の幅が8~10cmと細く、壁溝側の床面上場には杭痕の列が検出された。北側コーナーから北西側72cmと北東側78cm、東側コーナーから北東辺に63cmの範囲には施されていない。

溝と杭痕は、特に南西側と北西壁側に検出され、この方向の壁に板材を設置していたのではないかと推定される。

床面南西側には、長軸2.0m、短軸1.2mの長方形を呈した空間が溝で仕切られ区画されている。

北壁側の床面中央よりカマドの痕跡を検出した。

主柱穴は、4本検出された。

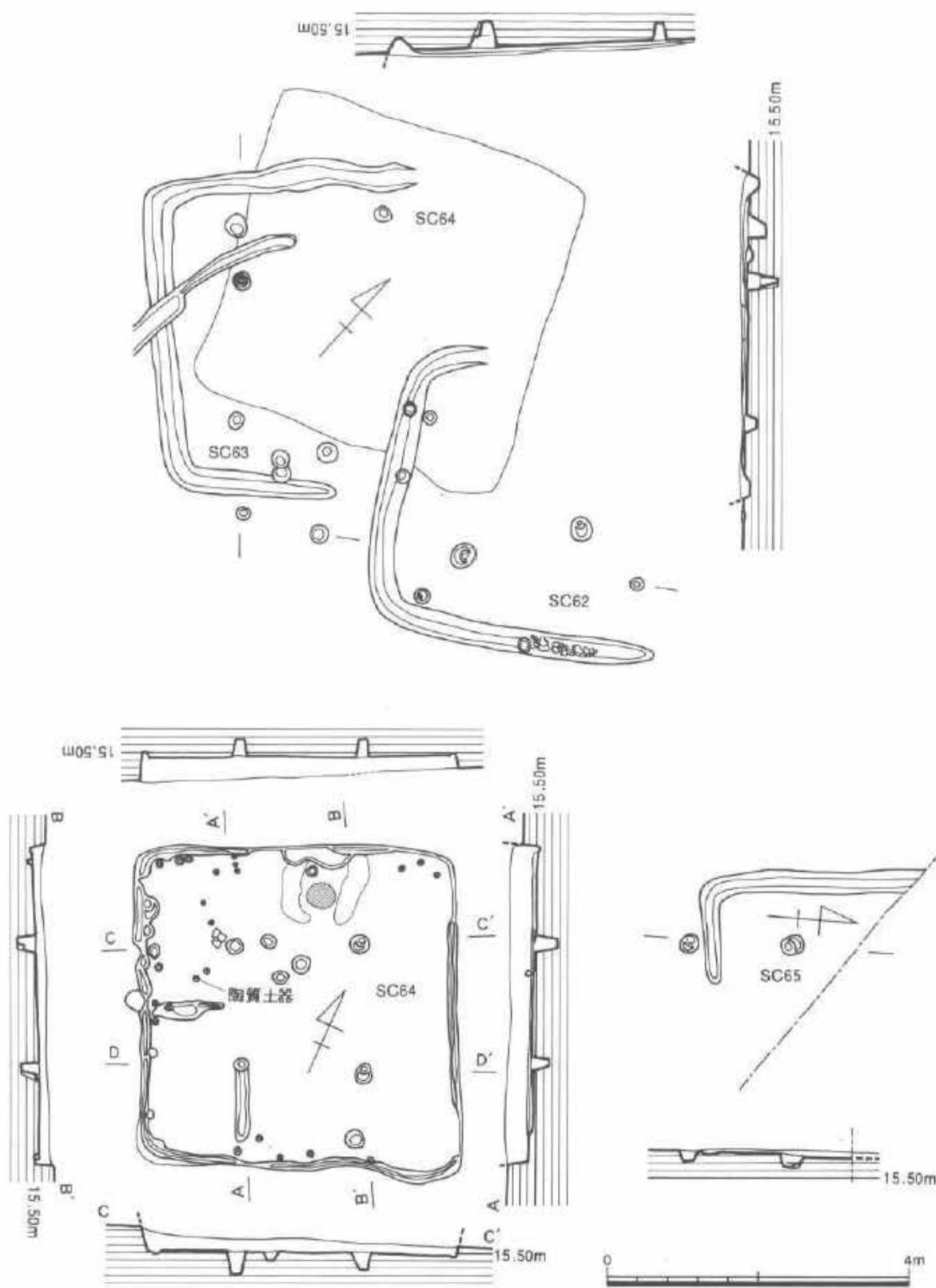
遺物は、カマドの周辺より高杯・甕・甑などが出土し、陶質土器と考えられる鉢形土器が西側床面より単独で出土した。

SC65 (遺構・第31図、第4表)

SC65は、I区の北より単独で検出されたが、北側が調査区外となっている。

竪穴部は、方形を呈していると考えられるが、壁溝は南側のコーナー部分が残っている以外は先の開墾により削平される。

主柱穴は、現状で南側に1本検出されたが、実際は4本柱であると想定される。



第31図 SC62～65遺構実測図 (1/80)

SC66 (遺構・第32図、第4表、図版5)

SC66は、H区とI区の境で東端より単独で検出された。

竪穴部は、南北方向に長い方形を呈し、壁溝は全周しているが、調査区を分ける東西方向の畝の区画溝と南北方向に延びる溝によって一部削平されている。北側コーナーからは排水溝が3.5m北方向に直に延びている。

主柱穴は、4本検出された。

SC67 (A・B) (遺構・第32図、第4表)

SC67は、I区の最も東端より検出された。本住居の南西側3m程の位置にSC66が、西側3.5m程の位置にSC68と69がある。住居検出時から既に南西側の壁溝が2重に検出され拡張住居であることが確認できた。拡張前をA、拡張後をBとする。

A・竪穴部は、方形を呈していたと考えられるが、西側コーナーと南西溝の一部が残存するほかはほとんどが削平されている。

B・竪穴部は、方形を呈していると考えられるが、壁溝は、北西側と南西側に検出されただけに留まる。北西溝は、Aと共有され、南西溝は38cm程拡張されている。

SC68 (A・B) (遺構・第32図、第4表、図版5、遺物242、第56図、第5表、図版11)

SC68は、I区の東側より検出された。南側4mの位置にSC66、南東側3.5mの位置にSC67、北側5mの位置にSC70と71、北西側6m程の位置にSC60と61があって、ほぼ等間隔に住居が点在している。

本住居は、壁溝が2重に検出されやや角度を振ってはいるが拡張住居と考えられる。北側コーナー付近をSC69が切っている。

A・竪穴部は、隅丸方形を呈しているが、壁溝は北東側が先の開墾によって削平される。

主柱穴は現状で2本検出されたが、実際は4本柱であると想定される。

B・竪穴部は、方形を呈し、壁溝はAと若干方向を変えて拡張する。

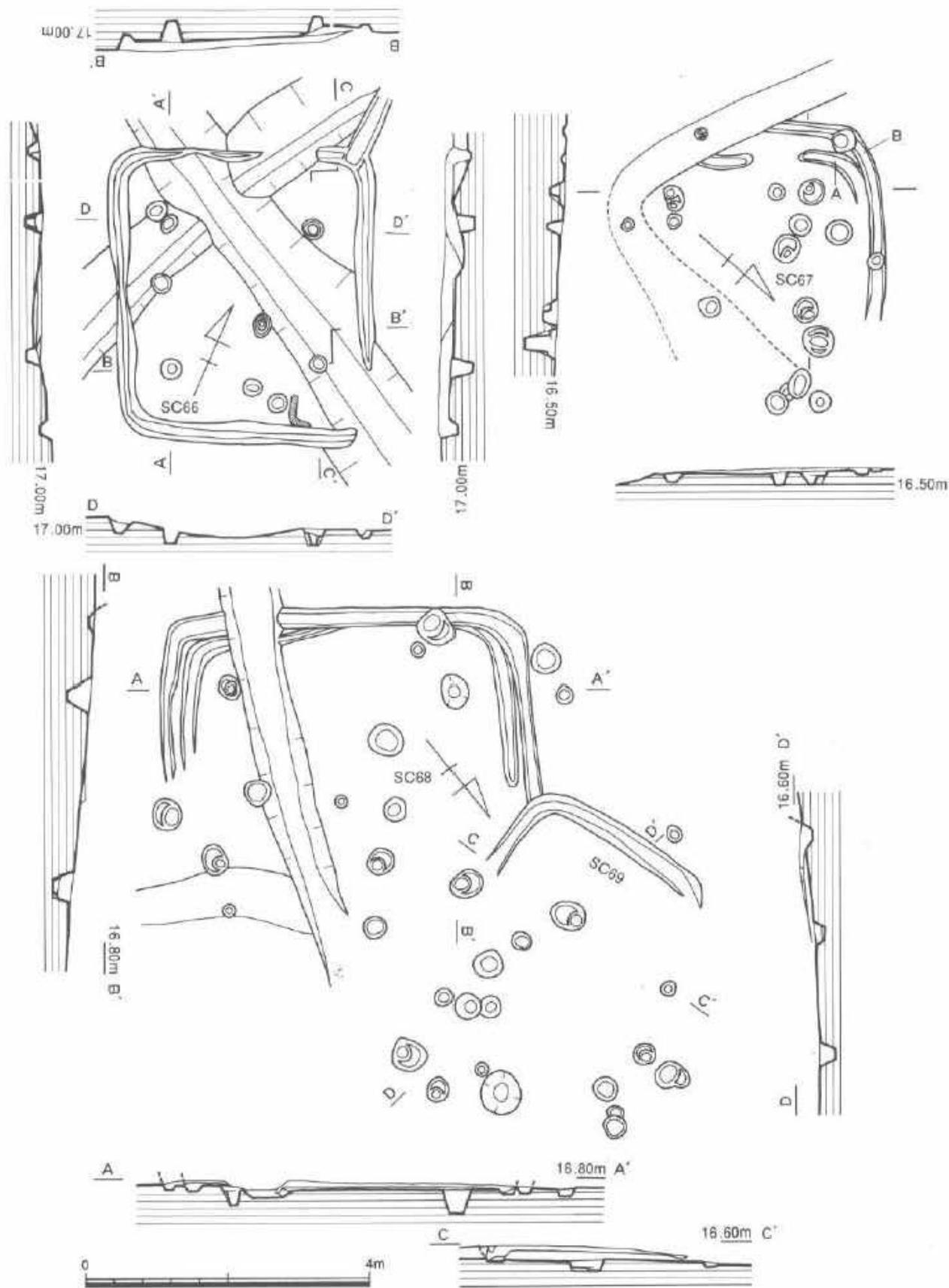
主柱穴は現状で3本検出されたが、実際は4本柱であると想定される。

SC69 (遺構・第32図、第4表)

SC69は、I区の東側より検出され、SC68の北側コーナーを切って検出された。

竪穴部は、方形を呈していると考えられるが、北および東側は先の開墾により削平され、壁溝が西辺と南辺のL字に検出された。

主柱穴は、4本柱と考えられる。



第32図 SC66~69遺構実測図 (1/80)

SC70 (遺構・第33図、第4表、図版5)

SC70は、I区の北東端より検出された。

竪穴部は方形を呈しているが、北側は先の開墾により削平され、南西側辺と北西・南東側辺の一部が「コ」字状に残存する。この範囲では、壁溝は認められず施されていないものと考えられる。

主柱穴は、不明である。

SC71 (遺構・第33図、第4表、図版5)

SC71は、I区の北東端より検出され、北側は先の開墾により削平され、SC70の内側より検出された。

竪穴部は方形を呈していたと考えられるが、壁溝は南西側と南東側のL字に検出した。

主柱穴は、不明である。

SC72 (遺構・第33図、第4表、図版5、遺物272~321・507・508、第59~63・73図、第5・19表、図版12・13)

SC72は、K区の西側より単独で検出された。南東側1m程には、SC73の北西コーナーの壁溝があり、北東側では、4m程の位置にSC83がある。

竪穴部のプランは北東から南西方向にやや長い方形を呈し、コーナーは比較的鋭角である。

壁溝は施されるが、東側コーナーから北東側の幅90cmの間は認められず、床面から高さ12cmの段を有して階段状になっており、出入り口ではなかったかと想定する。壁溝の幅は、10~20cmと細いため、SC64同様板材を壁に施すタイプと考えられる。

床面の中央からやや北西側には、径30cm、深さ4cmのほぼ円形の炉跡と考えられる焼土坑を検出した。

遺物は、縄蓆文を施した伽耶系の甕や、鏡形土製品ほか土師器など外來品・祭祀品・日常品など多量に出土した。上層からの出土状況は、いずれの遺物も3層から検出されていて、最初に壁溝の埋まったと考えられる4層からは出土していない。そのため住居を破棄した後にしばらくして置かれたか投げ込まれたのではないかと想定する。

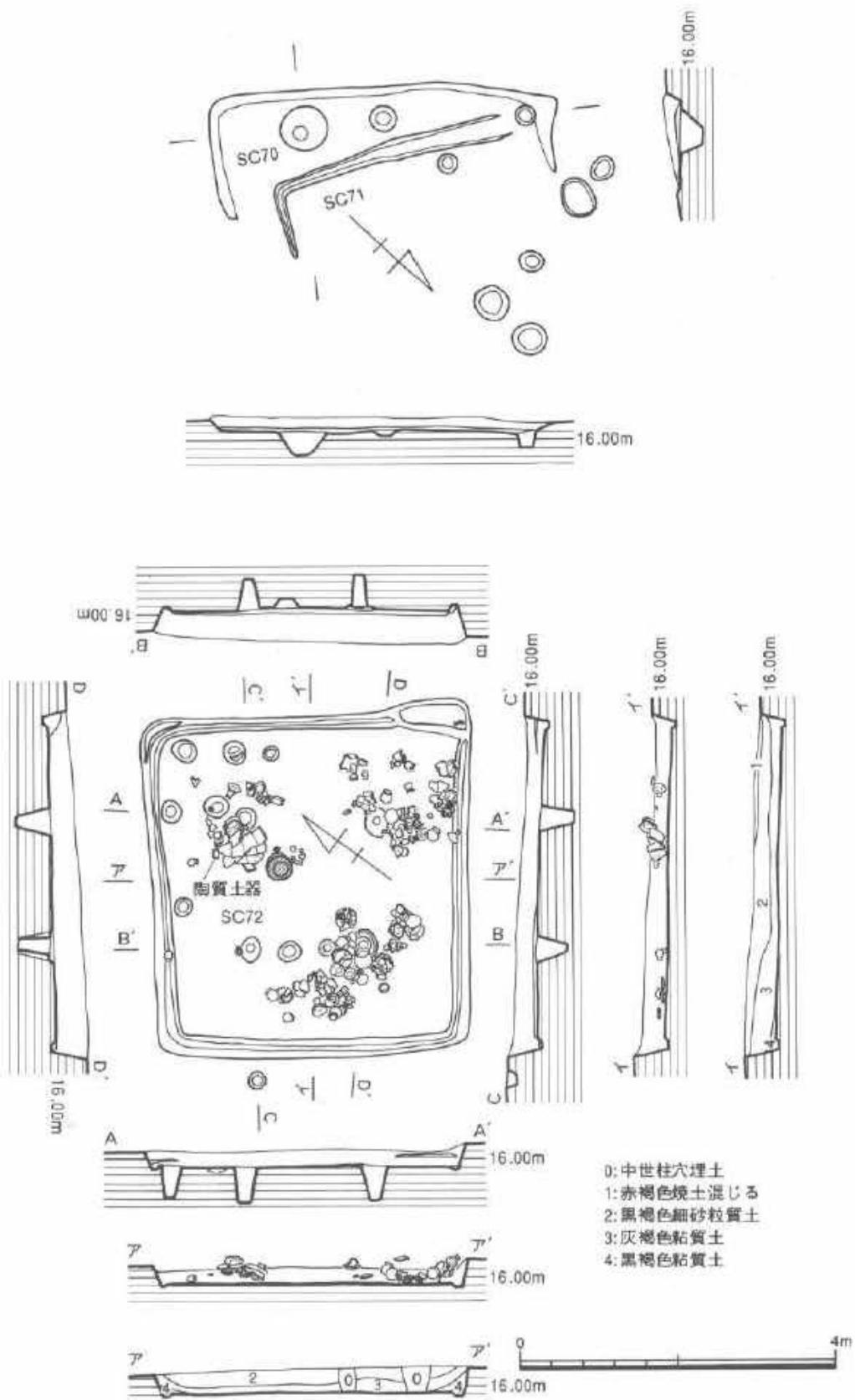
主柱穴は、4本検出された。

SC73 (遺構・第34図、第4表、図版5)

SC73は、K区のやや南側より検出され、この住居より南側は、開墾による削平によって遺構がほとんど認められない。北東側コーナーでは、SC74との切り合い関係にあったものと考えられるが先後関係については不明である。

竪穴部は、隅丸の方形を呈し、壁溝は、全周していたと考えられる。

主柱穴は、2本検出されたが、実際は4本柱であると想定される。



第33図 SC70~72遺構実測図 (1/80)

SC74 (A・B) (遺構・第34図、第4表、図版5、遺物503、第73図、第19表、図版14)

SC74は、K区のほぼ中央で、SC73の北東コーナー部分より検出された。住居の南辺と東辺の壁溝は2重に検出され拡張住居と考えられる。拡張前をA住居、拡張後をB住居とした。

A・竪穴部は方形を呈しているが、壁溝は北側が先の開墾によって削平されている。

主柱穴は4本検出された。

B・竪穴部は方形を呈し、壁溝はAと同様で、西辺が共有しているが、東側と南側で40~50cm拡張している。

主柱穴は4本検出された。

SC75 (遺構・第34図、第4表、図版5、遺物502、第73図、第19表、図版14)

SC75は、K区の東端より検出された。さらに東側ではSC76と77と78が近接している。

竪穴部は、方形を呈しているが、東側が先の開墾により削平される。

壁溝は、全周していたと想定される。

主柱穴は、現状で3本検出されたが、北東側の1つが確認できなかった。

SC76 (遺構・第34図、第4表、図版5)

SC76は、K区の東端より検出され、SC75の南東側の主柱穴とSC77の壁溝より切られている。

形状は方形を呈していると想定されるが、壁溝は、南西側コーナーのみの検出であるため詳細は不明である。

SC77 (遺構・第34図、第4表、図版5)

SC77は、K区の東端より検出され、SC76とSC78の壁溝をそれぞれ切っている。

竪穴部は、方形を呈し、やや膨らみである。

壁溝は、全周していたと想定されるが、東側が調査区外であるため、詳細はつかめず、主柱穴なども不明である。

SC78 (遺構・第34図、第4表、図版5)

SC78は、K区の東端より検出され、SC77より南東側を切られる。

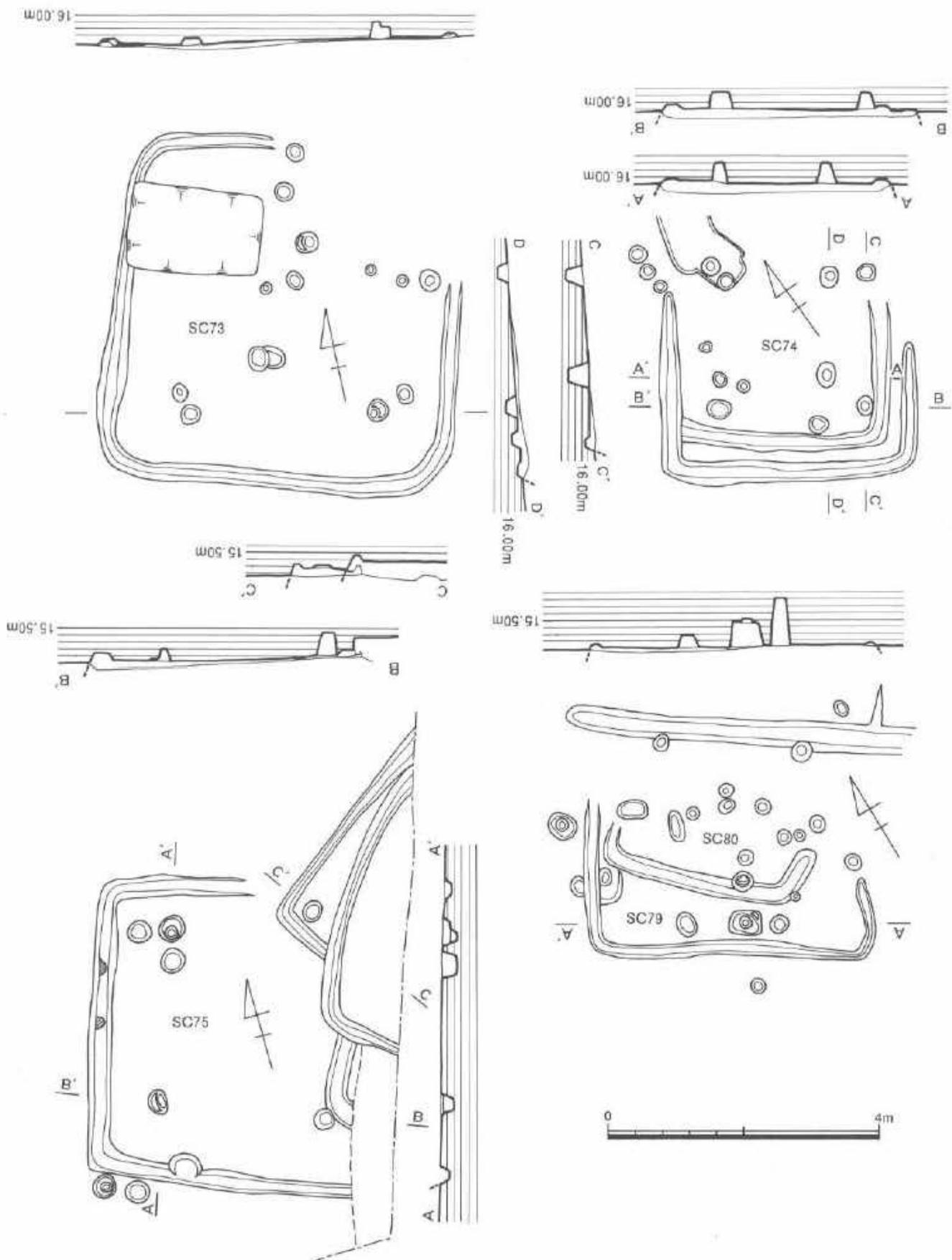
竪穴部のプランは、方形を呈していたと考えられるが、調査区外であるため詳細はつかめない。

周壁溝は、北西辺と南西辺の一部がL字状に検出された。

SC79 (遺構・第34図、第4表、遺物504、第73図、第19表、図版14)

SC79は、K区のやや北東側より検出され、南側にSC75~78、南西側にSC74AとB、北西側にはSC81~83が比較的近接して周囲を囲むように検出された。

竪穴部は、方形を呈し、壁溝は、南側1辺と西辺・東辺が「コ」字状に残る程度で、北側が先の開墾により削平される。主柱穴は、断定できるものが確認できなかった。



第34図 SC73~80遺構実測図 (1/80)

SC80 (遺構・第34図、第4表)

SC80は、K区の北東側より検出され、SC79に南側を囲まれるように検出された。

竪穴部は、方形を呈していたと考えられるが、北側が先の開墾により削平され、壁溝なども北東側で検出されず南西側1辺と南東辺・北西辺の一部が「コ」字状に検出したに留まる。

SC81 (遺構・第35図、第4表、図版5)

SC81は、K区の中央よりやや北で検出され、SC82や83より切られていると考えられる。

竪穴部のプランは方形を呈していると考えられるが、壁溝は南東辺と南西辺がL字に検出された。

主柱穴は4本あり、西側と北側の柱穴はSC83の埋土を除去後に検出された。

SC82 (A・B) (遺構・第35図、第4表、図版5)

SC82は、K区の北西側より検出されたが、西側をSC83より大半を切られる。

壁溝は、南側コーナーに2本重複して検出され拡張である。拡張前をA住居、拡張後をB住居とした。

A・竪穴部のプランは、隅丸の方形を呈すと想定されるが、壁溝は、南側コーナーのみの検出で詳細は不明である、また、床面はB住居より浅い。

主柱穴は、4本検出された。

B・竪穴部のプランは、隅丸の方形を呈すと想定されるが、壁溝は、東辺を共有し南辺は約100cm拡張していると考えられる。

SC83 (遺構・第35図、第4表、図版5、遺物322・497、第63・73図、第5・19表、図版14)

SC83は、K区のやや北側より検出され、SC82の大半を切っている。

竪穴部のプランは、ほぼ方形を呈すが、南西辺がやや弧を描いている。壁溝は、当初から施されておらず、東側コーナーで一部溝と排水溝が確認できた。北東側辺は先の開墾によって削平される。

主柱穴は4本検出された。

SC84 (遺構・第35図、第4表、図版5)

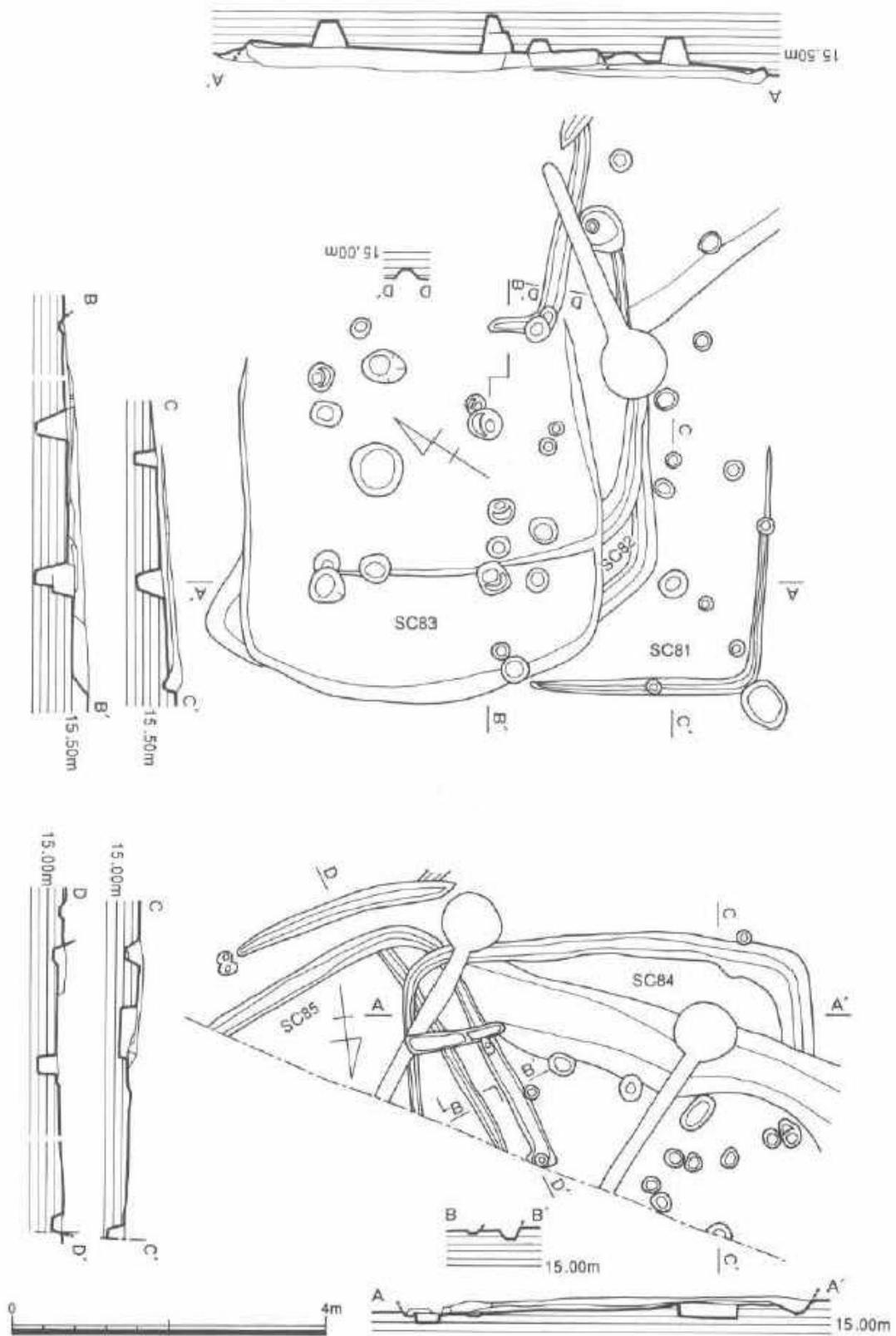
SC84は、K区の北端より検出され、東側コーナー部分でSC85を切る。

竪穴部のプランは、隅丸の方形を呈し、壁溝は、南側の1辺と東辺・西辺の一部が「コ」字状に検出された。さらに北側は、調査区外となる。

SC85 (遺構・第35図、第4表、図版5、遺物323、第63図、第5表)

SC85は、K区の北端より検出された。埋土などは既になく壁溝のみが検出され、この壁溝の西側をSC84より切られる。現状では西辺に2重の溝が検出されたが拡張に伴うものかどうかは不明である。

竪穴部のプランは方形を呈すが、壁溝は、南側と西側がL字に検出されただけでほかは調査区外となり詳細は不明である。



第35図 SC81~85遺構実測図 (1/80)

SC86 (遺構・第36図、第4表、図版5、遺物324~326、第63図、第5表、図版13)

SC86は、I区の北端より検出され、SC52が南西側にほとんど隣接して検出された。これより北側は、調査区外となっており、また、畑の段で半分以上が削平される。

竪穴部のプランは、隅丸方形を呈し、壁溝は、南側辺とその両コーナー側に認められ、西辺では、施されていない。南西側コーナーでは、壁溝の内側に土手状の高まりとして地山を削り出している。

主柱穴は、現状で1本検出しているが、実際は4本柱であったと想定される。

SC87 (遺構・第36図、第4表)

SC87は、J区の北端より検出された。

竪穴部のプランは、方形を呈していると考えられるが、住居の大半が北側の調査区外になっており詳細は不明である。壁溝は、南側1辺と東辺西辺の一部だけが検出され、特に東辺が、外の壁溝に比べ幅80cm、深さ30cmと広くて深い。

SC88 (遺構・第36図、第4表)

SC88は、J区の南東側より検出された。

竪穴部のプランは、方形を呈していたと考えられるが、壁溝は、北辺と西辺でL字状に検出され、コーナーは比較的シャープである。

柱穴の位置については不明な点が多く断定できなかった。

SC89 (遺構・第37図、第4表、図版5、遺物327~329、第64図、第5表)

SC89は、O区の南西側より検出され、SC94の大半とSC90のカマドと壁溝を切っている。

竪穴部のプランは方形を呈しているものと考えられるが、南辺と西辺のL字に壁溝が残っている程度である。コーナーは、比較的シャープである。

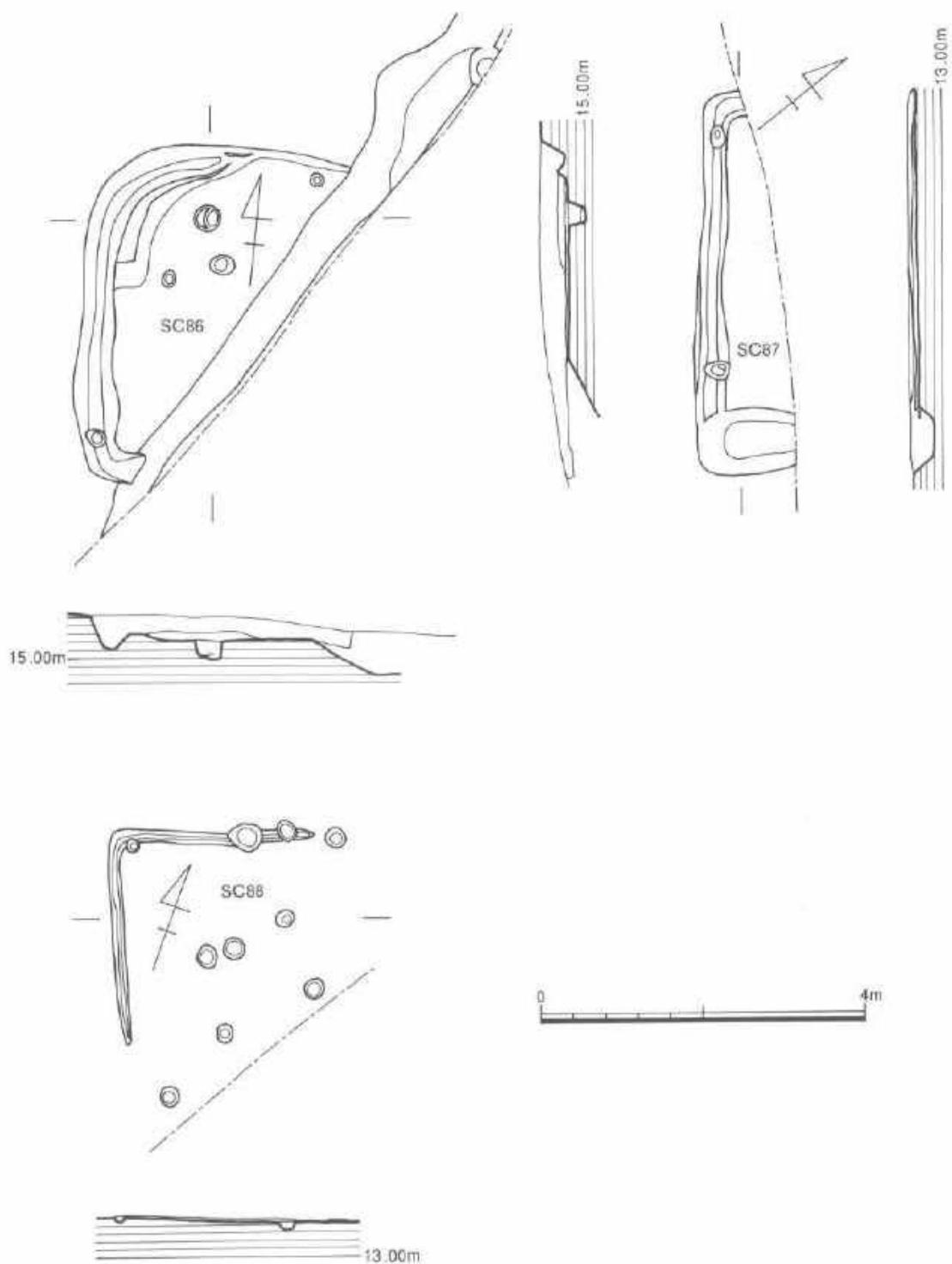
主柱穴は、4本確認された。

SC90 (遺構・第37図、第4表、図版5、遺物330~333、第64図、第5表)

SC90は、O区の南側でやや傾斜したところより検出された。西側の壁溝とカマドの一部をSC89の溝に切られる外は、他の住居との切り合い関係は認められないが、西側には、SC94、東側にはSC91がそれぞれ近接して検出された。

竪穴部のプランは東西に長い方形を呈しており、コーナーは、比較的シャープである。壁溝は、ほぼ全周していたと考えられるが、北東側は谷部の傾斜によって削平され、南辺の中央部が幅8cmにわたって施されていない。

主柱穴は、4本確認され、南東側柱穴と南側壁溝を結ぶ小溝を確認した。



第36図 SC86~88遺構実測図 (1/80)

SC91 (遺構・第37図、第4表、図版5)

SC91は、O区の南側より検出され、西側ではSC90に隣接している。

竪穴部のプランは方形を呈しており、壁溝も全周していたものと考えられるが、北東側が谷部の傾斜となり削平される。西側コーナー付近の壁溝は、通常の幅に比べ最大54cmあり広い。

主柱穴は、4本確認され、いずれも壁溝コーナー寄りに検出された。

SC92 (遺構・第37図、第4表)

SC92は、O区の南端より単独で検出された。

竪穴部のプランは方形を呈していたと考えられるが、北側辺と西辺が匁字状に残る程度である。

主柱穴は、北西側に1本確認されたが実際は4本柱であったと想定される。

SC93 (遺構・第38図、第4表、図版5、遺物334~353、第64図、第5表、図版13)

SC93は、O区の中央部分で谷の鞍部より単独で検出された。

竪穴部のプランは東西にやや長い方形を呈している。壁溝は、ほぼ全周していたと考えられるが、南側辺の一部がやや途切れている。

途切れている部分は、南西側コーナーより1.7m、南東側コーナーより3.2mの所で幅8cmである。

主柱穴は、4本確認されており、通常の住居に比べいずれもコーナー寄りに検出された。

カマドは、北側辺中央でやや東寄りに検出された。住居検出時かなり包含層下面で検出されたため竪穴部上面が著しく削られ、カマド袖部も厚さ4cm程度である。

右袖の長さは壁から1.34m、幅0.46cm、左袖の長さは壁から1.1m、幅0.3cmを測る。焼土部分は、南北0.45m、東西0.48m、深さ10cmで鉢状に窪んでいる。

SC94 (遺構・第38・39図、第4表、図版5、遺物380~422、第66~69図、第5表、図版13・14)

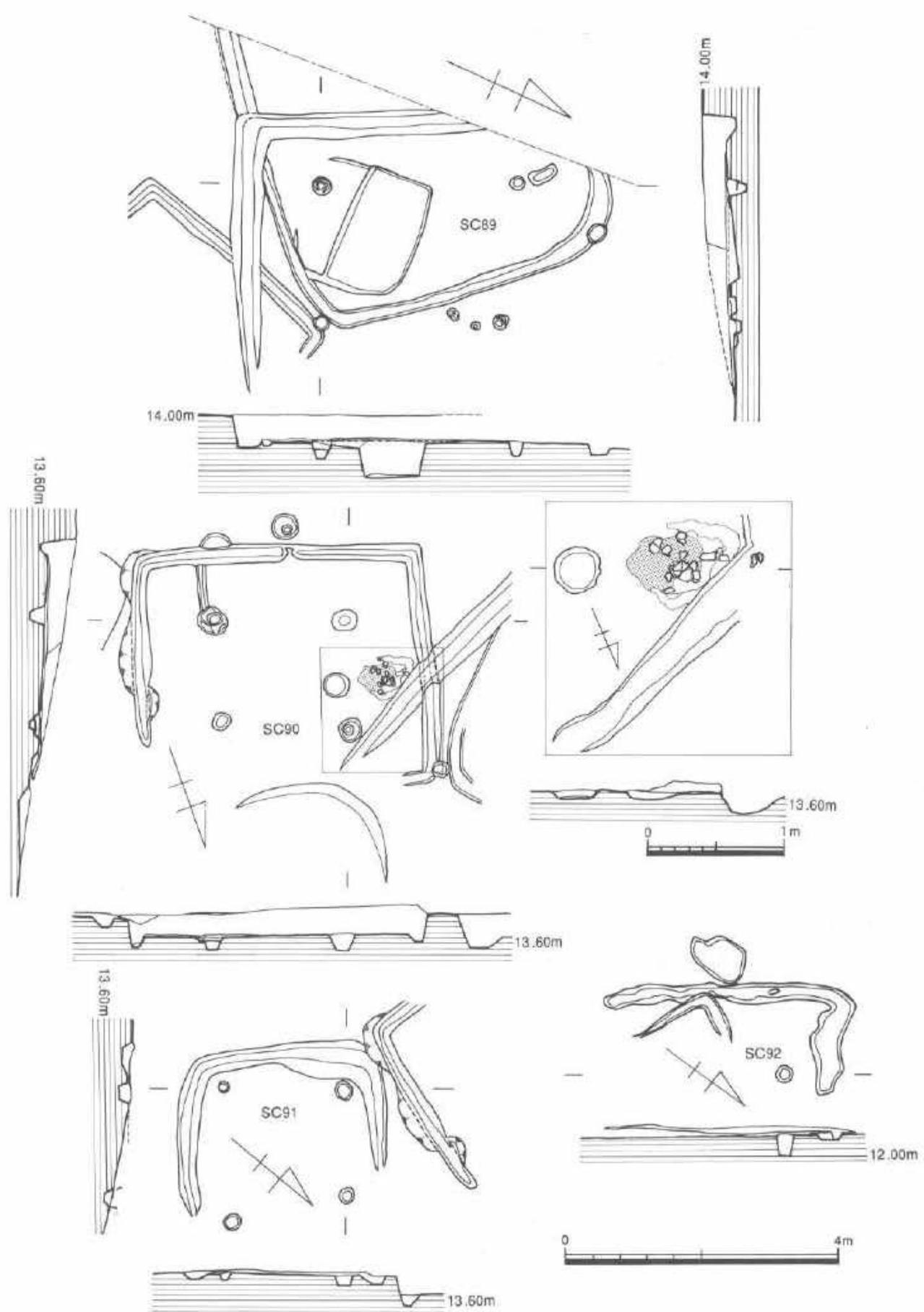
SC94は、O区の南西端でQ区の東端より検出された。O区調査中Q区には民家および塙があり調査区をこの塙から1.5m程離して調査を実施した。このためO区とQ区の間には1m程の空間ができ、住居全体の検出はできなかった。

Q区で竪穴部から3条の壁溝が検出されたことから、北からA・B・C住居とした。遺物はAの北東側に椀・甕・甌などが出土した。

A住居は床面が7~14cm高くなってしまっており、遺物の出土状況からもBへ流れ込んだ状況が確認された。西側の壁は、A・B・Cが共有しているが、Aの斜めになつた壁にBの深いところがややオーバーハングして検出された。主柱穴は不明である。

Bは、Cの拡張と考えられる。主柱穴はCの北側溝を切って2本検出された。

Cは、Q区でBの床面に検出された溝と、O区で検出された壁溝である。O区の南東側の壁はオーバーハングしているが、東側はSC89に切られ床面に溝が確認できる。主柱穴は北東側コーナー部分に1本検出したが、残りは搅乱穴および調査区外であるため検出できず、実際は4本柱と想定する。



第37図 SC89~92遺構実測図 (1/80・1/40)

SC95 (遺構・第39図、第4表、図版6、遺物354・355・423、第65・69図、第5表)

SC95は、P区の南西端でQ区の北西端より検出された。東側にはSC98が切り合っていたと想定されるが、東側の大部分が鞍部となっているため、壁溝は、西側溝1辺と北側溝の一部が残っている程度であり、先後関係については不明である。

竪穴部のプランは隅丸の方形を呈していたと考えられる。

主柱穴は検出されず、方形に区画する溝以外で住居とするほか根拠はなく不明な点が多い。
北西床面からは、土師器の甕が出土している。

SC96 (遺構・第38図、第4表、図版6)

SC96は、P区の南西端より検出された。東側の大半はSC97より切られている。この住居から西側は宅地造成などの削平で遺構は認められない。

竪穴部のプランは方形を呈していたと考えられ、壁溝はない。

主柱穴は検出されず、SC95同様方形区画の遺構として住居とするほか根拠はなく不明な点が多い。
北西床面からは、土師器の甕が出土している。

SC97 (遺構・第38図、第4表、図版6、遺物356～358、第65図、第5表、図版14)

SC97は、P区の南西側より検出された。西側ではSC96を切っている。

竪穴部のプランは方形を呈していたと考えられる。

壁溝は、西側で検出されたが、東側では認められない。

主柱穴は4本検出され、そのうち北西側の柱穴より土師器の壺がほぼ完形で出土した。

SC98 (遺構・第38図、第4表、図版6、遺物359～374、第65図、第5表、図版14)

SC98は、P区の南端より検出された。西側にはSC95があって切り合う位置にあるが新旧関係は不明である。南側は、Q区と接しているが本住居の残りは認められなかった。

竪穴部のプランは方形を呈していたと考えられる。壁溝は、検出された北側辺と西側辺では認められることから、当初から施されていなかったものと推測される。

主柱穴は北側に2本検出された。

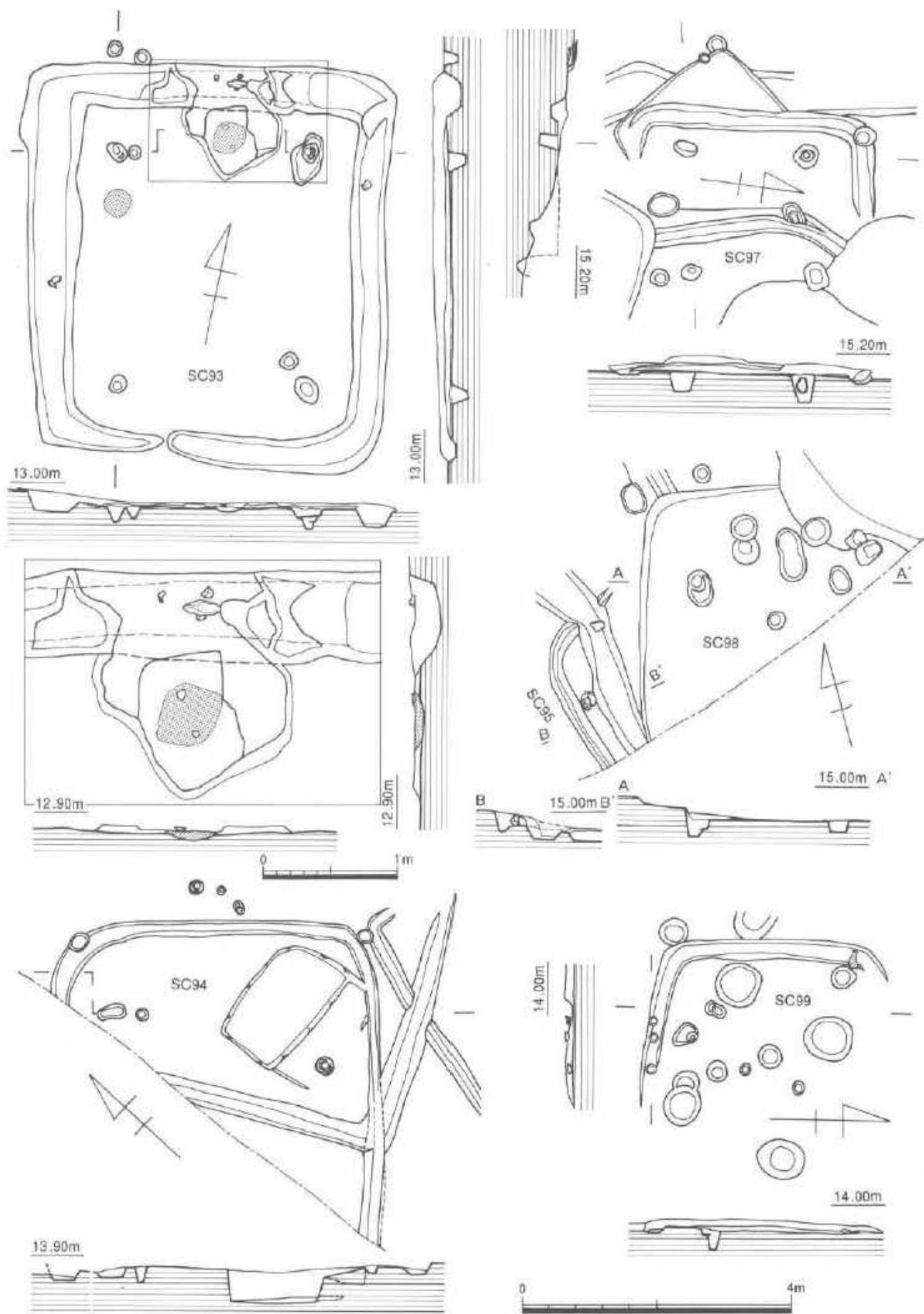
SC99 (遺構・第38図、第4表、遺物375～379、第65図、第5表、図版14)

SC99は、P区の東端より検出された。

竪穴部のプランは方形を呈していたと考えられる。壁溝は、検出された西側辺と南側辺で認められる。

主柱穴は北側に1本検出されたが、外は不明である。

南側の壁溝より土師器の壺が3点ほぼ完形で出土した。



第38図 SC93・94・96～99遺構実測図 (1/80・1/40)

SC100 (遺構・第39図、第4表、図版6、遺物424・425、第69図、第5表)

SC100は、Q区の中ほどより検出され、南側3mの所にSC105、東側4mの所にSC102が所在する。

竪穴部は方形を呈していたと考えられるが、東側が谷部となって傾斜し、また、後世の擾乱によって形状を失う。

壁溝は、標高の高い西側で「コ」字状に検出された。北西側コーナーと南西側床面から壁溝にかけて焼土が検出された。

主柱穴は、現状で南側に2本検出されたが、実際は4本柱であったものと想定される。

SC101 (遺構・第39図、第4表)

SC101は、Q区の北端より南西側コーナーの一部が検出された。南側には、2.5mの所にSC102が所在する。

竪穴部は方形を呈していたと考えられるが、大半は調査区外であるため詳細は不明である。

壁溝は、検出されなかった。

SC102 (遺構・第39図、第4表、図版6、遺物426～432、第69図、第5表)

SC102は、Q区の東側より検出され、南側には、1.5mの所にSC94が所在する。

竪穴部は方形を呈しており、各辺は直線的でコーナーはシャープである。

壁溝は、南側と西側に検出され北側では北西コーナーから2mの所でなくなる。東側は調査区外である。

主柱穴は、西側に2本づつ4本検出され拡張に伴うもので、竪穴部は、拡張後の広い所だけ検出されたことから、拡張前の住居をきれいに掘り直したものと考えられる。

SC103 (遺構・第39図、第4表)

SC103は、Q区の南東端より検出された。

竪穴部は方形を呈していると考えられるが、東側は宅地の際に大きく削られ、壁溝の西側コーナーが確認できるだけである。

SC104 (遺構・第39図、第4表)

SC104は、Q区の東側で、SC102の北壁に切られている。

竪穴部は方形を呈していると考えられるが、浅かったために東側が削平される。

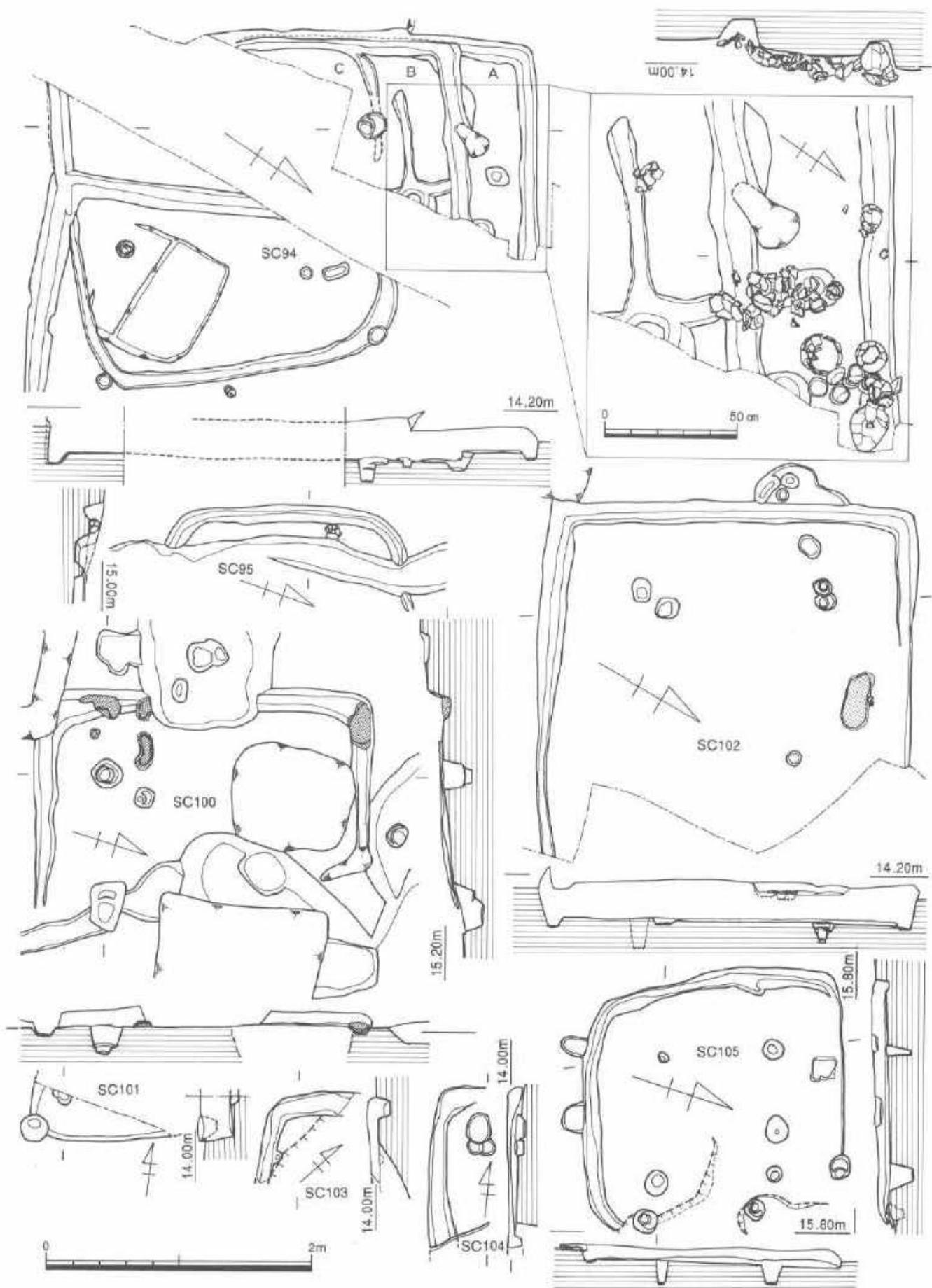
主柱穴は北西側床面より1本検出された。

SC105 (遺構・第39図、第4表、図版6、遺物433・434、第69図、第5表)

SC105は、Q区の南側より検出され、北側3mの所にSC100が所在する。

竪穴部は方形を呈しており、壁溝は、南側と西側で検出され、北側は施されていない。東側は、削平される。北側床面には、焼土塊が認められる。

主柱穴は、4本検出された。



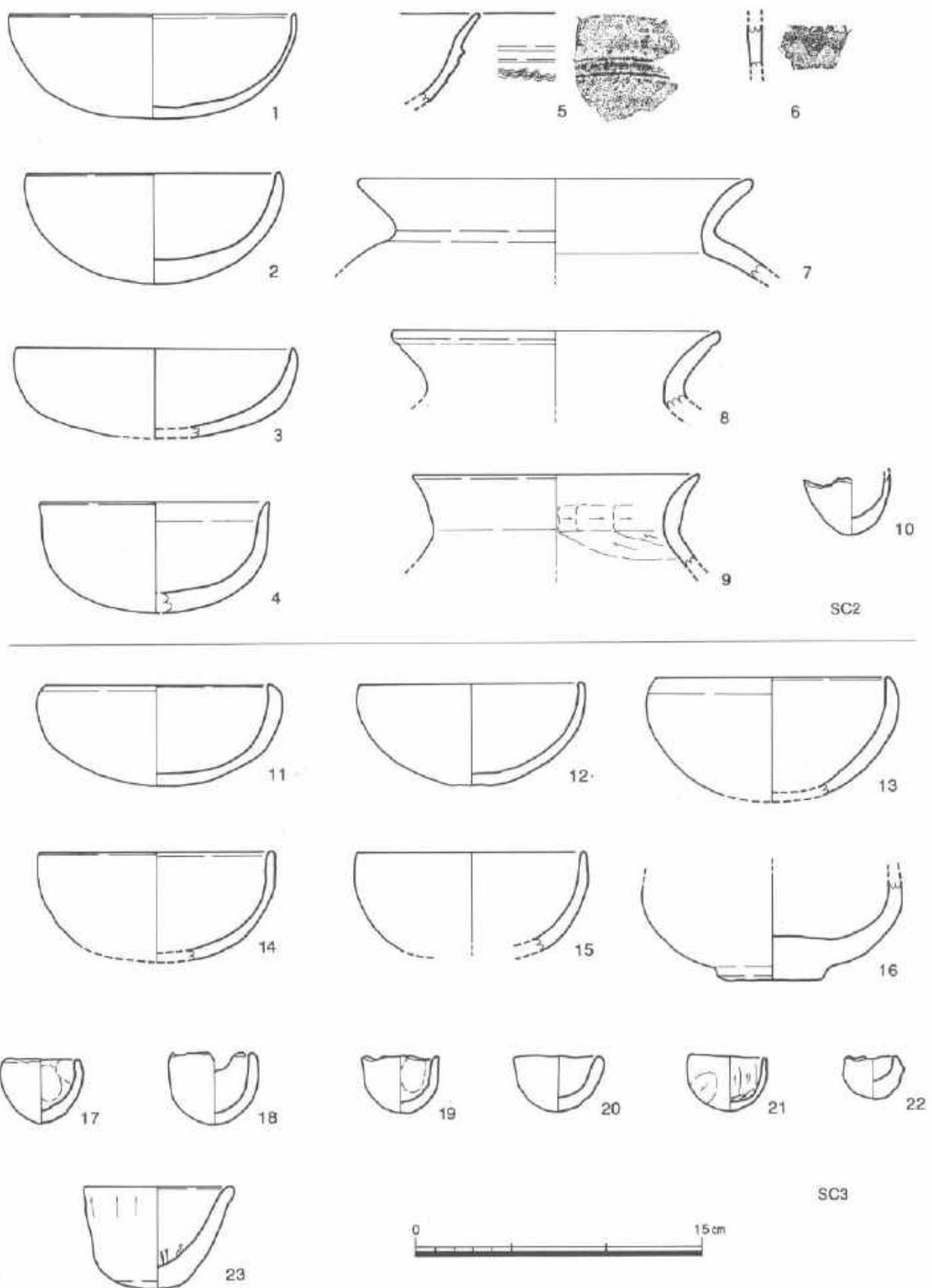
第39図 SC94・95・100～105遺構実測図 (1/80・1/40)

第4表 壓穴式住居計測表

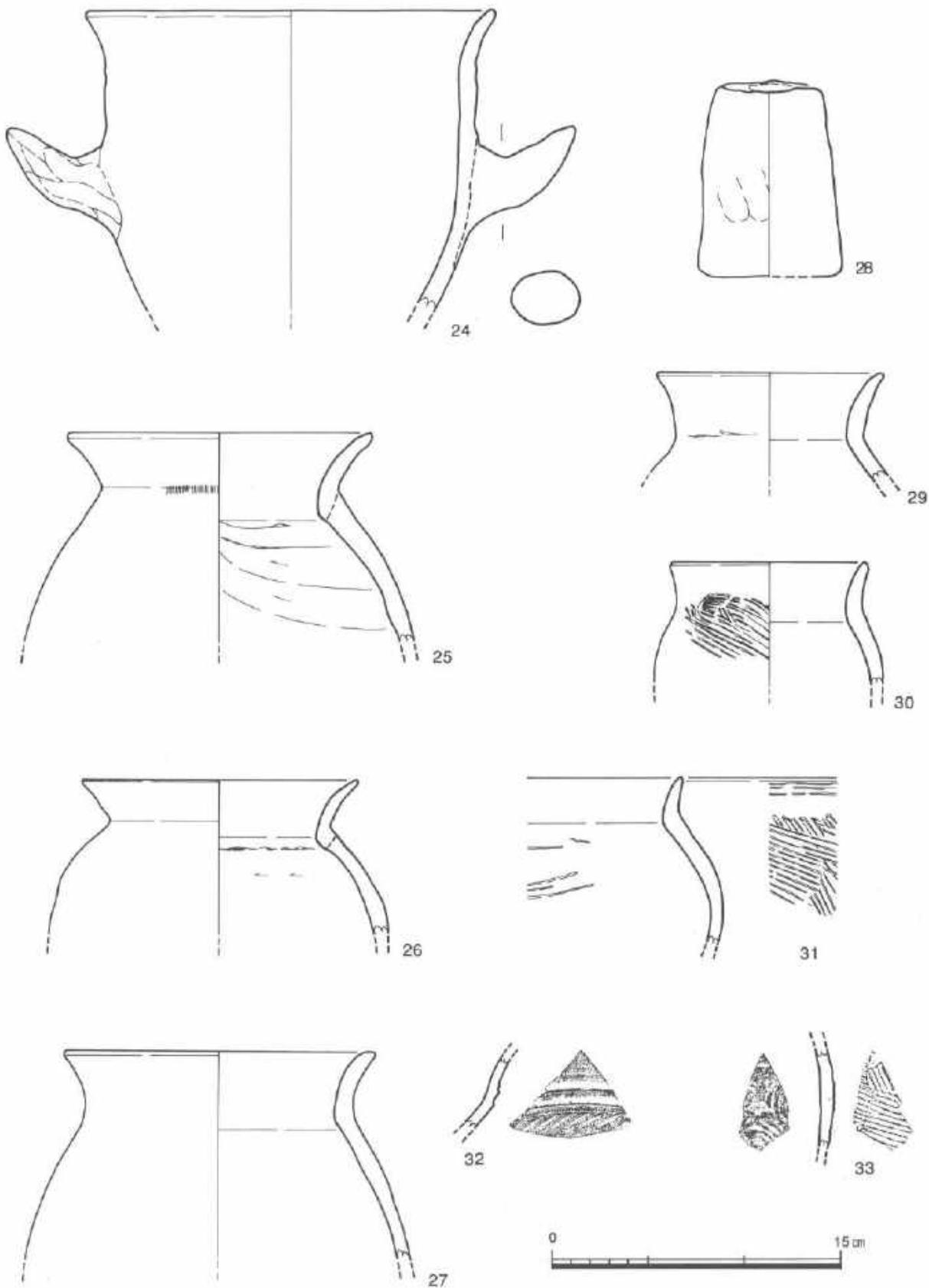
単位m

	長軸		短軸		柱間				検出面～ 床面最深	床面 標高	主軸 方向
	床幅	壁幅	床幅	壁幅	北側	東側	南側	西側			
SC1	4.09	4.75	3.95	4.5	2.28	2.33	—	—	0.25	19.85	N-7°-E
SC2	4.7	5.5	4.51	5.13	2.43	—	—	—	0.30	19.55	N-2°-W
SC3	3.55	4.14	3.43	4.01	2.3	2.15	—	—	0.30	19.88	N-20°-E
SC4	4.45	5.4	4.23	5.4	2.65	2.78	2.35	3.04	0.45	19.30	N-7°-W
SC5	—	1.96	—	1.63	1.4	1.64	1.38	1.61	0.04	20.35	N-15°-W
SC6	4.71	5.54	4.69	5.48	2.97	3.12	3.07	3.1	0.16	19.93	N-4°-E
SC7	4.13	4.63	3.6	4.09	—	—	—	—	0.55	19.50	N-42°-E
SC8	3.19	3.7	3.2	3.66	—	—	1.73	1.75	—	20.25	N-14°-W
SC9	4.64	5.26	4.4	5.04	2.73	—	—	2.53	0.35	19.90	N-15°-E
SC10	4.07	5.11	3.62	4.22	2.17	—	—	2.64	0.33	19.85	N-16°-W
SC11	3.09	3.75	2.97	3.23	—	—	—	1.76	0.15	20.05	N-18°-E
SC12	3.08	3.46	3.01	3.42	1.55	1.58	1.55	1.55	0.20	20.45	N-11°-W
SC13	3.09	3.56	—	2.5+ α	—	—	—	—	—	20.20	N-12°-W
SC14	4.08	4.72	—	2.2+ α	—	—	—	—	—	19.95	N-13°-W
SC15	4.03	4.62	3.46	4.05	1.94	2.65	1.83	2.46	0.20	19.50	N-6°-W
SC16A	—	3.27+ α	—	1.21+ α	—	—	—	—	—	19.40	N-22°-W
SC16B	—	3.86+ α	—	1.28+ α	—	—	—	—	—	19.40	N-22°-W
SC17A	4.54	4.98	4.46	4.86	2.4	2.33	2.36	2.24	—	21.60	N-7°-E
SC17B	5.04	5.45	4.83	5.24	3.0	3.27	2.93	2.8	—	21.60	N-7°-E
SC18	4.31	5.45	3.91	4.48	2.59	2.88	2.65	2.73	0.60	20.20	N-12°-W
SC19	2.5	3.15	2.26	2.94	1.99	1.92	1.78	2.0	0.28	20.50	N-2°-W
SC20	4.26	4.71	3.79	4.17	—	—	—	2.24	0.05	20.85	N-7°-W
SC21	—	3.86+ α	—	3.2+ α	—	—	—	—	—	20.85	N-13°-W
SC22	4.32	4.85	3.31	3.96	—	—	2.19	1.87	0.15	20.85	N-15°-E
SC23	—	2.35+ α	—	1.8+ α	—	—	—	1.65	—	20.60	N-11°-E
SC24A	4.07	4.43	3.87	4.2	1.9	1.92	1.82	1.92	—	19.50	N-7°-W
SC24B	4.23	4.64	4.03	4.45	1.9	1.92	1.82	1.92	—	19.50	N-7°-W
SC25	—	1.92+ α	—	0.37+ α	—	—	—	—	—	19.40	N-16°-E
SC26	—	3.77+ α	—	1.08+ α	—	—	—	—	0.10	19.40	N-40°-E
SC27	—	2.08+ α	—	0.69+ α	—	—	—	—	—	19.55	N-20°-E
SC28	—	4.01+ α	—	3.04+ α	—	—	—	—	—	19.50	N-20°-E
SC29	2.93	3.51	2.74	3.16	—	—	—	—	0.05	17.50	N-3°-E
SC30	3.6	4.12	3.15	4.2	—	1.93	2.01	—	0.05	17.50	N-43°-W
SC31	—	2.84	—	2.71+ α	1.76	1.45	1.77	1.41	—	17.50	N-8°-E
SC32A	3.5	3.84	—	—	—	1.77	2.09	—	0.05	17.50	N-35°-E
SC32B	3.73	4.17	—	—	—	1.77	2.09	—	0.05	17.50	N-35°-E
SC33	3.35	3.88	2.16	2.75	—	—	—	—	0.18	17.10	N-29°-E
SC34	2.95	3.81	—	—	1.49	1.1	1.4	1.05	0.13	17.10	N-44°-W
SC35	4.77	5.5	4.76	5.45	—	2.43	2.43	—	0.20	17.10	N-24°-W
SC36	—	4.8+ α	—	3.7+ α	2.35	2.12	2.6	2.49	—	17.20	N-20°-W
SC37	3.72	4.38	3.28	3.66	—	—	2.26	2.31	0.10	17.10	N-5°-E
SC38	3.3	3.89	3.2	3.81	—	—	—	—	0.13	16.90	N-10°-W
SC39	2.56	3.23	2.52	2.97	1.44	1.63	1.41	1.47	0.04	17.45	N-26°-E
SC40	—	4.09+ α	—	2.02+ α	—	—	—	—	—	17.50	N-28°-E
SC41	—	3.65+ α	—	2.4+ α	—	—	—	—	—	17.40	N-4°-W
SC42A	2.73	3.18	2.68	3.23	1.64	1.46	1.45	1.55	0.08	17.00	N-10°-W
SC42B	3.05	3.48	2.68	3.23	1.64	1.46	1.45	—	0.08	17.00	N-10°-W
SC43	—	3.3+ α	—	0.68+ α	—	—	1.84	—	—	16.65	N-15°-W
SC44	—	3.72	—	1.43+ α	—	—	2.32	—	—	16.70	N-10°-E
SC45	—	2.6+ α	—	0.8+ α	—	—	1.8	—	—	16.60	N-25°-E
SC46A	3.81	4.18	—	—	—	—	2.13	—	—	16.20	N-7°-W
SC46B	4.21	4.72	—	—	—	—	2.13	—	—	16.20	N-7°-W
SC47	2.58	2.86	1.12+ α	1.37+ α	—	—	—	—	0.04	15.65	N-15°-W
SC48	3.88	4.41	1.7+ α	1.98+ α	2.04	2.2	2.14	2.03	0.06	15.50	N-17°-W
SC49	4.67	5.23	2.98	3.15	—	—	2.95	—	0.15	15.30	N-20°-W
SC50	3.96	4.46	1.36+ α	1.55+ α	—	—	2.14	1.57	0.05	16.00	N-7°-W
SC51A	4.06	4.53	—	4.2+ α	—	—	2.0	—	0.28	16.70	N-16°-W

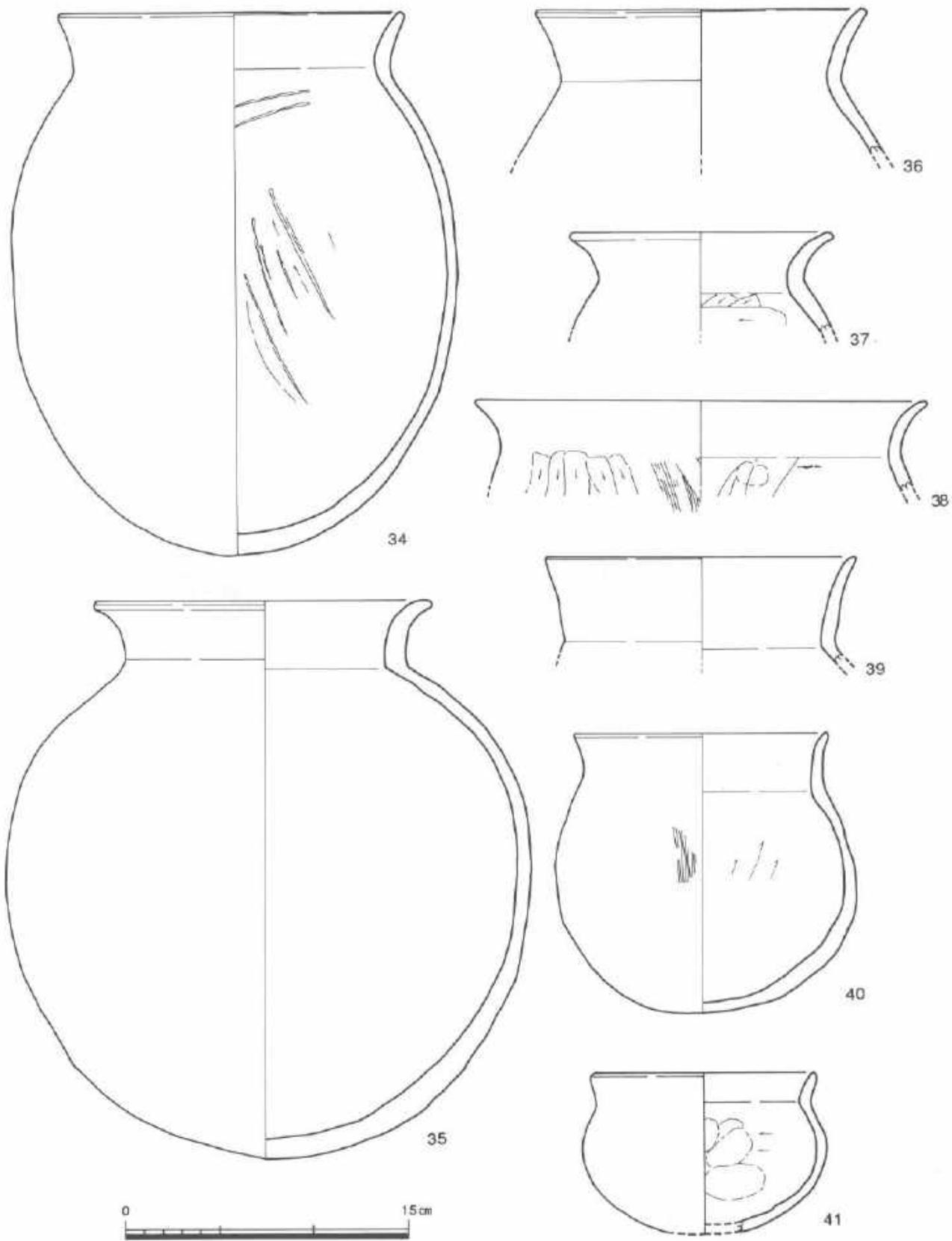
SC51B	5.3	5.9	4.88	5.42	—	—	2.54	—	0.28	16.70	N-14°-W
SC52	3.52	4.26	3.41	4.15	1.73	2.17	1.75	1.98	0.25	15.40	N-23°-W
SC53	—	3.35	—	0.73+ α	—	—	—	—	—	15.50	N-28°-W
SC54	2.54	3.26	2.34	3.08	1.6	1.36	1.83	1.57	0.18	15.50	N-33°-E
SC55	4.0	4.53	—	3.8+ α	—	2.21	2.11	—	0.18	16.60	N-41°-E
SC56	3.26	4.12	—	—	—	—	2.04	1.79	0.15	16.40	N-21°-W
SC57	—	3.52+ α	—	1.61+ α	—	—	—	—	0.18	16.80	N-38°-E
SC58	3.75	4.21	3.41	3.94	1.96	1.87	—	—	—	16.40	N-25°-W
SC59	3.14	3.46	2.52	2.6+ α	—	—	—	—	0.05	16.30	N-38°-E
SC60A	4.57	4.89	3.31	3.8	—	—	2.05	2.97	—	16.20	N-36°-E
SC60B	5.05	5.45	3.7	4.25	—	—	—	—	—	16.20	N-36°-E
SC61	3.89	4.47	3.1	3.74	1.7	1.89	1.6	1.99	—	16.10	N-37°-W
SC62	—	3.66+ α	—	3.28	—	—	2.27	—	0.04	15.70	N-34°-W
SC63	3.91	4.54	—	—	—	—	2.56	1.96	—	15.90	N-41°-E
SC64	3.95	4.28	3.94	4.18	1.67	1.68	1.64	1.57	0.30	15.50	N-25°-W
SC65	—	—	—	—	—	—	—	—	—	15.80	N-10°-E
SC66	3.66	4.12	3.22	3.55	2.03	2.05	2.05	1.9	0.13	17.10	N-24°-W
SC67	—	—	—	—	1.77	—	—	1.94	—	16.65	N-41°-W
SC68A	4.15	4.62	—	—	—	—	2.68	—	—	16.70	N-41°-W
SC68B	4.77	5.17	—	—	—	2.45	3.11	—	—	16.70	N-39°-E
SC69	—	—	—	—	1.65	1.98	1.7	1.62	—	16.40	N-26°-E
SC70	—	4.32	—	1.43+ α	—	—	—	—	—	16.10	N-17°-W
SC71	—	3.03+ α	—	0.91+ α	—	—	—	—	—	16.10	N-41°-E
SC72	3.92	4.3	3.57	3.96	1.65	1.65	1.58	1.42	0.40	15.90	N-30°-E
SC73	4.71	5.16	4.65	5.13	—	—	2.7	—	0.10	16.40	N-34°-W
SC74A	2.82	3.4	—	—	—	1.46	1.57	—	—	16.10	N-12°-E
SC74B	3.23	3.76	—	—	—	1.92	2.14	—	—	16.10	N-35°-E
SC75	4.06	4.6	—	—	—	—	2.4	2.05	0.10	16.00	N-17°-E
SC76	—	3.46+ α	—	0.95+ α	—	—	—	—	—	—	N-36°-W
SC77	—	4.02+ α	—	1.18+ α	—	—	—	—	0.25	15.60	N-38°-W
SC78	—	3.45+ α	—	0.95+ α	—	—	—	—	0.10	15.70	N-30°-E
SC79	3.83	4.21	—	—	—	—	—	—	—	15.90	N-30°-E
SC80	2.48	2.96	—	—	—	—	—	—	—	15.80	N-44°-W
SC81	—	3.09+ α	—	2.8+ α	1.7	1.6	1.72	1.58	—	15.70	N-30°-W
SC82A	—	3.58+ α	—	3.56+ α	—	—	—	—	—	15.45	N-38°-W
SC82B	—	4.1+ α	—	0.99+ α	2.55	2.18	—	—	—	15.55	N-38°-W
SC83	4.42	4.58	4.27	4.26	2.19	2.1	1.92	2.09	0.26	15.50	N-33°-W
SC84	4.58	5.16	—	—	—	1.77+ α	—	—	—	15.20	N-8°-E
SC85	3.18	3.67	—	—	—	—	—	—	—	15.10	N-19°-W
SC86	—	3.67	—	2.84+ α	—	—	—	—	0.27	15.20	N-2°-W
SC87	3.56+ α	4.45	0.84+ α	1.16+ α	—	—	—	—	0.04	13.30	N-41°-E
SC88	—	2.58+ α	—	2.45+ α	—	—	—	—	—	13.50	N-19°-W
SC89	—	4.06+ α	—	3.56+ α	—	—	—	2.84	—	13.60	N-25°-W
SC90	3.39	4.39	3.09	3.5	—	—	1.89	1.57	0.40	13.70	N-21°-E
SC91	2.52	3.03	—	—	1.52	—	—	1.73	—	13.90	N-40°-W
SC92	—	3.52+ α	—	1.43+ α	—	—	—	—	—	12.40	N-36°-W
SC93	4.36	4.79	—	—	—	—	—	—	0.20	12.80	N-42°-W
SC94	4.76	5.84	4.03	5.28	2.82	3.47	2.78	3.45	0.20	12.80	N-13°-W
SC95	—	1.81+ α	—	1.37+ α	—	—	—	—	0.20	15.00	N-15°-W
SC96	—	1.98	—	1.34+ α	—	—	—	—	0.20	15.00	N-44°-E
SC97	3.06	3.66	—	—	—	—	1.83	1.78	0.14	14.90	N-4°-W
SC98	—	3.58+ α	—	1.82+ α	2.1	—	—	—	0.19	14.70	N-15°-E
SC99	—	2.92	—	2.36+ α	—	—	—	—	0.12	13.70	N-2°-W
SC100	4.58	5.06	3.00+ α	3.34+ α	—	—	2.10	—	0.28	15.45	N-17°-E
SC101	1.97+ α	2.10+ α	0.74+ α	0.88+ α	—	—	—	—	0.45	13.45	N-6°-E
SC102A	—	—	—	—	—	—	—	2.38	0.59	13.70	N-34°-E
SC102B	5.19	5.67	5.04+ α	5.33+ α	—	—	—	2.76	0.59	13.70	N-33°-E
SC103	1.26+ α	1.48+ α	1.03+ α	1.40+ α	—	—	—	—	0.14	14.95	N-42°-W
SC104	2.16+ α	2.43+ α	0.57+ α	0.83+ α	—	—	—	—	0.05	13.95	N-7°-E
SC105	3.66	3.95	3.56+ α	3.92+ α	1.92	1.78	1.84	1.68	0.20	15.55	N-23°-E



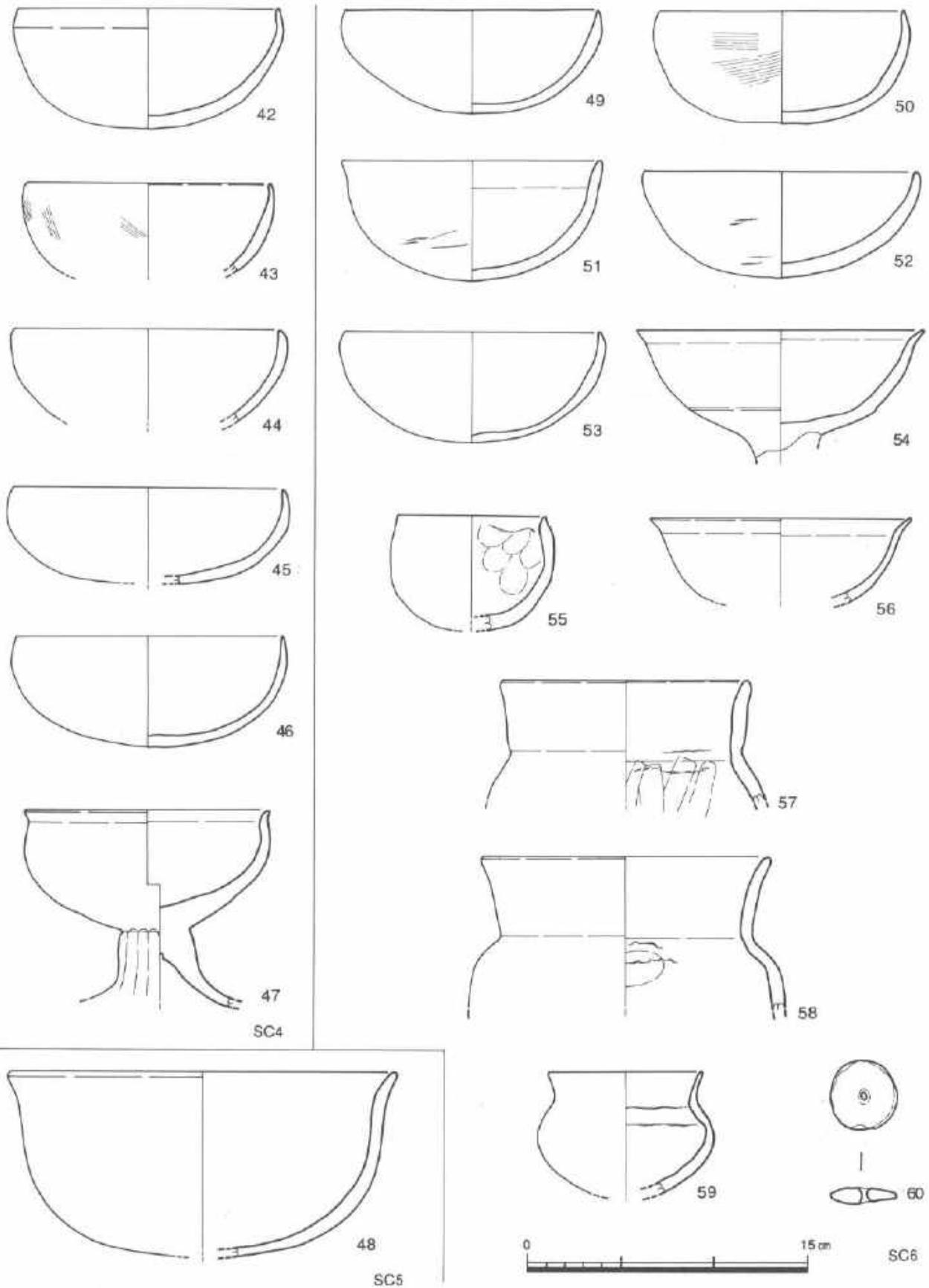
第40図 SC 2・3 遺物実測図 (1/3)



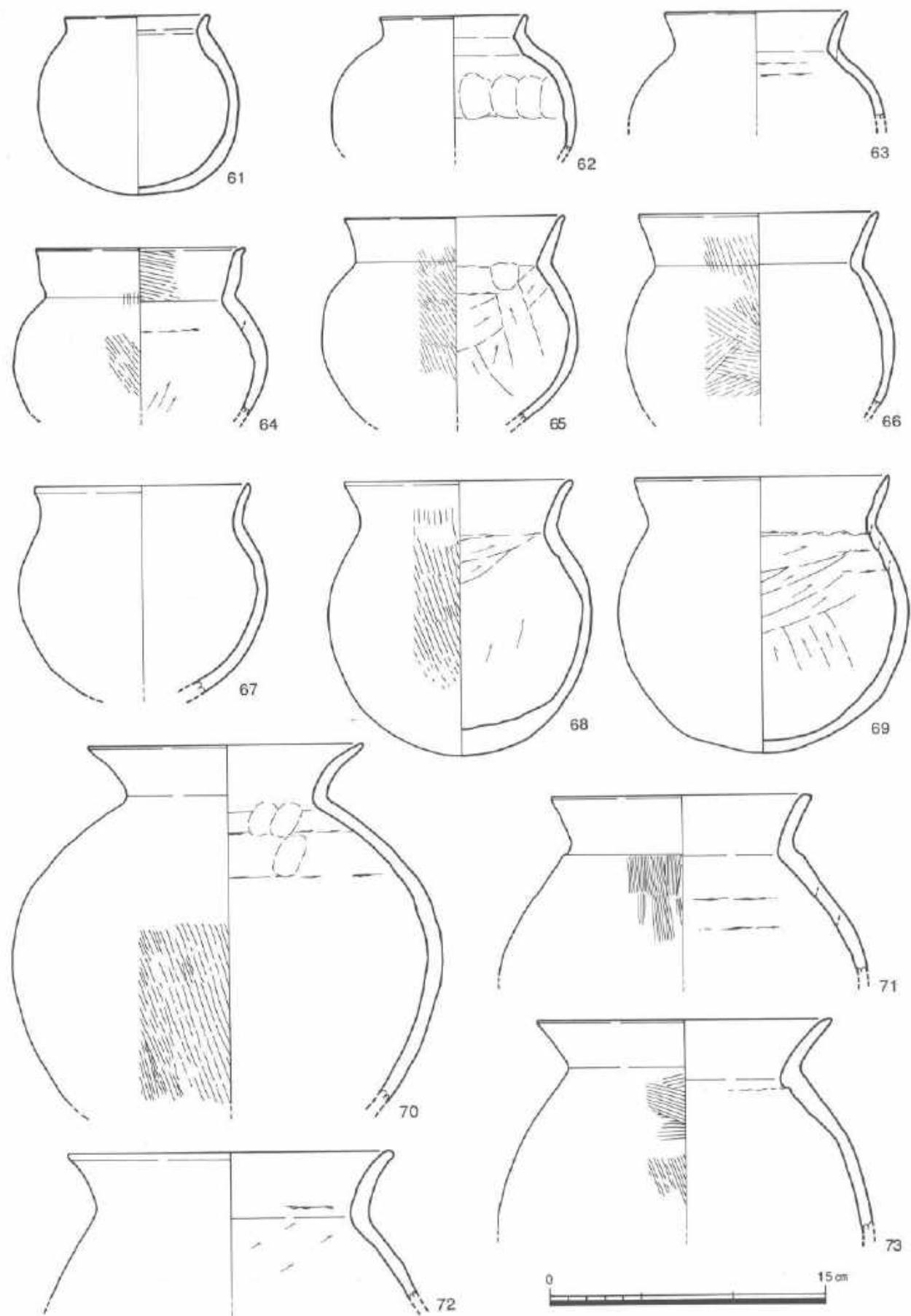
第41図 SC 3 遺物実測図 (1/3)



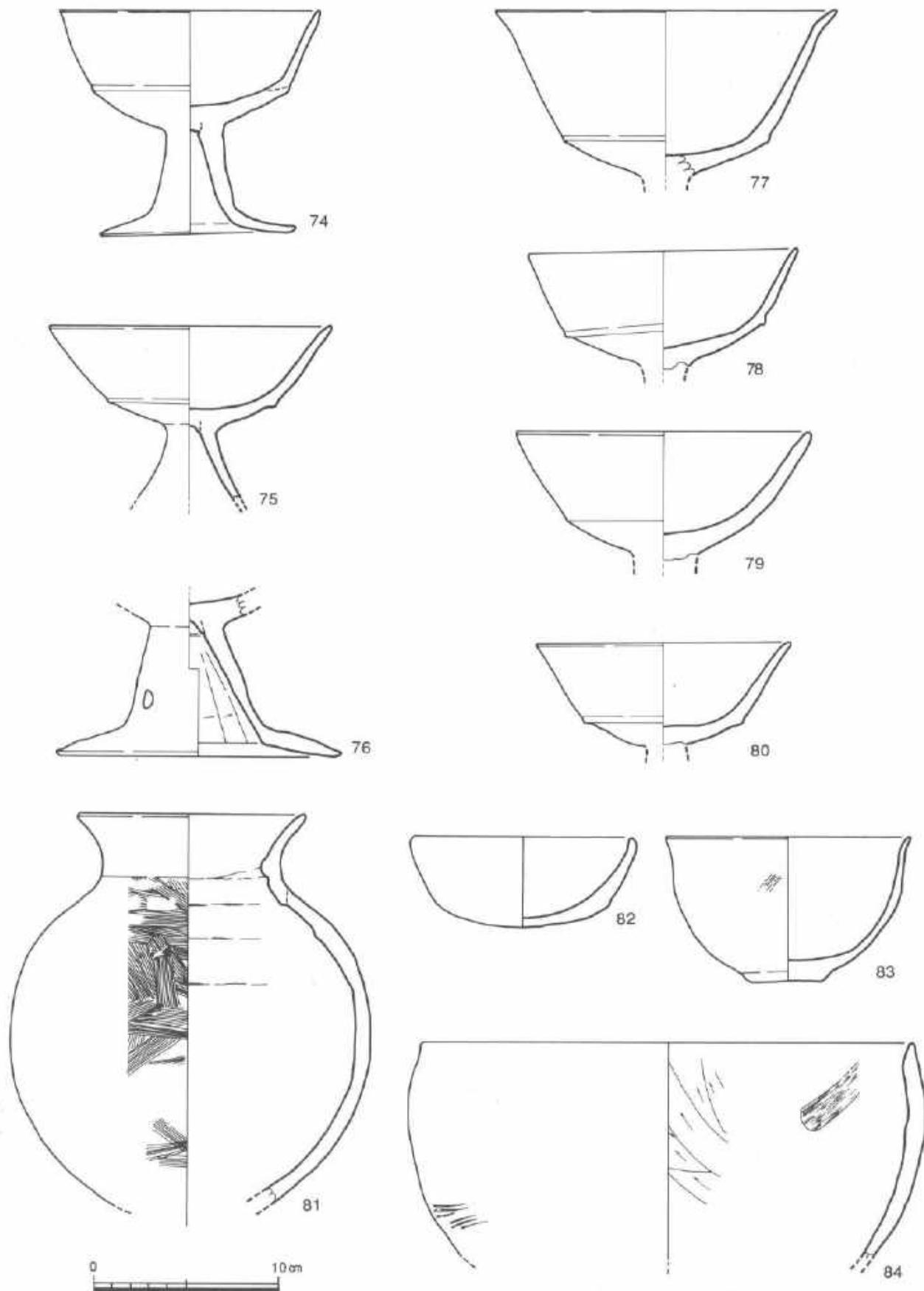
第42図 SC 4 遺物実測図 (1/3)



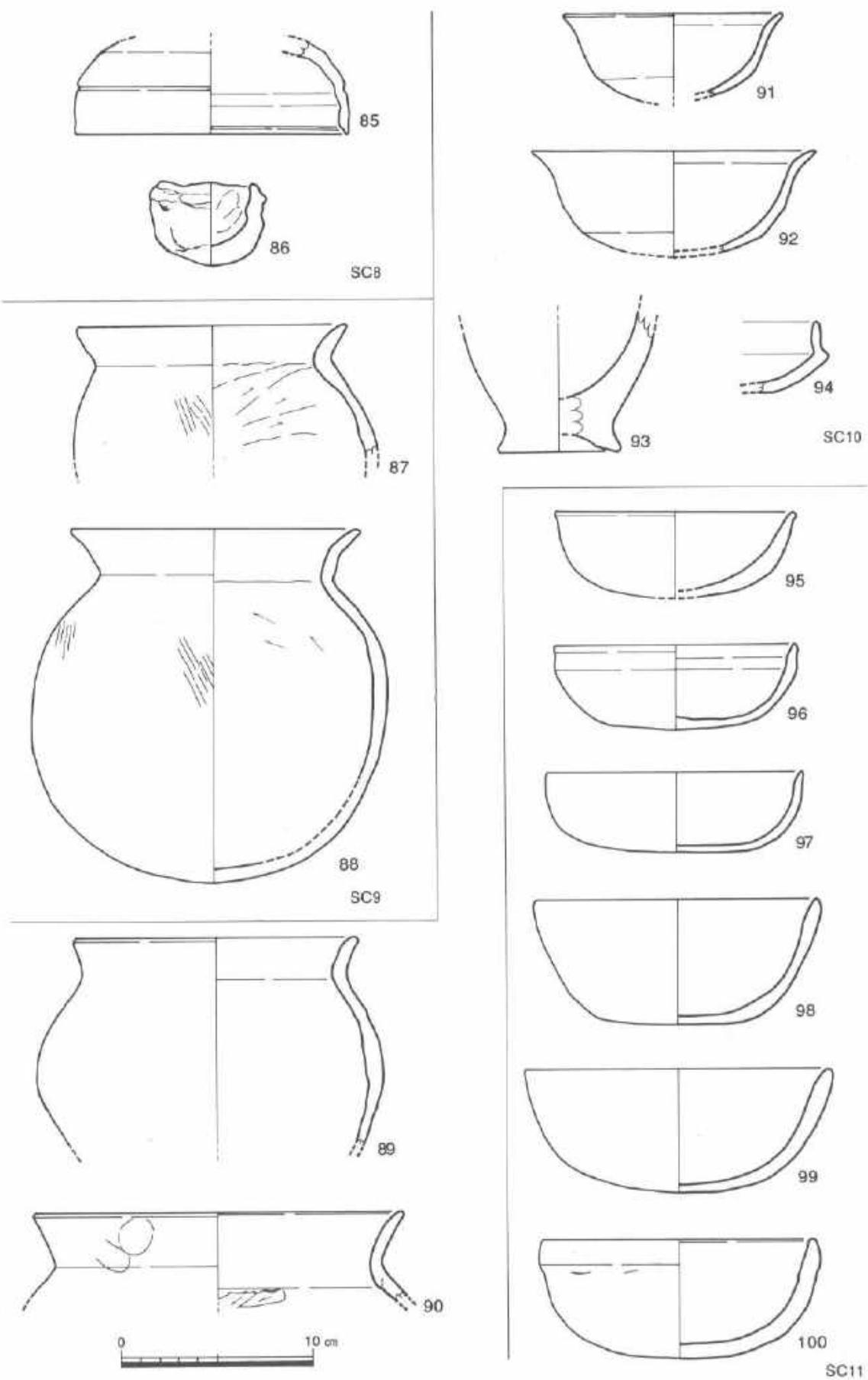
第43図 SC 4～6 遺物実測図 (1/3)



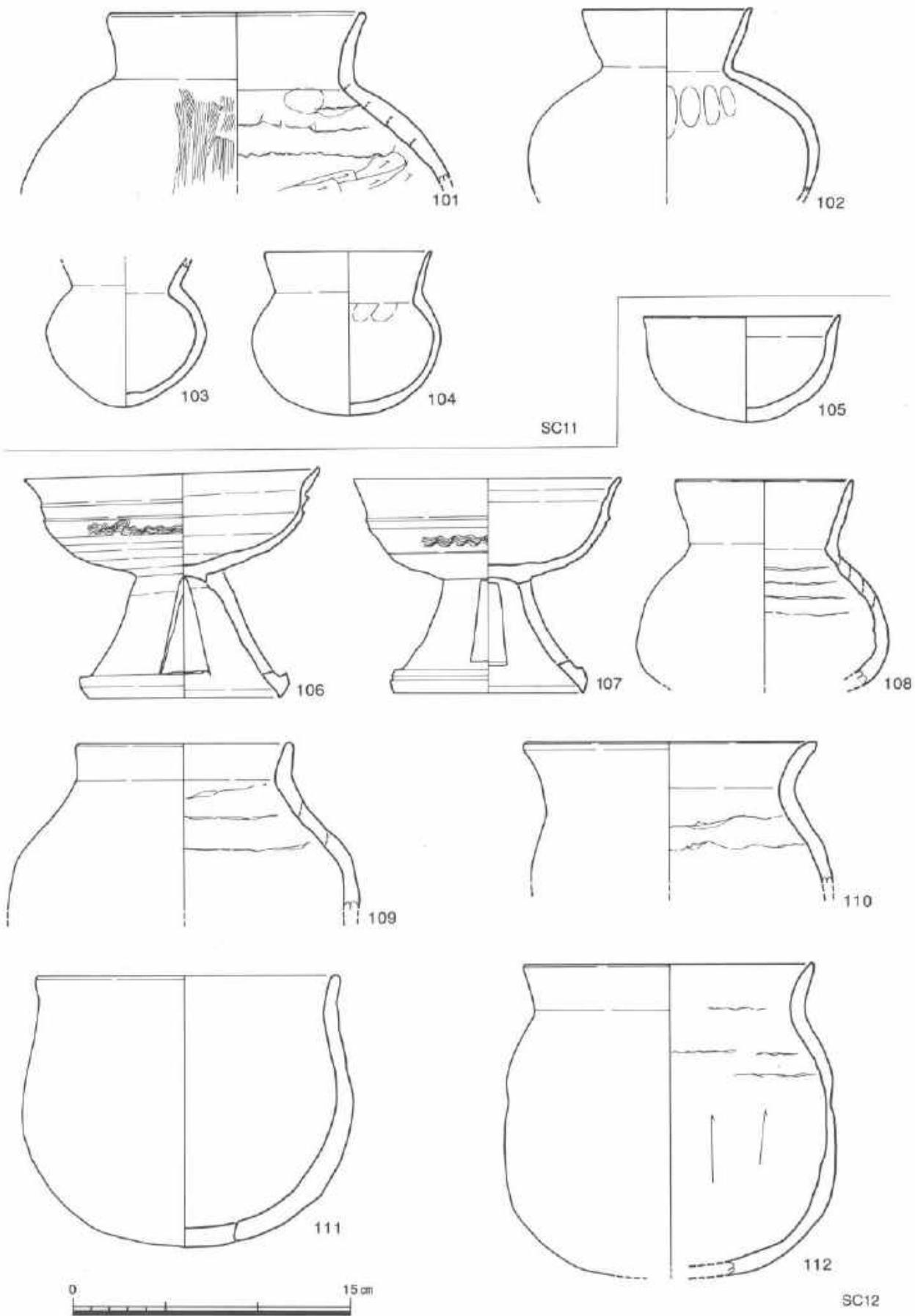
第44図 SC 7 遺物実測図 1 (1/3)



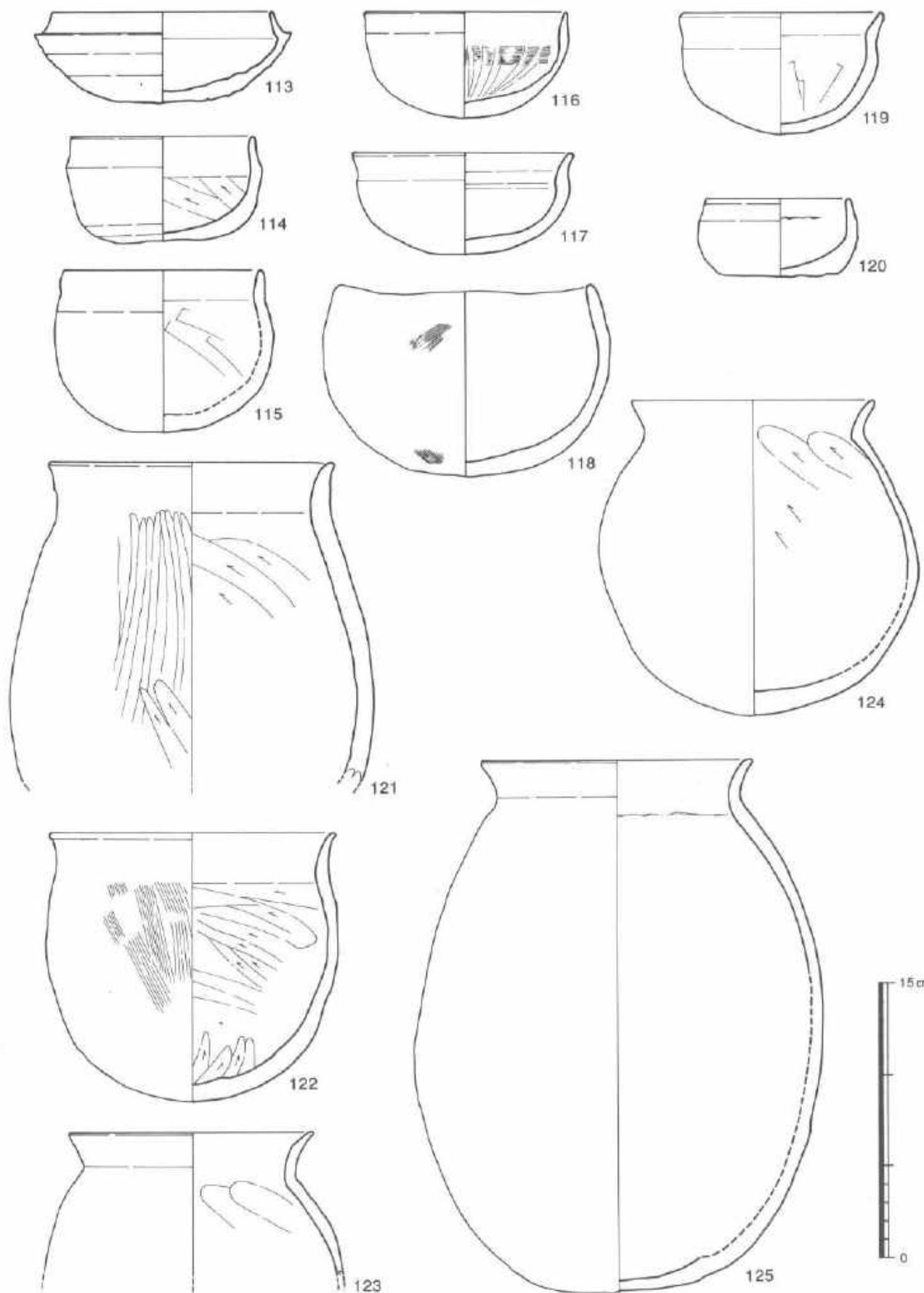
第45図 SC 7 遺物実測図 2 (1/3)



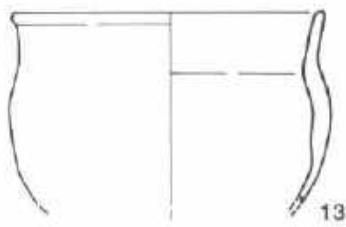
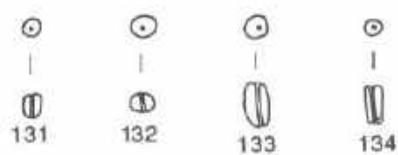
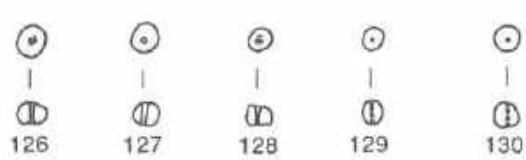
第46図 SC 8 ~ 11遺物実測図 (1 / 3)



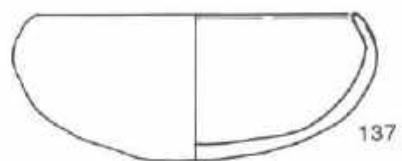
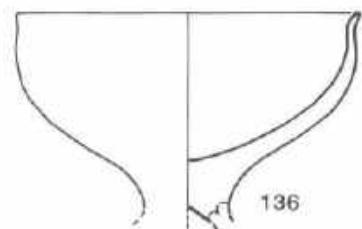
第47図 SC11-12遺物実測図 (1/3)



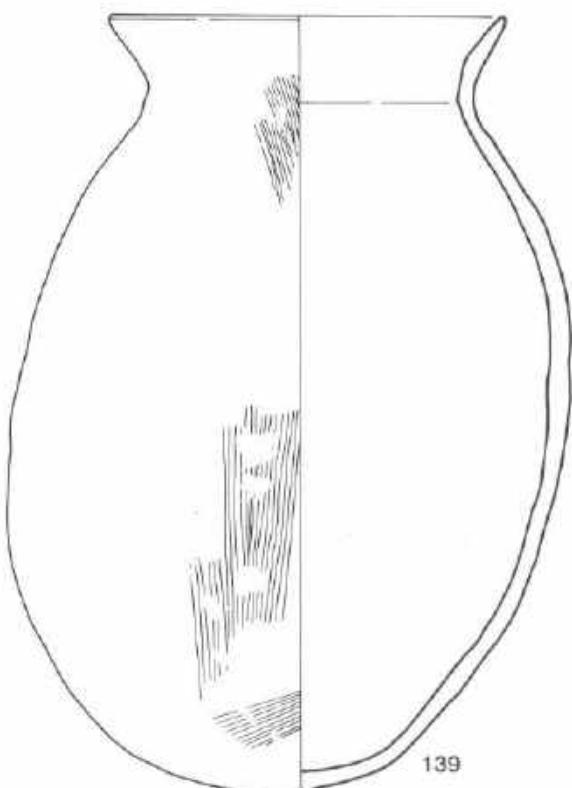
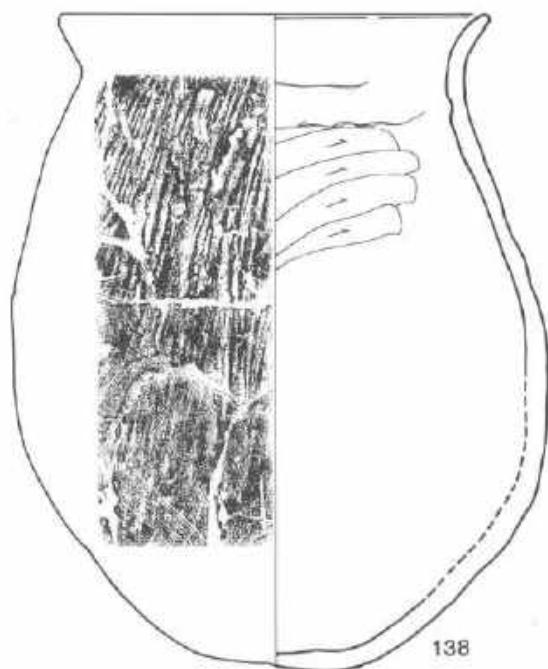
第48図 SC15遺物実測図 (1/3)



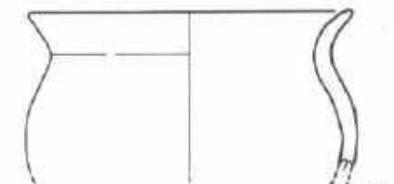
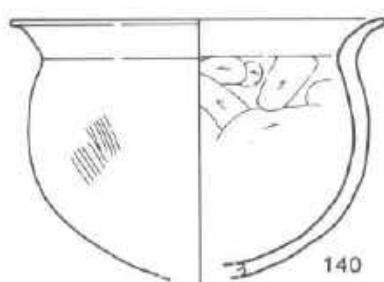
SC16



SC18



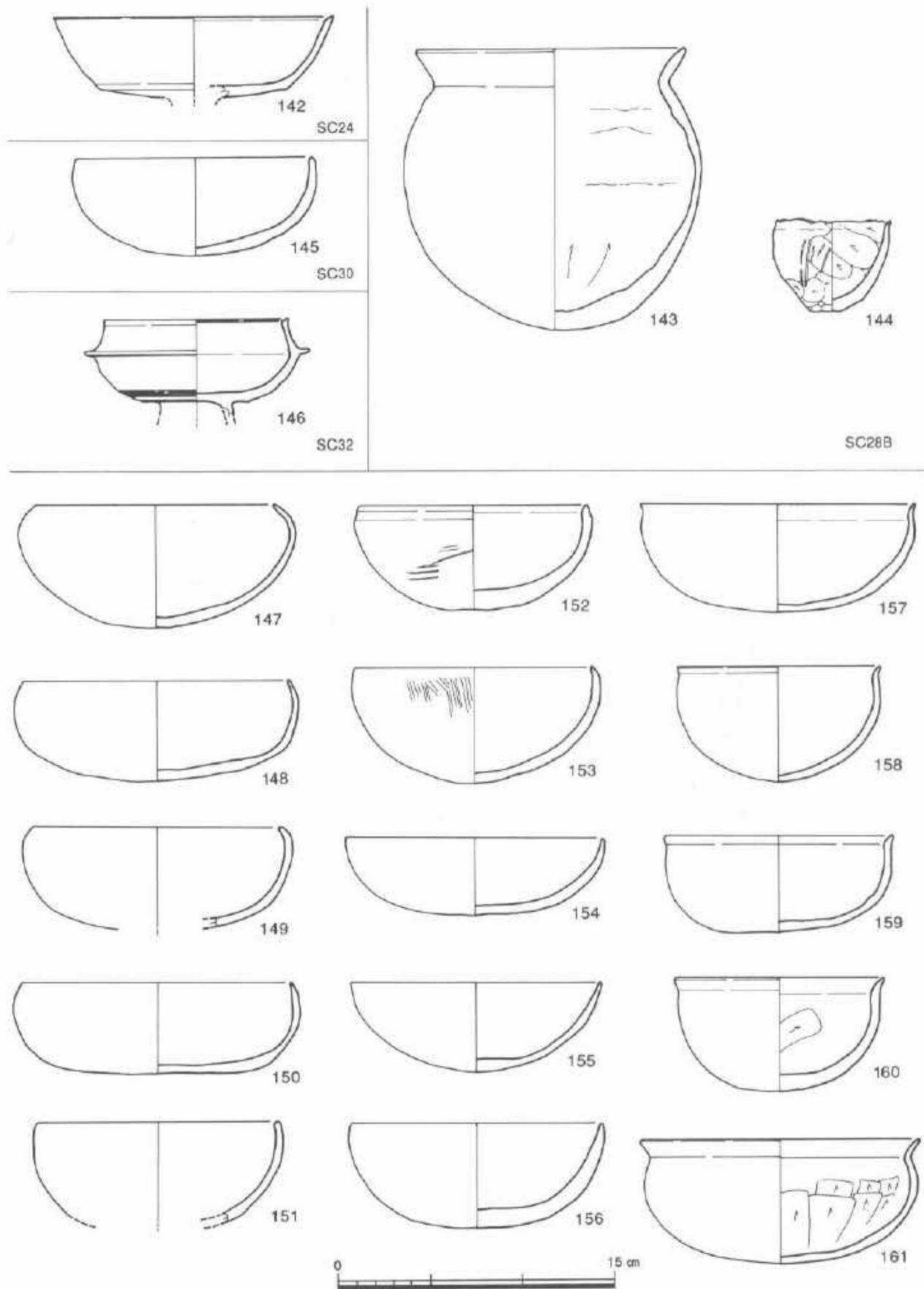
SC19



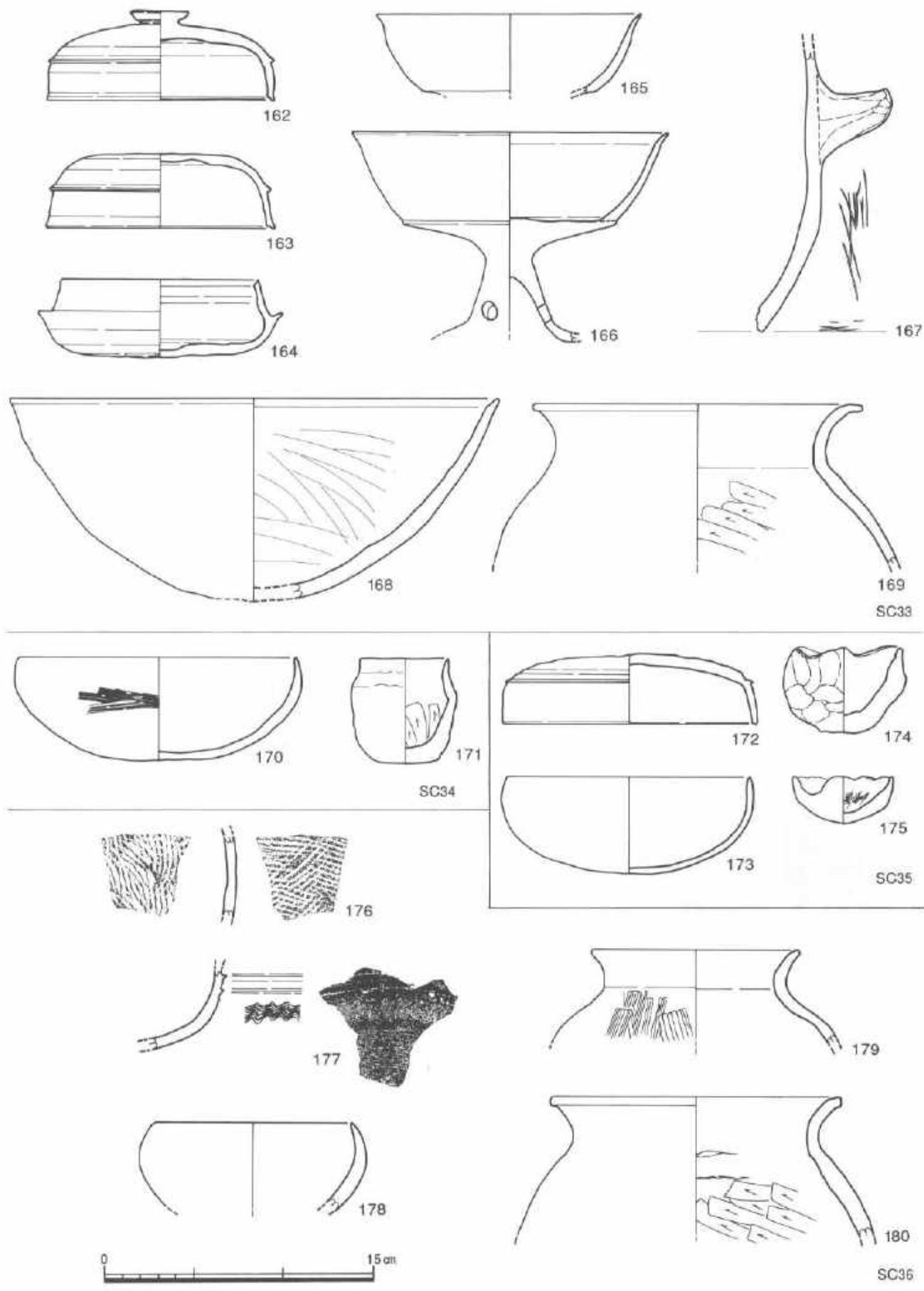
SC21



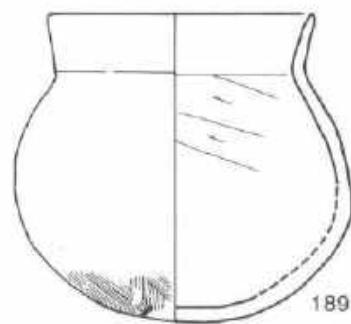
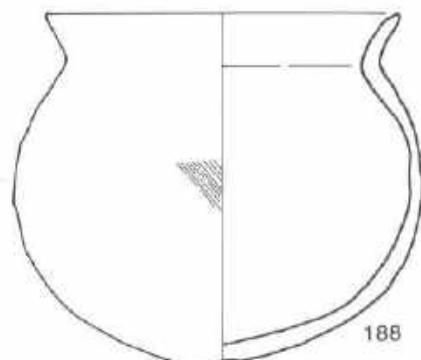
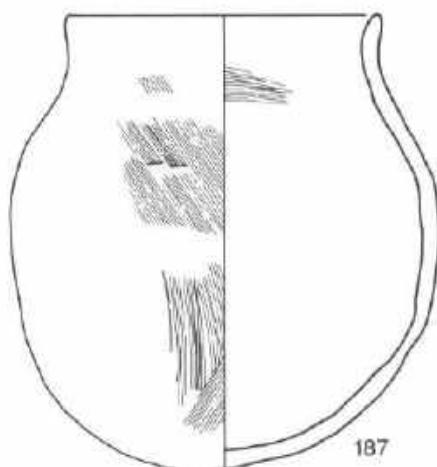
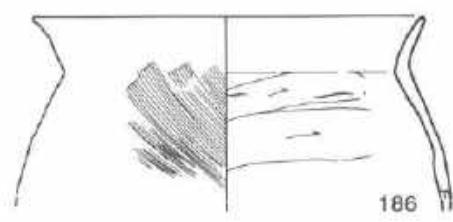
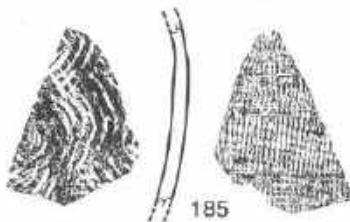
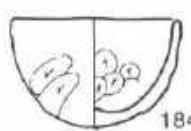
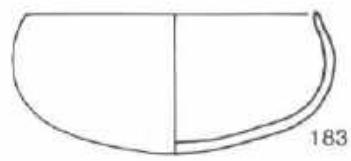
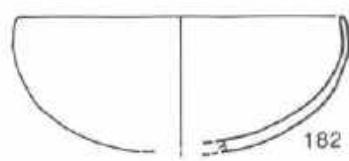
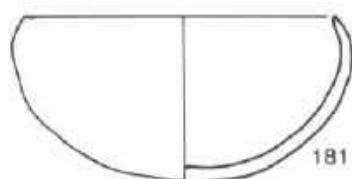
第49図 SC16~21遺物実測図 (1/3)



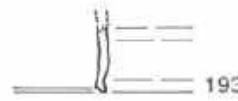
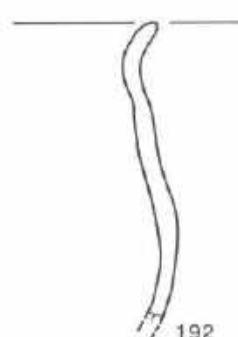
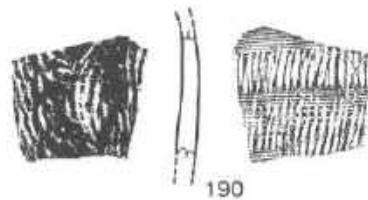
第50図 SC24~33遺物実測図 (1/3)



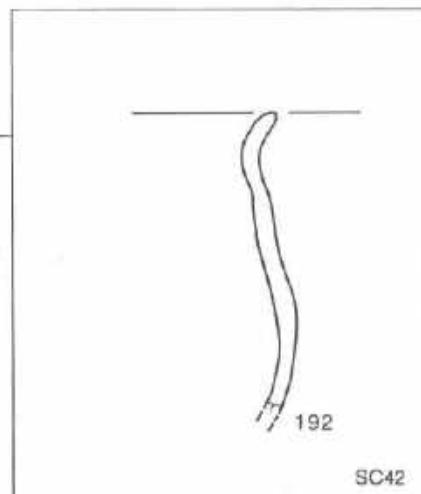
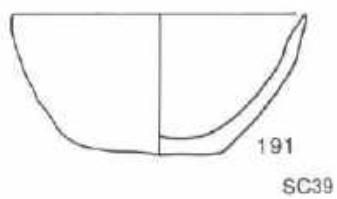
第51図 SC33～36遺物実測図 (1/3)



SC38



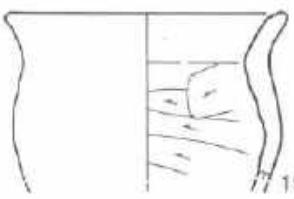
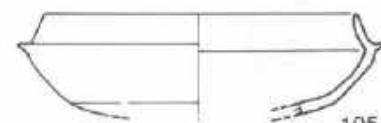
SC44



SC42

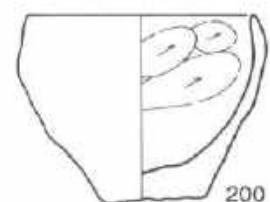
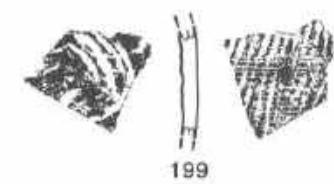
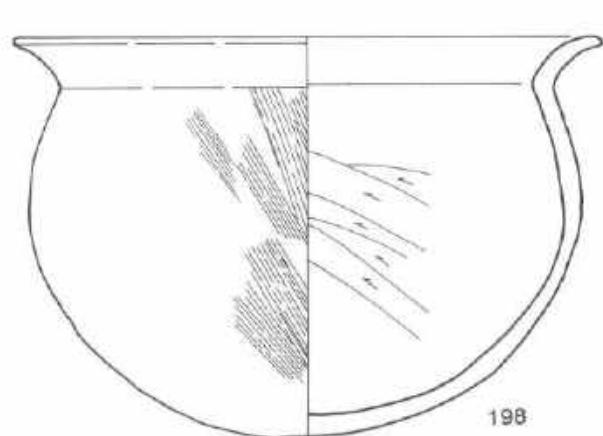
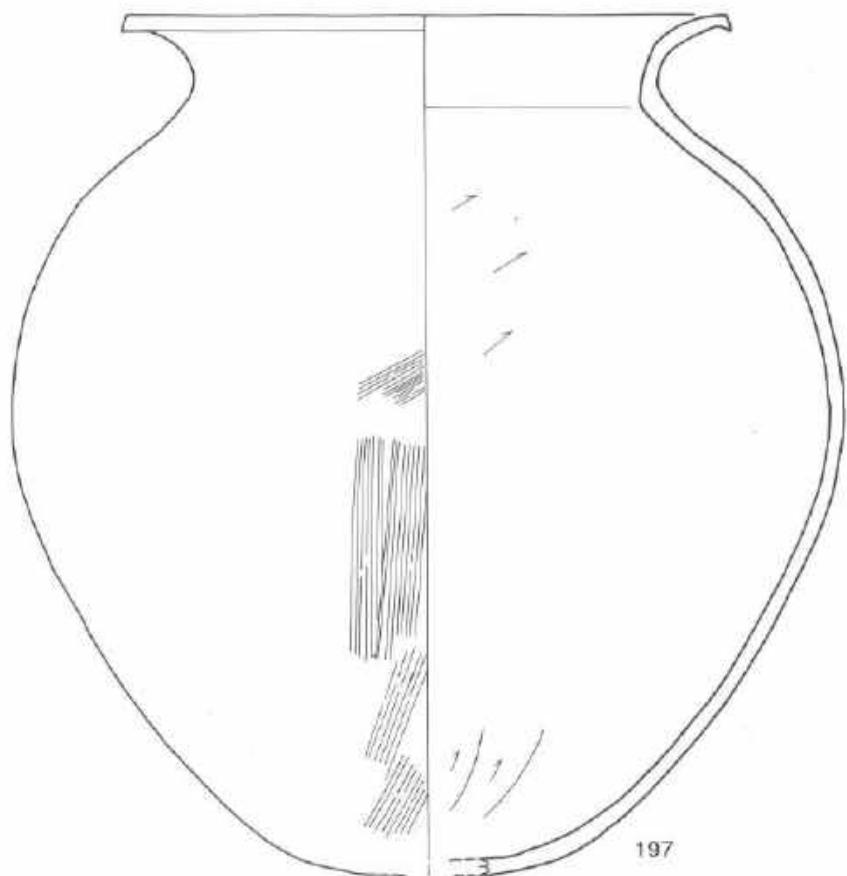


SC46A

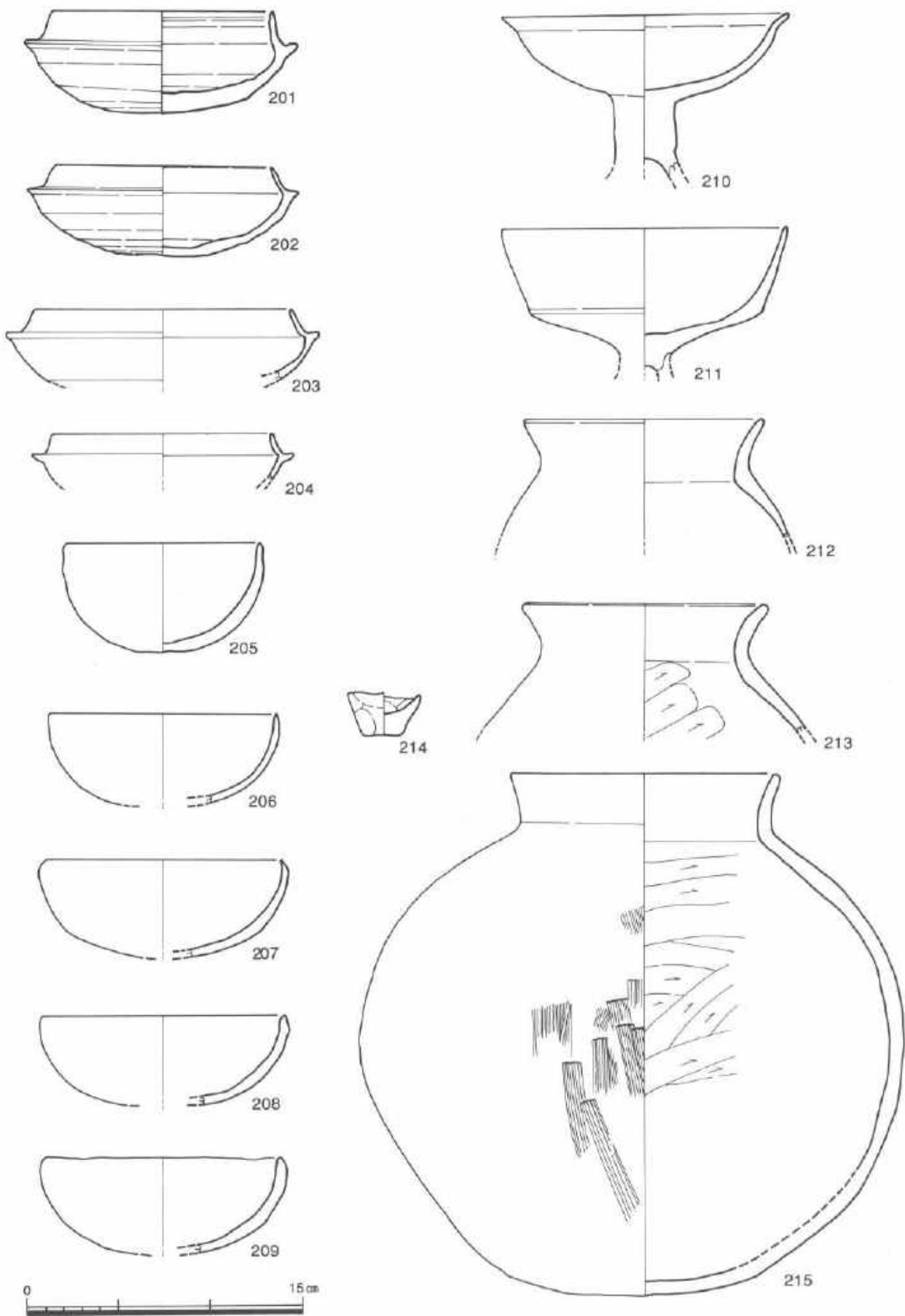


SC48

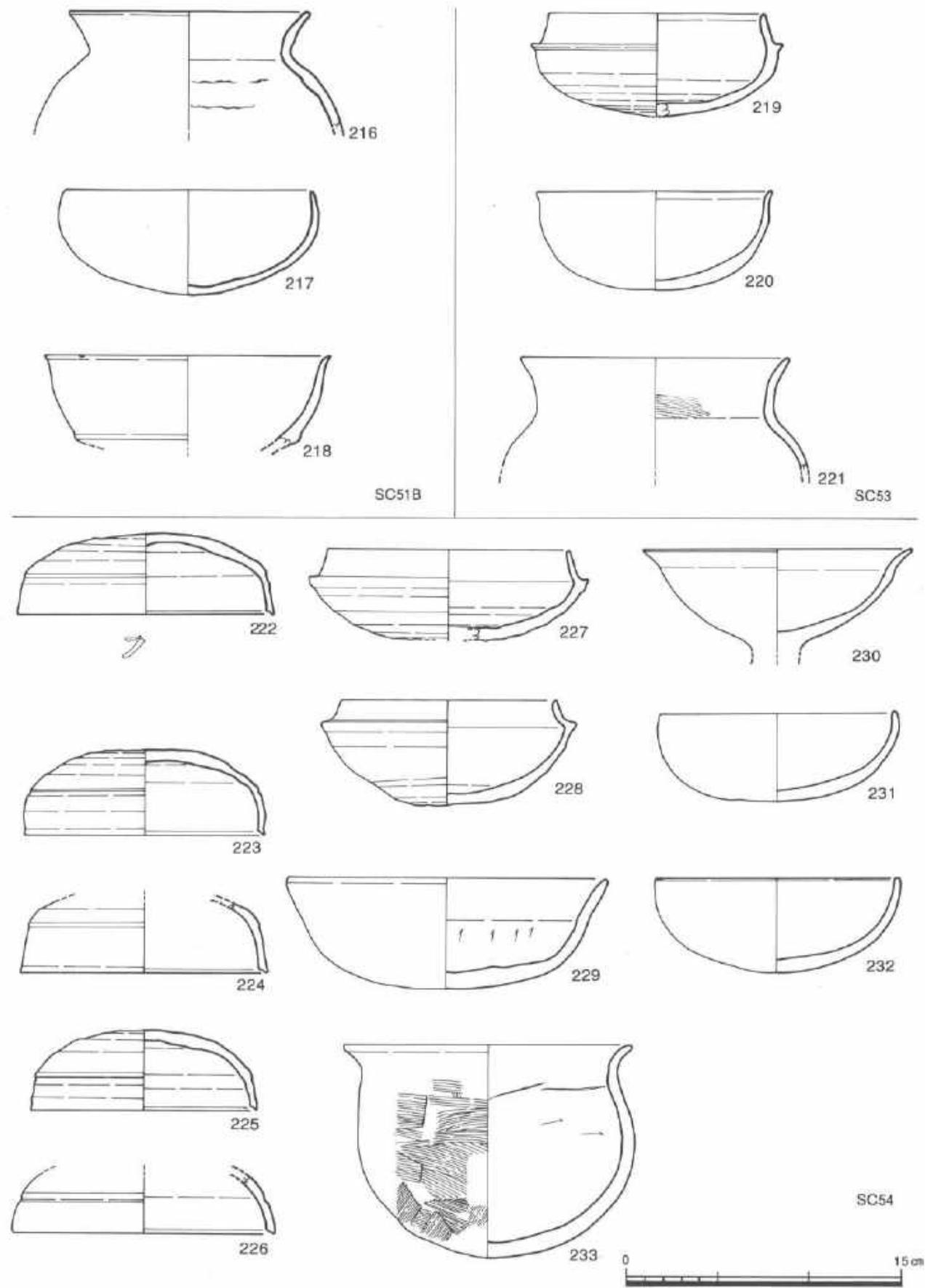
第52図 SC38～48遺物実測図 (1/3)



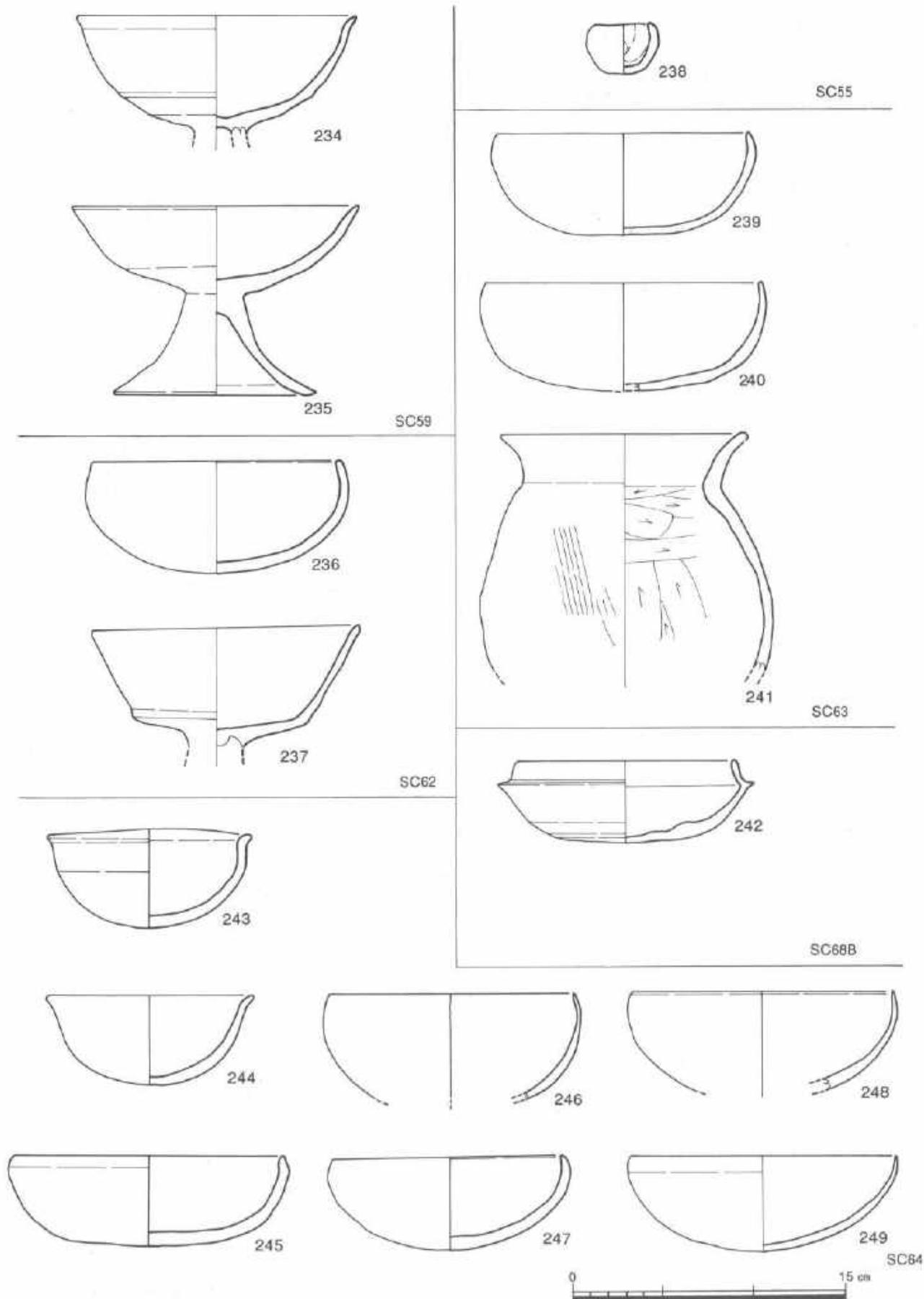
第53図 SC41遺物実測図 (1/3)



第54図 SC52遺物実測図 (1/3)



第55図 SC51～54遺物実測図 (1/3)



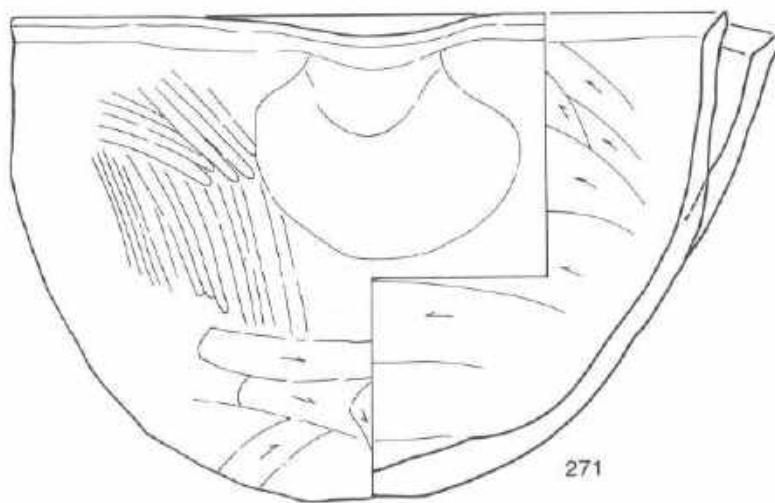
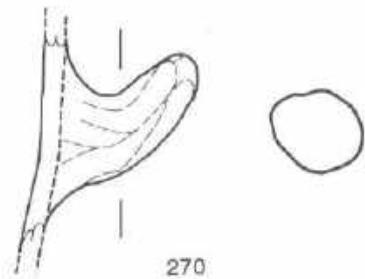
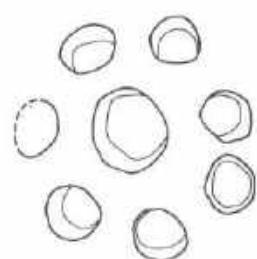
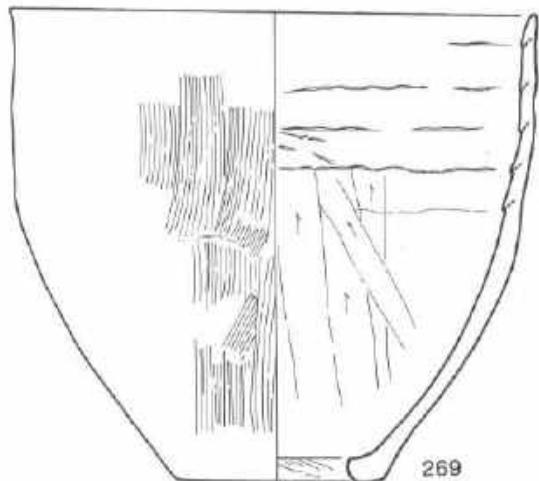
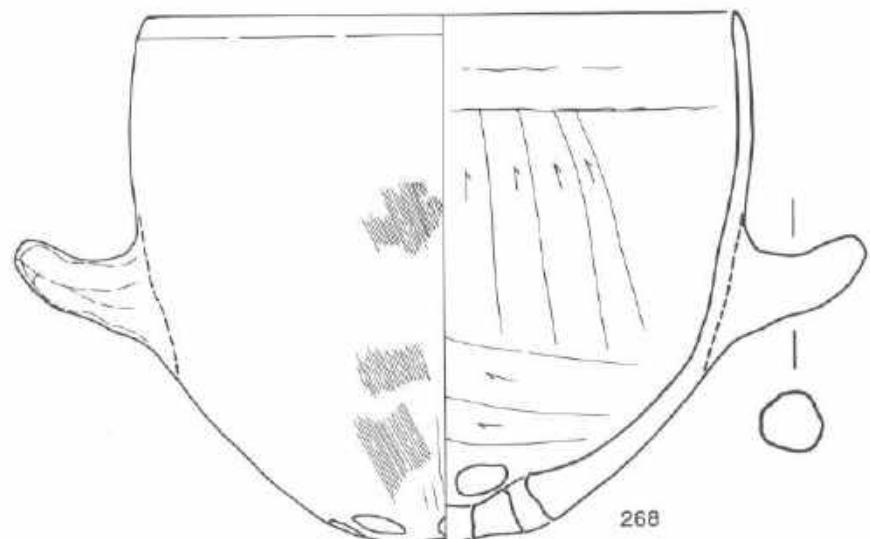
第56図 SC55~68遺物実測図 (1/3)



第57図 SC64遺物実測図1 (1/3)

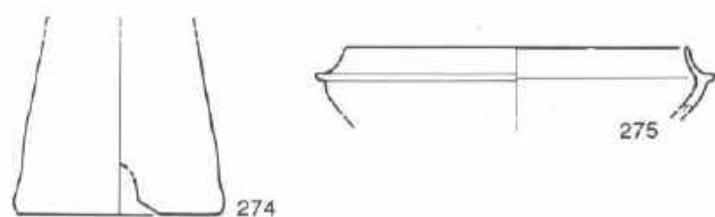
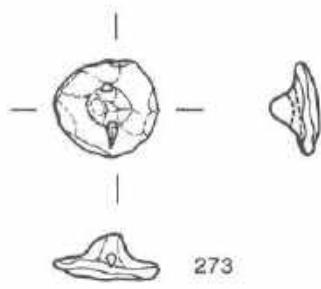
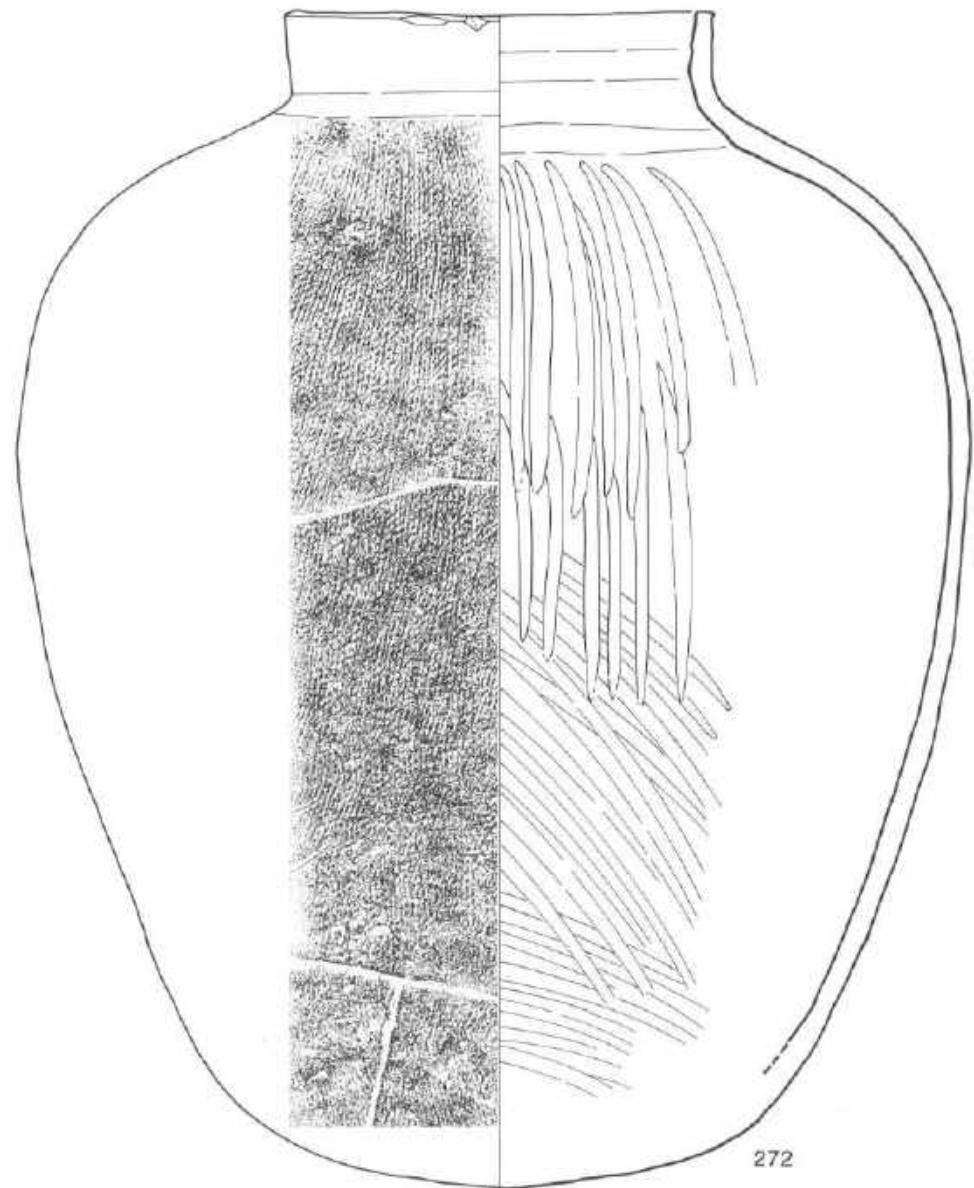


0 5 cm

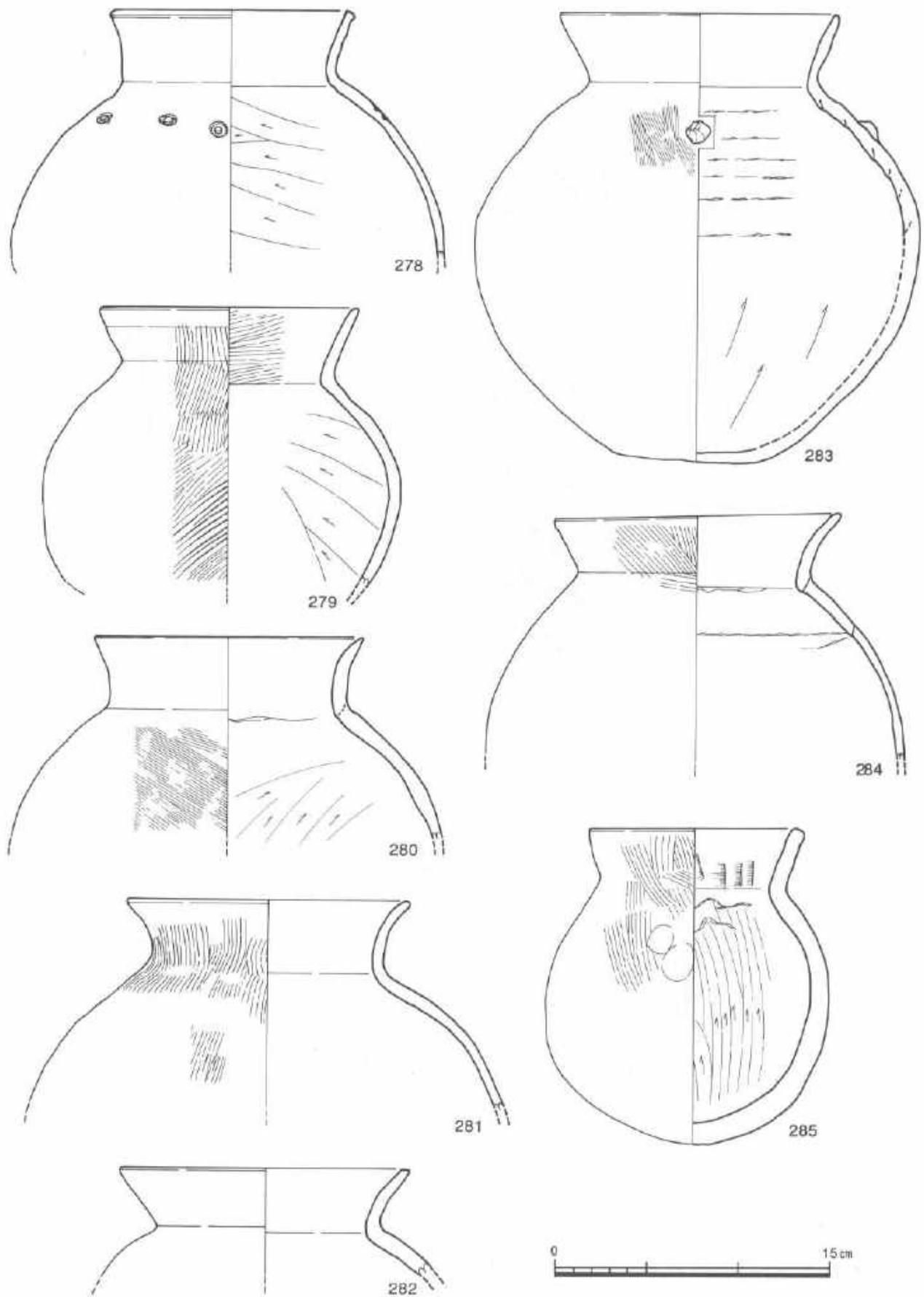


0 15 cm

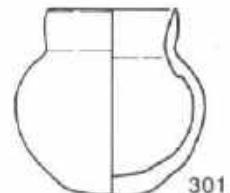
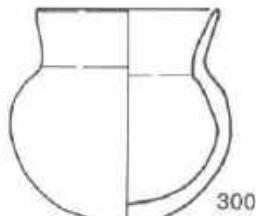
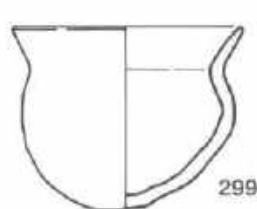
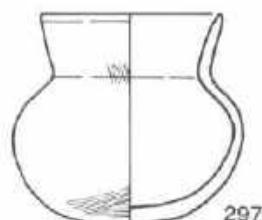
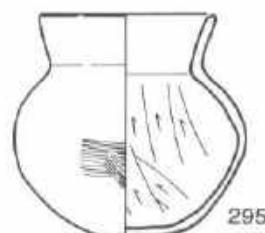
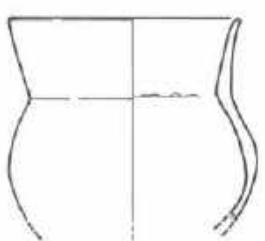
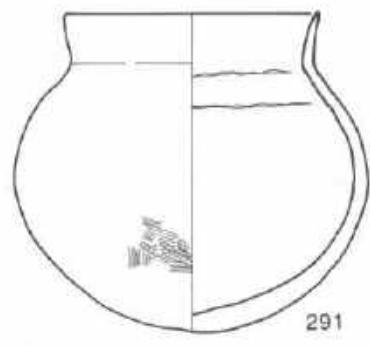
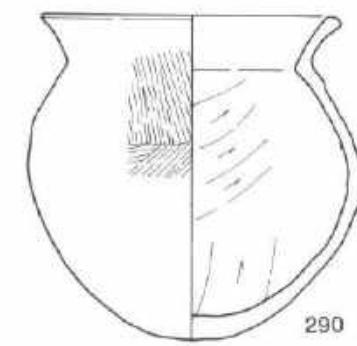
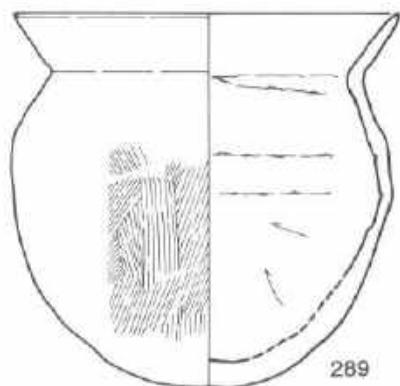
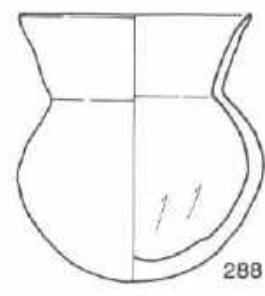
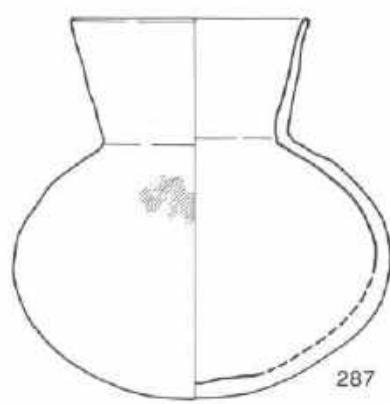
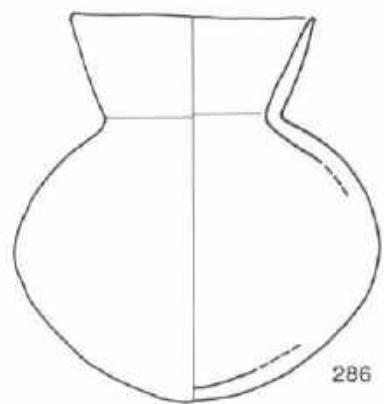
第58図 SC64遺物実測図2 (1/2・1/3)



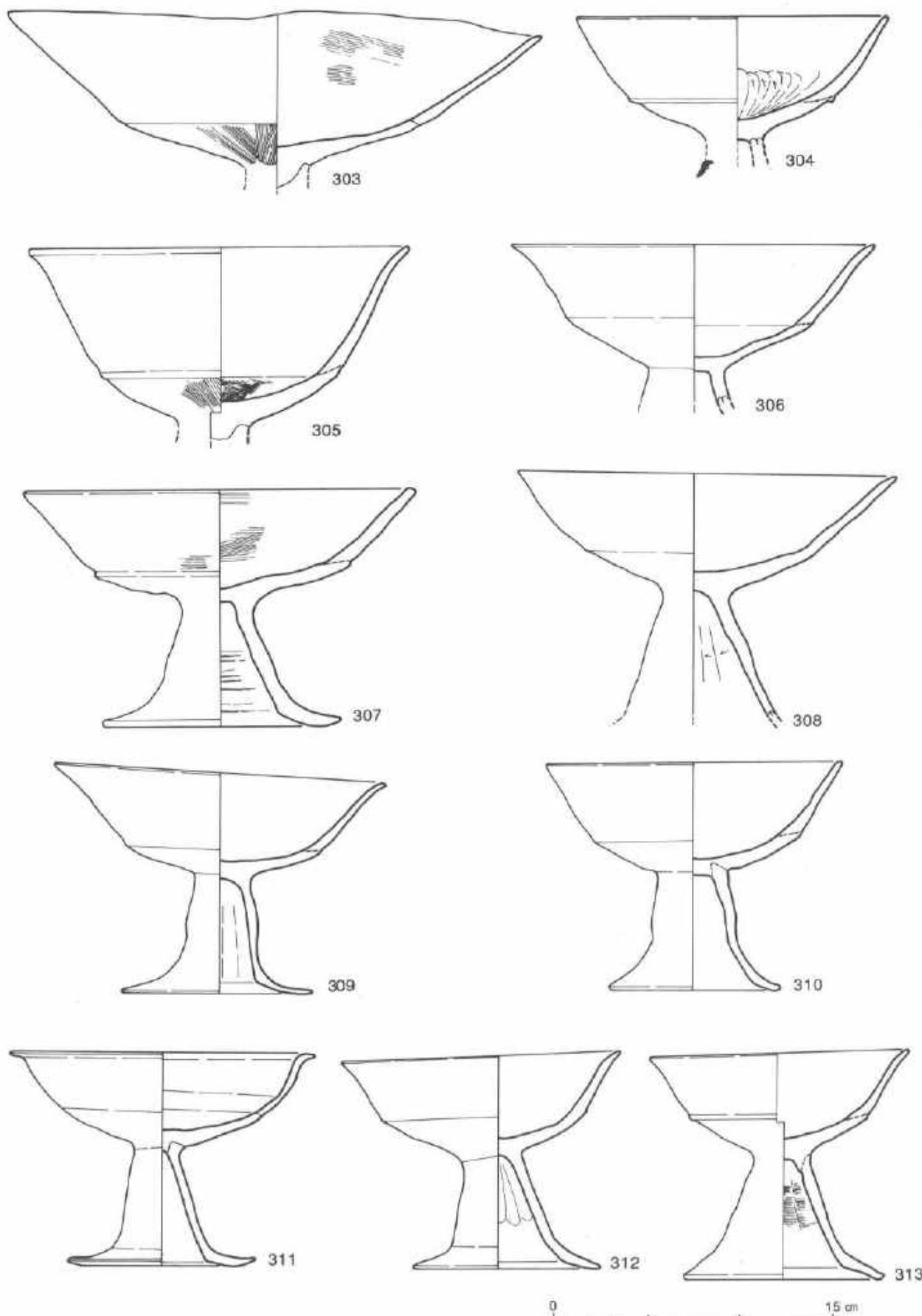
第59図 SC72遺物実測図 1 (1/3)



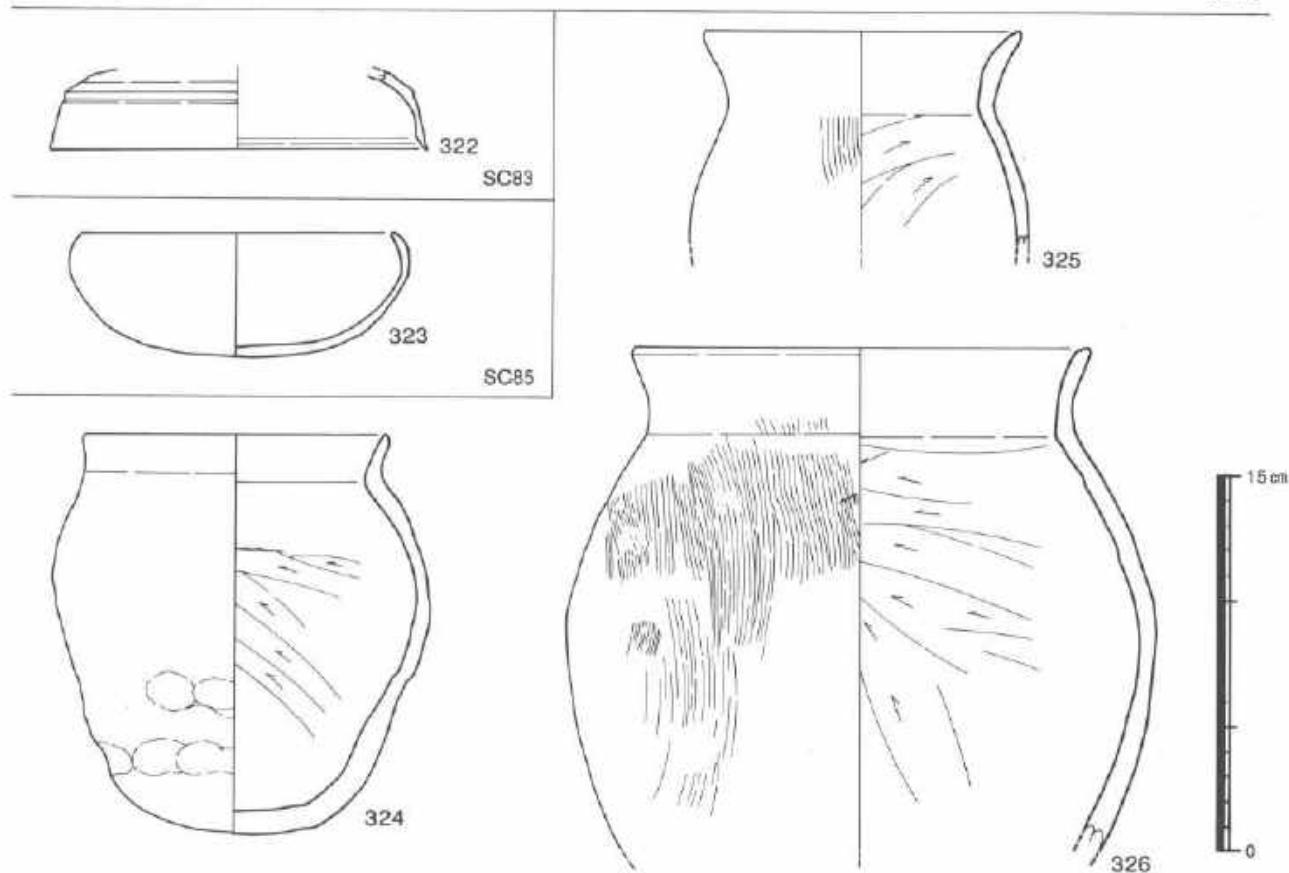
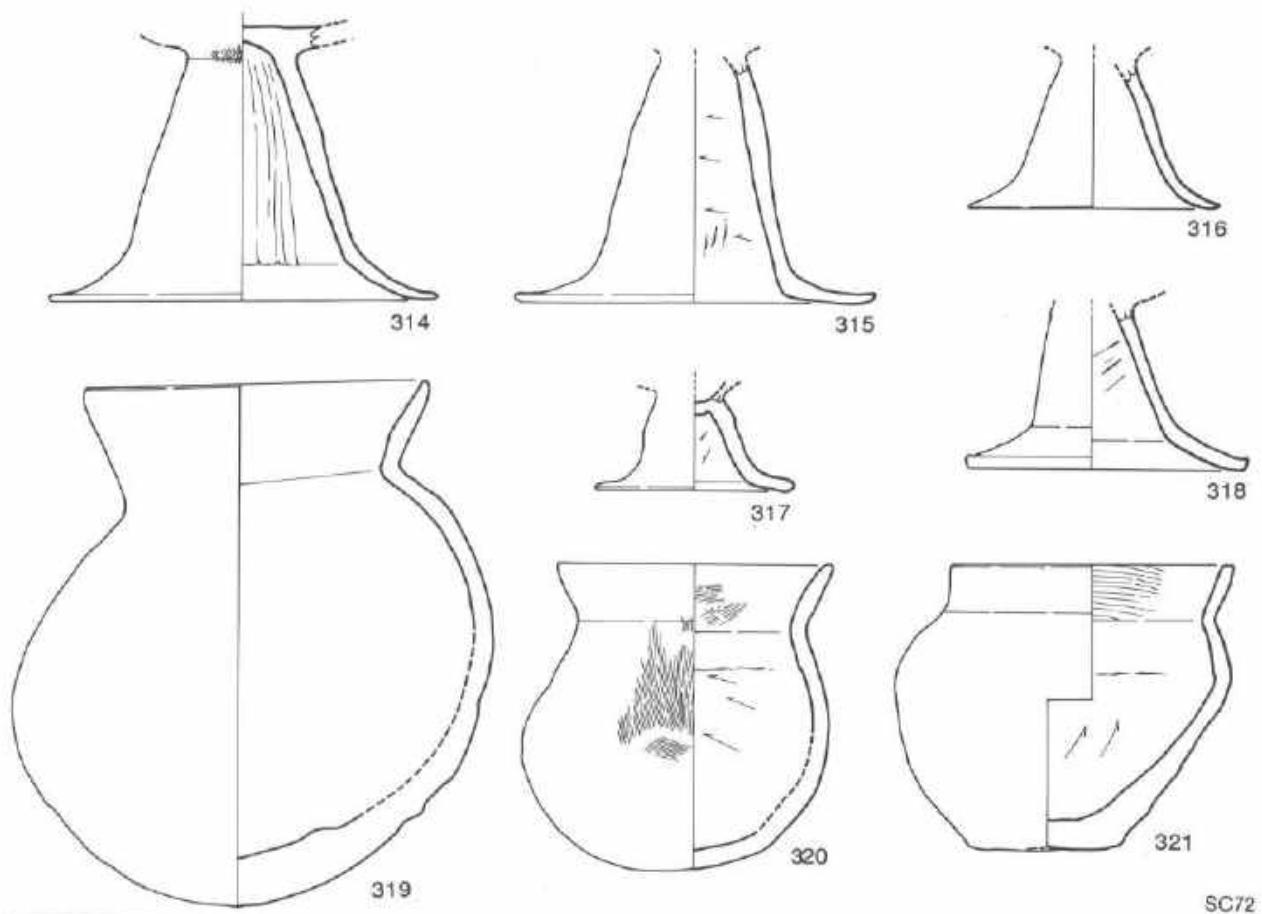
第60図 SC72遺物実測図 2 (1/3)



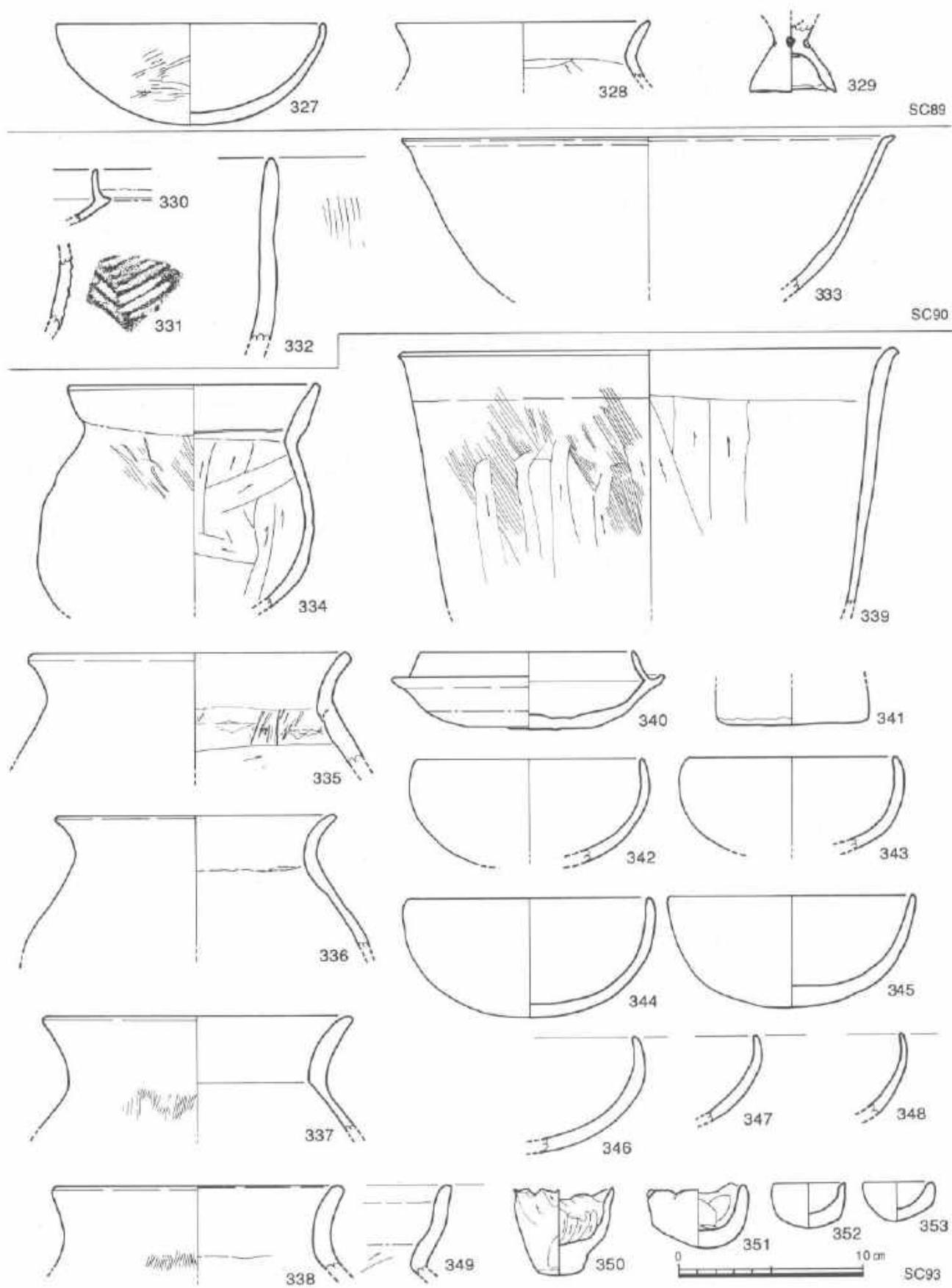
第61図 SC72遺物実測図 3 (1/3)



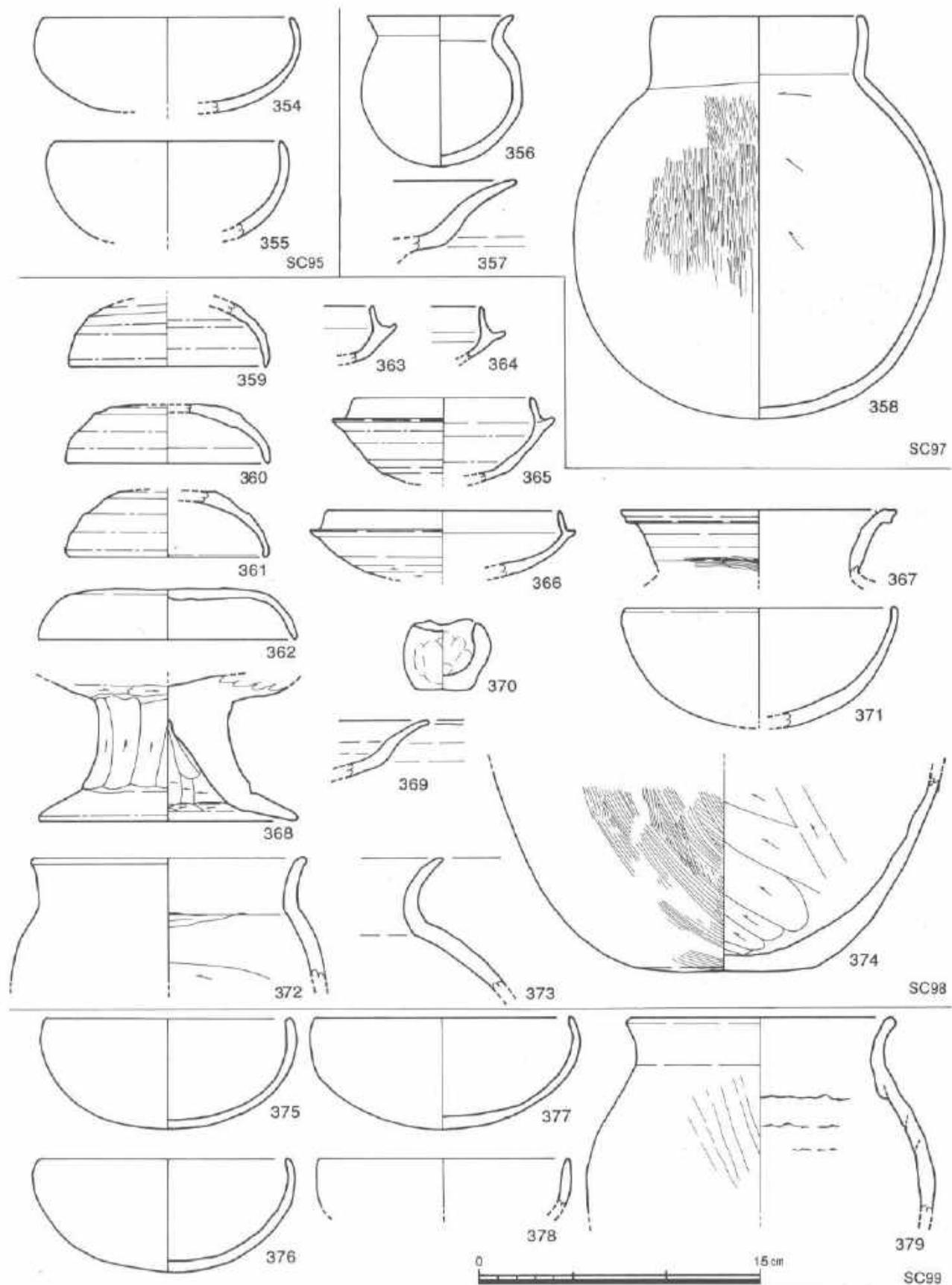
第62図 SC72遺物実測図 4 (1/3)



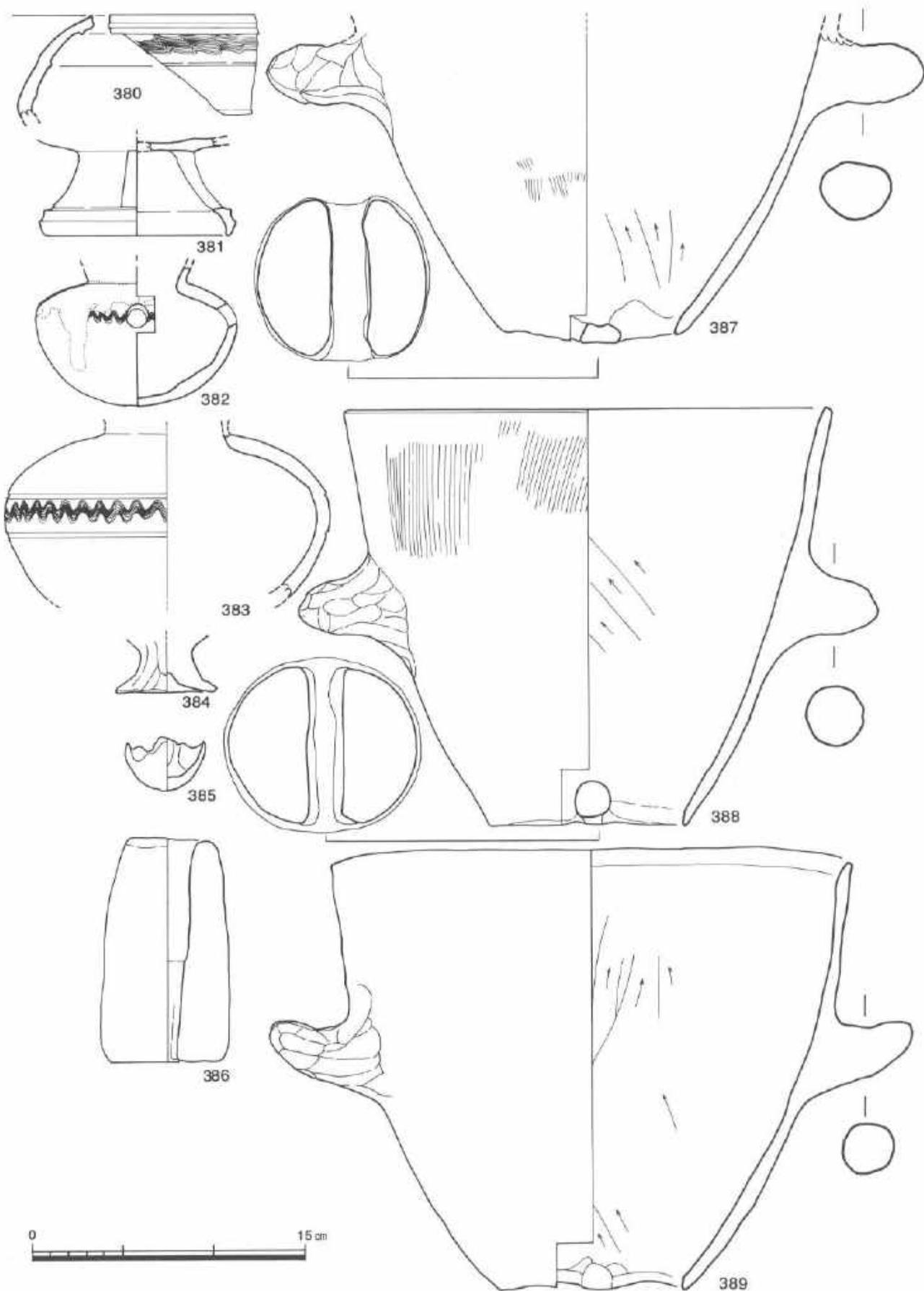
第63図 SC72～86遺物実測図 (1/3)



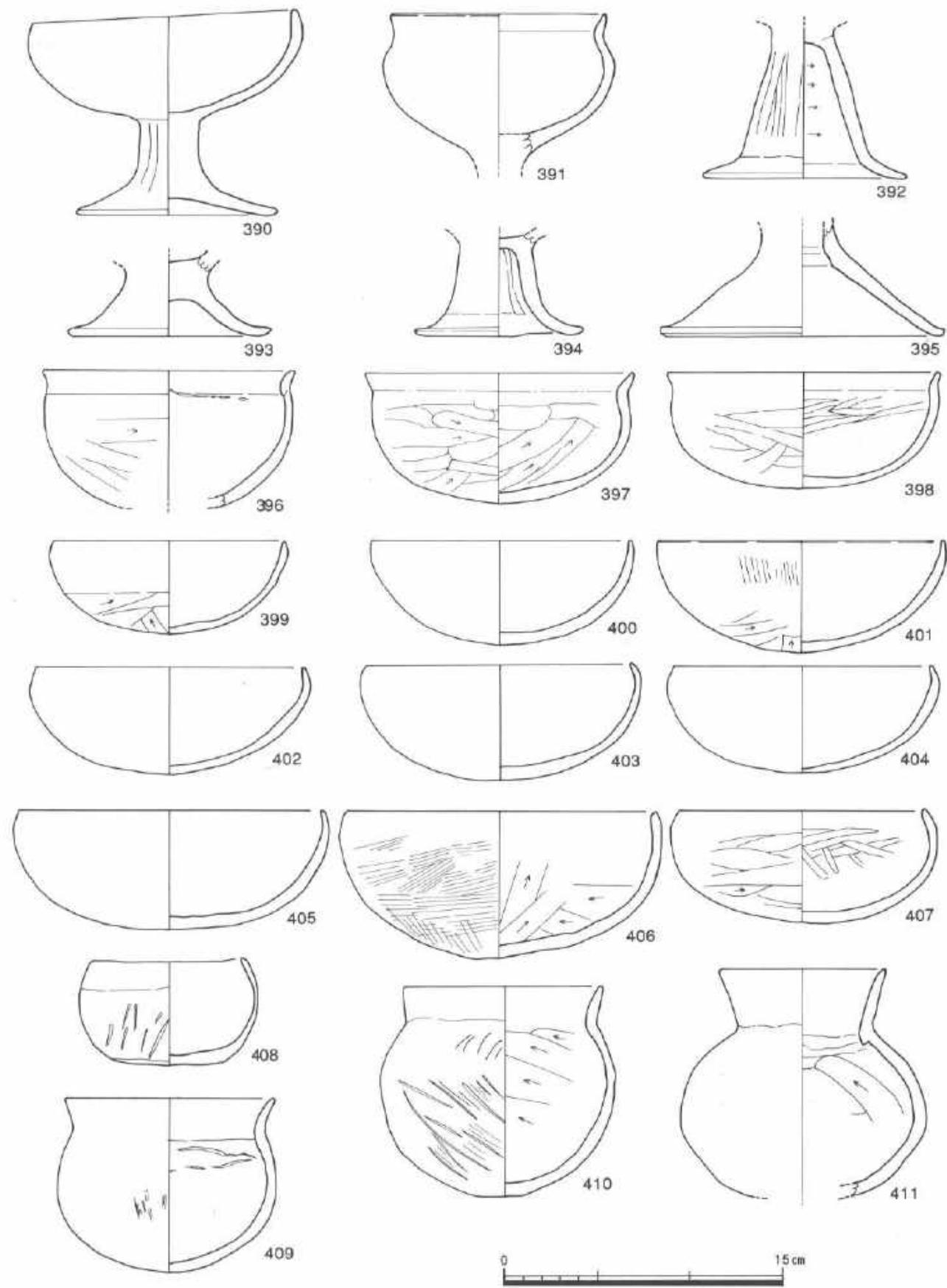
第64図 SC89~93遺物実測図 (1/3)



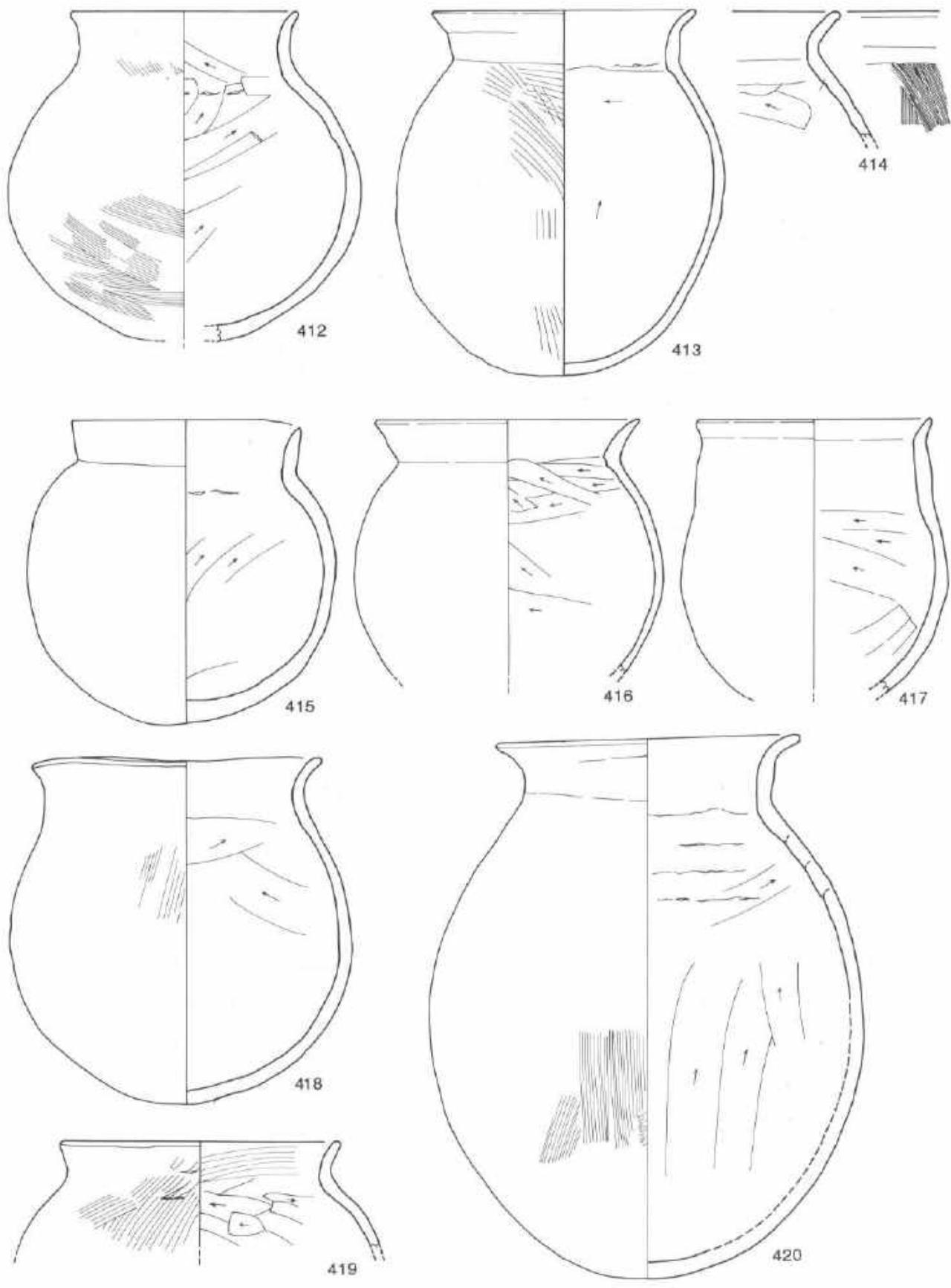
第65図 SC95~99遺物実測図 (1/3)



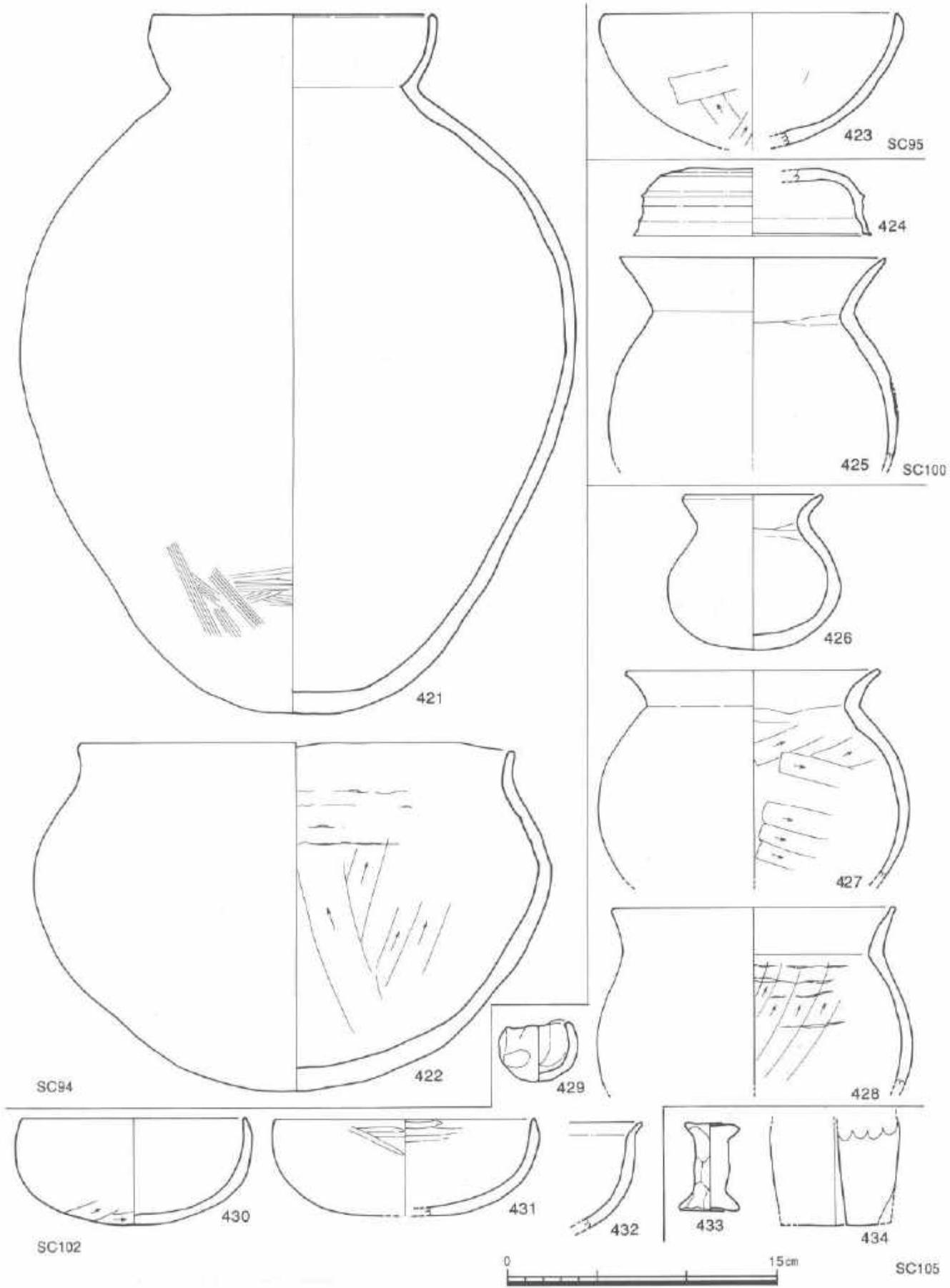
第66図 SC94遺物実測図 1 (1/3)



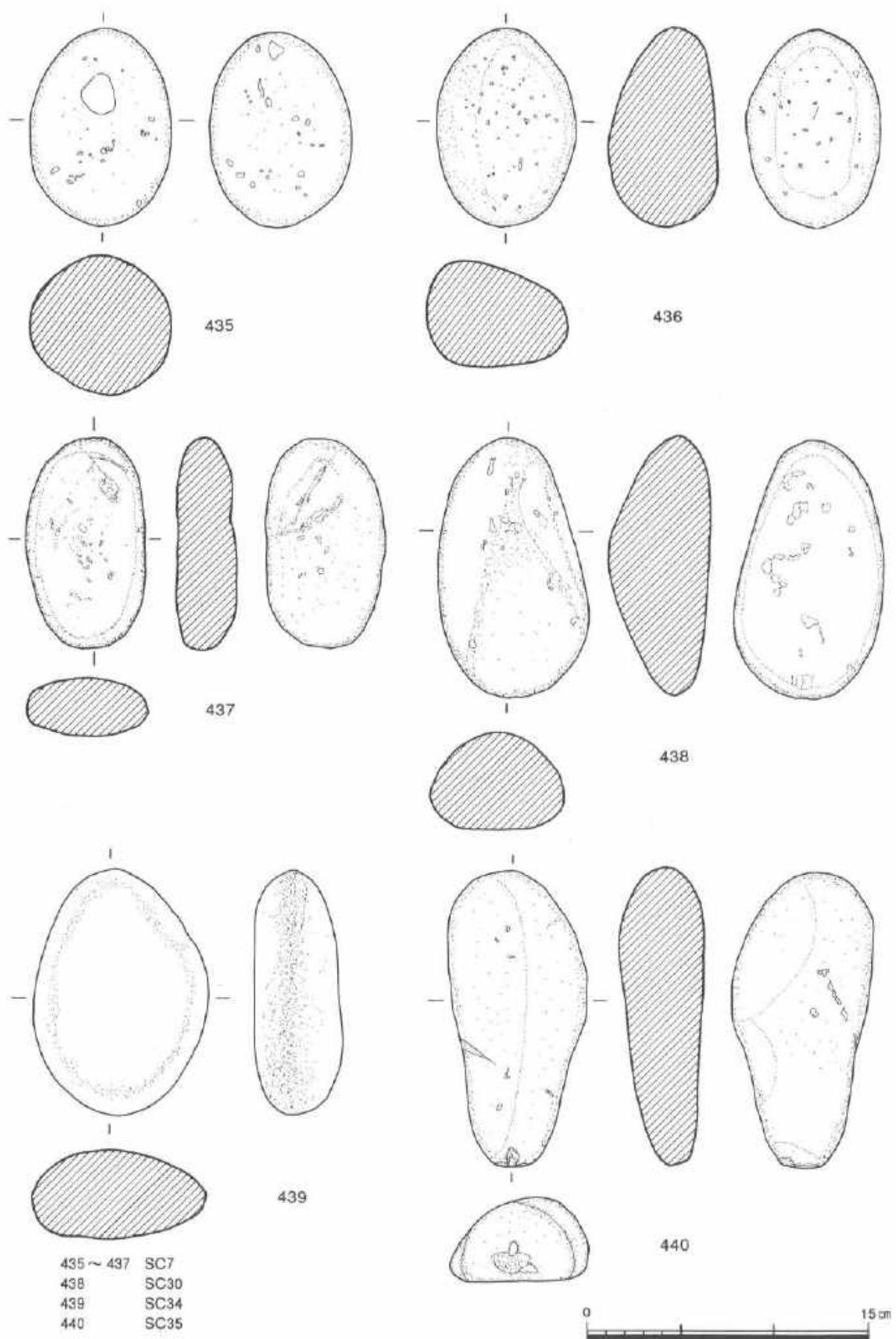
第67図 SC94遺物実測図 2 (1/3)



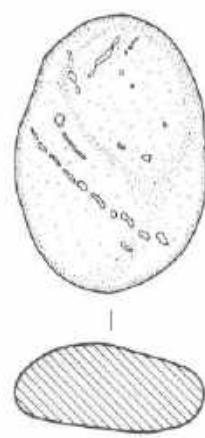
第68図 SC94遺物実測図 3 (1/3)



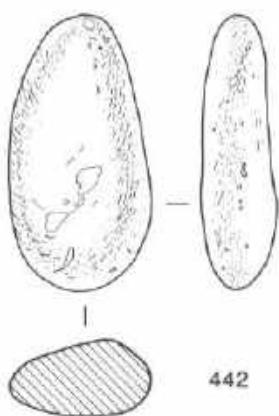
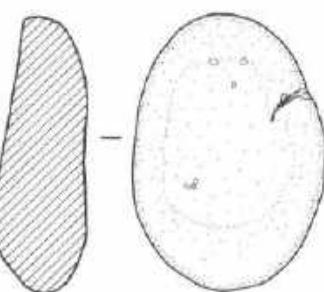
第69図 SC94~105遺物実測図 (1/3)



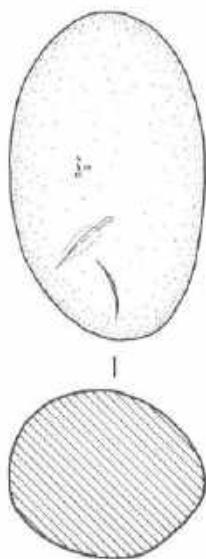
第70図 住居出土石器実測図 1 (1/3)



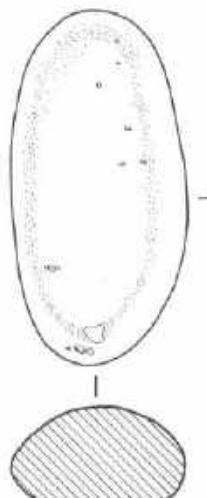
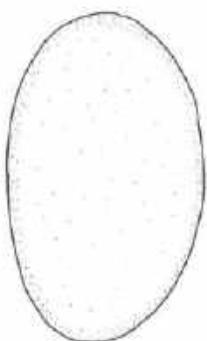
441



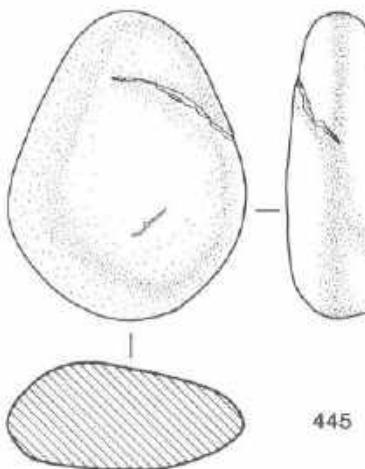
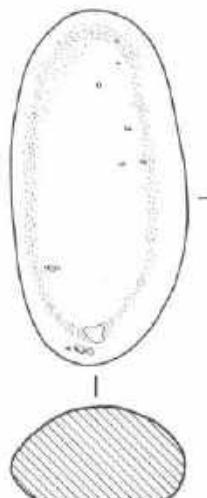
442



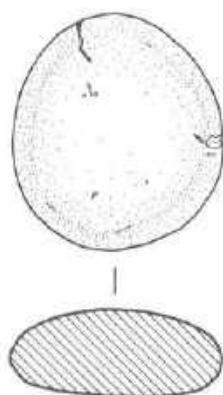
443



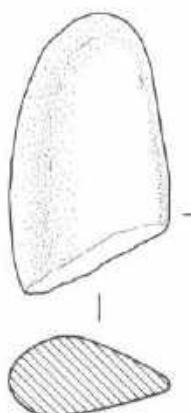
444



445



446



447



441 SC33

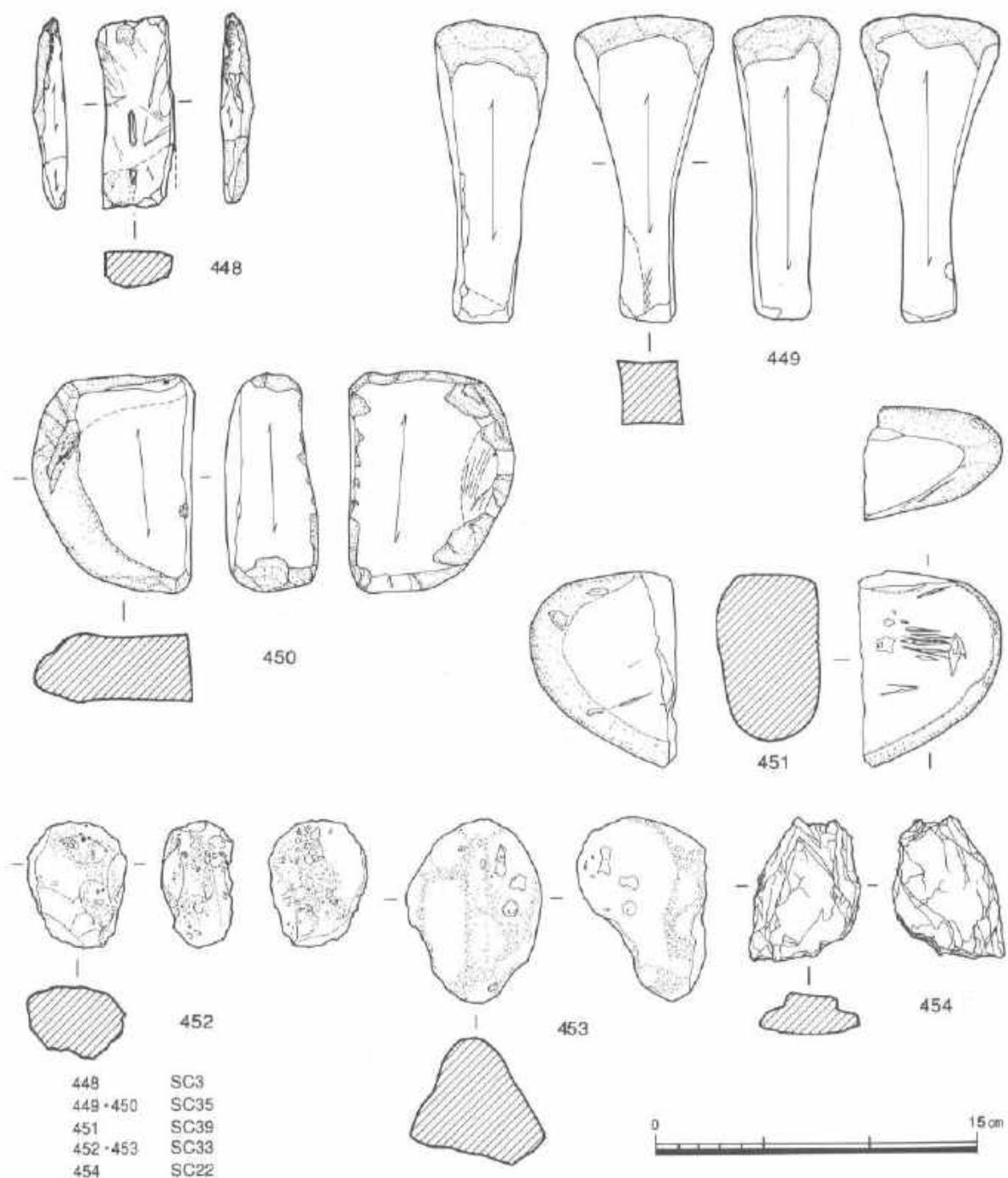
442 SC48

443 ~ 445 SC52

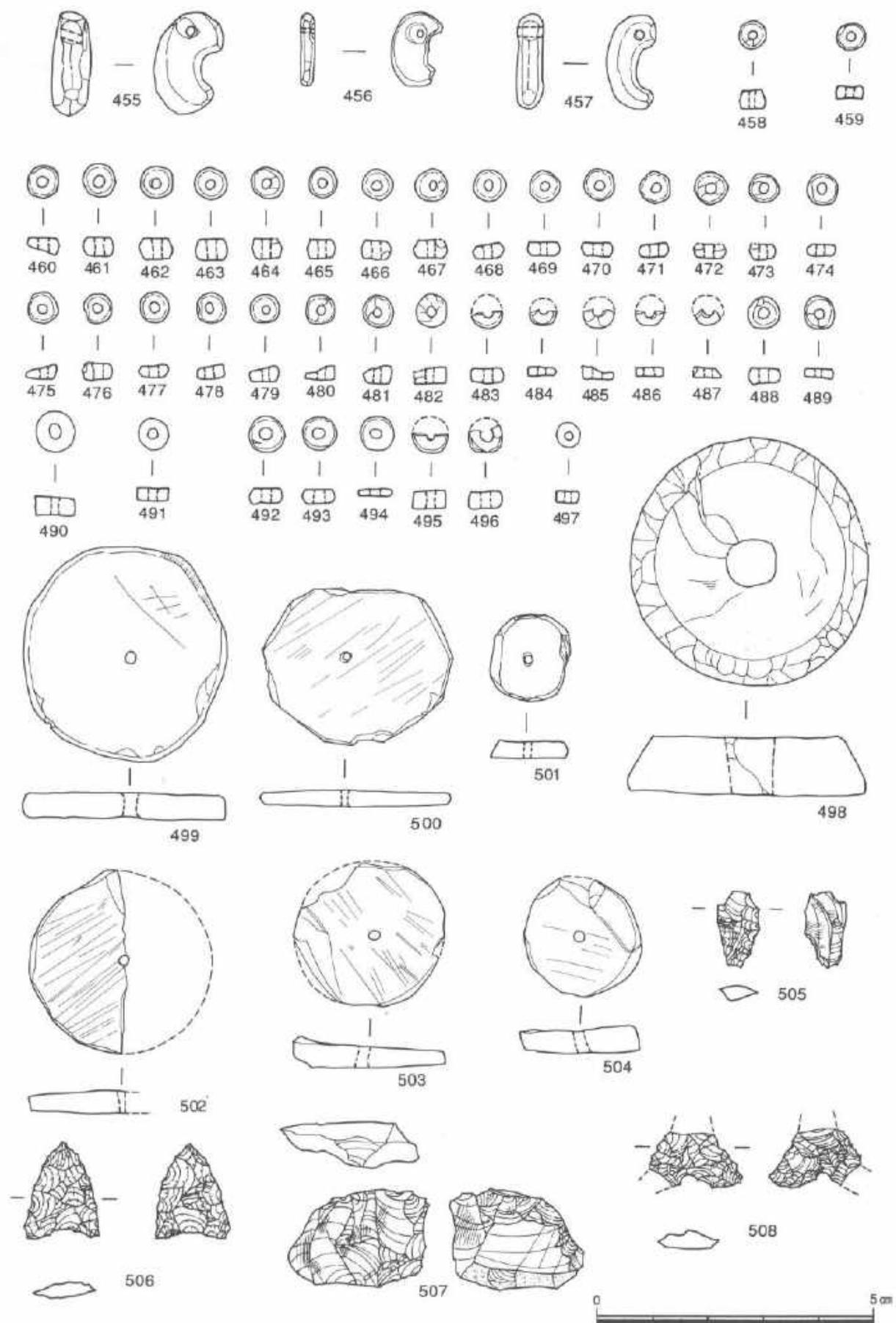
446 SC61

447 SC64

第71図 住居出土石器実測図 2 (1/3)



第72図 住居出土石器実測図 3 (1/3)



455・456・SC33 460～489 SC34
 457 SC60A 490 SC35
 458 SC3 491 SC37
 459 SC4 492～496 SC61
 497 SC38

第73図 住居出土石器実測図4 (1/1)

498 SC60B 503 SC74A
 499 SC4 504 SC79
 500 SC18 505 SC7
 501 SC35 506 SC61
 502 SC75 507・508 SC72

第5表 積穴式住居出土土器計測表

単位はcm。()は反転復元による計測値

遺物番号	調査区	出土遺構と位置	器質	器種	口径 底径	肩部径 (中1/3)	器 高	調整・釉調・文様	色 調	動 土	焼成	その他の特徴	
第40回 1	D区	S C 2 北東側 コーナー壁溝内	土師器	楕	(15.0) —	—	5.5	内外面とも風化著しい	外面から内面上半部暗赤 色内面見込みにぶい黄褐色	白色粒や赤色粒を 含むほか細砂粒	やや良		
第40回 2	D区	S C 2 南西側埋 土	土師器	楕	(13.2) —	—	5.9	内面外面ミガキ・外面下半ナ 子	内面黒色と赤褐色 外面にぶい赤褐色	黄白色粒子を含む ほかシルト質	良	底部が1.2cmと厚い	
第40回 3	D区	S C 2 カマド周 辺	土師器	楕	(14.5) —	—	(4.8)	内外面とも風化著しくひび割 れする	内外面ともに赤色	1~3mmの大白色粒 を多く含む	やや不 良		
第40回 4	D区	S C 2 南側壁溝 内	土師器	楕	(11.8) —	—	(5.8)	内面ミガキ、外面ナデ	内面赤褐色 外面やや斑のある明赤褐色	黄白色の砂粒から 細砂粒を含む	良	底盤が厚く、口縁は外 反する	
第40回 5	D区	S C 2 壁土上層	須恵器	轟	—	—	—	同転ヨコナデ・外面下半波状 紋	内面青灰色・青黑色 外面青灰色	黑色白色粒を含み 細砂粒からシルト質	良		
第40回 6	D区	S C 2 壁土上層	須恵器	不明	—	—	—	内面ナデ外面波状紋	内面黄灰色断面紫灰色外面 青灰色	細砂粒	やや良		
第40回 7	D区	S C 2 カマド周 辺	土師器	壺	(20.2) —	—	(16.6)	—	外面と口縁部内面ナデ・内面 胴部削り	内外面にぶい赤褐色	白色砂粒や赤色粒 を多く含む	良	
第40回 8	D区	S C 2 北東側 コーナー壁溝内	土師器	壺	(17.2) —	—	(13.4)	—	口縁部内外面ともナデ	内外にぶい赤褐色	白色砂粒や赤色粒 を多く含む	やや良	
第40回 9	D区	S C 2 南西側埋 土	土師器	壺	(15.0) —	—	(12.8)	—	外面と口縁部内面ナデ・内面 胴部削り	内面にぶい黄褐色 外面にぶい赤褐色	赤色粒雲母と白色 細砂粒を多く含む	良	
第40回 10	D区	S C 2	土師器	手捏土器	(4.5) —	—	(3.2)	指頭圧痕	内面赤褐色 外面赤褐色にぶい黄褐色	白色砂粒を含む外 シルト質	やや良	端部が薄く風化してい る	
第40回 11	D区	S C 3 北東側床 面	土師器	楕	11.6 —	12.9	5.3	内面外面ともヨコ方向ナデ	内外面とも暗褐色からにぶ い褐色	白色粒を所々含む ほか細砂粒質	良	元形・口縁部が内縮す る	
第40回 12	D区	S C 3 南西側床 面	土師器	楕	(11.5) —	(12.0)	5.4	表面風化著しい・内面下半ミ ガキ	内外面とも表面にぶい褐色 断面明褐色	白色粒を多く含む外 細砂粒質	やや良		
第40回 13	D区	S C 3 南西側埋 土	土師器	楕	(12.2) —	(13.2)	(6.6)	内面ミガキ外面風化する	内面暗褐色外面上半にぶい褐 色下半にぶい黄褐色	3mmの大赤色粒子 を含むほか細砂粒質	やや良		
第40回 14	D区	S C 3 南側埋土	土師器	楕	12.0 —	12.4	(5.9)	表面風化著しい・内面下半ミ ガキ	内面明赤褐色外面橙色から 明黄褐色	赤色粒子を多く含 むほか細砂粒質	良		
第40回 15	D区	S C 3 西側埋土	土師器	楕	(11.8) —	—	—	表面風化著しい・内面下半ミ ガキ	内外面ともにぶい黄褐色	1mm前後の白色粒 を含むほか細砂粒質	やや良		
第40回 16	D区	S C 3 北西側床 面	土師器	壺底部?	— 5.6	(13.6) —	—	表面風化著しい・内面捺圧によ る	内面にぶい褐色外面橙色か ら灰白色および灰斑	2mmの大白色粒子 を含むほか細砂粒質	やや良	底部は粘土板を貼り付 け、厚みをもつ	
第40回 17	D区	S C 3 南東側埋 土上層	土師器	手捏土器	(3.8) —	—	3.4	内面指頭圧痕	内面にぶい褐色 外面灰褐色の横付着	細砂粒からシルト質	やや良		
第40回 18	D区	S C 3 南東側埋 土上層	土師器	手捏土器	(4.2) —	—	3.8	内面指頭圧痕	内面にぶい褐色 外面灰褐色の横付着	細砂粒質	良		
第40回 19	D区	S C 3 南東側埋 土上層	土師器	手捏土器	(3.8) —	—	3.0	内面指頭圧痕	内外面ともに褐色	白色粒子を含むほ か細砂粒質	良		
第40回 20	D区	S C 3 南東側埋 土上層	土師器	手捏土器	(4.4) —	—	3.0	内面指頭圧痕	内外面ともにぶい褐色	細砂粒質	良		
第40回 21	D区	S C 3 東側埋土	土師器	手捏土器	(3.9) —	—	2.9	内面捺頭圧痕	内外面ともにぶい褐色	細砂粒質	やや良		
第40回 22	D区	S C 3 南東側埋 土上層	土師器	手捏土器	(2.6) —	(3.2)	2.3	内面捺頭圧痕	内外面とも褐色	細砂粒質	やや良		
第40回 23	D区	S C 3 南東側埋 土上層	土師器	小型鉢	7.5 3.8	—	5.4	内面外面ともヘラ状工具によ るミガキ	内面明赤褐色 外面にぶい赤褐色	白色粒赤色粒を 所々含む外細砂粒 質	良		
第41回 24	D区	S C 3 南西側壁 溝上面	土師器	楕	(20.9) —	—	—	口縁部内外面ヨコナデ・外面 工具による削り調整・内面ナ 子方向のケズリ	内外面ともににぶい黄褐色	白色粒と赤色粒を 少數含む外細砂粒 質	良		
第41回 25	D区	S C 3 北西側床 面	土師器	壺	(15.6) —	—	—	内面外面口縁ナデ胴部内面工 具によるケズリ胴部外面ハケ	内面にぶい黄褐色 外面にぶい褐色	赤色粒と白色砂 粒を多く含む	やや良		
第41回 26	D区	S C 3 北西側床 面	土師器	壺	14.2 —	(11.5)	—	内面外面ともに風化著しい	内面にぶい黄褐色外面褐色 から灰褐色	赤色粒と白色粒を 含むほか細砂粒質	やや良		

第41図 27	D区	S C 3 カマド内	土師器	甕	(16.0) —	— (13.8)	—	口縁部内外面ヨコナデ・外面工具によるヨコ方向のケズリ・内面タテ方向のケズリ	内面にぶい赤褐色外面にぶい赤褐色から黒褐色	2mm大の赤色粒子を含むほか細砂粒質	良	
第41図 28	D区	S C 3 カマド内	土師器	支脚	5.4 6.4	— —	10.2	外縁ナデ・上半指頭圧痕	外面黒褐色から橙色	細砂粒質土	良	上半部は二次焼成を受ける
第41図 29	D区	S C 3 北東側埋土	土師器	甕	(11.3) —	— (9.7)	—	内外面とも風化する胴部内面は右上方向にケズリ	内面にぶい黄褐色外面橙色	白色粒子を含むほか細砂粒質	やや良	
第41図 30	D区	S C 3 南東側埋土上層	土師器	甕	(9.9) —	— (9.6)	—	内外面口縁ヨコナデ・胴部内面工具によるケズリ胴部外面粗いハケ	内外面ともにぶい褐色断面明赤褐色	細砂粒質土	やや良	
第41図 31	D区	S C 3 南東側埋土上層	土師器	甕	— —	— —	—	内外面口縁ヨコナデ・胴部内面工具によるケズリ胴部外面粗いハケ	内外面ともにぶい褐色断面明赤褐色	白色粒子を含むほか細砂粒質	やや良	
第41図 32	D区	S C 3 南東側埋土上層	筑造器	高环	— —	— —	—	内外面とも回転ヨコナデ・外面下半波状紋	内外面とも青灰色	細砂粒質土	良	
第41図 33	D区	S C 3 北西埋土上層	須恵器	甕	— —	— —	—	外面平行叩き・内面同心円文压痕後ナデ消す	内面灰白色外面灰色から暗灰色	全体的にシルト質	良	
第42図 34	D区	S C 4 西側床面	土師器	甕	18.0 —	23.9 (16.9)	29.0	内外面口縁ナデ胴部内面上方向にヘラ削り胴部内面ナデ	内面明赤褐色からぶい褐色外面橙色で墨斑がある	白色赤色の粒子を含み砂粒質	良	調節外面に二次焼成をうける胴部外面の黒斑は対角にある
第42図 35	D区	S C 4 西側壁溝内	土師器	甕	(18.4) 18.0	28.2 15.0	29.8	内面は工具によるケズリ外面はナデなどで丁寧に仕上げる	内面にぶい橙色外面橙色から明赤褐色で墨斑がある	白色粒子やセキエイを含み砂粒質	良	ほぼ完形・胴部外面の黒斑は対角にある
第42図 36	D区	S C 4 北東側埋土	土師器	甕	(17.2) —	(14.8) —	—	内外面とも口縁ヨコナデ・胴部内面ケズリ	内面にぶい黄褐色外面にぶい褐色	白色粒子を所々含むほか細砂粒質	良	
第42図 37	D区	S C 4 北西側埋土	土師器	甕	(13.8) —	— (10.9)	—	内外面とも口縁ヨコナデ・胴部内面ケズリ	内面橙色から黒褐色外面にぶい褐色	白色および暗褐色粒子を含むほか細砂粒質土	良	
第42図 38	D区	S C 4 埋土上層	土師器	甕	(23.9) —	— (11.3)	—	内外面とも口縁ヨコナデ・胴部内面ケズリ・胴部外面工具により縱方向にナデ	内面にぶい褐色外面橙色	2mm程度の赤色粒子含むほか細砂粒～シルト	やや良	
第42図 39	D区	S C 4 北東側埋土	土師器	甕	16.4 —	— 14.2	—	内外面とも口縁ナデと考えられるが風化している	内面浅黄褐色から橙色外面にぶい赤褐色	白色の砂粒を多く含む	やや良	
第42図 40	D区	S C 4 西側壁溝内	土師器	甕	13.2 —	16.0 12.6	15.0	内外面とも口縁ナデ胴部内面横方向にケズリ胴部外面風化しているが一部にハケ	内面上半部黒褐色下半にぶい褐色外面赤褐色から灰褐色	2~3mm大の白色粒子を多く含む	やや良	ほぼ完形
第42図 41	D区	S C 4 西側床面	土師器	甕	(11.6) —	(13.0) (11.4)	(8.6)	内外面とも口縁ナデ胴部内面横方向にケズリ胴部外面風化している	内面黒褐色から浅黄褐色外面は赤色から暗赤褐色	白色の砂粒を少量含むほか細砂粒質土	やや良	外面底部二次焼成
第43図 42	D区	S C 4 中央床面	土師器	甕	13.8 —	14.4 —	6.4	内面ミガキ外面横方向の細かいハケ	内面浅黄褐色から灰褐色外面にぶい褐色から灰褐色	赤色粒が多くほかセキエイや雲母を含む	良	完形・口縁部は内相する
第43図 43	D区	S C 4 壁溝内	土師器	甕	(13.0) —	— —	—	内外面とも丁寧なミガキ外面上半にハケが認められる	全体的に赤褐色	白色の砂粒を多く含むほかシルト質	良	器壁に光沢がある
第43図 44	D区	S C 4 埋土上層	土師器	甕	(14.0) —	— —	—	内面口縁ナデほかミガキ	内外面とも橙色	白色砂粒や赤色粒を所々含むほか細砂粒質	やや良	
第43図 45	D区	S C 4 南東側埋土	土師器	甕	(14.4) —	(15.2) —	(5.2)	内面と外面上半横方向のナデ調整外面胴部下半はミガキ	内面にぶい橙色から褐色外面明赤褐色から褐色	シルト質から細砂粒質土	やや良	
第43図 46	D区	S C 4 埋土	土師器	甕	14.3 —	14.7 —	5.9	内外面とも表面風化著しい	内外面とも明赤褐色外面には黒斑が認められる	白色粒を含むほか極細砂粒	やや良	完形
第43図 47	D区	S C 4 西側床面	土師器	脚付甕	13.0 —	— 3.5	—	受け部口縁ナデ・胴部タテ方向のケズリ後ナデ	全体的に明赤褐色外面の一部にぶい黄褐色と黒褐色	白色粒やセキエイを含む細砂粒質	良	
第43図 48	D区	S C 5 北東側壁溝コーナー	土師器	鉢	(20.5) —	— (10.0)	—	内外面とも表面風化著しい	内面灰黃褐色・外面にぶい赤褐色からにぶい褐色	白色粒や赤色粒を含むほか砂粒質	やや良	1cm程の礫を含む
第43図 49	D区	S C 6 北西側コーナー床面	土師器	甕	(13.6) —	(14.0) —	5.5	内外面とも風化している	全体的に橙色	白色の砂粒を少量含むほか細砂粒質土	やや良	
第43図 50	D区	S C 6 北西側コーナー壁溝内	土師器	甕	(13.0) —	(13.8) —	6.0	内面上半横方向のナデ下半ミガキ・外面一部に横ハケあり	内面灰白色から黒褐色外面にぶい赤褐色から黒褐色	細砂粒質土	やや良	
第43図 51	D区	S C 6 北西側床面中央	土師器	甕	13.7 —	— —	6.5	内面外面ともにミガキ調整・内面当具痕あり	内外面ともに橙色	セキエイ粒を含むほかシルトから細砂粒質土	良	ほぼ完形
第43図 52	D区	S C 6 西側床面	土師器	甕	14.5 —	— —	5.8	内外面とも工具によるミガキ	内面橙色から黒褐色・外面橙色	赤色粒を所々含むほかシルトから細砂粒質土	良	ほぼ完形
第43図 53	D区	S C 6 東側床面	土師器	甕	(13.5) —	— —	6.0	内外面とも風化著しい	内外面とも赤褐色	赤色粒や白色粒を多く含み砂粒質	やや良	
第43図 54	D区	S C 6 西側床面	土師器	高环(受け部)	15.4 —	— —	—	内外面とも風化が進む	内面にぶい赤褐色から橙色・外面橙色	細砂粒質	やや良	受け部段を有し、口縁部外反する

第43回 55	D区	S C 6 西側床面	土師器	小型焼	8.0 —	8.8 —	(6.3)	内外面とも口縁のナデ・内面指頭圧痕・外面一部にタテハケ	内外面とも橙色	砂粒を多く含む	やや良	
第43回 56	D区	S C 6 北東側壁溝	土師器	焼?	(13.8) —	— —	—	内外面とも風化著しいが、外面の一部にナデが確認できる	内外面ともにやや黄のある橙色	細砂粒質	やや不良	口縁部大きく外反する
第43回 57	D区	S C 6 北東側埋土	土師器	焼	(13.0) —	(12.2) —	—	内外面とも口縁部ヨコナデ・内面胴部削り	内外面ともにぶい赤褐色からにぶい橙褐色	3mm大の赤色粒子を含むほか細砂粒質土	良	
第43回 58	D区	S C 6 東側壁溝	土師器	焼	(15.2) —	(13.4) —	—	内外面とも口縁部ヨコナデ・内面胴部指頭圧痕	内面橙色外面にぶい橙色	3mm大の赤色粒子を含むほか細砂粒質土	良	やや肩部が張る
第43回 59	D区	S C 6 中央床面	土師器	焼	(8.2) —	(9.4) (7.6)	(6.9)	内外面とも風化著しい	内外面とも明赤褐色	砂粒から細砂粒	やや不良	
第43回 60	D区	S C 6 西側壁溝	土師器	有孔内盤	3.7 —	— —	0.9	ナデ	にぶい黄褐色	細砂質	やや良	
第44回 61	D区	S C 7 中央床面	土師器	焼	7.8 —	10.8 7.6	9.8	内外面とも風化著しい底部に粗い筋状の痕跡が認められる	外面赤褐色にぶい橙色黒色 内面橙色から黒色	砂粒質	やや良	完形・口縁矧く胴部は丸い
第44回 62	D区	S C 7 北東側床面	土師器	焼	7.8 —	13.3 7.6	—	内外面では口縁部ナデ・胴部中面指頭圧で整形	内面にぶい橙色外面橙色一部に黒褐色	白色粗砂粒を含むほか細砂粒	やや良	口縁端部は一部を除き欠損する
第44回 63	D区	S C 7 南側床面	土師器	焼	(9.8) —	(14.0) (8.8)	—	内外面ともに風化著しい	内面外面ともに浅黄褐色	砂粒質土	やや不良	
第44回 64	D区	S C 7 中央床面	土師器	焼	(11.2) —	(13.8) (10.3)	—	内面口縁と外面胴部に粗いハケ内面胴部にケズリ	内面ともに浅黄褐色から黒褐色	細砂粒から砂粒質土	やや良	
第44回 65	D区	S C 7 南東側床面	土師器	焼	(11.8) —	(13.9) (10.6)	—	口縁部内外面ヨコナデ胴部外面粗いハケ・内面粗いケズリ	内面にぶい赤褐色・外面橙色と黒褐色	白色砂粒を含むほか細砂粒	やや良	
第44回 66	D区	S C 7 南東側床面	土師器	焼	(13.0) —	(14.6) (11.2)	—	内外面口縁ナデ・胴部外面ハケ・胴部内面丁寧なケズリ	内外面とも暗色から淡黄色から黒色	細砂粒から砂粒質土	やや良	
第44回 67	D区	S C 7 北西側床面	土師器	焼	(11.6) —	(13.5) (11.0)	—	表面風化著しい	内面にぶい黄褐色からにぶい赤色一部黒色	白色砂粒を含むほか細砂粒	やや良	底部二次焼成
第44回 68	D区	S C 7 南東側床面	土師器	焼	(12.2) —	(14.3) (10.6)	15.1	内外面口縁部ナデ・外面粗いハケ・内面ケズリ	内面にぶい赤褐色外面赤色から黒褐色	白色砂粒を多く含むほか細砂粒	良	底部二次焼成
第44回 69	D区	S C 7 南東側床面	土師器	焼	(13.7) —	(15.8) (11.5)	15.2	内面胴部は指によるケズリ外風化著しい	内面にぶい橙色外面浅黄褐色から黒褐色	2mm大のセキエイ白色粒を含むほか細砂粒質土	やや良	
第44回 70	D区	S C 7 南側床面	土師器	焼	15.0 —	23.7 11.0	—	口縁部ヨコナデ・内面胴部丁寧なケズリおよび指頭圧による調整外面粗いハケ	内面灰白色外面黄褐色から黒褐色暗灰色	5mm大の白色粒を1点含むほか砂粒から細砂粒	やや良	口縁は外反し、胴部は丸い
第44回 71	D区	S C 7 南コーナー側床面	土師器	焼	13.0 —	(20.1) 12.0	—	内外面口縁ヨコナデ・外面胴部ハケ・内面削り	内外面とも赤色からにぶい赤褐色	1~5mm大の白色粒を含むほか細砂粒質土	やや良	
第44回 72	D区	S C 7 中央床面	土師器	焼	17.5 —	19.8 14.8	—	内外面とも口縁ナデ・胴部内面ヘラによるケズリ	内外面ともに橙色	白色粒や赤色粒を含むほか細砂粒からシルト	良	
第44回 73	D区	S C 7 西側床面	土師器	焼	(15.8) —	(20.4) (12.6)	—	内外面ともに風化著しいが胴部外面に粗いハケが認められる	内面灰黄色外面橙色から黒褐色	白色の砂粒を多く含むほか細砂粒質土	やや良	
第45回 74	D区	S C 7 中央床面	土師器	高坏	14.0 10.6	— 3.0	12.1	内外面ともにやや風化が進む	全体的に橙色から黒褐色	白色や褐色の粒子を所々含むほか細砂粒質土	やや良	完形・受部は上方に直行し、坏部受部とも明瞭な段を有す
第45回 75	D区	S C 7	土師器	高坏	15.0 —	— 2.6	—	内面ミガキほかやや風化する	全体的に赤褐色から暗赤褐色	シルト質から細砂粒質土	やや良	脚部下半を失う・受け部はやや開き中段を有す
第45回 76	D区	S C 7 中央床面	土師器	高坏	— 14.9	— 3.9	—	脚部内側ヘラでケズりとる	褐色から明赤褐色	シルト質から細砂粒質土	やや良	脚部・段を有して直行し1cmの穿孔3
第45回 77	D区	S C 7 中央床面	土師器	高坏	(18.2) —	— —	—	全体的に風化が進むが口縁部の一部ヨコナデ調整が認められる	内面にぶい赤褐色から黒褐色外面黄褐色から暗褐色	白色砂粒を含むほか細砂粒質土	やや良	受部・段を有して直行し口縁はやや外反する
第45回 78	D区	S C 7 北東側床面	土師器	高坏	14.3 —	— —	—	全体的に風化が進むが口縁部外面の一部にヨコナデ調整が認められる	内面とも赤褐色	白色粗砂粒を多く含む	やや不良	受部・段を強く有す
第45回 79	D区	S C 7 南東側床面	土師器	高坏	(15.7) —	— —	—	内外面ともに風化するが外面の一部ヨコナデが認められる	内面橙色外面橙色からにぶい赤褐色	白色粗砂粒を多く含むほか砂粒	やや良	受部・やや肉厚で段は不明瞭
第45回 80	D区	S C 7 南側床面	土師器	高坏	13.5 —	— —	—	内外面とも風化著しい	内面黒褐色から黄褐色外面内面同色と橙色	2~5mm大の白色粒を含むほか細砂粒質土	やや良	受部・段を有す
第45回 81	D区	S C 7 中央床面	土師器	焼	(12.0) —	19.3 9.5	—	内面粗い削り外面細かいハケ	内面暗灰色外面1/3橙色から浅黄色2/3暗褐色	白色砂粒を多く含むほか細砂粒	やや良	
第45回 82	D区	S C 7 西側床面	土師器	焼	(11.7) —	— —	4.9	内外面ともナデ・底部削り	内外面とも橙色からにぶい褐色	1~2mm大の赤色白色粒を含むほか細砂粒質土	やや良	脚部下半は肉厚

第45回 8.3	D区	S.C.7 東側床面	土師器	鉢	13.0 3.8	12.4 —	7.8	内外面とも風化著しいが外面の一部にハケ底部には葉脈が認められる	内面褐色から褐灰色外面橙色からにぶい褐色	白色粒子を含む全体的に細砂粒質	やや良	底部は粘土板を貼り付け、厚みをもつ
第45回 8.4	D区	S.C.7 北東側床面	土師器	大型鉢	(26.5) —	(28.0) —	—	外面ナデ・内面ケズリ	内外面ともに橙色からにぶい赤褐色	白色砂粒を含むほか細砂粒質	やや良	口縁部1/3・端部やや尖る
第46回 8.5	D区	S.C.8 西側壁溝内	須恵器	壺蓋	(14.1) —	— —	—	内面回転ナデ・外面天井回転ヘラ削り	内面青灰色外側青灰色から暗青灰色断面紫灰色	白色砂粒を含むほか細砂粒質	やや良	端部に段を有し、口縁と天井部の壇に沈線がめぐる
第46回 8.6	D区	S.C.8 西側壁溝内	土師器	手捏土器	4.7 —	(6.1) —	4.3	内外面指頭圧痕	全体的に斑のある橙色	白色砂粒を含むほか細砂粒質	やや良	口縁部は須恵器の壺身の受部に似る
第46回 8.7	D区	S.C.9 北側壁溝上面	土師器	甕	(13.8) —	— 12.2	—	内外面とも口縁部ヨコナデ内面粗いケズリ	内外面ともににぶい黄褐色から黒褐色	白色粒や赤褐色を含むほか細砂粒	やや不良	二次焼成をうける
第46回 8.8	D区	S.C.9 北側壁溝上面	土師器	甕	14.8 —	18.4 12.2	18.8	内外面ともに口縁ナデ内面粗いケズリ外側脚部一部粗いハケ	内面全体暗灰色外面にぶい黄褐色からにぶい赤褐色	細砂粒質	やや良	ほぼ完形・底盤2次焼成
第46回 8.9	D区	S.C.10 方マド内	土師器	甕	14.4 —	18.1 13.7	—	内外面ともに表面風化が進む脚部内面はケズリ	内面にぶい褐色から暗赤褐色外側明赤褐色からにぶい褐色	細砂粒質土	やや良	二次焼成
第46回 9.0	D区	S.C.10 北側壁溝内	土師器	甕	(19.0) —	— 16.9	—	内外面口縁ナデ	内面にぶい褐色外面橙色	赤褐色と白色砂粒を含むほか細砂粒質	やや良	
第46回 9.1	D区	S.C.10 西側壁溝内	土師器	脚付甕	11.2 —	— —	—	内外面とも表面がやや風化する	内外面とも橙色	白色粒子を少量含むほかシルトから細砂粒	やや良	受部・口縁部外反しや段を有す
第46回 9.2	D区	S.C.10 カマド内	土師器	甕	(14.6) —	— —	—	内外面とも表面がやや風化する口縁部の一部にナデ	内外面とも橙色	3mm大の黄白色粒子を含むほか細砂粒質土	やや良	
第46回 9.3	D区	S.C.10 南西側理土	土師器	甕	— 6.2	— 5.6	—	底部指頭圧痕内外面ナデ	内面黒褐色・外側明赤褐色	白色粒子を少量含むほかシルトから細砂粒	やや良	底部は厚く仕上げる
第46回 9.4	D区	S.C.10 南西側理土	土師器	壺身	— —	— —	4.1	外面は風化し内面ナデ	内面褐色・外側赤褐色から黒褐色	砂粒から細砂粒	やや良	小片・受部は垂り出さずそのまま立ち上がる
第46回 9.5	D区	S.C.11 南側床面	土師器	輪	(12.2) —	— —	(4.5)	口縁部ナデ内面ミガキ	内外面橙色からにぶい褐色外側一部黒褐色	赤色粒子を含むほか細砂粒質	良	ほぼ完形・口縁から端部が外反する
第46回 9.6	D区	S.C.11 南側床面	土師器	輪	(12.5) —	(12.6) —	4.5	内外面ともに風化著しい	内外面ともににぶい褐色外面の一部明赤褐色	細砂粒質土	やや不良	
第46回 9.7	D区	S.C.11 北側床面	土師器	輪	13.2 —	— —	4.2	内外面ともに風化著しい	内面浅黄褐色から橙色外面にぶい赤褐色	白色粒子を少量含むほか細砂粒	やや不良	完形・底部は平ら
第46回 9.8	D区	S.C.11 北側床面	土師器	輪	14.6 8.0	— —	6.5	内外面ともに風化著しい	内面浅黄褐色から黒褐色外面にぶい橙色から黒褐色	砂粒質土	やや良	ほぼ完形
第46回 9.9	D区	S.C.11 中央床面	土師器	輪	15.8 —	— —	6.5	内外面ともに風化する外側底部に一部ケズリが認められる	内外面ともににぶい褐色	細砂粒質土	やや良	
第46回 10.0	D区	S.C.11 中央床面	土師器	輪	(13.9) —	— —	6.2	内外面ともにナデ	内外面ともににぶい褐色外側底部黒色	細砂粒質土	やや良	
第47回 10.1	D区	S.C.11 南側床面	土師器	甕	(13.6) —	— (12.9)	—	内外面口縁部ヨコナデ内面指によるケズリ外側ハケ・	内外面ともに橙色	白色粗砂粒を多く含むほか細砂粒	良	脚部内面粘土帯の聚ざめが明瞭
第47回 10.2	D区	S.C.11 北溝内	土師器	壺	9.2 —	(15.7) 7.1	—	内外面ともにやや風化する内面上半指頭圧痕	全体的に橙色口縁部の一部黒褐色	白色粒子を少量含むほかシルトから細砂粒	やや良	
第47回 10.3	D区	S.C.11 南西側床面	土師器	壺	— —	(8.6) (5.9)	—	内外面ともに風化著しい	内面にぶい黄褐色外側浅黄褐色から橙色	白色粒子を多く含むほか砂粒質土	やや良	
第47回 10.4	D区	S.C.11 北溝内	土師器	壺	8.9 —	10.1 7.9	8.9	内外面ともに風化著しい	内面にぶい褐色外側橙色から黒褐色	白色粒子を含むほか砂粒質土	やや良	ほぼ完形・脚部に黒斑
第47回 10.5	D区	S.C.12 北東側床面	土師器	輪	(10.5) —	— —	5.7	内外面ともに風化著しい	内面にぶい赤褐色外側橙色から黒褐色	小穂1点含むほか砂粒から細砂粒	やや良	口縁がやや外反する
第47回 10.6	D区	S.C.12 北東側壁溝内	須恵器	高壺	15.7 10.2	— 4.8	12.2	回転ヨコナデ調整・受け部外面下半部回転ヘラ削り後中間に波状文	全体的に青灰色から暗灰色	1cm前後の白色粒子を含むほかシルト質	良	ほぼ完形・4段透かし(台形から三角形)
第47回 10.7	D区	S.C.12 北東側壁溝内	須恵器	高壺	(14.3) 10.3	— 4.7	11.7	回転ヨコナデ調整・受け部外面下半部回転ヘラ削り後中間に波状文	内面青灰色暗青灰色外側と脚部暗灰色から暗紫灰色	白色砂粒および細砂粒を含むほかシルト質	良	ほぼ完形・4段透かし(台形)
第47回 10.8	D区	S.C.12 北東側壁溝内	土師器	壺	9.5 —	(13.6) 8.0	—	内外面ともに風化著しい	内面にぶい黄褐色外側橙色からにぶい褐色	2mm大の黒褐色粒子を含むほか細砂粒質	やや良	粘土帶の聚ざめ明瞭
第47回 10.9	D区	S.C.12 北東側壁溝内	土師器	甕	(11.4) —	19.0 11.6	—	内外面ともに風化著しい口縁部の一部ヨコナデ	内面橙色・外側橙色からにぶい赤褐色	白色粒と褐色粒子を含むほか細砂粒質	やや良	脚部から口縁にかけてすぼまる
第47回 11.0	D区	S.C.12 北東側壁溝内	土師器	甕	15.5 —	— 13.8	—	内外面ともに風化著しい	内外面ともににぶい褐色外側橙色から黒褐色	2mm前後の赤色粒を多く含むほか細砂粒質	やや良	

第47回 111	D区	SC12北東側 壁溝内	土師器	鉢	(15.9) 穴6.8	17.8 18.0	14.8	内外面ともに風化著しい	内面橙色外面にぶい黄褐色 から橙色端部の一部に黒褐色	白色粒子を含むほ か砂粒質土	やや良	底部穿孔
第47回 112	D区	SC12北東側 壁溝内	土師器	壺	(15.5) —	(18.0) (14.7)	(17.0)	内外面ともに風化著しい内面 端部の一部にケズりが認めら れる	内面橙色から褐灰色外面橙 色から赤褐色	白色砂粒を多く含 む外細砂粒	やや良	
第48回 113	E区	SC15	須恵器	壺身	(12.1) —	受部径 (14.2)	5.1	口縁内外面と内面回転ヨコナ デ見込み一方向のナデ外面天 井回転ヘラケズリ右回り	内面ともに灰白色	黒色の粒子を多く含 むか砂粒質土からシルト	やや軟 質	
第48回 114	E区	SC15西側床 面	土師器	鉢	(9.9) 5.7	10.7 —	5.9	内外面口縁ヨコナデ・内面左 上方向に粗いケズリ	内面ともにぶい橙色	白色砂粒を含むほ か砂粒質土	やや良	口縁内傾し、平底
第48回 115	E区	SC15北側床 面	土師器	鉢	10.6 —	11.9 11.6	9.0	口縁内外面ともにヨコナデ・ 洞部内面ケズリ外面ミガキ?	内面底部灰色ほかにぶい橙 色外面にぶい黄褐色	全体を通して細砂 粒質土	良	完形
第48回 116	E区	SC15北東側 床面	土師器	壺	11.1 —	—	5.9	内外面とも口縁ナデ後内面暗 款・外面ミガキ	内面にぶい橙色外面橙色か らにぶい橙色	全体を通して細砂 粒質土	良	ほぼ完形
第48回 117	E区	SC15北側床 面	土師器	壺	11.9 —	11.9 11.7	5.8	内外面とも口縁ナデ内面工具 によるミガキ底部に工具痕あ り・外画ケズリ後ナデ?	内面にぶい褐色外面橙色か らにぶい褐色	全体を通して細砂 粒質土	良	完形・崩部上半から外 反する
第48回 118	E区	SC15北側壁 溝	土師器	鉢	(13.8) —	15.9 —	10.3 ~ 10.7	内外面ともにナデ	内面橙色外面にぶい橙色か らにぶい黄褐色で青黒色周 囲	赤色粒を少量含む ほかシルトから細 砂粒質土	良	壺の作りかけが崩部の 途中で仕上げ端部はや や歪む
第48回 119	E区	SC15北東側 コーナー床面	土師器	鉢	10.8 —	10.7 10.5	6.7	内面脚部上半外面口縁ヨコナ デ・内面放射状に工具あり	内面にぶい褐色口縁部から 外面橙色	白色粒子が目立つ ほか砂粒質土	やや良	完形・口縁外反する
第48回 120	E区	SC15西側床 面	土師器	鉢	7.8 6.4	8.7 —	4.3	口縁外面ナデ内面指頭圧痕	内面にぶい橙色外面にぶい 黄褐色	細砂粒からシルト 質	良	ほぼ完形・口縁やや内 傾し平底
第48回 121	E区	SC15北側壁 溝	土師器	壺	15.2 —	19.9 14.9	—	口縁内外面ともヨコナデ内面 削り外面工具による縦方向の 調整	内面にぶい黄褐色外面にぶい 黄褐色からにぶい赤褐色	細砂粒質土	やや良	崩部外面二次焼成
第48回 122	E区	SC15北側壁 溝	土師器	鉢	(15.4) —	16.0 14.8	14.8	内外面ともに口縁ヨコナデ外 面脚部ハケ内面崩部ケズリ	内面にぶい橙色外面にぶい 橙色と青黒色	赤色粒を所々含む ほかシルトから細 砂粒質土	やや良	崩部外面と底部に黒斑 あり
第48回 123	E区	SC15北側壁 溝	土師器	壺	(13.4) —	(11.7) —	—	内外面ともに風化著しいが崩 部内面にケズリの痕跡を残す	内面にぶい赤褐色外面にぶい 赤褐色から明赤褐色	赤色粒を含むほか 細砂粒質土	やや不 良	
第48回 124	E区	SC15北東側 コーナー壁溝	土師器	壺	13.3 —	17.7 12.2	17.6	内外面ともに風化著しく表面 が剥がれる内面は左上方向の ケズリ	内面明褐色から黒褐色外 面橙色から黒褐色	橙色から赤色粒を 含むほか細砂粒質 土	やや良	
第48回 125	E区	SC15北東側 コーナー壁溝	土師器	壺	14.6 —	22.5 13.3	29.2	内外面ともに口縁ナデ・内面 ケズリ	内面下半にぶい橙色上半褐 色外面褐色から黒褐色	全体的に細砂粒質 土	やや良	ほぼ完形・崩部・二次焼 成
第49回 126	E区	SC15西側壁 溝内	土師器	土玉	外径 1.2	孔径 0.2	0.8	指で丸め、針状工具で穿孔	赤褐色	細砂粒質土	やや良	
第49回 127	E区	SC15西側壁 溝内	土師器	土玉	外径 1.1	孔径 0.2	0.9	指で丸め、針状工具で穿孔	にぶい橙褐色	細砂粒質土	やや良	
第49回 128	E区	SC15西側壁 溝内	土師器	土玉	外径 0.9	孔径 0.1	0.8~ 0.5	指で丸め、針状工具で穿孔	にぶい橙褐色	細砂粒質土	やや良	
第49回 129	E区	SC15西側壁 溝内	土師器	土玉	外径 0.8	—	1.0	指で丸め、針状工具で穿孔	にぶい橙褐色	細砂粒質土	やや良	
第49回 130	E区	SC15西側壁 溝内	土師器	土玉	外径 1.0	—	1.0	指で丸め、針状工具で穿孔	にぶい褐色	細砂粒質土	やや良	
第49回 131	E区	SC15西側壁 溝内	土師器	土玉	外径 0.75	孔径 0.1	0.95	指で丸め、針状工具で穿孔	にぶい橙褐色	細砂粒質土	やや良	
第49回 132	E区	SC15西側壁 溝内	土師器	土玉	外径 1.0	孔径 0.1	0.75	指で丸め、針状工具で穿孔	赤褐色	細砂粒質土	やや良	
第49回 133	E区	SC15西側壁 溝内	土師器	土玉	外径 1.0	孔径 0.1	1.8	指で丸め、針状工具で穿孔	赤褐色	細砂粒質土	やや良	長椭円形
第49回 134	E区	SC15西側壁 溝内	土師器	土玉	外径 0.7	孔径 0.1	1.45	指で丸め、針状工具で穿孔	橙褐色	細砂粒質土	やや良	長椭円形
第49回 135	E区	SC15西側壁 溝内	土師器	壺	(12.2) —	(12.8) 11.9	—	内外面ともに風化著しい	内面にぶい黄褐色から橙色 外面にぶい褐色から明赤褐色	赤褐色粒を含むほ か細砂粒質土	やや良	一部端部に丸い段を有 し外反する
第49回 136	B区	SC18北東側 埋土中層	土師器	脚付壺	13.6 —	— 3.3	—	内外面ともに風化著しい内 面一部ミガキ	内面橙色外面浅黄褐色	白色粒子を少量含 むほか細砂粒質土	やや良	口縁から崩部は外反す る・中段は段を有さない
第49回 137	B区	SC18北側壁 溝内	土師器	壺	(12.8) —	— 14.8	5.9	内外面ともに丁寧なミガキ	内外面ともに風褐色	シルト質	良	口縁は大きく内傾する
第49回 138	B区	SC18北側壁 溝内右	土師器	壺	17.0 —	21.4 15.3	26.3	内外面ともに口縁ナデ内面ヨ コ方向にケズリ外面工具によ る縦方向の粗い調整	内面にぶい黄褐色から橙色 外面にぶい橙色～暗褐色	2mm前後の赤褐色 粒を多く含むほか 細砂粒質土	やや良	ほぼ完形・崩部下半に 最大形・二次焼成

第49回 139	B区	S C 1 9 北側壁 溝内左	土師器	甕	15.8 -	22.6 13.0	31.0	内外面ともにやや風化する外 面一部にハケ	内面にぶい黄褐色口縁から 外面赤褐色～極暗赤褐色	細砂粒を所々含む ほか細砂粒質土	やや良	ほぼ完形・長胴・二次焼 成
第49回 140	B区	S C 1 9 西から 南西側床面	土師器	甕	(15.0) -	13.7 12.6	-	内外面ともにやや風化する	内面橙色外面赤色からにぶ い赤褐色一部褐灰色	白色の小礫を少量 含むほか細砂粒質	やや良	胴部は黒斑が認められ る
第49回 141	B区	S C 2 1 西側壁 溝内	土師器	甕	(12.9) -	(13.4) (11.2)	-	内外面ともに風化著しい	内面にぶい橙色から灰褐色 外面橙色から赤色	白色粒子を含むほ か細砂粒質土	やや良	
第50回 142	G区	S C 2 4 北東側 埋土中	土師器	高杯	(15.2) -	二	-	内外面ともにやや風化する	内外面ともに橙色	細砂粒質土	やや良	受部の段やや明瞭
第50回 143	G区	S C 2 8 b 北東 側壁溝内	土師器	甕	(14.5) -	16.2 12.8	15.5	内外面ともに風化著しい内面 底部粗いケツリ	内面橙色から暗褐色外面灰 褐色から赤褐色	砂粒から細砂粒	やや良	底部二次焼成
第50回 144	G区	S C 2 8 b 北東 側壁溝内	土師器	手捏土器	6.3 1.8	6.3 -	4.9	口縁部外面ナデ内面指頭圧並 外面工具による粗い調整	内外面ともに底端褐灰色か らにぶい橙色	細砂粒質土	良	
第50回 145	H区	S C 3 0 南東側 壁溝	土師器	甕	12.8 -	13.3 -	5.4	内面ミガキ外面やや風化する	内面灰褐色外面橙色から黒 褐色一部灰色	砂粒から細砂粒	良	ほぼ完形
第50回 146	H区	S C 3 2 南西側 床面	須恵器	高杯	(10.0) -	受部径 (12.3)	-	内面と外面上半回転ヨコナ デ・外面下半回転ヨコナ	内外面ともに灰色	黒色粒白色粒を少 量含むほかシルト質 土	良	たちあがりがやや内傾 し端部に段を有す・脚 部3方透かし
第50回 147	H区	S C 3 3 南西側 コーナー付近床 面	土師器	甕	(13.0) -	15.1 -	6.7	内外面ともにやや風化する 部ミガキ	内面にぶい黄褐色からにぶ い橙色外面にぶい褐色～青 黒色	赤色粒を含むほか 砂粒質	やや良	ほぼ完形・口縁は大き く内傾する
第50回 148	H区	S C 3 3 中央床 面	土師器	甕	14.4 -	15.5 -	5.5	内外面とも風化著しい	内面明赤褐色外面赤褐色に ぶい褐色・青黒色	白色砂粒を含むほ か細砂粒質土	やや不 良	口縁はやや内傾する
第50回 149	H区	S C 3 3 南西側 埋土	土師器	甕	(13.5) -	14.7 -	-	内外面ともにやや風化する一 部ミガキ	内面橙色外面にぶい褐色で 一部黒色	金雲母が目立つほ か細砂粒質土	やや良	口縁はやや内傾する
第50回 150	H区	S C 3 3 中央床 面	土師器	甕	(14.8) -	(15.6) -	5.0	内外面ともに風化著しい	内面にぶい褐色から赤褐色 外面橙色から青黒色	白色砂粒を少量含 むほかシルトから 細砂粒質土	やや不 良	口縁はやや内傾
第50回 151	H区	S C 3 3 北側床 面	土師器	甕	13.0 -	13.6 -	-	内面ミガキ外面細かいハケ	内面赤色外面赤褐色	白色小礫を少量含 むほかシルトから 細砂粒	やや良	端部は尖っているため はとんど摩滅する
第50回 152	H区	S C 3 3 中央床 面	土師器	甕	12.2 -	13.0 -	5.7	内面ミガキ外面粗いハケ状の 痕跡有り	内面明赤褐色からにぶい黃 褐色外面赤褐色から橙色	全体的に細砂粒質 土	良	やや肉厚
第50回 153	H区	S C 3 3 南側床 面	土師器	甕	12.8 -	13.5 -	6.3	内面ミガキ外面口縁下部に 粗いハケ	内外面ともに明赤褐色	5mm大の礫を1点 含むほか細砂粒質土	良	
第50回 154	H区	S C 3 3 北側× マル埋土内	土師器	甕	(13.8) -	(14.0) -	4.3	内外面ともにやや風化する口 縁部ナデ	内面赤褐色から暗赤褐色外 面赤褐色一部黒褐色	細砂粒質土	良	
第50回 155	H区	S C 3 3 西側床 面	土師器	甕	(13.5) -	二	4.9	内外面ともにやや風化する	内外面ともに赤褐色からに ぶい褐色	所々粗砂粒小礫を 含むほか細砂粒質土	やや良	
第50回 156	H区	S C 3 3 南側床 面	土師器	甕	(13.6) -	(14.0) -	5.8	内面ミガキ外面ナデ	内外面ともに明赤褐色	シルトから細砂粒 質土	良	全体的にやや肉厚
第50回 157	H区	S C 3 3 南西側 壁溝内	土師器	甕	(14.9) -	15.0 14.8	5.9	内外面とも風化著しい	内外面とも橙色からにぶい 褐色	砂粒から細砂粒	やや不 良	器壁薄く口縁加意状に 外反する
第50回 158	H区	S C 3 3 北側埋 土	土師器	甕	(10.8) -	11.0 10.8	6.3	内面やや風化する外面ミガキ	内面にぶい黄褐色外面に ぶい黄褐色と褐色と青黒色	褐色粒子を含むほ か細砂粒質土	良	口縁端部外反
第50回 159	H区	S C 3 3 南側床 面	土師器	甕	12.2 -	二	5.3	内外面ともに風化著しい	内面赤黒色から橙色外面 暗赤褐色から暗褐色	白色砂粒を含むほ かシルトから細砂粒 質土	やや不 良	ほぼ完形・口縁如意状 外反する
第50回 160	H区	S C 3 3 南側壁 溝内	土師器	甕	(11.2) -	二	6.3	内外面ともに口縫ナデほかミ ガキ	内面明赤褐色外面にぶい赤 褐色	シルトから細砂粒 質土	良	底部厚く口縁外反する
第50回 161	H区	S C 3 3 東側床 面	土師器	甕	(15.0) -	14.8 14.0	6.8	内外面ともに口縫ナデ内面暗 部外面風化している一部ミ ガキ	内面橙色外面褐色から浅黃 褐色底部黒色	褐色粒を含むほ か細砂粒質土	良	口縁つよく外反する、 底部に黒斑
第51回 162	H区	S C 3 3 東側壁 溝内	須恵器	坏蓋	12.6 -	つまみ径 3.2	5.0	口縁内外面回転ヨコナデ見込 不定方向ナデ外面天井ヘラケ ズリ右回転	内面暗紫灰色外面青灰色	白色の砂粒を含む ほかシルトから細 砂粒質土	良	完形・体部と天井部の 境に裁い縫を有す。
第51回 163	H区	S C 3 3 中央床 面	須恵器	坏蓋	(12.6) -	二	4.2	内面と外面口縫回転ヨコナデ 外面天井ヘラケズリ	内面青灰色外面青灰色から 暗青灰色断面紫灰色	砂粒を少量含むほ かシルトから細砂 粒	良	体部と天井部の境に裁 い縫を有す
第51回 164	H区	S C 3 3 中央床 面	須恵器	坏身	(10.8) -	受部径 (13.6)	4.4	内面と外面口縫回転ヨコナデ 調整外面底部ヘラケズリ	内面暗青灰色外面暗青灰色 から青灰色	細砂粒からシルト 質	良	1/2・たちあがりは発 達し内傾する・端部は 段を有す
第51回 165	H区	S C 3 3 南側床 面	土師器	真杯	(14.7) -	二	-	内外面とも風化著しい	内面明赤褐色外面橙色から 赤褐色口縁の一部暗赤褐色	白色粒子を所々含 むほか細砂粒質	やや良	受部中段を有す
第51回 166	H区	S C 3 3 南側床 面	土師器	真杯	(17.4) -	二 2.6	(11.7)	内外面ともやや風化する	受部内面明赤褐色ほか橙色 からにぶい褐色一部灰褐色	2mm大の白色粒子 を含むほか細砂粒 質	やや良	受部は段を有し脚部の 段はあまり、3方に円 形の穿孔

第51回 1.6.7	H区	SC 3.3 北東側 壁土	土師器	鉢	—	—	—	内面上方向にケズリ外面粗い ハケ状の調整	内面橙色外面橙色で一部褐 灰色	3mm大の赤色粒子 を含むほか細砂粒 質土	やや良	底部は穿孔	
第51回 1.6.8	H区	SC 3.3 東側床 面	土師器	鉢	(27.1) —	—	(11.4)	口縁部ヨコナデ内面工具もし くは指によるケズリ	内面浅黄橙色からにぶい褐 色外面橙色から一部褐灰色	赤色粒子を少量含む ほか砂粒	やや良	やや大型で口縁端部は やや尖らせる	
第51回 1.6.9	H区	SC 3.3 南側床 面	土師器	壺	17.6 —	—	15.0	—	内外面ともやや風化する口縁 部一部ナデ内面胴部ケズリ	内面浅黄橙色から褐色外面 にぶい褐色から橙色	3~5mm大の赤色 粒子を含むほか砂 粒質土	やや良	頸部から口縁にかけて 丸く外反する
第51回 1.7.0	H区	SC 3.4 北東側 壁土内	土師器	鉢	(15.4) —	15.0	—	5.8	内面放射状に暗紋が認められ る外面ヨコ方向に細かいハケ	内外面ともにぶい赤褐色が ら橙色	シルトから細砂粒 質土	良	口縁部はやや内傾する
第51回 1.7.1	H区	SC 3.4 北東側 壁土内	土師器	手捏土器	4.9 3.8	5.9	5.9	口縁部つまみながら整形内面 階でナデ上げる	内面灰褐色外面橙色から褐 灰色と青黒色	細砂粒質土	良	底部から胴部にかけて 黒斑	
第51回 1.7.2	H区	SC 3.5 北東側 壁土	須恵器	环蓋	(14.2) —	—	—	内面と口縁部回転ヨコナデ・ 天井外面丁寧なへラ削りだが 風化している	内面青灰色外面灰白色から 暗灰色	細砂粒質土	やや良	全体と天井部の境に明 瞭な稜を有す・天井部 はほぼ平ら	
第51回 1.7.3	H区	SC 3.5 北西側 壁溝内	土師器	壺	(13.5) —	14.2	—	5.5	内外面ともやや風化する	内面赤色外面赤褐色から橙 色	全体的に細砂粒質 土	やや良	ほぼ完形だが端部が風 化する
第51回 1.7.4	H区	SC 3.5 北東側 壁溝内	土師器	手捏土器	5.8 —	6.9	—	4.8	土を適当に貼付け中を抜り指 頭圧痕で整形している	内面浅黄橙色から橙色外面 橙色	黒色や白色の砂粒 を含むほか細砂粒 質土	やや良	
第51回 1.7.5	H区	SC 3.5 北東側 壁溝内	土師器	手捏土器	5.4 —	—	—	2.6	内面の中心からナデあげる	内面明褐色から灰色外面 浅黄橙色から橙色	砂粒から細砂粒	やや良	
第51回 1.7.6	H区	SC 3.6 床面	須恵器	壺	—	—	—	—	外面平行叩き・直状圧痕	内外面とも青灰色	シルト質土	良	小片
第51回 1.7.7	H区	SC 3.6 床面	須恵器	高杯	—	—	—	—	外面横2条の下は波状文でさ らに下面は回転カキメ	内面灰白色外面暗灰色	細砂粒質土	やや良	小片
第51回 1.7.8	H区	SC 3.6 床面	土師器	鉢	(11.0) —	(12.6) —	—	—	内外面とも風化著しい	内面浅黄橙色から褐色外面 明赤褐色から暗赤褐色	砂粒から細砂粒	やや良	口縁内側底部二次焼成
第51回 1.7.9	H区	SC 3.6 床面	土師器	壺	(11.4) —	10.2	—	—	内外面ともに口縁ナデ内面胴 部ケズリ外面胴部粗いハケ	内面橙色外面明赤褐色	砂粒から細砂粒	やや良	
第51回 1.8.0	H区	SC 3.6 床面	土師器	壺	(16.0) —	(13.8) —	—	—	口縁部ヨコナデ・内面左上方 に向粗い削り	内面ともにぶい黄橙色	赤色粒子を所々含 むほか細砂粒質土	やや良	
第52回 1.8.1	H区	SC 3.8 北側壁 溝内	土師器	壺	12.3 —	13.5 —	6.6	—	内外面ともやや風化するが内 面ミガキと考えられる	内面橙色外面橙色から淡橙 色一部に青黒色	白色粒セラミック粒 を含むほか細砂粒 質土	やや良	ほぼ完形
第52回 1.8.2	H区	SC 3.8 南東側 壁溝内	土師器	壺	(13.0) —	(13.4) —	(5.5)	—	内外面ともに風化著しい	内面ともに黄橙色	3mm前後の赤色粒 を多く含むほか細 砂粒質土	やや不 良	
第52回 1.8.3	H区	SC 3.8 南東側 壁溝内	土師器	壺	11.5 —	12.8 —	5.6	—	内外面ともに風化著しい	内面明赤褐色外面橙色から 浅黄橙色	赤色粒子を含むほか 細砂粒質土	やや不 良	口縁大きく内傾する
第52回 1.8.4	H区	SC 3.8 北側壁 溝内	土師器	手捏土器	6.5 —	—	4.3	—	内面指頭圧痕	内面にぶい褐色外面にぶい 褐色で底部青黒色	砂粒から細砂粒	やや良	
第52回 1.8.5	H区	SC 3.8 南西側 壁溝内	須恵器	壺	—	—	—	—	外面格子目叩き後回転カキ 目・内面同心円圧痕	内外面ともにぶい黄橙色	細砂粒からシルト質	やや良	小片
第52回 1.8.6	H区	SC 3.8 北西側 床面	土師器	壺	15.4 —	13.7 —	—	—	口縁部ヨコナデ内面ヨコ方向 にケズリ外面削りにハケ	内外面ともに灰白色から暗 青灰色	白色粒や金雲母を 多く含むほか砂粒 質土	やや不 良	
第52回 1.8.7	H区	SC 3.8 北西側 床面	土師器	壺	12.1 —	17.0 12.3	18.3	—	口縁内外面ヨコナデ内面胴部 土方向のケズリ外面ハケ	内面にぶい橙色～褐灰色外 面橙色から黒褐色	砂粒から細砂粒	やや良	頸部から口縁にかけて ややすばまる
第52回 1.8.8	H区	SC 3.8 南側床 面	土師器	壺	13.9 —	16.3 12.4	14.0	—	内外面ともやや風化するが内 面丁寧なケズリ	内面にぶい黄橙色から黒褐 色外面にぶい橙色から黒褐 色	赤色粒子を少量含む ほか砂粒質土	やや良	完形
第52回 1.8.9	H区	SC 3.8 北側壁 溝内	土師器	壺	(10.4) —	13.4 9.9	12.3	—	口縁部ヨコナデ内面ケズリ外 面底不定方向のハケ外面胴 部風化する	内面灰黃褐色から黒褐色外 面にぶい橙色からにぶい赤 褐色	小礫を所々含むほ か細砂粒質土	やや不 良	外底底部黒色で二次燒 成
第52回 1.9.0	H区	SC 3.9 北西側 壁土	須恵器	壺	—	—	—	—	外面平行叩き後回転カキ目・ 内面同心円圧痕端部にナデ	内外面ともに灰白色	細砂粒質土	やや良	小片
第52回 1.9.1	H区	SC 3.9 南西側 壁溝内	土師器	鉢	11.6 6.0	—	5.6	—	内外面ともに風化する	内外ともにぶい黄橙色	褐色粒を多く含む ほか細砂粒質土	やや良	半底で胴部はやや外 直行し端部は尖る
第52回 1.9.2	H区	SC 4.2 北東側 壁土	土師器	壺	—	—	—	—	内外面ともやや風化する	内面橙色外面浅黄橙色と黑 色	白色粗砂粒を含む ほか砂粒質土	やや良	
第52回 1.9.3	H区	SC 4.4 壁溝内	須恵器	环蓋	—	—	—	—	口縁部内外面ともに回転ヨコ ナデ	内面灰白色外面灰白色	黒色粒子を含むほ かシルト質土	やや良	小片・端部は段を有す
第52回 1.9.4	I区	SC 4.6 A 壁溝 内	土師器	鉢	13.4 —	—	6.3	—	内外面ともに風化著しい	内外面ともに橙色外面の一 部灰色	2mm程度の赤色粒 白色粒を含むほか 細砂粒	やや不 良	ほぼ完形・口縁や外 反

第52回 195	I 区	S C 4.8 南東側 壁溝内	須恵器	坏身	(12.4) —	受部斜 (14.5)	—	口縁内面回転ヨコナデ外面天 井部回転ヘラケズリ	内面灰白色外面灰白色から 暗青灰色	白色砂粒を少量含 むほかシルト質土	やや良	端部は丸くおさめる
第52回 196	I 区	S C 4.8 南西側 壁溝内	土師器	甕	(10.8) —	(10.6) (9.8)	—	内外面ともやや風化する内面 胴部ケズリ	内面にぶい橙色外面赤褐色	細砂粒質土	やや良	
第53回 197	H 区	S C 4.1 南側壁 溝内	土師器	甕	(23.8) —	(33.2) (18.4)	(34.3)	内外面ともやや風化するが内面 胴部丁寧なケズリ外面胴部一帯にハケ目が認められる	内外面ともにぶい黄褐色	赤色粒子を少量含 むほか細砂粒質土	やや良	端部から口縁にかけて なく外反し、端部下端 がシャープ
第53回 198	H 区	S C 4.1 南側壁 溝内	土師器	甕	(22.9) —	(22.0) (19.7)	16.1	口縁部ヨコナデ内面胴部左上 方向のケズリ外面胴部ハケ	内外面にぶい褐色一部青褐色	赤色粒子を少量含 むほか細砂粒質土	やや良	口縁が外反する
第53回 199	H 区	S C 4.1 壁溝内	須恵器	甕	— —	— —	—	外面平行叩き後回転カキ目・ 内面同心円文柱底	内外面とも暗青灰色	白色粗砂粒を少量含 むほか細砂粒質土	やや良	小片
第53回 200	H 区	S C 4.1 南側壁 溝内	土師器	甕	(9.0) 4.0	9.8 —	7.6	内外面ともやや風化する	内面にぶい橙色外面橙色が らにぶい褐色	褐色粒子を含むほ か砂粒から細砂粒 質土	やや良	
第54回 201	I 区	S C 5.2 南側壁 土内	須恵器	坏身	12.0 —	受部斜 14.9	5.6	内面外面上半部回転ヨコナ デ・外面底部左回りの回転ヘ ラケズリ	内外面ともに青灰色	砂粒を少量含むほ かシルトから細砂 粒	良	端部内面に沈縫状の段 を有す
第54回 202	I 区	S C 5.2 墓土	須恵器	坏身	(11.8) —	受部斜 (14.8)	4.9	内面と外面上半回転ヨコナデ 見込一方向のナデ外面底部右 回りの回転ヘラケズリ	内面青灰色外面灰色から暗 灰色断面紫褐色	黑色粒子が目立つ ほか細砂粒土	やや良	
第54回 203	I 区	S C 5.2 墓土	須恵器	坏身	(14.0) —	受部斜 (17.2)	—	回転ヨコナデ	たちあがりと内面青灰色外 面にぶい褐色	白色粒が目立つほ かシルト質土	やや良	
第54回 204	I 区	S C 5.2 墓土	須恵器	坏身	(12.0) —	受部斜 (14.3)	—	回転ヨコナデ	たちあがりと内面青灰色外 面灰黄色断面明紫褐色	黑色粒子が目立つ ほか細砂粒土	やや良	
第54回 205	I 区	S C 5.2 北西側 床面	土師器	甕	(10.6) —	(11.0) —	6.0	内外面ともに風化著しい	内面黒褐色外面赤色から赤 褐色	白色粗砂粒を含む ほか砂粒質土	やや良	
第54回 206	I 区	S C 5.2 西側壁 溝内	土師器	甕	12.4 —	12.7 —	(5.0)	内外面とのやや風化する	内面赤色外面赤から橙一 部暗青灰色	白色粒を含むほ かシルトから細砂粒 質土	やや良	
第54回 207	I 区	S C 5.2 南側壁 土内	土師器	甕	(12.8) —	(13.7) —	(5.4)	内外面ともに風化著しい	内外面ともに浅黄色から ぶい褐色	白色粒や赤色粒を 含むほか細砂粒質土	やや不 良	
第54回 208	I 区	S C 5.2 北西側 壁溝内	土師器	甕	(13.2) —	(13.5) —	(4.9)	内外面とのやや風化する	内面赤褐色外面赤褐色から 暗灰色	白色粒や赤色粒を 含むほか細砂粒質土	やや良	
第54回 209	I 区	S C 5.2 墓土	土師器	甕	(12.8) —	(13.4) —	(5.4)	内外面とのやや風化する内面 一部ミガキ	内外面ともに褐色外面口縁 部の一部青黒色	細砂粒質土	やや良	
第54回 210	I 区	S C 5.2 南西側 理土	土師器	高杯	(15.5) —	— 3.2	—	口縁部ナデ内面ミガキほかや り風化する	内外面ともに赤褐色から暗 赤灰色外面一部橙色	シルトから細砂粒 質土	やや良	口縁は大きく外反し段 なし基部は筒状で開く
第54回 211	I 区	S C 5.2 北側壁 溝内	土師器	高杯	(15.6) —	— —	—	内外面とのやや風化する	内外面ともに黄褐色	赤色粒を少量含む ほか細砂粒質土	やや良	受部・段を有し口縁直 行する
第54回 212	I 区	S C 5.2 墓土	土師器	甕	(12.9) —	— (11.3)	—	口縁部ヨコナデ胴部内面ケズ リ外面やや風化する	内面にぶい褐色から灰褐色 外面褐色から浅黄褐色	赤色粒白色粒を少 量含むほか細砂粒 質土	やや良	
第54回 213	I 区	S C 5.2 南西側 理土	土師器	甕	(13.0) —	— (11.3)	—	口縁部の一部ナデが認められ るほか内外面とのやや風化す る	外面ともにぶい褐色から ぶい褐色	3mm前後の赤色粒 白色粒を多く含む ほか細砂粒	やや良	
第54回 214	I 区	S C 5.2 墓土	土師器	手型土器	3.8 1.9	— —	2.3	内外面ともに指頭圧痕	内外面ともに褐色から淡褐色	赤色粒白色粒を少 量含むほか細砂粒 質土	やや良	完形
第54回 215	I 区	S C 5.2 南東側 壁溝内	土師器	甕	14.4 —	29.9 13.7	28.6	内外面ともに口縁部ヨコナデ 胴部内面ヨコから右上方向に ケズリ外面ハケ	内面褐色外面赤褐色から ぶい赤褐色一部黒色	白色粗砂粒を含む ほか砂粒質土	やや良	ほぼ完形胴部に四角く 黒斑が認められる
第55回 216	I 区	S C 5.1 B 南東側 床理土	土師器	甕	(13.0) —	— (10.9)	—	内外面ともに風化著しい	内面淡黄色から黒褐色外面 にぶい褐色から褐灰色	赤色粒白色粒を少 量含むほか砂粒質土	やや良	
第55回 217	I 区	S C 5.1 B 南西側 床面	土師器	甕	(13.5) —	(14.2) —	5.8	内外面ともに風化著しい	内外面ともに赤褐色から赤 黒色	細砂粒質土	やや良	
第55回 218	I 区	S C 5.1 B 北西 側理土	土師器	高杯	(15.4) —	— —	—	内外面とのやや風化する	内外面ともに椎色	細砂粒質土	やや良	受部片・中段を有し口 縁外反する
第55回 219	I 区	S C 5.3 西側壁 溝内	須恵器	坏身	(11.7) —	受部斜 (13.8)	(5.6)	内面と外面上半部回転ヨコナ デ・外面下半回転ヘラケズリ	内外面ともに灰褐色	シルトから細砂粒 質土	やや良	
第55回 220	I 区	S C 5.3 西側壁 溝内	土師器	甕	(12.8) —	— —	5.4	内外面ともに風化著しい	内面にぶい黄褐色外面橙色 口縁部の一部に黒褐色	白色粗砂粒を含む ほか細砂粒質土	やや良	口縁が如意状に外反す る
第55回 221	I 区	S C 5.3 墓埋土	土師器	甕	(14.5) —	— 13.0	—	内外面とのやや風化する内面 頸部に一部ハケが認められる	内面にぶい黄褐色から褐灰 色外面褐色からぶい褐色	赤色粒を少量含む ほか細砂粒質土	やや良	
第55回 222	I 区	S C 5.4 西側 コーナー床面	須恵器	坏蓋	(14.0) —	— —	4.5	内面と外面下半回転ヨコナ デ・外面天井左回りの回転ヘ ラケズリ天井内面一方向ナデ	内面青灰色外面やや濃い青 灰色	粗砂粒を所々含む ほかシルトから細 砂粒質土	やや良	外面に「フ」字状のヘ ラ記号あり

第55回 223	I区	SC 5-4埋土	須恵器	坏蓋	(13.0) -	—	4.7	内面と外面上半回転ヨコナデ・外面上天井右回りの回転ヘラケズリ天井内面一方向ナデ	内面灰白色外面上灰白色から灰色	黑色粒子が目立つ ほか細砂粒土	やや良	
第55回 224	I区	SC 5-4埋土	須恵器	坏蓋	(13.4) -	—	—	回転ヨコナデ調整	内外面とも黄褐色から灰白色	粗砂粒を含むほか 細砂粒質土	やや良	
第55回 225	I区	SC 5-4埋土	須恵器	坏蓋	(12.2) -	—	4.4	内外面口縁回転ヨコナデ内面天井部不定方向のナデ外面上天井右回りの回転ヘラケズリ	内外面ともに青灰色	粗砂粒を含むほか 細砂粒質土	やや良	
第55回 226	I区	SC 5-4埋土	須恵器	坏蓋	(14.2) -	—	—	回転ヨコナデ調整	内外面ともに灰白色断面紫灰色	黑色粒子を多く含む ほか細砂粒質土	やや良	
第55回 227	I区	SC 5-4埋土	須恵器	坏身	(13.3) -	受部径 (15.3)	(5.0)	内面と外面上半部回転ヨコナデ見込一方向のナデ外面上天井左回りの回転ヘラケズリ	内外面ともに灰白色	黑色粒子を含むほかシルトから細砂粒質土	やや良	
第55回 228	I区	SC 5-4埋土	須恵器	坏身	11.7 —	受部径 14.0	5.7	内面と外面上半部回転ヨコナデ見込一方向のナデ外面上天井回転ヘラケズリ	内面青灰色外面上青灰色から暗灰色	黑色粒子を含むほか細砂粒質土	やや良	
第55回 229	I区	SC 5-4東側床面	土師器	椀	17.4 —	—	6.1	内外面ともにミガキで内面一部に磨紋が認められる	内外面ともに橙色から淡青色で外面部一部に黒色	赤色粒子を所々含むほか細砂粒質土	やや良	側面から大きく外反する・底部に黒斑
第55回 230	I区	SC 5-4東側壁溝内	土師器	高坏	(14.8) —	2.6	—	内外面ともに風化著しい	内外面ともに橙色から赤褐色	一部に小跡を含むほかシルトから細砂粒質土	やや不良	口縁は外反し、段を有さない
第55回 231	I区	SC 5-4カマド内	土師器	椀	12.8 —	13.3	4.8	内外面ともにやや風化する口縁部の一部ヨコナデが認められる	内面明赤褐色外面上赤褐色からぶい橙色	白色粗砂粒を所々含むほか細砂粒質土	やや良	ほぼ完形
第55回 232	I区	SC 5-4中央床面	土師器	椀	13.1 —	—	5.2	内面は斜めに磨紋が認められ外面部ミガキ	内面明赤褐色外面上赤褐色からぶい橙色底部黒色	白色粒子を少量含むほかシルトから細砂粒	良	完形・外面部黒斑
第55回 233	I区	SC 5-4東側壁溝内	土師器	鉢	15.5 —	15.1 14.0	11.8	口縁部ナデ脚部内面ケズリ外面上ヨコ方向に細かいハケ	内面橙色から褐色灰色外面上ぶい橙色から赤褐色	5mm以下の赤色粒子を多く含むほか細砂粒質	やや良	
第56回 234	I区	SC 5-9東側壁溝内	土師器	高坏	(15.4) —	—	—	内外面ともに表面がひび割れ状に風化する	内外面ともに橙色と黒褐色	細砂粒質土	やや良	
第56回 235	I区	SC 5-9東側壁溝内	土師器	高坏	(15.6) 11.0	— 3.2	10.5	全体的にやや表面風化する脚部内面工具によるケズリが認められる	全体的に橙色で口縁外面上褐色	砂粒から細砂粒	やや良	受部脚部とも明瞭な段を有さない
第56回 236	I区	SC 6-2北西側壁溝内	土師器	椀	13.5 —	14.5 —	6.3	内面外面上ミガキと考えられるが所々表面風化する	内外面ともに橙色で口縁部の一部青黒色	赤から褐色粒子を含むほか砂粒から細砂粒質土	良	口縁は丸く内傾する・端部は一部軽く押さえている
第56回 237	I区	SC 6-2北東側壁溝内	土師器	高坏	14.6 —	—	—	内外面ともにヨコナデが認められる	内外面ともに橙色	白色砂粒を含むほか細砂粒質	良	受部・段を有し直行する
第56回 238	I区	SC 5-5壁溝内	土師器	手捏土器	(2.8) —	(4.0) —	2.7	内面指頭圧痕外表面表面風化する	内外面ともに橙色で表面が微絶色	細砂粒質土	やや良	
第56回 239	I区	SC 6-3壁溝内	土師器	椀	(13.8) —	(14.6) —	5.6	内面外面上ミガキと考えられるが所々表面風化する	内外面ともに明赤褐色外面上部明褐灰色	赤色粒子を多く含むほか細砂粒質	やや良	
第56回 240	I区	SC 6-3壁溝内	土師器	椀	(15.0) —	(15.8) —	(5.6)	内外面ともに風化著しい	内面赤褐色から褐色灰色外面上部黒褐色	赤色粒子を少量含むほか細砂粒質土	やや不良	
第56回 241	I区	SC 6-3壁溝内	土師器	甕	13.4 —	15.3 10.9	—	口縁部ヨコナデ内面脚部下半タテ方向のケズリ上半ヨコ方向のケズリ・外面上部ハケ	内面赤色から暗赤色外面上部黒褐色	細砂粒質土	やや良	
第56回 242	I区	SC 6-8B南東側壁溝内	須恵器	坏身	(11.9) —	受部径 14.2	(4.5)	内面と外面上半部回転ヨコナデ底面部内面底部回転ヘラケズリ	内面青灰色外面上部黒褐色から暗青灰色断面紫灰色	細砂粒質土	やや良	
第56回 243	I区	SC 5-4埋土内	土師器	椀	10.9 —	—	5.5	口縁部ヨコナデ内面ミガキ外面上ケズリ後ミガキ	内外面ともに褐色からぶい赤褐色外面上部黒褐色	白色の砂粒を含むほか細砂粒	やや良	口縁外反する
第56回 244	I区	SC 6-4埋土内	土師器	椀	(11.2) —	—	5.0	内外面ともにやや風化するが一部にナデおよびミガキが確認される	内面にぶい赤褐色外面上部黒褐色	白色の砂粒を含むほか細砂粒	やや良	口縁外反する
第56回 245	I区	SC 6-4埋土内	土師器	椀	(14.6) —	(15.4) —	5.0	内外面ともにやや風化するが一部にナデ	内面橙色外面上部黒褐色	粗砂粒から細砂粒	やや良	口縫端部内傾し、やや平底
第56回 246	I区	SC 6-4埋土内	土師器	椀	(13.5) —	(14.3) —	—	内外面ともに風化著しい	内面赤褐色外面上部黒褐色底部は黒色	白色の砂粒を含むほかシルトから細砂粒	やや不良	二次焼成
第56回 247	I区	SC 6-4床面埋土	土師器	碗	12.5 —	13.3 —	5.2	内外面ともにやや風化するが一部にミガキが確認される	内面赤褐色外面上部黒褐色から黒褐色外面上部黒褐色から黒色	白色砂粒を含むほかシルトから細砂粒	やや良	口縫丸く内傾する
第56回 248	I区	SC 6-4埋土内	土師器	椀	(14.4) —	(14.8) —	—	内外面ともに風化著しい	内面橙色外面上部黒褐色から黄灰色	3mm大的セキエイ粒1点含むほか細砂粒質土	やや良	
第56回 249	I区	SC 6-4埋土内	土師器	椀	14.5 —	14.8 —	5.3	内外面ともに風化著しい	内面と外面上部明赤褐色外面上部黒褐色	細砂粒から砂粒質土	やや良	
第57回 250	I区	SC 6-4埋土内	土師器	脚付椀	14.4 外12.7	— 3.8	11.5	受部ナデおよびミガキ脚部柱部筋によるケズリ脚部柱	全体的に橙色脚部灰白色から青黒色	3mm大的赤褐色粒子を含むほか細砂粒質土	良	

第57回 25.1	I区	S C 6.4 墓土内	土師器	脚付椀	14.3 外12.7	— 3.7	11.0	受部ナデおよびミガキ脚部柱 部指頭柱痕跡ナデ	全体的に橙色脚部縦の一部 灰色	赤褐色粒子を多く 含むほか細砂粒質土	良	
第57回 25.2	I区	S C 6.4 墓土内	土師器	脚付椀	(13.3) 外10.1	— 2.9	10.0	内外面ともに風化著しい脚部 裏側はケズリ	全体的に明赤褐色脚部裏側 灰色から黒色	セキエイおよび白 色の砂粒を含むほ か細砂粒	やや良	
第57回 25.3	I区	S C 6.4 墓土内	土師器	高杯	(15.2) (11.2)	— 2.3	12.3	全体的にやや風化するが受部 脚部柱ナデ脚部の内面はヘラ 削り	全体的に橙色からにぶい赤 褐色	白色粒子を含むほ か細砂粒質土	やや良	完形・受部の段は不明 脚部ハの字に開き段 を有す
第57回 25.4	I区	S C 6.4 墓土内	土師器	高杯	(14.2) —	— 3.0	—	全体的に風化著しい	内外面ともににぶい赤褐色 から橙色口縁一部暗オリ一 ブ灰	白色粒子を含むほ か細砂粒質土	やや良	受部段を有す
第57回 25.5	I区	S C 6.4 墓土内	土師器	高杯	14.5 —	— —	—	内外面ともにヨコナデが認め られる	内外面ともに橙色と淡黄橙 色が混じる外面一部黒色	赤褐色粒子を含むほ か細砂粒質土	やや良	受部・段を有し、口縁外 反する
第57回 25.6	I区	S C 6.4 墓土内	土師器	高杯	— 10.2	— 2.7	—	全体的にやや風化するが一部 ナデが認められる	全体的ににぶい橙色から橙 色	白色砂粒を含むほ か細砂粒質土	やや良	脚部・段を有して開く
第57回 25.7	I区	S C 6.4 墓土内	土師器	壺	(11.5) —	(11.6) (11.0)	—	内外面ともに口縁ヨコナデ外 面ナデ・内面右上方向にケズ リ	内外面ともににぶい橙色	白色砂粒を含むほ か細砂粒質土	良	
第57回 25.8	I区	S C 6.4 墓土内	土師器	壺	12.0 —	12.5 10.8	—	内外面ともに口縁ヨコナデ内 面脚部ケズリ外面脚部ハケ	内面下半黒褐色上半から外 面にぶい褐色から暗赤褐色	砂粒から細砂粒質土	やや良	
第57回 25.9	I区	S C 6.4 墓土内	土師器	壺	10.2 —	12.8 9.5	15.0	内外面ともに口縁ヨコナデ内 面脚部ケズリ外面やや風化し 一部にハケ	内面にぶい褐色外面にぶい 褐色から黒褐色	白色砂粒を含むほ か細砂粒質土	やや良	ほぼ完形・脚部二次焼 成
第57回 25.0	I区	S C 6.4 墓土内	土師器	壺	(12.2) —	(13.1) (10.3)	11.6	内外面ともに風化著しい	内面褐灰色から黒褐色外面 にぶい褐色からにぶい赤褐色	白色粒子を含むほ か砂粒質土	やや良	
第57回 25.1	I区	S C 6.4 墓土内	土師器	壺	10.8 —	13.2 9.4	15.2	内面脚部ケズリ外面口縁部タ テ方向のハケ下半ヨコ方向の ハケほか風化著しい	内面灰白色から黒褐色外面 にぶい褐色赤褐色黒褐色ま まら	小礫を所々含むほ か砂粒質土	やや良	ほぼ完形・脚部二次焼 成をうける
第57回 25.2	I区	S C 6.4 墓土内	土師器	壺	(12.6) —	— (11.6)	—	口縁ナデ内面脚部ケズリ	内外面ともに赤色から暗赤 褐色断面明赤褐色	細砂粒質土	やや不 良	
第57回 25.3	I区	S C 6.4 墓土内	土師器	壺	14.4 —	— 12.5	—	内外面ともに風化著しい	内面脚部窓の有る褐色ほ か淡黄色	砂粒質土	やや良	
第57回 25.4	I区	S C 6.4 南東側 床面	土師器	壺	(15.1) —	— (14.2)	—	口縁部内面ヨコ方向の粗いハ ケ・口縁部外面ヨコ方向のナ デ	内外面ともに灰白色とぶ い褐色が混じる	白色粒子を含むほ か砂粒から細砂粒 質土	やや良	
第57回 25.5	I区	S C 6.4 南東側 床面	土師器	壺	(18.0) —	— (15.6)	—	口縁部内面ヨコ方向のナデ口 縁部外面にタテに粗いハケ	内面灰白色外面にぶい褐色	細砂粒から細砂粒	やや良	
第57回 25.6	I区	S C 6.4 墓土内	土師器	壺	14.4 —	— 13.0	—	口縁内外面ともにヨコ方向ナ デ端部内面段を有す脚部内面 ヨコ方向のケズリ	内面褐灰色から黒褐色外 面にぶい褐色から青黒色	白色粒子を多く含む ほか砂粒質土	やや良	
第58回 26.7	I区	S C 6.4 西側床 面	陶質 土器	鉢形土器	7.3 4.4	8.1 —	6.3	内外面ともに口縁ヨコナデ外 面底部から1cm幅で回転ヘラ ケズリ底部指紋と板目压痕	内外面ともに暗灰色内面底 灰色	黑色および白色の 粒子を少量含むほ かシルト質土	良	
第58回 26.8	I区	S C 6.4 墓土内	土師器	壺	23.4 —	24.9 —	21.2	口縁部内外面ともヨコナデ脚 部内面タテ方向ケズリ外面脚 部細かいハケ	内面淡い褐色から褐色外 面暗褐色から深紫褐色と黒色	砂粒から細砂粒質土	やや良	底部中心の円とそれを 囲むように7つの円で 穿孔する
第58回 26.9	I区	S C 6.4 墓土内	土師器	壺	20.8 8.2	21.0 —	19.0 ~ 18.6	口縁部内外面ともヨコナデ脚 部内面タテ方向ケズリ外面脚 部タテハケ	内外面ともに暗赤褐色外 面2ヶ所に黒褐色	白色粗粒子を含む ほか細砂粒質土	良	底部には径5cmの円 形の穿孔
第58回 27.0	I区	S C 6.4 床面埋 土	土師器	瓶取手	—	—	—	内外面ともに風化著しい	内面灰褐色外面赤褐色から 褐色	白色粗砂粒を含む ほか砂粒から細砂 粒質土	やや良	
第58回 27.1	I区	S C 6.4 墓土内	土師器	往口鉢	28.4 —	—	19.4	内面と外面底部ケズリ外面上 半工具による筋状の調整	内面灰白色から褐灰色外 面にぶい褐色から灰白色	一部に小礫を含む ほか砂粒質土	やや良	口縁外反し端部尖る一 部注口を設ける瓶取3 条の黒縫
第59回 27.2	K区	S C 7.2 北側床 面	陶質 土器	壺	18.9 —	37.8 —	46.9	口縁部回転ナデ内面丁寧なナ デ脚部外面純真文叩き底部一 部凹む	内面灰黄褐色外表面褐色か ら灰色	白色砂粒を所々含 むほかシルト質土 均質	良	
第59回 27.3	K区	S C 7.2 北側床 面	土師器	模造鏡	長径4.1 短径3.8	—	1.8	手程で粘土板を整形し中心を つまみ上げて組とし鏡状の工 具で穿孔する	表面にぶい赤褐色裏面は 褐色	砂粒から細砂粒質 土	やや良	
第59回 27.4	K区	S C 7.2 北側埋 土上層	土師器	支脚	— (8.1)	—	—	外表面タテ方向のヘラケズリと 考えられるが全体的に表面の 風化著しい	内外面ともに褐色	白色砂粒を含むほ か細砂粒質土	やや良	底部の中心に部分に (3.2cm)の穴を穿つ
第59回 27.5	K区	S C 7.2 東端工 一ナ上層	須恵器	壺身	(13.6) —	受部径 (16.0)	—	内外面ともに口縁ヨコナデ	内外面ともにぶい黄褐色	黒色の粒子を含む ほか細砂粒からシ ルト	やや良	住居址上層より出土し たため外部からの流れ 込みである
第59回 27.6	K区	S C 7.2 南側床 面	土師器	椀	12.1 —	—	6.4	内外面ともに風化著しい口縁 部の一部ヨコナデ	内外面ともに褐色外 面の一部にぶい黄褐色	赤褐色を所々含む ほか細砂粒質土	やや良	口縁外反する
第59回 27.7	K区	S C 7.2 東側床 面	土師器	手振土器	5.1 —	6.5 —	4.7	内面指による調整外 面風化著しい	内面褐灰色外表面灰白色から にぶい黄褐色	砂粒から細砂粒質 土	やや良	
第59回 27.8	K区	S C 7.2 南東側 床面	土師器	壺	12.6 —	— 11.7	—	内面脚部ケズリ外面やや風化 する肩部には6ヶ所に竹管紋 が認められる	内面口縁部断面橙色脚部周 灰褐色外表面褐色から浅黄褐色 一部青黒色	白色の砂粒を含む ほか細砂粒質土	やや良	

第60回 279	K区	SC72南側床面	土師器	壺	14.0 —	19.5 11.6	—	内面口縁ヨコ方向のハケ脚部粗いケズリ・外面部口縁部から脚部にかけて粗いハケ	内面暗赤褐色外面にぶい黄褐色から黒褐色	白色の粗粒および粒子を含むほか細砂粒質土	やや良	脚部二次焼成
第60回 280	K区	SC72南側床面	土師器	壺	(14.0) —	— (13.0)	—	内外面とも口縁部ヨコナデ内面脚部右上方向にケズリ外面部粗めにハケ	内面橙色から浅黄褐色から褐色	小穂を少量含むほか細砂粒質土	やや良	
第60回 281	K区	SC72西側床面	土師器	壺	(15.2) —	— 12.7	—	内外面ともに風化著しいが外側は口縁部から脚部にかけてハケ	内面褐色からにぶい褐色外面橙色から灰褐色一部帶状に黒色	白色の砂粒を含むほか細砂粒から砂粒	やや良	
第60回 282	K区	SC72南側床面	土師器	壺	15.5 —	— 12.2	—	内外面ともに風化著しい	内面褐灰色外面橙色から灰褐色	白色の砂粒を含むほか砂粒	やや良	
第60回 283	K区	SC72南側床面	土師器	壺	15.0 (8.2)	24.3 12.5	24.8	内面脚部下半幅の広いケズリ・上半粘土帶部外側面細かいハケが風化している	内面剥落の加減で灰白色と風化色外面橙色から灰褐色	白色の粗砂粒を多く含むほか砂粒質土	やや良	肩部に1つ突起を付ける・平底
第60回 284	K区	SC72西側床面	土師器	壺	15.4 —	— 12.5	—	内外面ともに風化するが外側口縁部から粗いハケが認められる	内外面ともににぶい黄褐色	赤色粒子を所々含むほか細砂粒質土	やや良	内面粘土帶の皺目が認められる
第60回 285	K区	SC72南西側床面	土師器	壺	11.2 —	15.5 10.2	17.3	内面口縁部ヨコナデ脚部内上面方向のヘラケズリ・外側口縁部から脚部にかけてハケ一部脚部底	内面口縁部褐色脚部にぶい褐色外面橙色と灰白色と黒褐色	砂粒から細砂粒	やや良	全体的に肉厚で重みがある底部は二次焼成が打ち欠きによる剥離
第61回 286	K区	SC72東側床面	土師器	壺	9.6 —	14.6 6.9	15.4	口縁部ヨコナデ内面ケズリ外側丁寧なナデ	内面脚部灰色内面口縁部から外面明赤褐色一部黒色	赤色粒子を若干含むほか砂粒から細砂粒	良	ほぼ完形・脚部風化
第61回 287	K区	SC72南西側床面	土師器	壺	(9.3) —	15.0 7.3	15.2	内外面ともにやや風化する外側脚部一部ハケ	脚部外面と内面口縁下半から内面浅黃褐色外側脚部で底部に赤褐色から暗赤褐色	赤色粒子と3mm大の石英粒を多く含むほか細砂粒	やや良	脚部に黒斑・底部2次焼成
第61回 288	K区	SC72西側床面	土師器	壺	(9.1) —	9.8 6.8	10.7	内外面とも風化著しいが、外側の一部にミガキが確認できる	内面明褐色外側脚部から灰白色と黒色	赤褐色と白色粒を少量含むほか細砂粒質土	やや良	
第61回 289	K区	SC72南西側床面	土師器	壺	(15.1) —	15.2 12.3	15.0	内面脚部ケズリ口縁部外側ヨコナデ内面風化著しい外側脚部ハケ	内面褐色から黒褐色外側脚部から赤褐色と黒褐色	白色粒子を含むほか細砂粒質土	やや良	底部二次焼成を受ける底部剥離する
第61回 290	K区	SC72南西側床面	土師器	壺	11.3 —	13.2 9.7	13.1	口縁部ヨコナデ・内面脚部右上方向のケズリ・外側脚部上半ハケ	内面褐色から明灰褐色外側脚部赤褐色および黒褐色	白色の砂粒を含むほか細砂粒質土	やや良	底部二次焼成を受ける
第61回 291	K区	SC72東側床面	土師器	壺	10.0 —	14.1 9.6	12.8	内外面ともに風化著しい・外側脚部の一部に細かいハケ	内外面ともににぶい黄褐色外側脚部黒色	白色の粗砂粒を含むほか砂粒	やや良	ほぼ完形・脚部に黒斑
第61回 292	K区	SC72南東側床面	土師器	壺	11.2 —	13.3 9.6	13.2	内外面とも風化著しい脚部に一部ヨコナデ	内面灰白色外側脚部と浅黃褐色が混じ一部灰色	赤色粒子と粗砂粒を一部含むほか砂粒質土	やや良	一部に黒斑
第61回 293	K区	SC72西側床面	土師器	壺	9.8 —	11.0 8.5	10.7	内外面ともに風化著しい	内面褐色から灰褐色外側脚部上半が褐色で上半部灰色底部一部に明赤褐色	石英の粗砂粒を多く含むほかシルトから細砂粒質土	やや不良	底部二次焼成
第61回 294	K区	SC72東側床面	土師器	壺	(9.1) —	9.8 8.0	—	内外面ともに風化著しいが内側に粗いケズリと外側脚部の一部にヨコナデが認められる	内面浅黃褐色からにぶい黄褐色外側脚部から浅黃褐色で対角状に暗灰褐色	白色の砂粒を多く含むほか細砂粒質土	やや良	
第61回 295	K区	SC72東側床面	土師器	壺	(6.8) —	9.1 6.0	8.9	口縁部外側面ともにヨコナデ内面ケズリ外側脚部細かいハケ	内外面ともに明赤褐色で脚部の一部灰色	シルトから細砂粒質土	やや良	
第61回 296	K区	SC72北東側埋土	土師器	壺	(7.5) —	(9.0) (7.1)	8.0	口縁部外側ヨコナデ内面ハケ内面脚部粗いケズリ外側指印による整形	内面黒褐色外側脚部と橙色からにぶい褐色	3mm大の赤色粒子を所々含むほか細砂粒質土	良	
第61回 297	K区	SC72東側床面	土師器	壺	7.1 —	9.1 6.3	8.5	口縁部内外面ともにヨコナデ内面脚部ケズリ外側底部と脚部の一部にハケがやや風化する	内面全体黒褐色外側脚部からにぶい赤褐色底部の一部黒褐色	2~5mm大の赤色粒子を含むほか細砂粒質土	良	ほぼ完形
第61回 298	K区	SC72南東側床面	土師器	壺	6.3 —	8.9 5.9	8.2	内外面ともにやや風化するが外側脚部粗いハケ	内面脚部黒褐色口縁部と外側脚部赤褐色で脚部の一部黒褐色	細砂粒質土	やや良	
第61回 299	K区	SC72西側下層	土師器	壺	(9.0) —	8.4 7.6	7.3	内外面ともに風化著しい口縁外側ヨコナデが認められる	内面黒色から赤褐色外側脚部赤褐色	細砂粒質土で一部に砂粒質土	やや良	
第61回 300	K区	SC72南側床面	土師器	壺	7.1 —	8.7 6.4	8.5	内面脚部一部ケズリが認められるがその他風化著しい	内面一深褐色外側脚部赤褐色で脚部の一部黒褐色	白色砂粒を少量含むほか細砂粒質土	やや良	完形
第61回 301	K区	SC72北東側床面	土師器	壺	5.0 —	7.6 5.1	7.5	内外面ともに風化著しい外側脚部の一部に粗いハケが認められる	内面橙色外側脚部からにぶい黄褐色脚部下半一部黒色	白色砂粒を多く含むほか細砂粒質土	やや良	ほぼ完形・一部黒斑
第61回 302	K区	SC72南東側床面	土師器	壺	6.3 —	6.3 4.7	7.2	内外面ともに風化する	内外面ともににぶい橙色外側脚部黒色	褐色や白色の粒子を所々含むほかシルトから細砂粒質土	やや良	
第62回 303	K区	SC72南西側床面	土師器	高杯	28.8 —	— —	—	内外面ともにやや風化するが内面の一部と外側底部に細かいハケ認められる	内外面ともに橙色からにぶい赤褐色	褐色粒子と白色粗砂粒を含むほか細砂粒質土	やや良	
第62回 304	K区	SC72南西側床面	土師器	高杯	16.5 —	— 3.1	—	内面見込みヘラによる暗紋外側ヨコナデ	内外面ともに赤褐色外側の一部にぶい黄褐色から灰色	白色砂粒を多く含むほか赤色粒シルトから細砂粒質土	良	受部・中段は種がつく
第62回 305	K区	SC72北側床面	土師器	高杯	(20.3) —	— —	—	内面ともに口縁から屈曲部までヨコナデ・内面見込みと外側底部に細かいハケ	内面橙色からにぶい橙色外側脚部黒色	白色砂粒を多く含むほか細砂粒質土	やや良	受部・中段はやや有す
第62回 306	K区	SC72埋土	土師器	高杯	19.3 —	— 4.1	—	内外面ともに風化著しい	内面にぶい橙色から橙色外側脚部黒色	白色砂粒を多く含むほか細砂粒質土	やや不良	受部・中段はやや有す

第62回 307	K区	SC 7.2 南西側床面	土師器	高坏	20.6 外12.9	— 3.8	12.9	全体的にやや風化するが受部内外面の一部脚部外面ナデ脚部内面ヨコ方向にヘラケズリ	全体的にぶい黄橙色から橙色	一部に小礫が認められるほか細砂粒から砂粒質土	やや良	受部中段をやや有す。脚部は段を有さず聞く
第62回 308	K区	SC 7.2 南西側床面	土師器	高坏	20.1 —	— 3.6	—	内外面ともに風化著しい脚部裏側内面はケズリ	受部脚部内面にぶい橙色から橙色外表面橙色からにぶい橙色	白色に粗砂粒から小礫を所々含むほか細砂粒質土	やや良	受部中段不明瞭
第62回 309	K区	SC 7.2 南西側床面	土師器	高坏	(17.7) 外10.3	— 2.9	11.9	内外面ともに風化し表皮が剥がれています脚部内面ヨコ方向にケズリ	受部内面明高褐色ほか橙色からにぶい橙色	粗砂粒を所々含むほか細砂粒質土	やや良	受部中段を有す。脚部は屈曲せず聞く
第62回 310	K区	SC 7.2 南東側端で塗溝上面	土師器	高坏	15.8 外9.2	— 3.8	12.4	内外面ともにやや風化し調整不明	全体的に橙色からにぶい黄橙色外表面一部灰色	砂粒から細砂粒	やや良	受部はやや中段を有すが脚部は内外面とも屈曲しない
第62回 311	K区	SC 7.2 西側床面	土師器	高坏	15.7 外10.2	— 2.4	11.5	内外面ともに風化著しい	全体的に暗赤褐色から暗赤色脚部裏にぶい褐色	白色砂粒を多く含むほか細砂粒質土	やや良	口縁部はつよく外反する。受部中段は不明瞭。脚部は屈曲する
第62回 312	K区	SC 7.2 南西側床面	土師器	高坏	14.8 外10.1	— 3.1	11.1 ~ 11.8	内外面ともにやや風化する脚部内面ケズリ	全体的に橙色から浅黄橙色特に受部外面灰白色一部に黒色	赤色粒子を所々含むほか細砂粒質土	やや良	受部中段を有す。外面に黒斑あり。脚部は全体的に開きやや屈曲する
第62回 313	K区	SC 7.2 南側床面	土師器	高坏	13.8 外10.8	— 3.0	12.5 ~ 12.0	内外面ともにやや風化しているが受部内面に一部ハケが認められる脚部内面ケズリ	内外面ともに橙色からにぶい黄橙色外表面受部の一部灰色から黒色	赤色と白色粒子を所々含み全体に細砂粒質土	やや良	完形。中段には棱を有する。脚部はやや屈曲する
第63回 314	K区	SC 7.2 北側床面	土師器	高坏	— 外15.4	— 4.4	—	外面は風化著しいが基部に一部ハケが認められる脚部内面はヨコ方向にケズリ	内面赤褐色から橙色外表面からにぶい黄橙色	白色の砂粒を含むほか細砂粒質土	やや良	脚部屈曲せずラッパ状に聞く
第63回 315	K区	SC 7.2 南西床面	土師器	高坏	— 外14.3	— —	—	外面ナデ・脚部内面丁寧なケズリ	内外面ともに赤褐色から褐色	白色砂粒および2mm前後の赤色粒子を含むほか細砂粒質土	やや良	脚部外表面屈曲せず内面屈曲する
第63回 316	K区	SC 7.2 北側埋土上層	土師器	高坏	— 10.0	— —	—	内外面ともにやや風化する	内外面ともににぶい橙色	赤色の粒子を多く含むほか細砂粒から粗砂粒	やや良	脚部外表面屈曲せず内面やや屈曲する
第63回 317	K区	SC 7.2 北側埋土中層	土師器	高坏	— (8.0)	— 2.6	—	内外面ともに風化著しい	内外面ともににぶい赤褐色から灰白色湖の一部暗灰色	白色の砂粒を含むほか細砂粒質土	やや良	脚部やや屈曲する
第63回 318	K区	SC 7.2 東側壁溝	土師器	高坏	— (11.2)	— —	—	脚部外表面ヨコナデ・内面ヨコ方向のケズリ	内外面ともににぶい褐色	白色の砂粒を含むほかシルトから質土	良	脚部の端部が跳ね上がる
第63回 319	K区	SC 7.2 南西側床面	土師器	甕	(13.5) —	19.0 10.1	21.1 ~ 20.5	内外面ともに風化著しい	内面にぶい褐色から褐色外表面半にぶい赤褐色下半層赤褐色脚部一部黒色	白色粗砂粒含むほか砂粒質土	やや良	底部二次施成・底部肉厚・全体的にかなり歪む
第63回 320	K区	SC 7.2 南西側床面	土師器	甕	(10.7) —	12.1 9.0	12.3	口縁外面ヨコナデ内面一部ハケ脚部内面左上方向にケズリ外表面ハケ	内面褐色からにぶい赤褐色外表面褐色から褐色一部褐色	白色粒子を含むほか細砂粒から砂粒質土	やや良	脚部がやや歪む
第63回 321	K区	SC 7.2 南西側床面	土師器	甕	11.0 6.2	13.3 10.5	11.4	口縁内面ハケ外表面ヨコナデ・脚部内面ケズリ外表面風化著しい	内面黒褐色外表面褐色からにぶい赤褐色一部に暗褐色	白色の粗砂粒を含むほか砂粒質土	やや不良	脚部は大きく歪む・平底
第63回 322	K区	SC 8.3 北側埋土内	須恵器	坏蓋	(15.0) —	— —	—	内外面ともに回転ヨコナデ	内外面ともに灰色	黒色粒子を含むほかシルトから細砂粒質土	やや良	
第63回 323	K区	SC 8.5 南側壁溝内	土師器	甕	(12.3) —	(13.6) —	5.0	内外面ともに風化著しい	内面にぶい褐色から褐色外表面底部黒色から口縁部にかけて灰褐色灰褐色	赤色粒子や白色粒子を含むほか細砂粒質土	やや不良	口縁は大きく内傾する
第63回 324	I区	SC 8.6 埋土内	土師器	甕	11.8 —	15.0 11.8	15.9	内外面ともに口縁部ヨコナデ・内面左上方にケズリ・脚部下部ケズリ接ナデ	内面土半褐色下半褐色外面上にぶい赤褐色から灰褐色	1~3mm大の赤色粒子を多く含むほか砂粒質土	やや良	脚部下部はやや凹む
第63回 325	I区	SC 8.6 埋土内	土師器	甕	(12.6) —	(13.5) (10.6)	—	内外面ともに口縁部ヨコナデ・内面右上方にケズリ・脚部ハケ	内面黒褐色外表面黒褐色からにぶい褐色一部赤褐色	白色粒子を含むほか砂粒質土	やや良	
第63回 326	I区	SC 8.6 埋土内	土師器	甕	(18.1) —	(23.6) (15.9)	—	内外面ともに口縁部ヨコナデ・内面斜め左上方向にケズリ・脚部タテハケ	内面褐色外表面黒褐色からにぶい褐色一部暗灰色	褐色粒子を含むほかシルトから細砂粒質土	やや良	
第64回 327	O区	SC 8.9 側溝	土師器	甕	(14.1) —	— —	5.4	内外面ともに風化するが外表面粗いハケが認められる	内面橙色と赤灰色外表面橙色とにぶい褐色	セキエイと褐色粒子を多く含むほか砂粒質土	やや良	
第64回 328	O区	SC 8.9 東側溝	土師器	甕	— —	— —	—	内外面ともにやや風化する	内面にぶい黄褐色外表面にぶい橙色一部灰褐色	白色および赤色の粒子を含むほかシルトから細砂粒質土	やや良	
第64回 329	O区	SC 8.9 東側溝	土師器	手捏土器	4.5~ 3.9	— 1.8	—	布頭圧による調整くびれ部に鉄突痕	内外面ともに褐色からにぶい褐色	白色粒子を含むほか砂粒質土	やや良	高坏形
第64回 330	O区	SC 9.0 東側埋土	須恵器	坏身	— —	— —	—	回転ヨコナデ	内外面ともに灰白色	暗灰色の粒子を含むほか砂粒質土	やや良	
第64回 331	O区	SC 9.0 東側埋土	土師器	不明	— —	— —	—	内面ハケヌ状の痕跡外表面V字に連続した圧痕	内面にぶい橙色外表面にぶい黄褐色	白色粗砂粒を多く含む砂粒質土	やや良	
第64回 332	O区	SC 9.0 東側埋土	土師器	甕?	— —	— —	—	内面やや風化し外表面粗いタテ方向のハケ	内外面ともに灰色	白色粗砂粒や褐色粒子を多く含む細砂粒質土	やや良	
第64回 333	O区	SC 9.0 カマド内	土師器	甕?	— —	— —	—	内面やや風化しレ口縁部と外表面の一部ヨコ方向のナデ口縁部や外反する	内外面ともに褐色外表面に赤褐色	白色粗砂粒や赤褐色粒子を所々含む細砂粒質土	やや良	
第64回 334	O区	SC 9.3 東側壁溝内	土師器	甕	13.1 —	14.7 11.3	—	口縁部内外面ともにヨコナデ内面強いケズリ外表面脚部粗い左上方向のハケ	内外面ともに褐色から黒褐色	白色粒子や赤褐色粒子を所々含む細砂粒質土	やや良	脚部二次施成

第64図 3-3-5	O区	SC 9.3 北東側 壁溝内	土師器	甕	(16.6) —	— (15.2)	—	口縁部内外面ともにヨコナデ 内面粗いケズリ外面胴部左上 方向のハケ後一部ケズリ	内面にぶい橙色から灰黄色 外面にぶい緑色	赤色粒子を所々含 むほか細砂粒質土	やや良	
第64図 3-3-6	O区	SC 9.3 北東側 壁溝内	土師器	甕	(14.6) —	— (12.8)	—	内外面ともに風化する	内面にぶい橙色から灰褐色 外面にぶい赤褐色から赤褐色	灰色砂粒と赤色粒子を含むほか細砂粒質土	やや良	
第64図 3-3-7	O区	SC 9.3 北東側 壁溝内	土師器	甕	(16.0) —	— (13.7)	—	口縁部内外面ともにヨコナデ 外面胴部ハケ	内面にぶい黄褐色外面にぶい褐色から褐色口縁部の一部黒色	白色粒と赤色粒を含むほか細砂粒質土	やや良	
第64図 3-3-8	O区	SC 9.3 北西側 壁溝内	土師器	甕	(15.0) —	— (14.2)	—	口縁部内外面ともにヨコナデ 外面胴部ハケ	内面にぶい黄褐色外面にぶい黒褐色	全体的に砂粒から細砂粒質土	やや良	
第64図 3-3-9	O区	SC 9.3 西側壁 溝内	土師器	甕?	(26.0) —	—	—	口縁部内外面ともにヨコナデ 内面粗いケズリ外面胴部左上 方向のハケ後一部ケズリ	内面にぶい橙色から灰黄色 外面にぶい橙色	赤色粒子を所々含 むほか細砂粒質土	やや良	
第64図 3-4-0	O区	SC 9.3 北東側 壁溝内	漆器	环身	(11.4) —	受部径 (14.5)	4.1	内面および外面上半部回転ヨ コナデ外面下半回転ヘラケズ リ	内面暗褐色外面青灰色	白色砂粒を含むほかシルトから細砂粒質土	やや良	
第64図 3-4-1	O区	SC 9.3 カマド 内	土師器	支脚	— 外8.0	—	—	外面上はいずれも風化する	にぶい橙色で一部黒褐色	白色の細砂粒を含 むほかシルト質土	やや不 良	
第64図 3-4-2	O区	SC 9.3 南西側 壁溝内	土師器	椀	(12.0) —	(12.8) —	—	内外面ともにやや風化するが 口縁部はヨコナデが認められる	内面にぶい黄褐色口縁部から 外面上にかけて橙色から灰 褐色	白色粗砂粒と赤色 粒子を所々含むほか細砂粒質土	やや良	
第64図 3-4-3	O区	SC 9.3 南西側 壁溝内	土師器	椀	(11.0) —	(12.0) —	—	内外面ともにやや風化するが 口縁部はヨコナデが認められる	内面橙色外面褐色からにぶい 黄褐色口縁部の一部黒色	1mm前後の赤色粒 子を含むほか細砂 粒から砂粒質土	やや良	
第64図 3-4-4	O区	SC 9.3 南西側 壁溝内	土師器	椀	(12.7) —	—	6.4	内外面ともにやや風化するが 口縁部はヨコナデが認められる	内外面ともににぶい黄褐色 から橙色	白色砂粒と赤色粒 子を所々含むほか 細砂粒質土	やや良	
第64図 3-4-5	O区	SC 9.3 北西側 壁溝内	土師器	椀	(13.0) —	—	6.0	内外面ともにやや風化するが 口縁部はヨコナデが認められる	内面にぶい橙色口縁部黒褐色 外面黒褐色で所々橙色	一部褐色粒子を含 むほか細砂粒質土	やや良	
第64図 3-4-6	O区	SC 9.3 北西側 壁溝内	土師器	椀	— —	—	—	内外面ともに口縁部はヨコナ デ胴部や底部はミガキ	内外面ともに橙色から赤褐色	白色砂粒と赤色粒子 を所々含むほかシルト から細砂粒質土	良	
第64図 3-4-7	O区	SC 9.3 北西側 壁溝内	土師器	椀	— —	—	—	内外面ともにやや風化する	内面橙色から褐灰色外面に ぶい橙色と底部の一部黒色	砂粒から細砂粒質土	やや良	
第64図 3-4-8	O区	SC 9.3 北西側 壁溝内	土師器	椀	— —	—	—	内外面ともにやや風化するが 口縁部はヨコナデが認められる	内面橙色外面橙色から浅黄 褐色	砂粒から細砂粒質土	やや良	
第64図 3-4-9	O区	SC 9.3 北西側 壁溝内	土師器	甕	— —	—	—	内外面ともにヨコナデが認められる	内外面ともににぶい赤褐色	白色の小穂から粗 砂粒を含むほか細 砂粒質土	やや良	
第64図 3-5-0	O区	SC 9.3 カマド 下層	土師器	手捏土器	5.2 2.3	—	4.6	内外面ともに指圧による調整 内面放射状にカキ取る	内外面橙色外面半分にぶい 黄褐色	白色砂粒を含むほか シルト質から細 砂粒質土	良	
第64図 3-5-1	O区	SC 9.4 カマド	土師器	手捏土器	4.6 —	—	3.3	内外面ともに指圧による調整	内面明赤褐色外面橙色 からにぶい黄褐色底部の一部黒色	白色の砂粒を多く 含む	やや良	
第64図 3-5-2	O区	SC 9.3 南東側 壁溝内	土師器	手捏土器	3.8 —	—	2.4	内外面ともに指圧による調整	内外面ともに橙色外面の口 縁部浅黄褐色	白色の砂粒を含む ほかシルト質土	やや良	
第64図 3-5-3	O区	SC 9.3 南東側 壁溝内	土師器	手捏土器	3.5 —	—	2.1	内外面ともに指圧による調整	内外面ともに赤褐色	白色の砂粒を含む ほか細砂粒質土	やや良	
第65図 3-5-4	P区	SC 9.5 壁溝内	土師器	椀	(12.9) —	(13.9) —	—	内外面ともに風化著しい	外面暗赤褐色内面にぶい橙 色	赤色粒子および 白色砂粒を含むほか 細砂粒質土	やや不 良	
第65図 3-5-5	P区	SC 9.5 壁土内	土師器	椀	(11.9) —	(12.7) —	—	内外面ともにやや風化が進む	内外面ともに橙色で断面後 黄褐色	白色の砂粒を少量 含むほかシルトから 細砂粒質土	やや良	
第65図 3-5-6	P区	SC 9.7 北西側 主柱穴内	土師器	甕	7.5 —	8.4 6.6	7.9	内外面ともに口縁部ヨコナ デ・内面丁寧な左上方向のケ ズリ・外面部タテ方向のハケ	内外面ともに明赤褐色から 赤褐色胴部外面の一部黒色	白色砂粒から粗砂粒 および赤色粒子を含 むほか細砂粒質土	良	
第65図 3-5-7	P区	SC 9.7 理土内	土師器	高坏	— —	—	—	内外面ともにやや風化が進む が内面は一部ミガキと考えられる	内面橙色外面にぶい橙色 から橙色	砂粒から細砂粒質土	やや良	
第65図 3-5-8	P区	SC 9.7 北西側 主柱穴内	土師器	甕	10.4 —	19.4 11.1	21.3	内外面ともに口縁部ヨコナ デ・内面丁寧な左上方向のケ ズリ・外面部タテ方向のハケ	内面黒褐色外面にぶい赤褐色 から黒褐色一部赤色	3mm以上の赤褐色粒子お よび白色粗砂粒から砂 粒を含むほか粗砂 粒	良	口縁部がやや内傾す る・外面部胴部下半2次焼 成
第65図 3-5-9	P区	SC 9.8 壁土内	須恵器	坏蓋	(10.1) —	—	—	内外面ともに口縁部回転ヨコナ デ・内面天井不定方向のナ デ調整・内面天井不定方向のナ デ・外面上部左回転ハケズリ	内面にぶい褐色外面青灰色	白色砂粒を所々含 むほかシルト質土	やや良	
第65図 3-5-0	P区	SC 9.8 壁土内	須恵器	坏蓋	(10.4) —	—	(3.1)	内外面ともに口縁部回転ヨコナ デ・内面天井不定方向のナ デ調整・内面天井不定方向のナ デ・外面上部左回転ハケズリ	内面にぶい赤褐色外面赤褐色 から灰赤色	白色粗砂粒から粗 砂粒を含むほかシルト質土	やや良	
第65図 3-5-1	P区	SC 9.8 壁土内	須恵器	坏蓋	(10.4) —	—	(3.5)	内外面ともに口縁部回転ヨコナ デ調整・内面天井不定方向のナ デ・外面上部左回転ハケズリ	内面暗赤褐色外面暗灰色 から褐色	白色砂粒を多く含 むほかシルト質土	やや良	
第65図 3-5-2	P区	SC 9.8 壁土内	須恵器	坏蓋	(13.4) —	—	3.7	内面と外面部口縁部回転ヨコナ デ調整・外面上部左回転ハケズリ	内面にぶい褐色から褐灰色 から暗褐色	白色の細砂粒を含 むほかシルト質土	やや良	

第65回 363	P区	SC9.8埋土内	須恵器	坏身	—	—	—	回転ヨコナデ	内外面ともに灰色から暗灰色	シルトから細砂粒質土	やや良	
第65回 364	P区	SC9.8埋土内	須恵器	坏身	—	—	—	回転ヨコナデ	内外面ともに灰色から暗灰色	白色および黒色の微粒子を含むほか細砂粒質土	やや良	
第65回 365	P区	SC9.8埋土内	須恵器	坏身	—	—	—	内外面ともに口縁部回転ヨコナデ調整・内面天井不定方向のナデ・外面上部を叩打回転ヘラケズリ	内外面ともに青灰色	白色粒子を所々含むほかシルトから細砂粒質土	やや良	
第65回 366	P区	SC9.8埋土内	須恵器	坏身	(12.3) —	受部径 (14.0)	—	内外面ともに口縁部回転ヨコナデ調整・内面天井不定方向のナデ・外面上部回転ヘラケズリ	内外面ともに青灰色	5mm以上の粒子1つと1mm以下の黒色粒子を含むほかシルト質土	やや良	
第65回 367	P区	SC9.8埋土内	須恵器	甕	(14.2) —	—	—	内外面回転ヨコナデ・外外面回転カキ目	口縁内面浅黄色外面部灰色	全体的に細砂粒質土	やや良	
第65回 368	P区	SC9.8埋土内	土師器	高坏	— (13.5)	— (6.7)	—	脚部外面タテ方向の粗いケズリ・脚部内面ヨコ方向の粗いケズリ	受部と脚部の一部黒色はかにぶい褐色から橙色	白色の砂粒を多く含むほか細砂粒質土	やや良	全体的に粗雑で肉厚
第65回 369	P区	SC9.8埋土内	土師器	高坏	—	—	—	内外面ともにやや風化が進む	内面褐色外面上にぶい黄橙色	砂粒を所々含むほかシルトから細砂粒質土	やや良	
第65回 370	P区	SC9.8埋土内	土師器	手捏土器	3.2 2.8	4.6 —	3.7~ 3.1	全般的に指頭圧痕による	内外面ともにぶい橙色	赤色粒子を所々と白色砂粒を含むほか細砂粒質土	やや良	
第65回 371	P区	SC9.8埋土内	土師器	輪	(14.0) —	— (6.4)	—	内面ナデ外面やや風化が進む	内面橙色外面部暗褐色	セキエイ質の粗砂粒を所々含むほか細砂粒質土	やや良	
第65回 372	P区	SC9.8埋土内	土師器	甕	(14.1) —	— (13.5)	—	内外面ともにやや風化が進む	内外面ともにぶい黄色から黄灰色	赤色粒子を所々含み砂粒を多く含むほか細砂粒質土	やや良	
第65回 373	P区	SC9.8埋土内	土師器	甕	— —	— —	—	内外面ともにやや風化が進む	内外面ともにぶい橙色	赤色粒子を多く含むほか砂粒から細砂粒質土	やや良	
第65回 374	P区	SC9.8埋土内	土師器	甕	— (9.5)	— —	—	内面粗いケズリ・外面と底部の一部ハケ	内外面ともに褐色	8mm以上の白色粒を所々含むほか細砂粒質土	やや良	
第65回 375	P区	SC9.9南側壁 溝内	土師器	輪	(12.8) —	13.5 —	5.8	内外面ともに口縁部ヨコナデ・内面放射状に暗紋が認められる	内面橙色外面部からにぶい赤褐色底部褐色	赤色粒子を含むほか細砂粒質土	良	
第65回 376	P区	SC9.9南側壁 溝内	土師器	輪	(13.0) —	13.7 —	6.0	内外面ともにやや風化する	内外面ともに赤褐色	赤色粒子を所々含むほか細砂粒質土	良	
第65回 377	P区	SC9.9南側壁 溝内	土師器	輪	13.4 —	14.2 —	5.9	内外面ともにやや風化する	内面にぶい黄橙色外面上にぶい赤褐色	赤色粒子を所々含むほか細砂粒質土	良	
第65回 378	P区	SC9.9埋土内	土師器	輪	(13.0) —	— —	—	口縁部内面ナデはかやや風化が進む	内外面ともに橙色断面にぶい黄橙色	赤色粒子を所々含むほか細砂粒質土	やや良	
第65回 379	P区	SC9.9埋土内	土師器	甕	(13.6) —	(18.2) (13.0)	—	口縁部ヨコナデ・脚部外面工具によるタテ方向の粗い調整内外やや風化する	内外面ともにぶい黄橙色 外面表面の一部橙色	赤色粒子を所々含むほか細砂粒質土	やや良	内面粘土層の難ぎ目が認められる
第66回 380	Q区	SC9.4周辺包 含層	須恵器	甕	— —	— —	—	口縁部内外面ともに回転ナデ 外面上半波状紋	内面灰色外面部暗青灰色	全般的に細砂粒からシルト質土	やや良	
第66回 381	Q区	SC9.4	須恵器	高坏	— (9.8)	— (6.2)	—	脚部内外面ともに回転ナデ調整方形スカシを穿孔	内外面ともに暗青灰色	白色の細砂粒を少量含むほかシルト質土で均質	良	
第66回 382	Q区	SC9.4埋土下 層	須恵器	甕	— —	10.9 5.3	—	脚部外面回転ナデ最大径の部分に波状紋と穿孔底部タタキ 肩部は自然軸	外面青灰色から青黒色自然軸はオリーブ黒色	溶解した黒色粒子を含むほか細砂粒質土	やや良	
第66回 383	Q区	SC9.4埋土下 層	須恵器	甕	— —	(17.6) —	—	内外面ともに回転ナデで内面 指頭圧痕外面部最大径の部分に 2条の波紋と間に波状紋	内面青灰色外面部上半灰 白色下半暗灰色	全般的に細砂粒質土	やや良	
第66回 384	Q区	SC9.4埋土下 層	土師器	高坏	— 外径 (5.5)	— 2.7	—	脚部内面工具によるヨコ方向 のケズリ外面工具に呼ぶタテ 方向の調整	内外面ともにぶい赤褐色	白色の粒子を含むほか細砂粒からシルト質土	やや良	
第66回 385	Q区	SC9.4埋土	土師器	手捏土器	4.1 —	— —	2.9~ 1.6	内外面ともに指頭圧痕	内面にぶい赤褐色からにぶい黄橙色	全般的に細砂粒質土	やや良	
第66回 386	Q区	SC9.4壁溝上 層	土師器	支脚	4.2 (5.7)	7.0 —	12.3	内面上からと下から工具によ るヨコ方向の穿孔外面上やや風 化する	全般的に明赤褐色で一部灰 褐色	白色砂粒を多く含むほか細砂粒質土	やや良	
第66回 387	Q区	SC9.4B北西 側床面	土師器	甕	— 9.5	— —	—	内面ケズリ外面部ハケで底部1 条の棱を掛け渡す	内面にぶい橙色からにぶい 黄橙色外面上にぶい橙色で脚 部に黒色	粗砂粒および砂粒を多く含む	やや良	脚部に黒斑
第66回 388	Q区	SC9.4B北側 壁溝	土師器	甕	26.0 10.9 ~9.0	— —	22.7	口縁部横ナデ内面粗いケズリ 外面部粗いハケで底部1条の棱 を掛け渡す	内面にぶい橙色外面上にぶい 黄橙色で脚部に黒色	赤色粒や白色粗砂粒を所々含む ほか砂粒質土	やや良	脚部下半に黒斑
第66回 389	Q区	SC9.4埋土下 層	土師器	甕	(28.4) (10.0)	— —	24.0	内面ケズリで外面上やや風化す る底部1条の棱を掛け渡して いたものと考えられる	内面にぶい橙色一部黒褐色 外面上にぶい橙色から浅黄橙色	赤色粒子を所々含むほか砂粒から細砂粒質土	やや良	
第67回 390	Q区	SC9.4埋土下 層	土師器	肩付甕	13.8 外径 (10.6)	14.5 3.1	10.2 ~ 11.0	口縁部および脚部ヨコナデは かやや風化する	全般的に橙色口縁部の一部に ぶい黄橙色から黒色	砂粒を多く含むほか細砂粒質土	やや良	

第67回 3.9.1	Q区	SC 9.4 A北側 壁溝内	土師器	脚付輪	(11.2) —	(12.2) —	—	口縁部ヨコナデはか風化著しい	全体的に褐色	赤色粒子白色粒子を所々含むほか細砂粒質土	やや良	口縁部が外反する
第67回 3.9.2	Q区	SC 9.4 墓土下 層	土師器	高坏	— 外径 10.8	— 3.2	—	脚部ヨコナデ内面工具によるヨコ方向のケズリ外面タテ方向のケズリ	内面褐色からにぶい黄褐色 外表面褐色	全体的に砂粒から細砂粒質土	やや良	
第67回 3.9.3	Q区	SC 9.4 墓土	土師器	高坏	— 外径 10.7	— 4.3	—	内外面ともにヨコナデ	脚部内外面ともににぶい褐色受け部にぶい黄褐色	白色の粗砂粒を所々含むほか細砂粒質土	やや良	低脚
第67回 3.9.4	Q区	SC 9.4 墓土下 層	土師器	高坏	— 外径 8.9	— 3.8	—	脚部内面工具によるヨコ方向のケズリ端部および外面ヨコナデ	内外面ともににぶい褐色端部の一部黒色	白色の砂粒が目立つほか細砂粒質土	やや良	
第67回 3.9.5	Q区	SC 9.4 A	土師器	高坏	— 外径 15.0	— 3.7	—	内外面ともにやや風化する	内外面ともに褐色色とにぶい橙色	粗砂粒を所々含むほか細砂粒質土	やや良	低脚で大きく開く
第67回 3.9.6	Q区	SC 9.4 壁溝	土師器	輪	(13.2) —	—	—	内外面ともに口縁部ヨコナデ 胴部内面やや風化し外面ケズリ	内面黒褐色からにぶい橙色 外面にぶい赤褐色一部灰褐色	赤色粒子を所々含むほか細砂粒質土	やや良	
第67回 3.9.7	Q区	SC 9.4 A床面	土師器	輪	14.1 —	13.7 13.5	7.0	内外面ともに口縁部ヨコナデ 胴部内面丁寧なケズリ外面ケズリおよびミガキ	内面明赤褐色から暗赤褐色 外面赤褐色と赤黒色	全体的に細砂粒質土	良	口縁部外反する
第67回 3.9.8	Q区	SC 9.4 A床面 から壁溝	土師器	輪	14.3 —	14.2 14.0	6.2	内外面ともに口縁部ヨコナデ 胴部内面ミガキ外面丁寧なケズリ	内外面ともに橙色で外面底 部の一部灰褐色	粗砂粒を所々含む ほか細砂粒質土	良	口縁部外反する
第67回 3.9.9	Q区	SC 9.4 壁溝	土師器	輪	12.2 —	12.7 —	5.0	内外面ともに口縁部から胴部 上半ヨコナデ胴部外面下半ケズリ	内外面ともに明赤褐色口縁 部の一部灰褐色底部の一部 にぶい黄褐色	褐色粒子および粗 砂粒を所々含むほか 細砂粒質土	やや良	
第67回 4.0.0	Q区	SC 9.4 墓土下 層	土師器	輪	13.7 —	13.9 —	5.6	内外面ともにやや風化する	内外面ともににぶい橙色外 面一部褐色と灰褐色	赤色粒子を所々含 むほか全体的に細 砂粒質土	やや良	
第67回 4.0.1	Q区	SC 9.4 墓土下 層	土師器	輪	15.1 —	—	6.0	内外面ともに口縁部ヨコナデ 胴部内面ミガキ外面一部立ハ ケ底部丁寧なケズリ	内外面ともに橙色口縁部灰 褐色	粗砂粒からシルト質土	良	
第67回 4.0.2	Q区	SC 9.4 A北側 床面	土師器	輪	14.1 —	14.9 —	5.7	内外面ともにやや風化する	内面明赤褐色外面明赤褐色 からにぶい黄褐色底部黒色	全体的に細砂粒質土	良	
第67回 4.0.3	Q区	SC 9.4 A北側 床面	土師器	輪	14.1 —	14.9 —	6.2	内外面ともにやや風化する	内外面ともに橙色からにぶい 橙色外表面底部の一部灰白色	赤色粒子および白 色砂粒を所々含む ほか細砂粒質土	やや良	
第67回 4.0.4	Q区	SC 9.4 A北側 床面	土師器	輪	13.6 —	14.4 —	5.7	口縁部内外面ともにヨコナ デはかやや風化する	内外面ともに褐色	白色の砂粒を所々含 むほか細砂粒質土	やや良	
第67回 4.0.5	Q区	SC 9.4 A北側 床面	土師器	輪	16.0 —	16.8 —	6.4	内外面ともにナデ調整	内面橙色外表面橙色からにぶ い橙色	赤色の細繩が点認 められるほか砂 粒から細砂粒質土	良	
第67回 4.0.6	Q区	SC 9.4 B北側 壁溝	土師器	輪	16.3 —	17.2 —	7.9	口縁部ヨコナデ内面粗いケズ リ外面粗いハケ	内面灰黄褐色および黒褐色 外面赤褐色から底部黒褐色	全体的に砂粒から 細砂粒質土	やや良	
第67回 4.0.7	Q区	SC 9.4 A北側 床面	土師器	輪	12.9 —	14.1 —	6.0	口縁部ヨコナデはか内外面と もにミガキ	内外面ともに明赤褐色	白色砂粒を含むほ か細砂粒からシルト質土	良	
第67回 4.0.8	Q区	SC 9.4 B北西 側床面	土師器	輪	8.0 6.0	9.5 —	5.5~ 5.8	内外面ともにやや風化するが 外面胴部下半に工具痕あり	内面の一部橙色のほか全体 的に浅黄褐色	3mm前後の赤色粒 子を含むほか砂粒質~細砂粒質	やや良	
第67回 4.0.9	Q区	SC 9.4 墓土下 層	土師器	壺	(11.0) —	(11.6) (10.2)	9.3	内面やや風化し頭部は粘土帯の 接合部分が認められる外面口縁 部ヨコナデ胴部粗いハケ	内面赤褐色外面明赤褐色か ら黒褐色	全体的に砂粒から 細砂粒質土	やや良	
第67回 4.1.0	Q区	SC 9.4 墓土下 層	土師器	壺	(10.3) —	12.5 10.1	11.2	口縁部ヨコナデ胴部内面ケズ リ外面工具痕が認められる	内面灰黄色外面灰黄色およ び黒褐色	赤色粒子を所々含 むほか砂粒から細 砂粒質土	やや良	
第67回 4.1.1	Q区	SC 9.4 A北側 床面	土師器	壺	8.7 —	13.0 7.1	—	口縁部内外面ともにヨコナデ 胴部内面ケズリ外面ミガキお よびナデ	内面褐色外面褐色からにぶ い褐色	細繩を所々含むほ か砂粒から細砂粒 質土	やや良	
第68回 4.1.2	Q区	SC 9.4 墓土下 層	土師器	壺	(11.8) —	(18.5) (11.0)	(17.4)	口縁部内外面ともにヨコナデ 胴部内面ケズリ外面ハケメ	内面褐色から灰褐色外面に ぶい褐色から暗赤褐色	赤色粒子と粗砂粒 を所々含むほか砂 粒から細砂粒質土	やや良	
第68回 4.1.3	Q区	SC 9.4 壁溝内	土師器	壺	(14.0) —	17.5 12.0	19.2	口縁部ヨコナデ内面丁寧なケ ズリ外面間隔の広いハケメ	内面にぶい黄褐色から暗 褐色外面上半にぶい黄褐色下 半にぶい赤褐色	赤色粒子を所々含 むほか砂粒から細 砂粒質土	やや良	胴部下半二次焼成を受 ける
第68回 4.1.4	Q区	SC 9.4	土師器	壺	— —	— —	—	口縁部ヨコナデ内面ケズリ外 面粗いハケメ	内外面ともに褐色から赤黒 色	赤色粒子を所々含 むほか砂粒から細 砂粒質土	やや良	
第68回 4.1.5	Q区	SC 9.4 A北側 床面	土師器	壺	(11.8) —	16.3 11.4	16.2	口縁部ヨコナデ内面ケズリ外 面やや風化する	内面にぶい褐色口縁部から 外面上半灰褐色下半赤褐色 から赤色	赤褐色粒子を含む ほか全体的に砂粒	やや良	胴部下半二次焼成を受 ける
第68回 4.1.6	Q区	SC 9.4 B北側 壁溝	土師器	壺	13.8 —	(16.2) 11.7	—	口縁部ヨコナデ内面ケズリ外 面一部ナデ	内面黒褐色外面口縁部褐色 胴部赤色から暗赤褐色	粗砂粒を多く含む ほか砂粒から細砂 粒質土	やや良	胴部下半二次焼成を受 ける
第68回 4.1.7	Q区	SC 9.4 A埋土	土師器	壺	(12.1) —	14.0 (11.6)	—	口縁部ヨコナデ内面ケズリ外 面やや風化する	内面灰褐色から黒褐色外 面上半灰褐色下半明赤褐色 からにぶい赤褐色	全体的に砂粒から 細砂粒質土	やや良	胴部下半二次焼成を受 ける
第68回 4.1.8	Q区	SC 9.4 A北側 壁溝内	土師器	壺	15.0 —	18.0 13.6	18.4	口縁部ヨコナデ内面ケズリ外 面やや風化する	内面灰褐色から黒褐色外 面上半にぶい橙色下半黒褐色 からにぶい赤褐色	赤色粒子を所々含 むほか砂粒から細 砂粒質土	やや良	胴部下半二次焼成を受 ける

第68図 4.1.9	Q区	SC 9.4 墓土下層	土師器	甕	(14.5) —	(13.8) —	—	口縁部内外面ともにヨコナデ内面ケズリ外面上から左下方向のハケメ	内面黒褐色外面にぶい褐色	赤褐色粒子を所々含むほか砂粒から細砂粒質土	やや良	
第68図 4.2.0	Q区	SC 9.4 A 北側壁溝内	土師器	甕	15.7 —	23.0 13.0	28.7 ~ 28.3	口縁部ヨコナデ側部内面ケズリ外面ハケ後丁寧なナデ	内面浅黄褐色口縁部から外側部の半分褐色残り黒褐色一部黒色	1~5mm大の赤色粒を含むほか砂粒から細砂粒質土	良	底部黒斑
第69図 4.2.1	Q区	SC 9.4 A 北側壁溝内	土師器	甕	15.4 —	30.5 13.5	38.7	口縁部ヨコナデ内面ケズリ外面や全風化するが一部ハケメ	内面浅黄褐色外面浅黄褐色から淡赤褐色底部一部黒色	赤褐色粒子を所々含むほか全体的に砂粒から細砂粒質土	やや良	底部黒斑あり
第69図 4.2.2	Q区	SC 9.4 A 北東側床面	土師器	鉢?	23.4 —	28.3 23.6	19.2	口縁部内外面ともにヨコナデ内面タテ方向にケズリ外面ナデ	内面橙色外面焼色からにぶい黄褐色一部黒色	全体的に粗砂粒から細砂粒質土	良	外面に黒斑
第69図 4.2.3	Q区	SC 9.5 西側溝壁溝	土師器	桶	(15.8) —	(16.5) —	(7.5)	口縁部内外面と内面ナデ外面ケズリ	内面灰色からにぶい黄褐色外面褐色から灰白色から黒色	全体的に砂粒から細砂粒質土	やや良	
第69図 4.2.4	Q区	SC 10.0 墓土	須恵器	壺蓋	(12.9) —	—	(3.7)	口縁部内外面および内面回転ナデ天井部不定方向ナデ外面回転ハラケズリ	内面青灰色外面暗灰色断面紫灰色	一部に砂粒が認められるほか細砂粒からシルト質土	やや良	
第69図 4.2.5	Q区	SC 10.0 墓土	土師器	甕	(14.4) —	(15.7) (11.0)	—	内外面ともに風化著しい	内面橙色から暗赤褐色外面赤褐色から赤色	全体的に砂粒から細砂粒質土	やや不良	二次焼成表面が一部剥がれている
第69図 4.2.6	Q区	SC 10.2 墓土	土師器	壺	7.4 —	9.4 6.0	8.6	口縁部内外面ともにヨコ方向のナデ側部外面所々風化するがナデ	内面にぶい黄褐色外面にぶい褐色	白色の砂粒を含むほか細砂粒質土	良	
第69図 4.2.7	Q区	SC 10.2 墓土	土師器	甕	(13.6) —	(17.0) (11.6)	—	口縁部内外面ともにナデ側部内面ヨコ方向のケズリ外面	内面灰褐色から黒褐色外面橙色から紫褐色	白色砂粒を多く含むほか細砂粒質土	やや不良	外面二次焼成
第69図 4.2.8	Q区	SC 10.2 墓土	土師器	甕	(15.2) —	(17.2) (14.2)	—	口縁部内外面ともにヨコ方向ナデ側部内面右上方向のケズリ外面やや風化する	内面灰黄褐色外面にぶい褐色	白色砂粒を多く含むほか細砂粒質土	やや良	
第69図 4.2.9	Q区	SC 10.2 墓土	土師器	手捏土器	3.2 —	4.3 —	3.0~ 3.4	内外面ともに指圧による調整	内外面ともに褐色から暗褐色	白色砂粒を一部含むほか細砂粒質土	良	
第69図 4.3.0	Q区	SC 10.2 墓土	土師器	桶	(12.9) —	(18.0) —	5.9	口縁部内外面ともにナデ側部内面ミガキ外面一部ケズリ	内外面ともに橙色	25~50mm程度の赤褐色粒子を含むが細粒からシルト質土	やや良	
第69図 4.3.1	Q区	SC 10.2 墓土	土師器	桶	(14.2) —	(14.6) —	(5.4)	内外面ともに丁寧なミガキ調整	内外面ともに橙色	金雲母が目立つほか砂粒から細砂粒質土	やや良	
第69図 4.3.2	Q区	SC 10.2 墓土	土師器	桶	— —	— —	—	口縁部ヨコ方向のナデはかさや風化する	内面橙色外面橙色からにぶい橙色	赤褐色粒子を所々含むほか砂粒質土	やや良	
第69図 4.3.3	Q区	SC 10.5 床面	土師器	手捏土器	外3.0 外3.3	— 1.8	4.8	指圧による調整	全体的ににぶい黄褐色	白色砂粒を多く含むほか砂粒から細砂粒質土	やや良	
第69図 4.3.4	Q区	SC 10.5 床面	土師器	支脚?	— (6.0)	(7.0) —	—	外面風化著しい中心部分は棒状の工具で穿孔	全体的に橙色断面一部灰色にくすむ	赤色粒子を所々含むほか砂粒から細砂粒質土	やや良	

第6表 穫穴式住居出土石器計測表

単位はcm

遺物番号	調査区	遺構	器種	長軸	短軸	厚さ	重量	備考
第70図435	D区	SC7	円礫	10.5	7.6	7.3	825g	
第70図436	D区	SC7	円礫	10.6	7.2	5.8	685g	
第70図437	D区	SC7	円礫	11.3	6.4	3.0	400g	
第70図438	H区	SC30	円礫	14.0	8.0	5.5	865g	
第70図439	H区	SC34	円礫	13.2	9.3	4.8	920g	
第70図440	H区	SC35	円礫	15.9	7.5	4.6	680g	敲石?
第71図441	H区	SC33	円礫	11.1	7.7	3.7	460g	
第71図442	I区	SC48	円礫	11.0	5.6	3.0	280g	
第71図443	I区	SC52	円礫	13.1	7.8	6.8	1095g	
第71図444	I区	SC52	円礫	14.2	7.0	4.1	665g	
第71図445	I区	SC52	円礫	12.4	9.5	4.3	750g	
第71図446	I区	SC61	円礫	9.5	8.4	3.5	470g	
第71図447	I区	SC64	円礫	11.7	6.4	3.2	340g	
第72図448	D区	SC3	砥石	9.1	3.2	1.6	72g	
第72図449	H区	SC35	砥石	14.5	6.4~2.3	5.0~2.6	425g	4面使用
第72図450	H区	SC35	砥石	10.4	7.6	3.0	520g	3面使用
第72図451	H区	SC39	砥石	9.2	6.8	4.8	370g	3面使用し1面は筋砥石
第72図452	H区	SC33	軽石	6.0	4.6	3.4	35g	
第72図453	H区	SC33	軽石	8.7	6.3	6.0	61.5g	
第72図454	B区	SC22	滑石	6.8	5.2	1.9	88g	原石

第7表 積穴式住居出土玉類ほか計測表

単位mm

遺物番号	調査区	遺構	器形	材質	長さ(高さ)	幅(径)	孔径	重量
第73図455	H区	SC33	勾玉	滑石	18.5	7.0	1.8	2.3g
第73図456	H区	SC33	勾玉	滑石	13.0	2.5	1.2	0.4g
第73図457	I区	SC60A	勾玉	滑石	17.0	4.5	1.5	1.0g
第73図458	D区	SC3	白玉	滑石	3.0	5.0	1.5	0.1g
第73図459	D区	SC4	白玉	滑石	2.0	5.5	1.5	0.1g
第73図460	H区	SC34	白玉	滑石	3.0	5.5	2.0	0.1g
第73図461	H区	SC34	白玉	滑石	3.5	5.5	2.0	0.2g
第73図462	H区	SC34	白玉	滑石	3.5	6.0	1.5	0.2g
第73図463	H区	SC34	白玉	滑石	3.5	6.0	1.5	0.2g
第73図464	H区	SC34	白玉	滑石	3.5	6.0	2.0	0.2g
第73図465	H区	SC34	白玉	滑石	3.0	5.0	1.5	0.1g
第73図466	H区	SC34	白玉	滑石	3.0	5.5	1.5	0.2g
第73図467	H区	SC34	白玉	滑石	3.0	6.0	1.5	0.1g
第73図468	H区	SC34	白玉	滑石	2.0	5.5	1.5	0.1g
第73図469	H区	SC34	白玉	滑石	2.0	5.5	1.5	0.1g
第73図470	H区	SC34	白玉	滑石	2.5	5.5	1.5	0.1g
第73図471	H区	SC34	白玉	滑石	2.0	5.5	1.5	0.1g以下
第73図472	H区	SC34	白玉	滑石	2.0	5.5	2.0	0.1g
第73図473	H区	SC34	白玉	滑石	2.5	5.0	1.5	0.1g
第73図474	H区	SC34	白玉	滑石	2.0	5.0	2.0	0.1g以下
第73図475	H区	SC34	白玉	滑石	2.0	5.5	1.5	0.1g
第73図476	H区	SC34	白玉	滑石	3.0	5.0	1.5	0.1g
第73図477	H区	SC34	白玉	滑石	2.0	5.0	1.5	0.1g
第73図478	H区	SC34	白玉	滑石	2.0	5.0	1.5	0.1g
第73図479	H区	SC34	白玉	滑石	3.0	5.0	1.5	0.1g
第73図480	H区	SC34	白玉	滑石	2.5	5.0	1.5	0.1g以下
第73図481	H区	SC34	白玉	滑石	3.0	5.5	1.5	0.1g
第73図482	H区	SC34	白玉	滑石	3.0	5.5	1.5	0.1g
第73図483	H区	SC34	白玉	滑石	2.5	5.5	1.5	—
第73図484	H区	SC34	白玉	滑石	1.5	5.0	1.5	—
第73図485	H区	SC34	白玉	滑石	2.0	5.5	2.0	—
第73図486	H区	SC34	白玉	滑石	1.5	5.0	2.0	—
第73図487	H区	SC34	白玉	滑石	1.5	5.5	1.5	—
第73図488	H区	SC34	白玉	滑石	2.5	5.5	2.0	0.1g
第73図489	H区	SC34	白玉	滑石	1.5	5.5	2.0	0.1g
第73図490	H区	SC35	白玉	滑石	3.0	7.0	2.0	0.4g
第73図491	I区	SC47	白玉	滑石	2.0	5.5	2.0	0.1g
第73図492	I区	SC61	白玉	滑石	2.5	6.0	2.0	0.2g
第73図493	I区	SC61	白玉	滑石	2.5	6.0	2.0	0.1g
第73図494	I区	SC61	白玉	滑石	1.0	6.0	2.0	0.1g以下
第73図495	I区	SC61	白玉	滑石	3.0	6.0	1.5	—
第73図496	I区	SC61	白玉	滑石	3.0	6.0	2.0	—
第73図497	K区	SC83	白玉	滑石	2.0	4.0	2.0	0.1g以下
第73図498	I区	SC60B	筋錐車	滑石	10.0	43.0	9.0	31.9g
第73図499	D区	SC4	有孔円盤	滑石	4.5	36.5	2.0	15.0g
第73図500	B区	SC18	有孔円盤	滑石	3.0	28.0~34.0	1.0	5.1g
第73図501	H区	SC35	有孔円盤	滑石	3.0	14.0~15.5	1.5	1.5g
第73図502	K区	SC75	有孔円盤	滑石	3.0~4.0	32.0	2.0	—
第73図503	K区	SC74A	有孔円盤	滑石	2.0~4.5	22.0	2.0	5.5g
第73図504	K区	SC79	有孔円盤	滑石	3.0~4.5	20.5	2.0	3.7g
第73図505	D区	SC7		黒曜石	15.3	7.0	—	0.3g
第73図506	I区	SC61	石鏃	黒曜石	1.8	2.4	—	3.3g
第73図507	K区	SC72		黒曜石	1.7	1.3	—	0.5g
第73図508	K区	SC72	石鏃	黒曜石	10.0+ α	9.0+ α	—	—

2. 土坑

土坑は、18基検出した。

土坑のなかでは、古墳時代の住居群に伴うものと、中世の掘立柱建物とほぼ同時期に伴うものに分けられる。

古墳時代の土坑は、B区SK3、L区SK25、P区SK30・SK31、Q区SK32で、5基を報告する。

中世の土坑は、A区SK1・2、C区SK4、D区SK5・6、G区SK14、H区SK15～20、L区SK24で、13基を報告する。

a. 古墳時代の土坑

SK3（遺構・第74図、第8表、図版6、遺物509～542、第76・77図、第13表、図版15）

SK3は、B区の北側に位置し、遺構は全体の2/3が検出され、残りは川崎宮側の調査区外で削平される。周辺には、北西側約3mの所にSC22、南東側では、SC18～21の住居群が認められる。

平面プランは、楕円形を呈していたと考えられる。

遺構内からは、多数の土器が出土した。土器は床面から表土付近まで認められるが、出土状況は数器種がまとまって1つの塊となり、その塊が各所に出土している。

SK25（遺構・第74図、第8表、図版6、遺物543、第78図、第13表、図版15）

SK25はL区の北東側より検出された。検出時の平面プランは、北側の辺が後世に削平されたと考えられる部分を除き、隅丸長方形を呈している。床面は浅い2段掘りとなっていることなどから土壙墓の可能性も否定できないが断定までは根拠に乏しい。遺物は埋土中より鉢具を出土した。

SK30（遺構・第74図、第8表、遺物544～562、第79図、第13表、図版15）

SK30はP区の中央からやや南側に寄った部分に検出された土坑群である。遺構検出当初は、大型の土坑としてほぼ前面が黒褐色土で覆われており掘り下げていったが、床面で各所に小土坑が検出された。

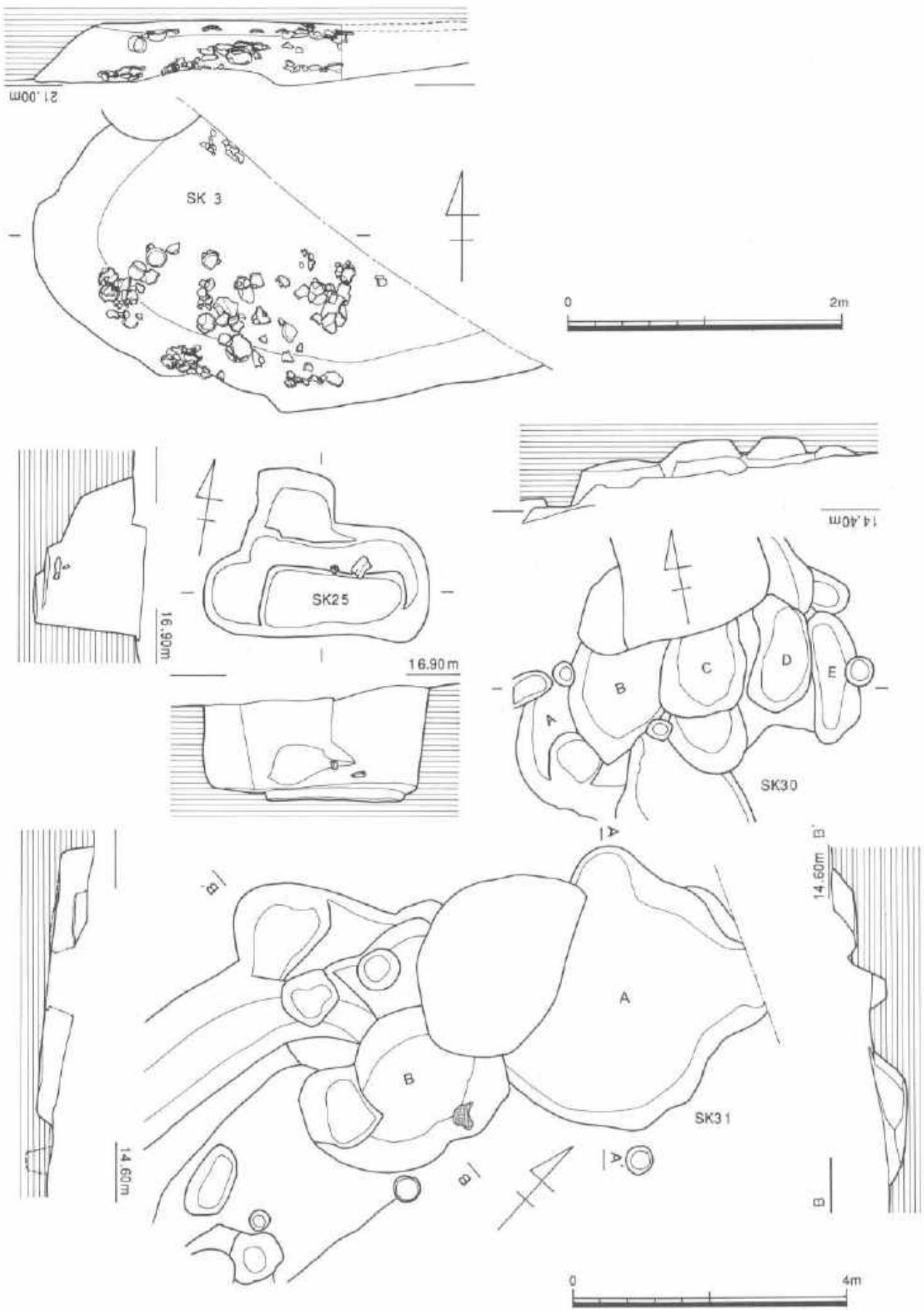
小土坑が検出される毎に遺構検出を実施したが切り合いなどは認められなかったため、すべての床面の検出に努め、5基の土坑を検出した。各土坑は便宜的に西からA土坑からE土坑とした。

SK31（遺構・第74図、第8表、図版6、遺物563～618、第79～81図、第13表、図版15）

SK31はP区の北端より検出した土坑群である。中央の搅乱坑を境に北側をA土坑、南側をB土坑とした。

A土坑は、検出時の平面プランが不定方形を呈す。北東側の一部が調査区外となり、西側は搅乱坑により切られている。床面は一定している。

B土坑は、SK30同様不定円形の大型土坑として掘り下げていったが、所々に土坑が検出された。各土坑の切り合いは認められなかった。いずれも埋土からは、土師器、須恵器などの小片が検出されたがほとんどは接合に困難を極めるものである。



第74図 SK 3・25・30・31遺構実測図 (1/80・1/40)



第75図 SK32遺構実測図 (1/40)

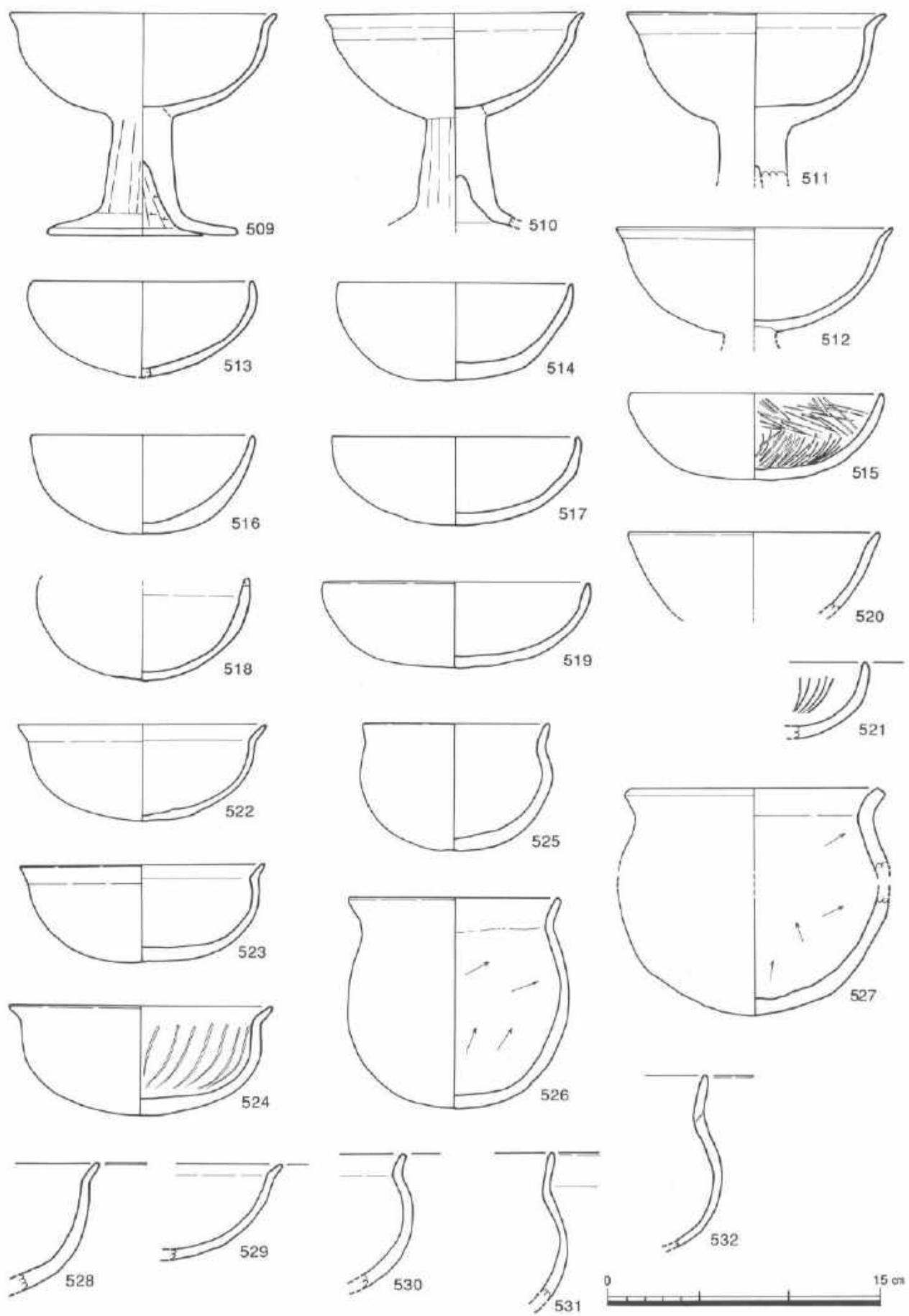
SK32 (遺構・第82図、第8表、図版6、遺物619~655、第82・83図、第13表、図版15)

SK32は、Q区の北側でSC100とP区SC95・98の間より検出された。

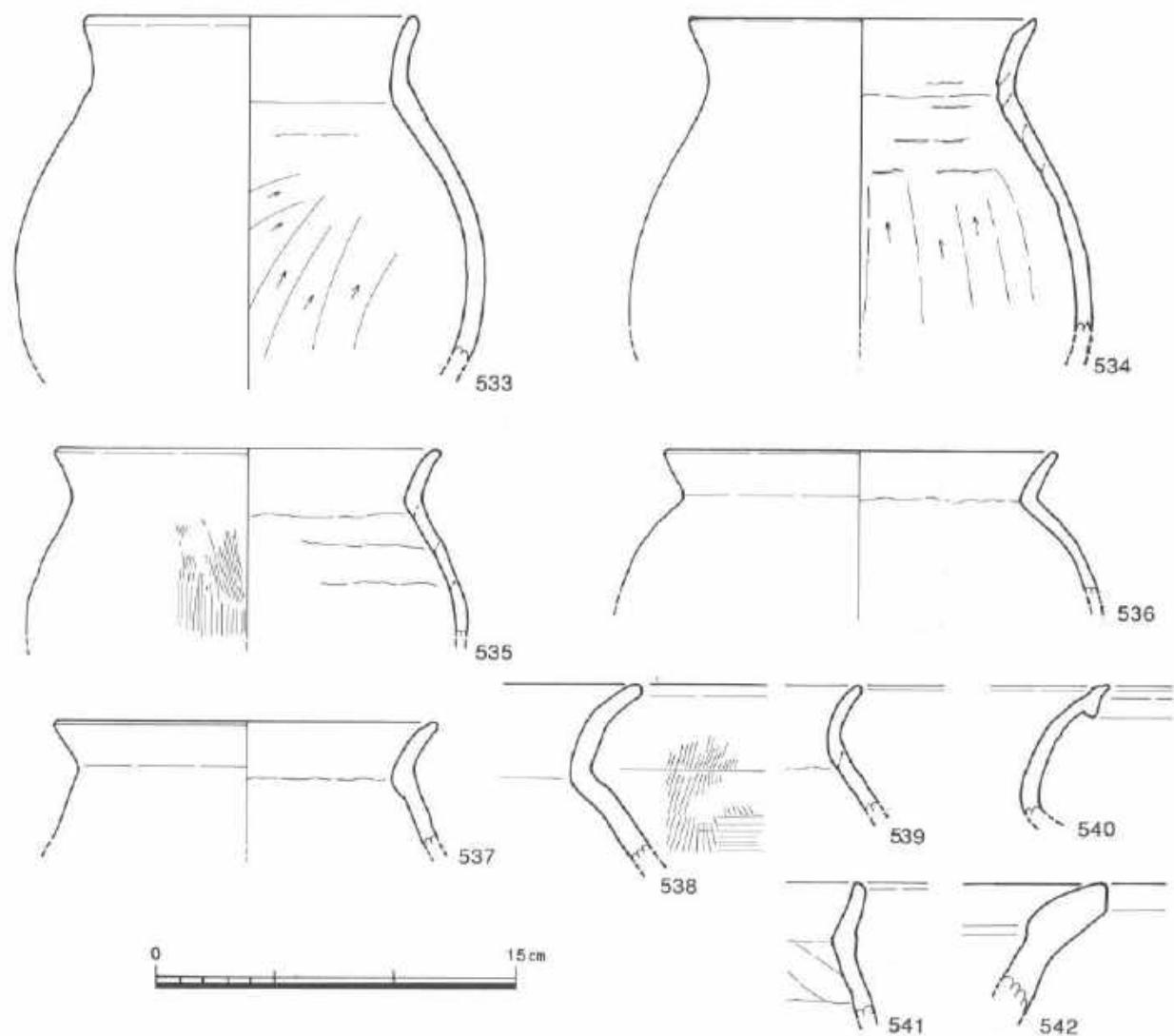
検出時の平面プランは長楕円形を呈しているが、東側は傾斜によって立ち上がりが確認できず、西側の高い部分を削って床面をほぼ水平に保っている。

P区のSK30やSK31のように複数の土坑から形成されたものとは異なり、1つの土坑として検出されB区のSK3と近似している。

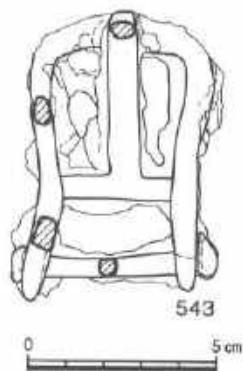
出土遺物は土師器および須恵器の一括資料で、出土位置は、土坑中央付近の南北2.5m、東西2mの範囲のほぼ床面直上より検出された。遺物はいずれも破損して出土したが、個々の遺物はほぼ完形に復元できることから、破棄に伴って割れたものと推測される。



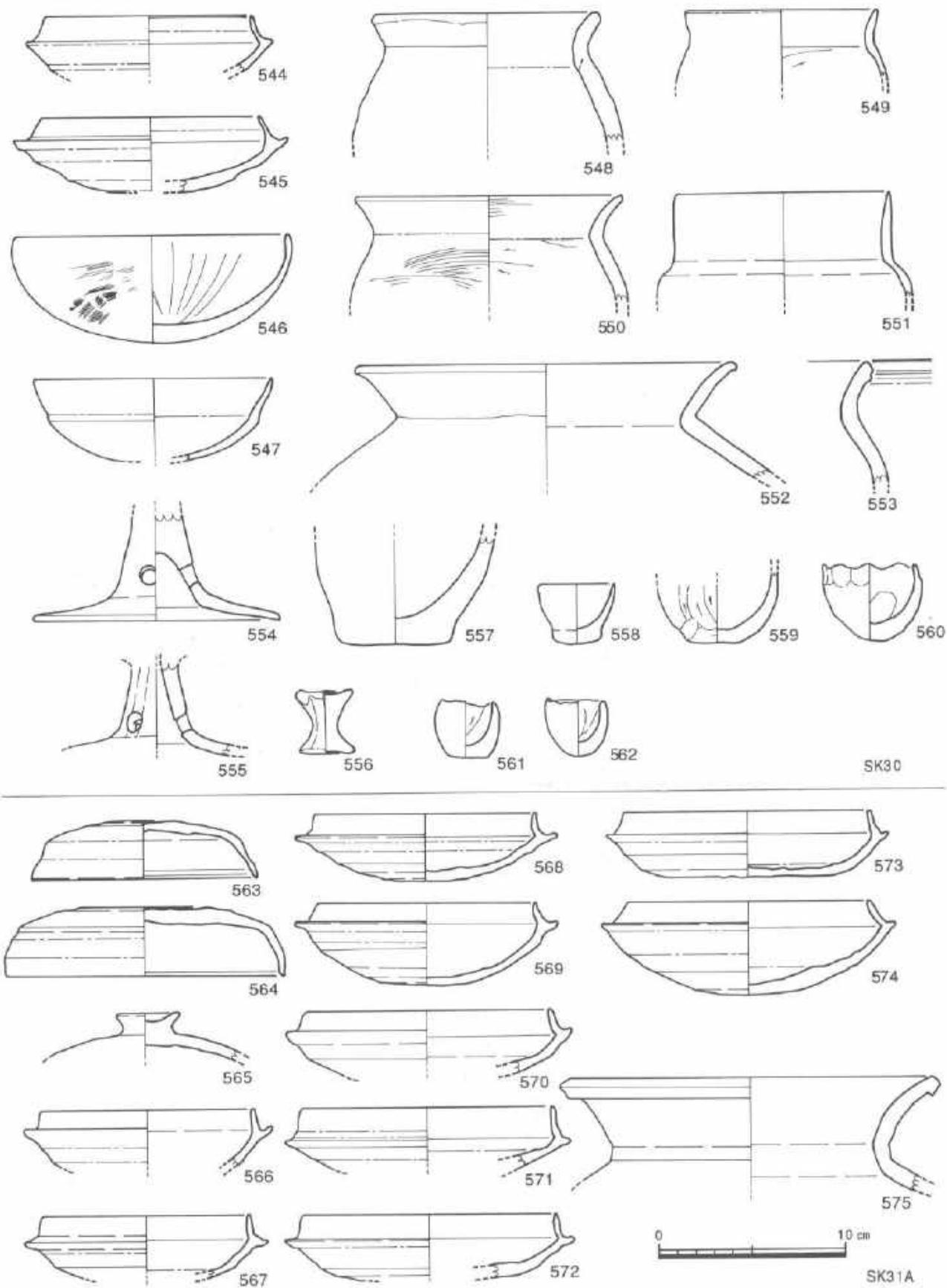
第76図 SK 3 遺物実測図 1 (1/3)



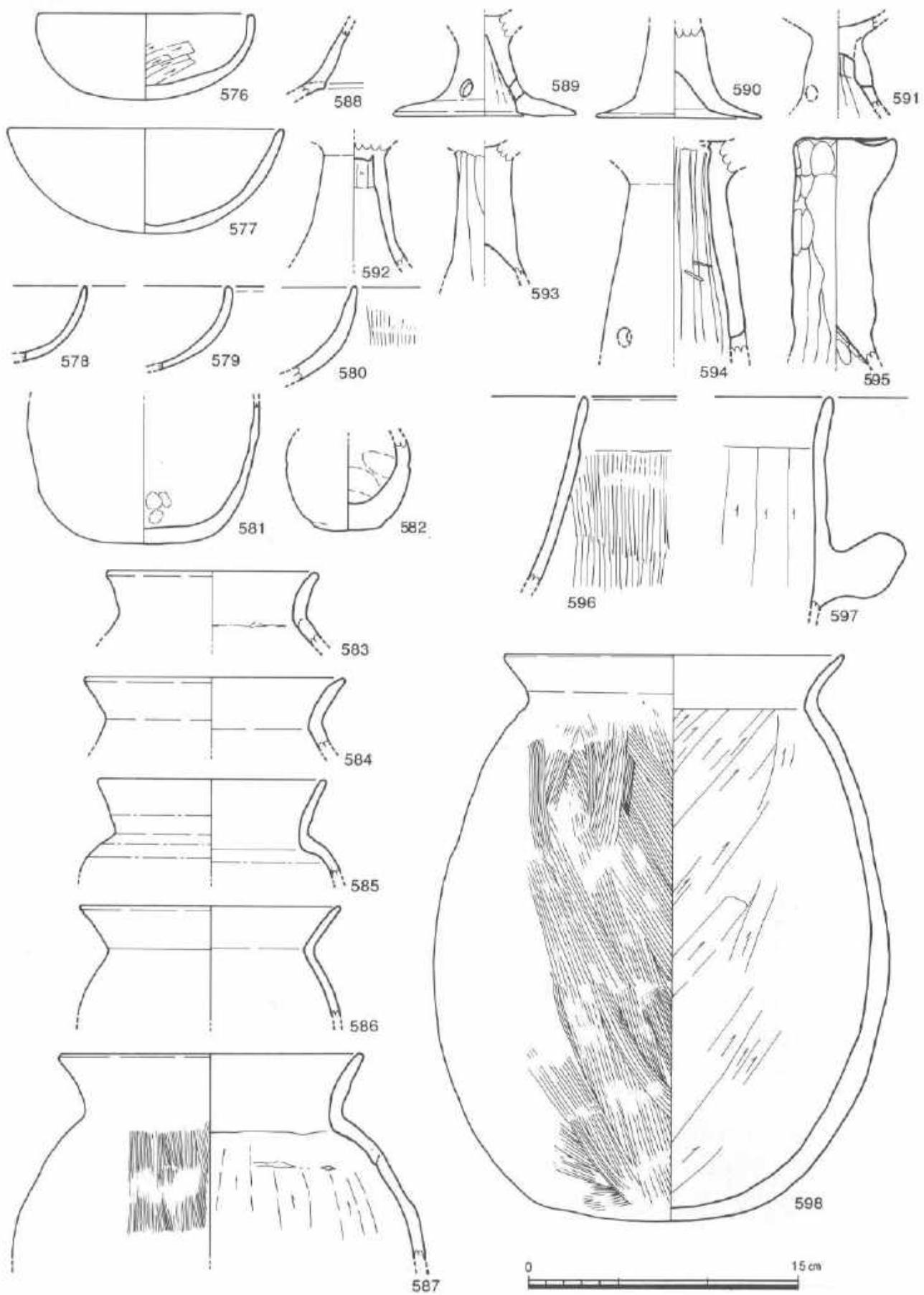
第77図 SK 3 遺物実測図 2 (1/3)



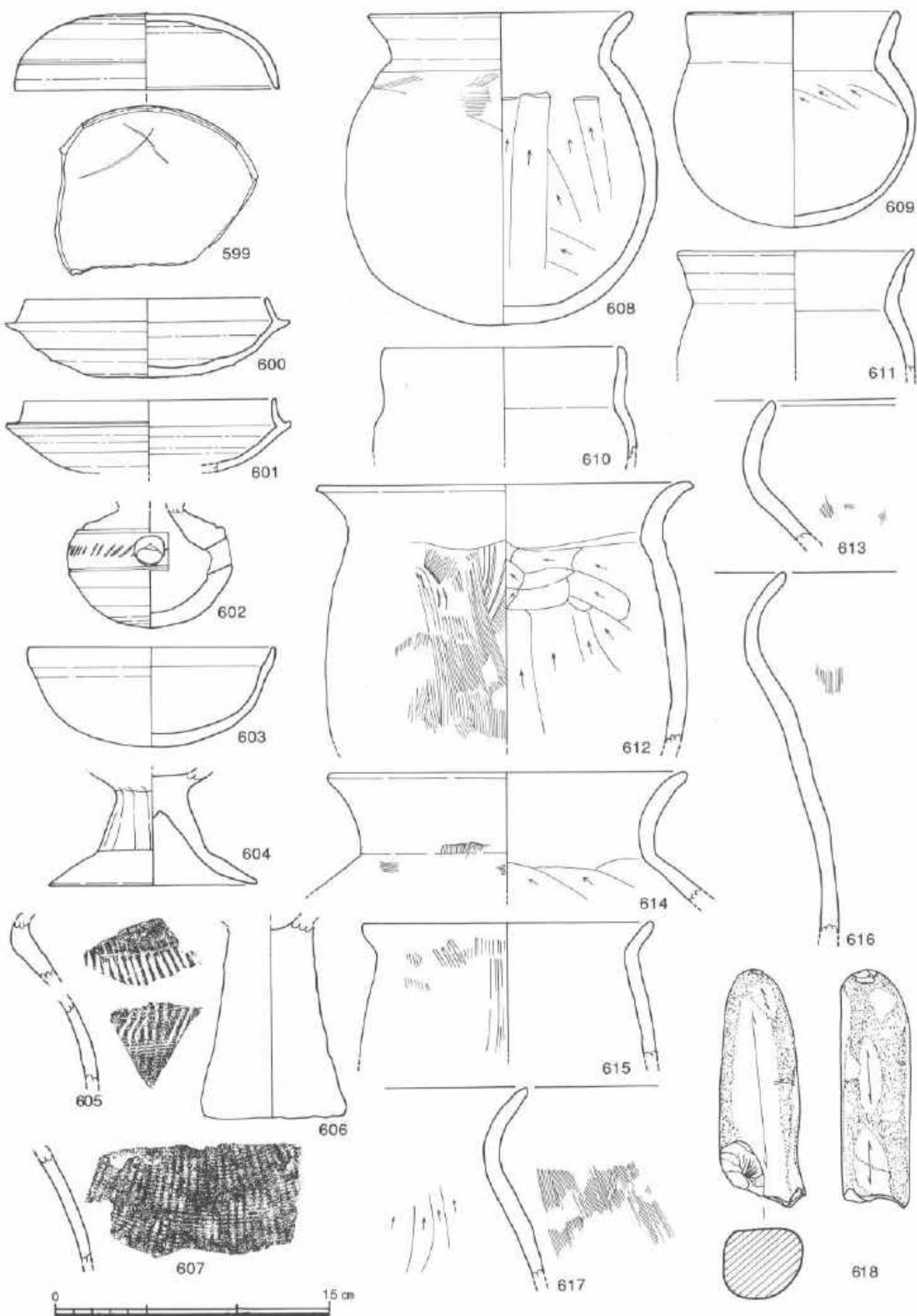
第78図 SK25遺物実測図 (1/2)



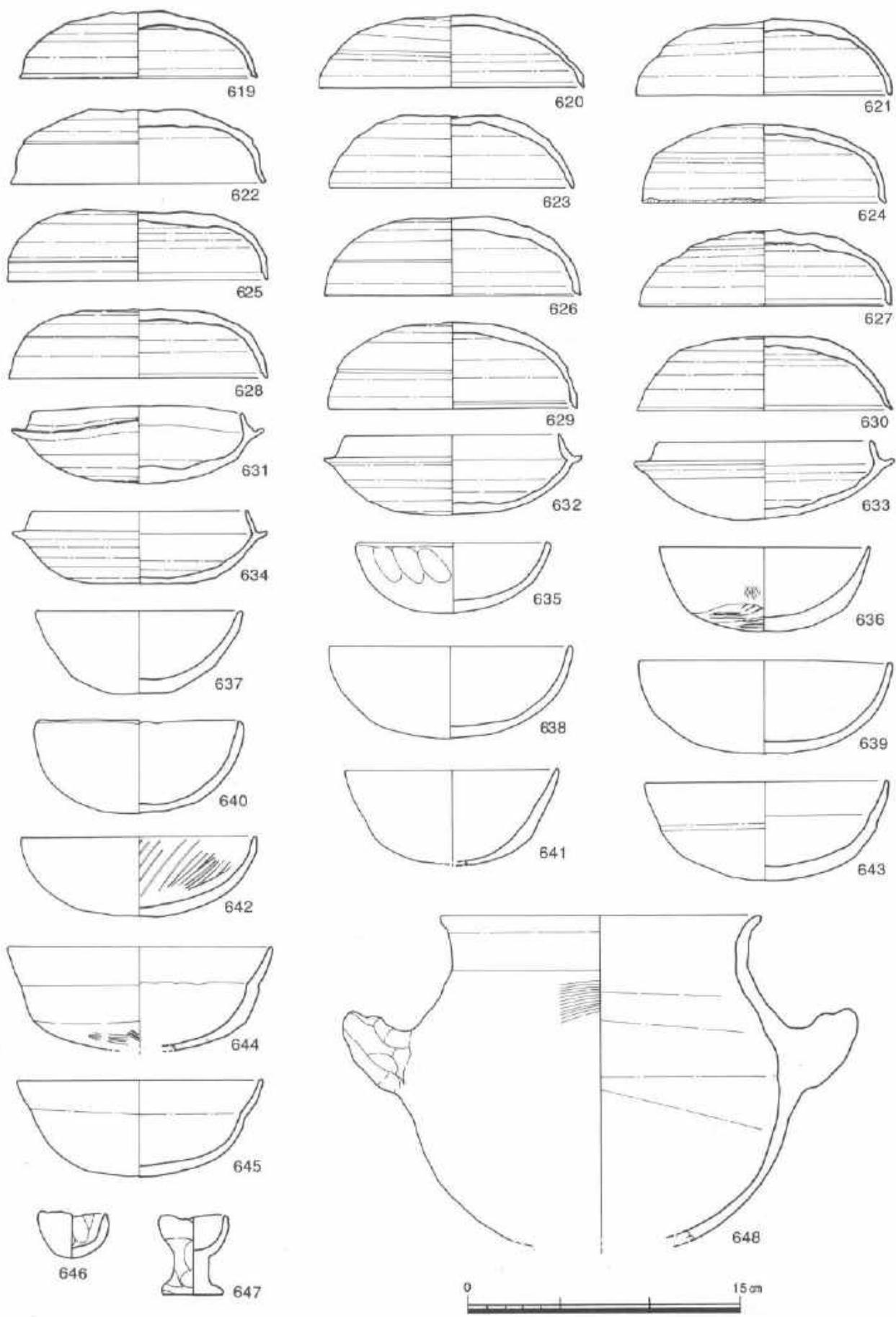
第79図 SK30-31A遺物実測図 (1/3)



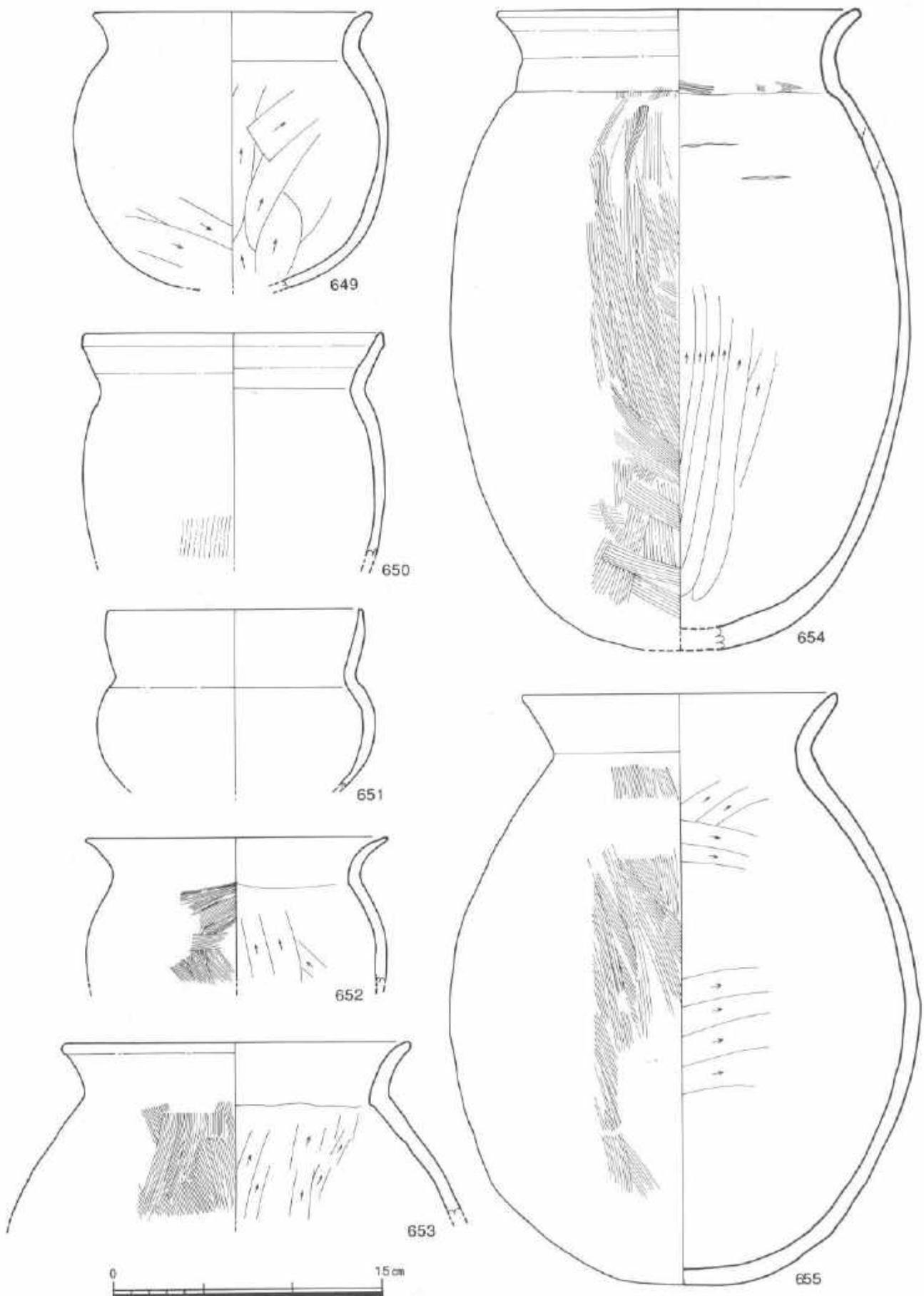
第80図 SK31A遺物実測図 (1/3)



第81図 SK31B 遺物実測図 (1/3)



第82図 SK32遺物実測図 1 (1/3)



第83図 SK32遺物実測図2 (1/3)

b. 中世の土坑ほか

SK 1 (遺構・第84図、第9表)

SK 1は、A区の南東側でSC17の西側より検出した。平面プランはほぼ円形を呈し、断面形は逆台形を呈している。

SK 2 (遺構・第84図、第9表)

SK 2は、A区の中央よりやや東側より検出された。比較的大型の土坑で遺構内の北側では、大礫3とその上に小礫を検出した。南側は礫を伴わず、床面は北側の礫の下面より深く掘られている。

SK 4 (遺構・第84図、第9表、遺物723~743、第87図、第14表、図版16)

SK 4は、C区の南西側より単独で検出された。平面形は、ほぼ円形を呈し床面は椀状である。

遺物は、土師器の小皿や瓦器碗、滑石製石鍋片などが出土した。出土状況は、埋土の中層からやや浮いた状態で検出された。

SK 5 (遺構・第84図、第9表)

SK 5は、D区の中央よりやや南側で検出された。東側にはSC 3、北側にはSC 6、西側にはSC 4、南側にはSC 1とSC 2にそれぞれ囲まれる位置である。検出時の平面プランは椭円形を呈している。床面までの深さは3cmと浅く残りが悪い。

SK 6 (遺構・第84図、第9表、遺物656~676、第85図、第14表、図版16)

SK 6は、D区のほぼ中央に位置し、北側にはSC 8、南側にはSC 6、西側にはSC 7と9と10にそれぞれ囲まれる位置に検出された。平面形は不定の隅丸四角形を呈しており断面形は逆台形を呈している。

SK14 (遺構・第84図、第9表、図版6、遺物697~722、第86図、第14表、図版16)

SK14は、G区の北西端より検出された。北側は、H区との境であり約1mの畝の段として大きく削られ、本遺構も大きく削られる。検出当初は、南側の平面形が弧状に検出され、埋土は灰褐色細砂粒土であった。上面から埋土を掘削するに伴って所々で、方形を呈する小土坑が検出された。最終的には、4基の土坑が新たに検出され、それぞれ南東側をA土坑、南西側をB土坑、北東側をC土坑、北西側をD土坑とした。全体の埋土および個々の土坑からは、青磁や白磁、瓦器片が出土している中で、A土坑では、同安窯系の青磁皿が3枚重なって出土した。

SK15 (遺構・第84図、第9表、遺物677~680、第85図、第14表、図版16)

SK15は、H区の南西側より検出された。東側10m程の所にはSK20、西側7m程の所にはSK16と17と18と19がまとまって検出されている。北側には柱穴が群を成して検出され、南側はG区との畝の段で大きく削られ遺構は認められない。本土坑は畝として削られる以前に穿たれたものと考えられ、底の部分が検出されたものと考えられる。

SK16 (遺構・第84図、第9表)

SK16は、H区の南西側より4基まとまって検出された中の南東側に検出されたものである。北側には柱穴群があり、南側はG区との畑の段で大きく削られ遺構は認められない。本土坑は畑として削られる以前に穿たれたものと考えられ、底の部分が検出されたものと考えられる。

SK17 (遺構・第84図、第9表、遺物683、第85図、第14表)

SK17は、H区の南西側より4基まとまって検出された中の南西側に検出されたものである。北側には柱穴群があり、南側はG区との畑の段で大きく削られ遺構は認められない。本土坑は畑として削られる以前に穿たれたものと考えられ、底の部分が検出されたものと考えられる。

SK18 (遺構・第84図、第9表、遺物684、第85図、第14表)

SK18は、H区の南西側より4基まとまって検出された中の北東側に検出されたものである。北側には柱穴群があり、南側はG区との畑の段で大きく削られ遺構は認められない。本土坑は畑として削られる以前に穿たれたものと考えられ、底の部分が検出されたものと考えられる。

SK19 (遺構・第84図、第9表、遺物685、第85図、第14表)

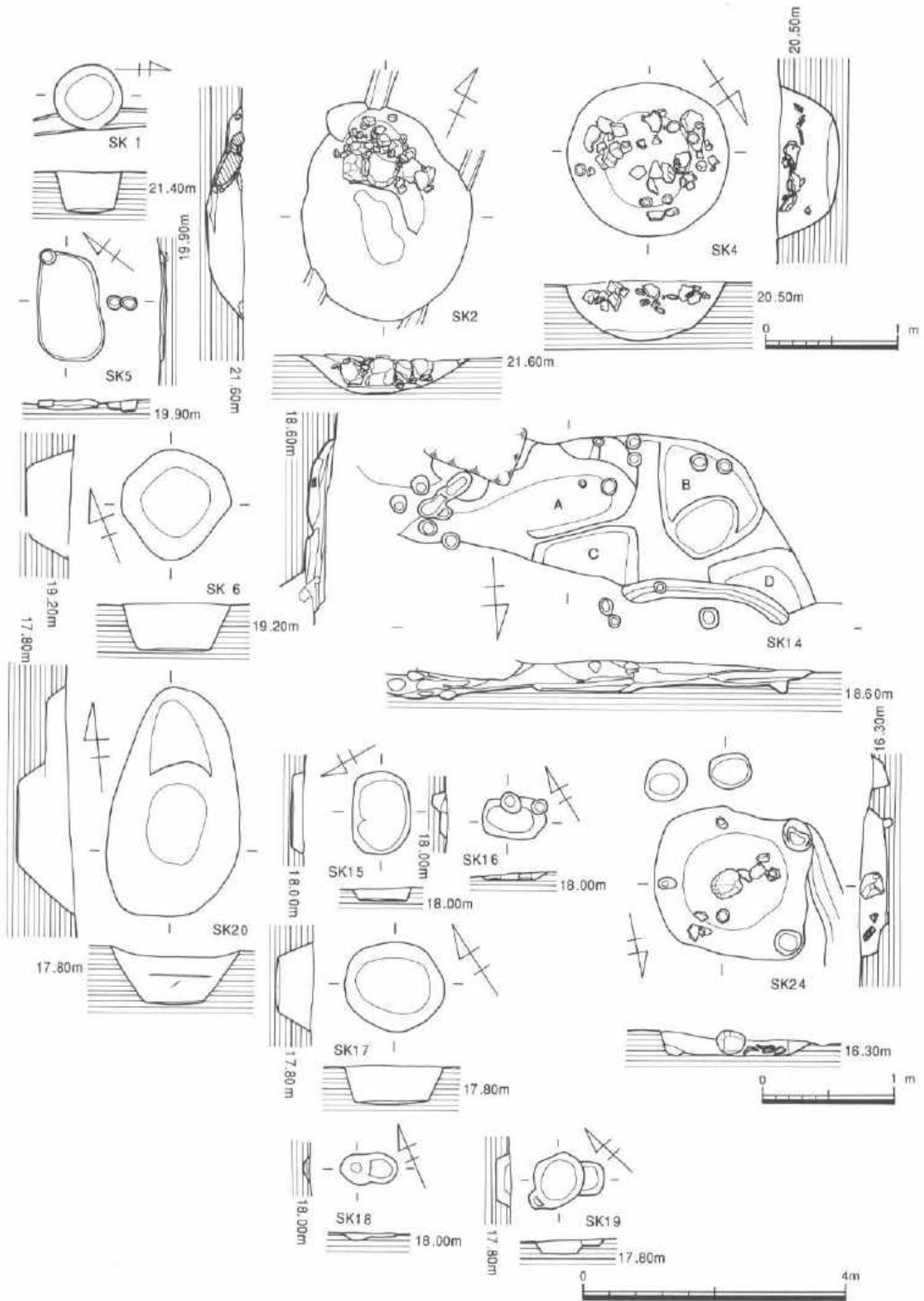
SK19は、H区の南西側より4基まとまって検出された中の北西側に検出されたものである。北側には柱穴群があり、南側はG区との畑の段で大きく削られ遺構は認められない。本土坑は畑として削られる以前に穿たれたものと考えられ、底の部分が検出されたものと考えられる。

SK20 (遺構・第84図、第9表、遺物686~696、第85図、第14表)

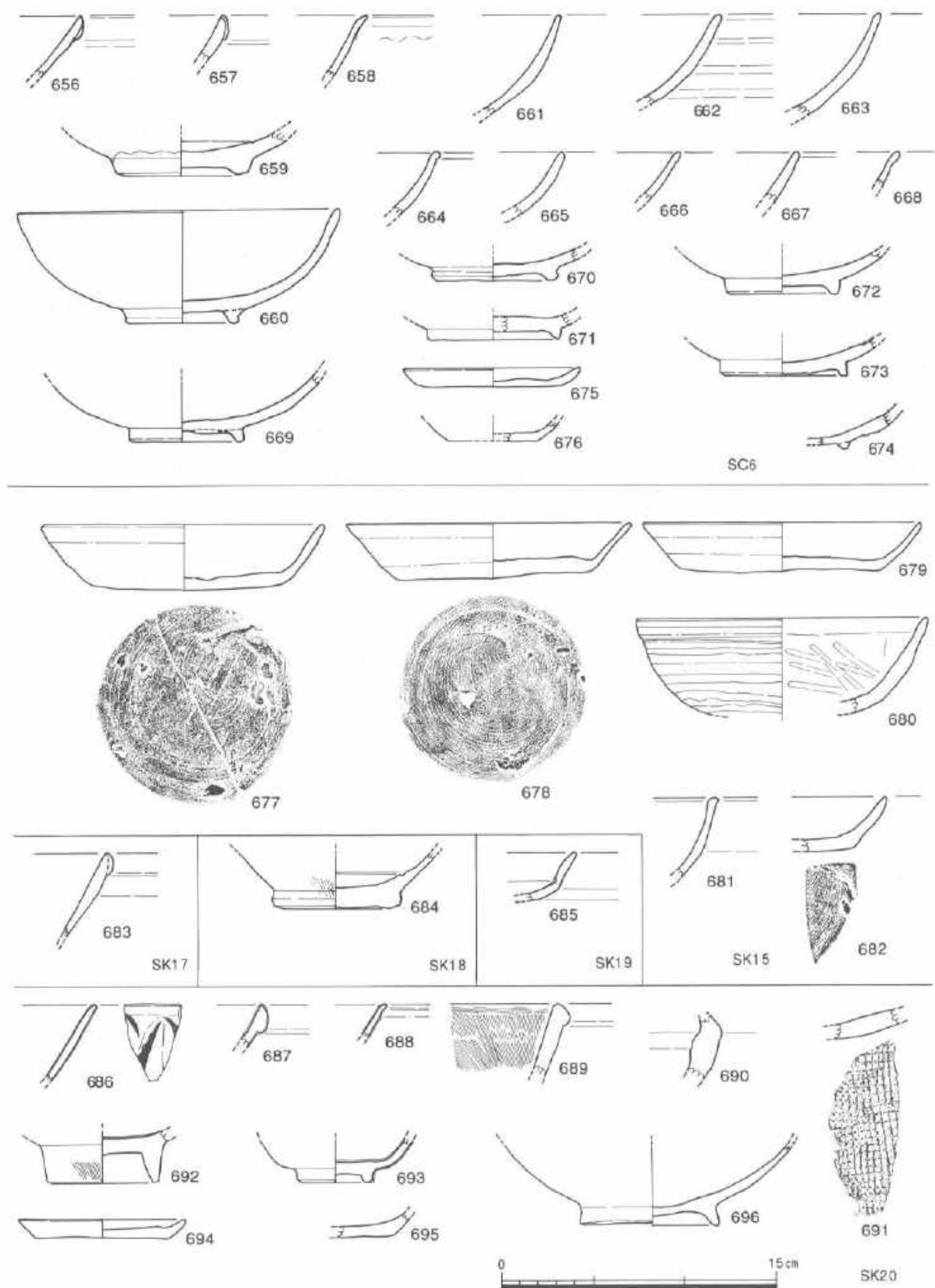
SK20は、H区のほぼ中央でやや南側より単独で検出された。北側から西側にかけては柱穴群があり、東側と南側はG区との畑の段で大きく削られ遺構は認められない。本土坑は畑として削られる以前に穿たれたものと考えられる。平面形は楕円形を呈し、底面は北側がやや浅く南側に深い2段構造を呈している。

SK24 (遺構・第84図、第9表、図版6、遺物744~750、第87図、第14表)

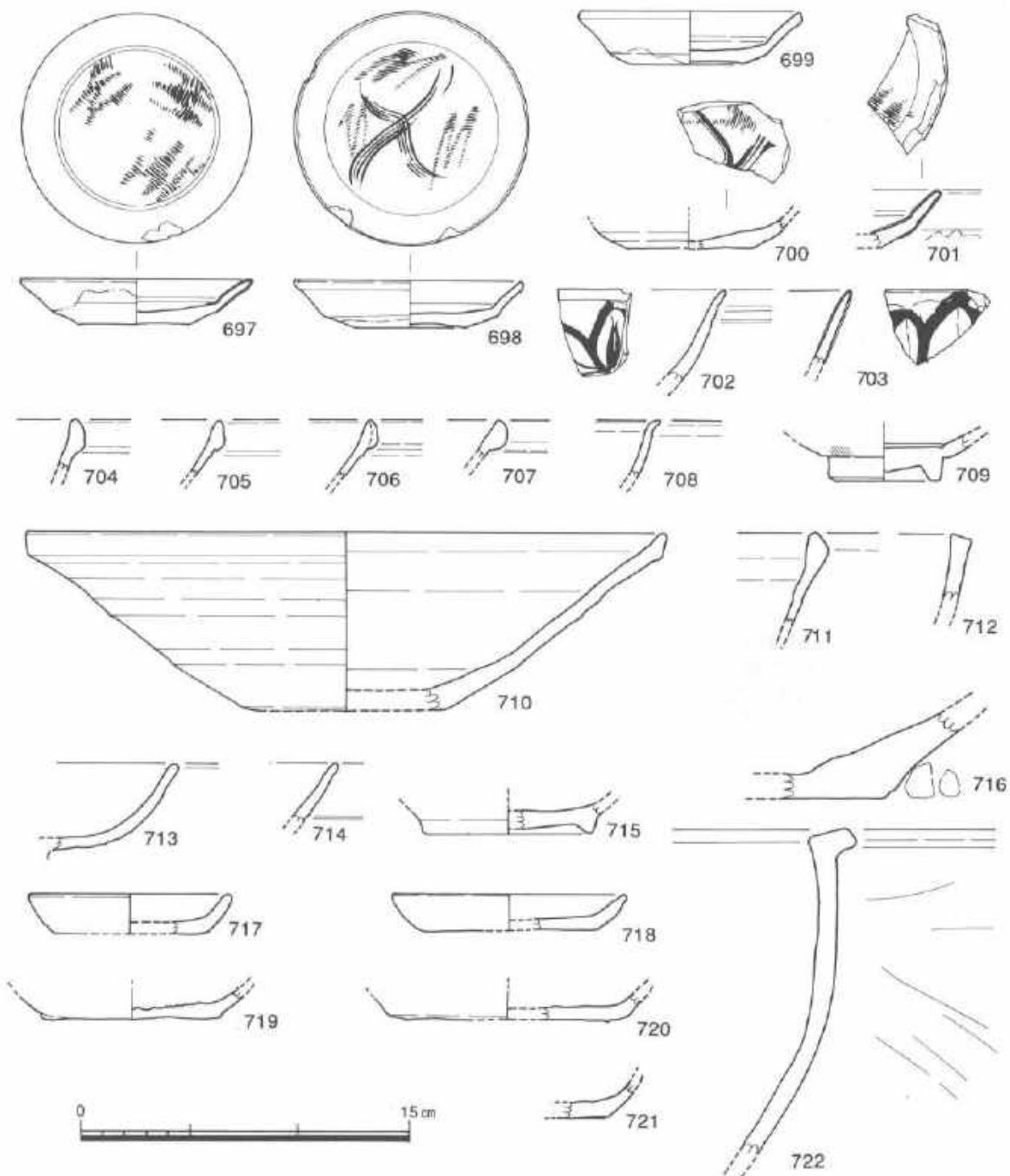
SK24はL区の北端より検出された。遺構周辺には、柱穴などが検出されているが直接関係するものとは考えられない。遺構内の床面周辺より検出された小ピットなどは、小規模な構造物などを伴っていたのではないかと考えられる。遺構内からは、瓦器碗、青磁碗、白磁碗や滑石製の石鍋などが出土している。C区SK4と近似している。



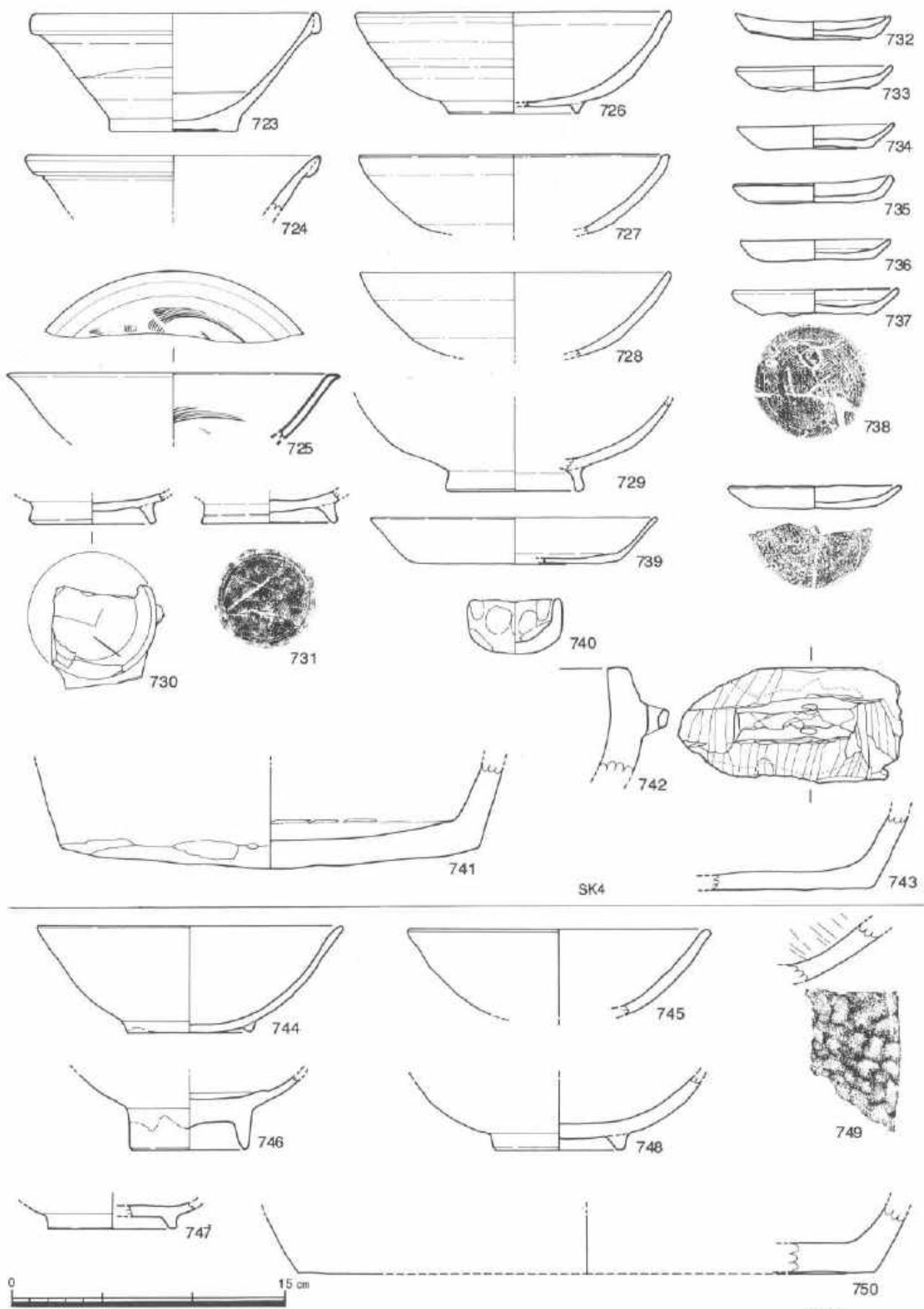
第84図 SK 1・2・4・5・6・14~20・24遺構実測図 (1/80・1/40)



第85図 SK 6・15・17~20遺物実測図 (1/3)



第86図 SK14遺物実測図 (1/3)



第87図 SK 4-24遺物実測図 (1/3)

3. 土壙墓

土壙墓は、火の痕跡を伴わず平面形は橢円形もしくは長方形を呈し、墓壙内に青磁や白磁、瓦器をそれぞれ1点以上供献品として埋納されているものとした。古墳時代の包含層および住居埋土より掘り込まれるものもある。埋土内からはいずれも人骨や有機物等は認められなかった。こうした遺構は、D区のSK7とSK8、H区のSK21、I区のSK22の4基が該当する。

SK7 (遺構・第88図、第10表)

SK7は、D区のほぼ中央でSC7の南西側より検出され、一部住居包含層および埋土を掘り込んで検出された。検出時の平面プランは隅丸の長方形を呈しており、床面は、中央部分がやや下がるくらいではほぼ平らである。墓壙中央より、瓦器椀片を出土した。

SK8 (遺構・第88図、第10表、図版6、遺物751～760、第89図、第15表、図版16)

SK8は、D区のほぼ中央でSC7とSC9などの包含層および埋土より検出された。検出時の平面プランは橢円形を呈しており、床面は比較的平らである。床面中央からやや北側より青磁椀1と土師器皿4と釘がまとまって出土した。

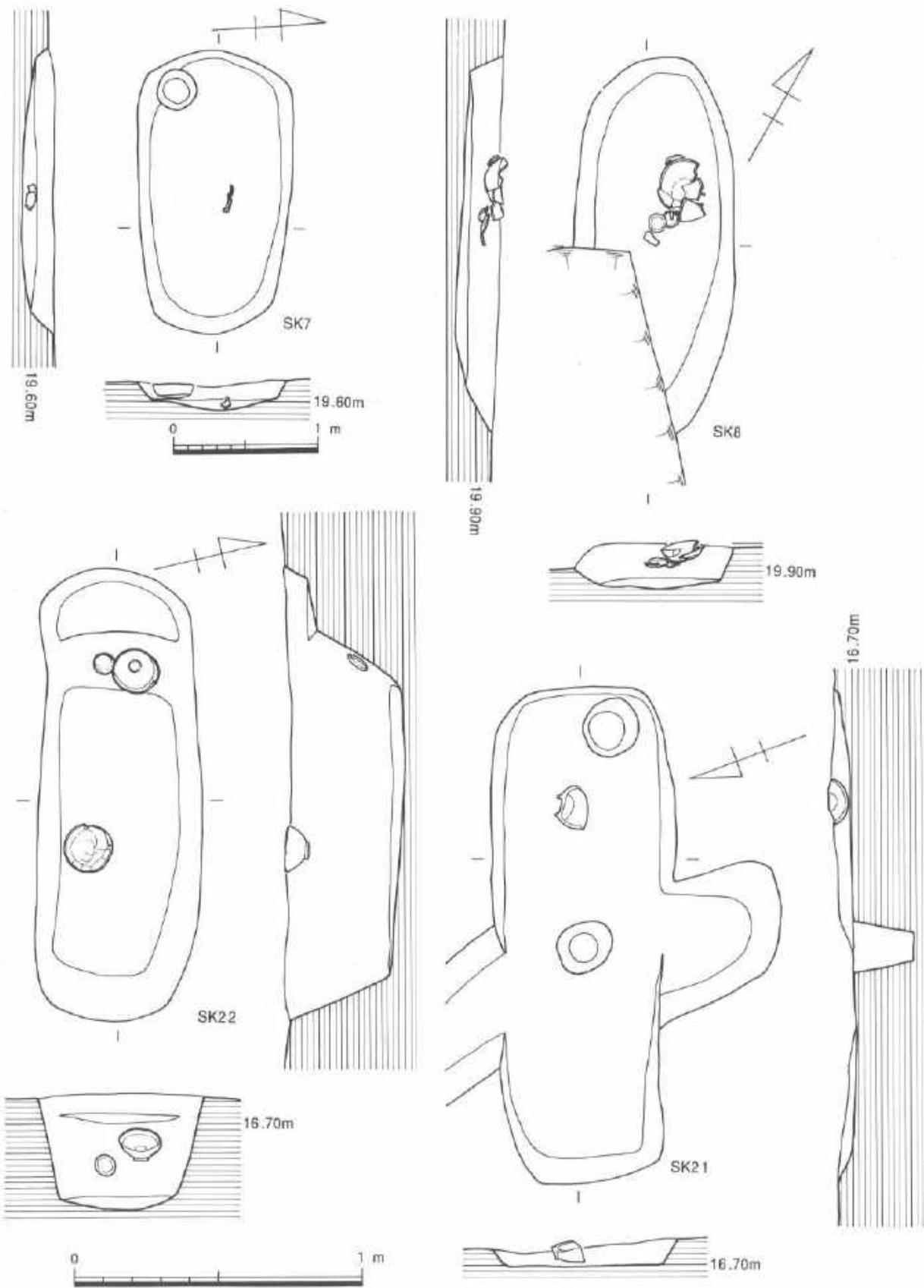
SK21 (遺構・第88図、第10表、遺物765、第89図、第15表、図版16)

SK21は、H区の西側より検出された土壙墓と考えられる。南東側にはSC35～38、南西側にはSC42、北側にはSC43が検出されている。検出時の平面プランは長方形を呈しており埋土を掘削した。床面までは、最深部で11cmと浅いことから先の畑などの開墾によって墓壙上面がかなり削られている。墓壙の東側床面からは、瓦器椀が1点出土した。

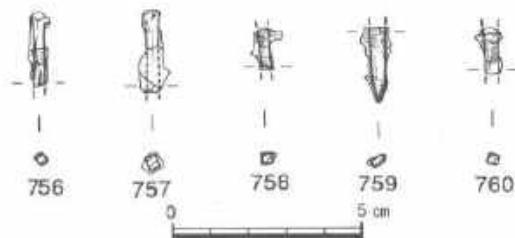
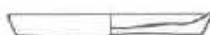
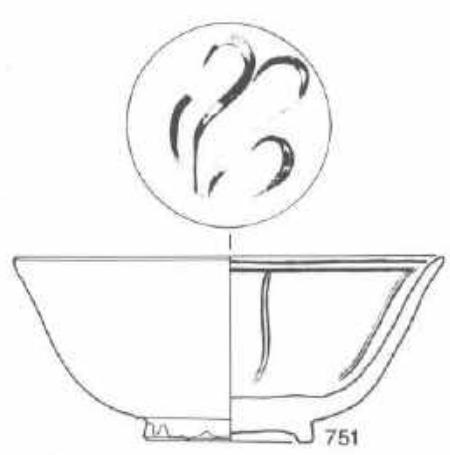
SK22 (遺構・第88図、第10表、図版6、遺物761～764、第89図、第15表、図版16)

SK22は、I区の東側より検出された土壙墓と考えられる。南東側にはSC66、北側にはSC68・69が検出されている。検出時の平面プランは両短辺がやや丸い長方形を呈している。西側には深さ10cmの段があり、段と墓壙の床面にかけての斜面からは青磁椀1と瓦器皿1、墓壙中央の南よりでは、床面から33cm上面で瓦器椀1が出土している。

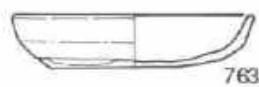
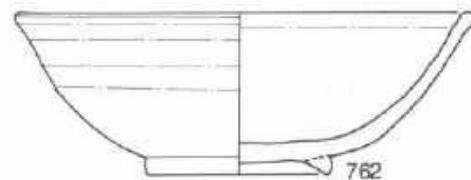
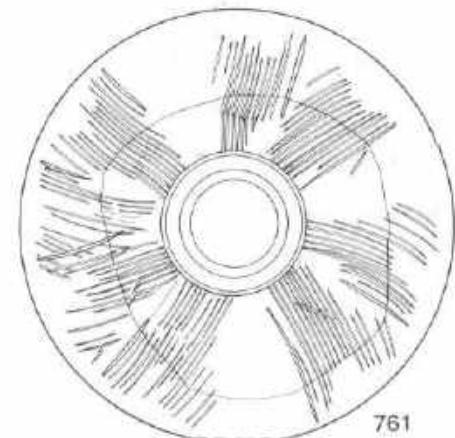
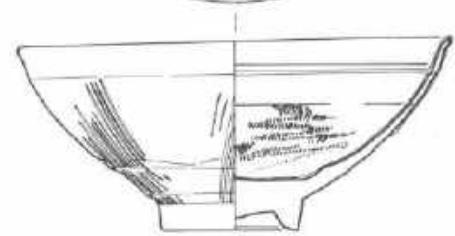
人骨は検出されておらず頭位なども不明であるが、頭位に椀などを置くという民俗的観点から考えれば、西側と推測することも可能である。



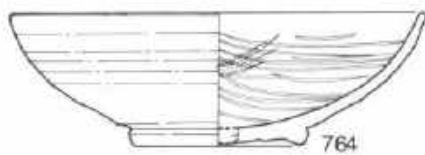
第88図 SK 7・8・21・22遺構実測図 (1/40-1/20)



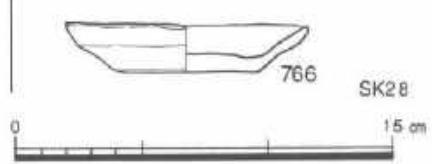
SK8



SK22



SK21



SK28

第89図 SK 8・21・22・28遺物実測図 (釘 1/2・1/3)

4. 火葬墓

火葬墓は、火の使用が床面および壁等に認められ、平面形は梢円形もしくは長方形を呈しているもので、埋土内からはいずれも人骨などが検出された。こうした遺構は、全てM区の東側より検出され、遺構はSK26～29の4基が該当する。

SK26（遺構・第90図、第11表、図版6）

SK26はM区の東側より検出された。平面プランは、胴張りの長方形を呈している。北側では検出面が既に床面であり、墓壙の最深部は5cm足らずであることから上面がかなり削平されている。焼壁はほぼ四方に検出されたが特に北側壁と北側床面では幅4～5cmと厚く認められる。

人骨は主に南側では残りが良く骨盤から大腿骨が検出された。このような状況から推測して頭位は北側と考えられる。

SK27（遺構・第90図、第11表、図版6）

SK27はM区の最も東より検出された。平面プランは、南側の1辺が弧を描く外は長方形を呈している。比較的墓壙の残りは良く、最深部で32cmを測る。

床面には、石材が3石認められ、南から長軸20cm、短軸15.5cm、厚さ9cmの直方体を呈した石材、長軸16cm、短軸13cm、厚さ10cmで平面は不定円形、断面は三角形を呈した石材、北側は長軸短軸共に15cm、厚さ13cmで三角錐を呈した石材をほぼ人骨の下より東西に並んで検出された。

焼壁はほぼ四方に検出されたが、上面から12～23cmの所で認められ、墓壙下半から床面にかけては認められなかった。

人骨は北側の一部と南側で大腿骨が検出された。このような状況から推測して頭位はほぼ北側と考えられる。

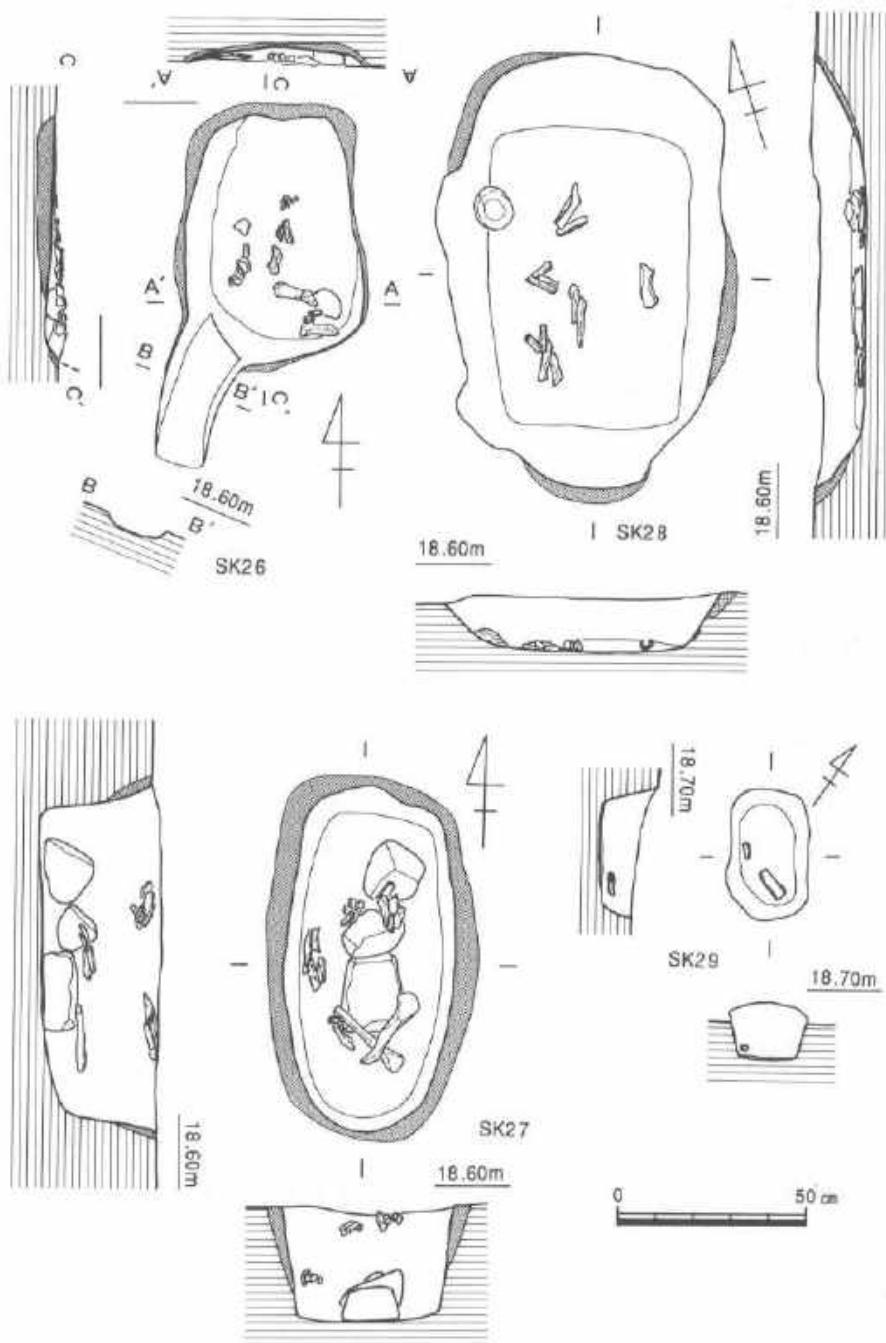
SK28（遺構・第90図、第11表、図版6、遺物766、第89図、第15表、図版16）

SK28はM区の北東側より検出された。平面プランは、不定長方形を呈している。墓壙の深さは、最深部で15cmを測り上面が削平されている。焼壁は南側、東側、北西側の一部に検出されいずれも床面には達していない。

北西側床面では、土師器の皿が出土し、人骨等も床面直下より検出された。人骨の部位については不明である。

SK29（遺構・第90図、第11表）

SK29はM区の東側でSK26とSK28の間より検出された小形の火葬墓である。平面プランは、不定長方形を呈している。墓壙の深さは最深部で15cmを測りSC27同様削平を免れた比較的深い墓壙だったことが推測される。焼壁はほとんど認められなかった。人骨は2片検出したが部位については不明である。



第90図 SK26~29遺構実測図 (1/20)

5. 掘立柱建物跡と柵列

掘立柱建物は、SB 1 からSB 7 の計 7 棟が検出された。今回報告する掘立柱建物には、古墳時代の建物と中世の建物の 2 時期が認められた。前者はD区のSB 1・SB 2 やP区SB 3、Q区SB 7、後者はE区のSB 4、F区のSB 5、I区のSB 6 である。

H区の南西側では、中世の柱穴が多数検出されているが、建物の配置の基になる並びが一応ではなく断定できないため今回の報告からは割愛した。

掘立柱建物ではないが柵列状の遺構は、2 棟検出された。A区のSB 8 とE区のSB 9 である。その他柱穴は無数に検出しているが、建物と断定できるものは以上の 9 棟でありここで報告する。

柱間の計測単位は、すべてmとした。計測方法としては、柱痕のわかるものはその中心から、わからないものは柱穴の中心から柱間の距離を計測した。桁行の長さおよび梁間の長さは、その柱の列によって数値にばらつきがあるためそれぞれの平均値を記載した。

a. 古墳時代の掘立柱建物

SB 1 (遺構・第91図、図版7)

SB 1 は、D区とE区の境より検出された桁行 2 間、梁間 2 間の総柱建物である。北側には隣接してSB 2 が検出されており新旧関係については不明である。東側にはSC 9 と10、西側にはSC13と14、南側にはSC15 が所在している。本掘立柱建物のP 3 とP 5 とP 6 は、SC11を切って検出された。

規模は桁行4.10m、梁間3.85mを測る。主軸はN—87°—Wで桁行がほぼ東西方向に建てられている。

SB 2 (遺構・第91図、図版7)

SB 2 は、D区のやや南西側より検出された桁行 2 間、梁間 2 間の総柱建物である。南側には隣接してSB 1 が検出されており新旧関係については不明である。北側にはSC12があり、その住居の南西コーナーから延びる排水溝にP 3 が切られている。

規模は桁行4.25m、梁間3.36mを測る。主軸はN—89°—Wで桁行がほぼ東西方向に建てられている。

SB 3 (遺構・第91図、図版7)

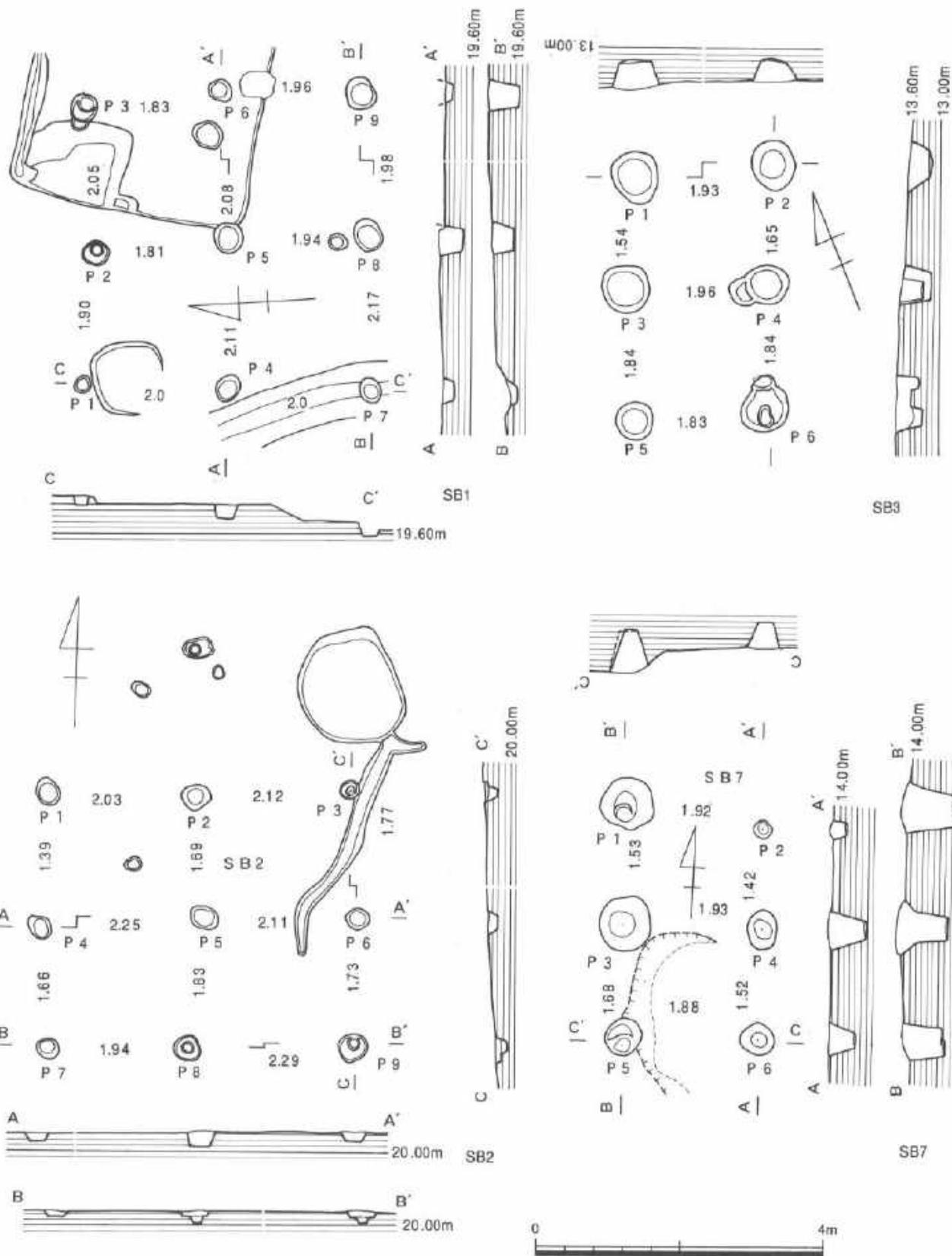
SB 3 は、P区の東端より検出された桁行 2 間、梁間 1 間の建物である。SC99の床面直上より検出され住居を切っており、東側に傾斜した地形から谷の鞍部でフラットな部分に建てられたものと考えられる。

規模は桁行3.44m、梁間1.91mを測る。主軸はN—22°—Eを示す。

SB 7 (遺構・第91図)

SB 7 は、Q区の北側より検出された桁行 2 間、梁間 1 間の建物である。南側にはSC102、北西側にはSC98が検出されている。東側に傾斜する地形の途中に建てられ、西側のP 1・P 3・P 5 は、東側のP 2・P 4・P 6 より高い所に掘られているため柱穴の径は大きく深い。

規模は桁行3.08m、梁間1.91mを測る。主軸はN—3°—Wを示す。



第91図 SB 1~3・7 造構実測図 (1/80)

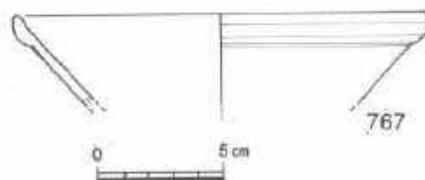
b. 中世の掘立柱建物

SB 4 (遺構・第94図、図版7、遺物767、第92図、第16表)

SB 4 は、E区の北東側に検出された桁行 3間、梁間 2間の建物跡である。西側の柱穴は、包含層より掘り込まれている。建物本体の周辺にも柱穴が検出され特に西側は底状の柱と考えられる。

規模は桁行5.91m、梁間3.92mを測る。主軸はN—17°—Wを示す。

出土遺物は、P3より白磁碗口縁部の一部が出土した。



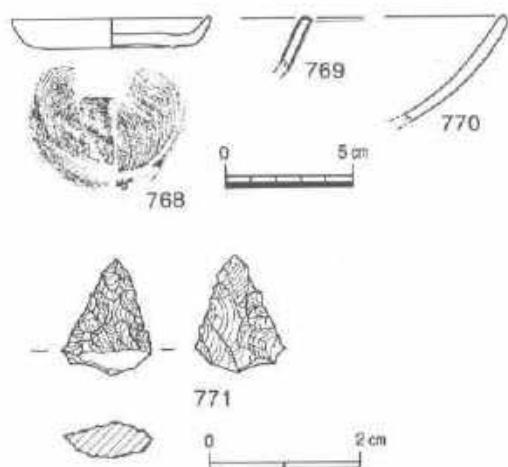
第92図 SB 4 遺物実測図 (1/3)

SB 5 (遺構・第94図、図版7、遺物768~771、第93図、第16表)

SB 5 は、F区の西側より検出された桁行 4間、梁間 2間の建物であるが、南東側の 2本の柱穴は検出されなかつた。本柱穴以外の頗著な遺構は認められずかなり削平をうけ深い柱穴だけが残ったものと考えられる。

規模は桁行7.72m、梁間3.92mを測る。主軸はN—17°—Wを示す。

出土遺物は、P3より土師器小皿・白磁口縁部片・瓦器碗口縁部片が、P2では黒曜石製の石器が検出された。



第93図 SB 5 遺物実測図 (771は1/1・他1/3)

SB 6 (遺構・第96図)

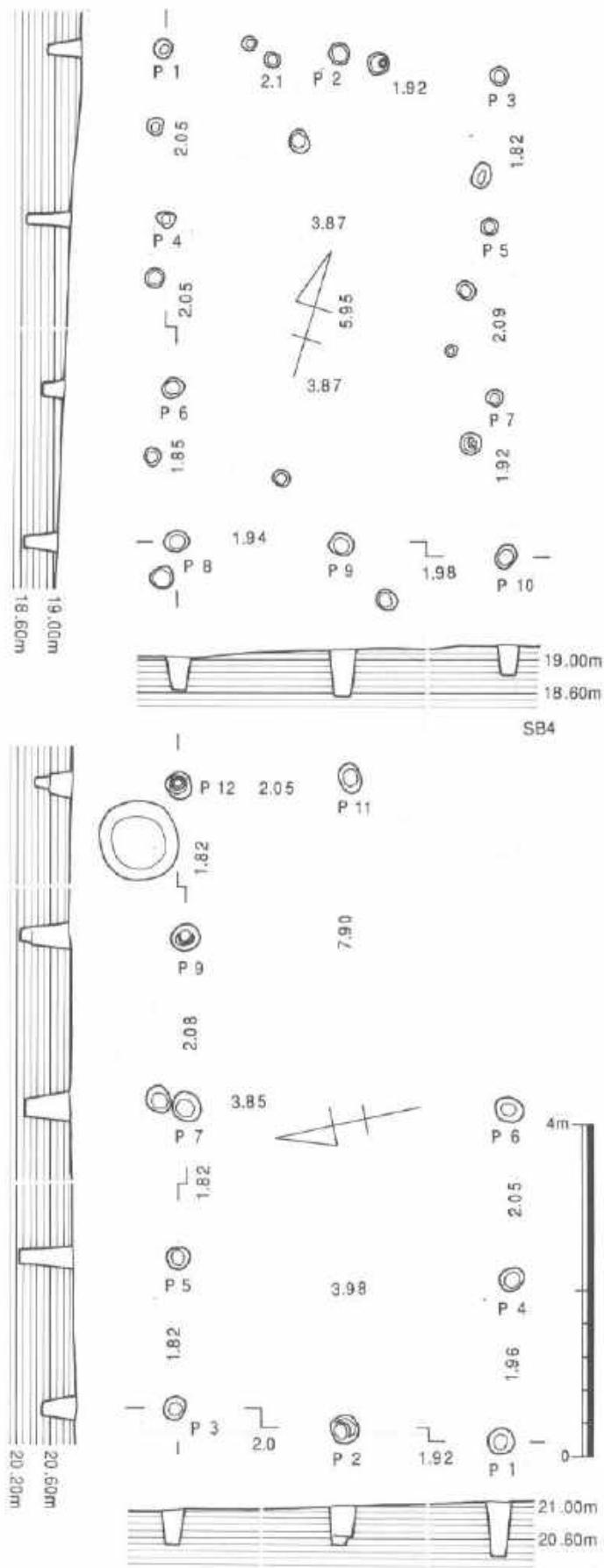
SB 6 は、I区の北西側より検出された桁行 3間、梁間 2間の総柱建物である。建物の南側半分は、SC51と52と53の住居埋土を掘り込んでいる。北西側の柱穴からさらに外側には 2 本の柱が認められ、入り口の可能性が考えられる。P6 と P9 には、柱穴の中に石材が認められ柱材の固定あるいは高さ調節に用いられたものと考えられる。

規模は桁行6.82m、梁間3.78mを測る。主軸はN—55°—Wを示す。

SB 8 (遺構・第96図)

SB 8 は、A区の西側に検出された柵列状の柱列である。この南側には柱穴群が検出されており西側と南側がL字状に区画しているように見えるが、図示できるほどの柱列ではない。しかし何らかの建物跡と考えられこの建物との関係も考えられる。

規模は長さ7.24mを測り、1間の距離は平均1.81mである。主軸はN—88°—Wを示し、ほぼ東西方向である。



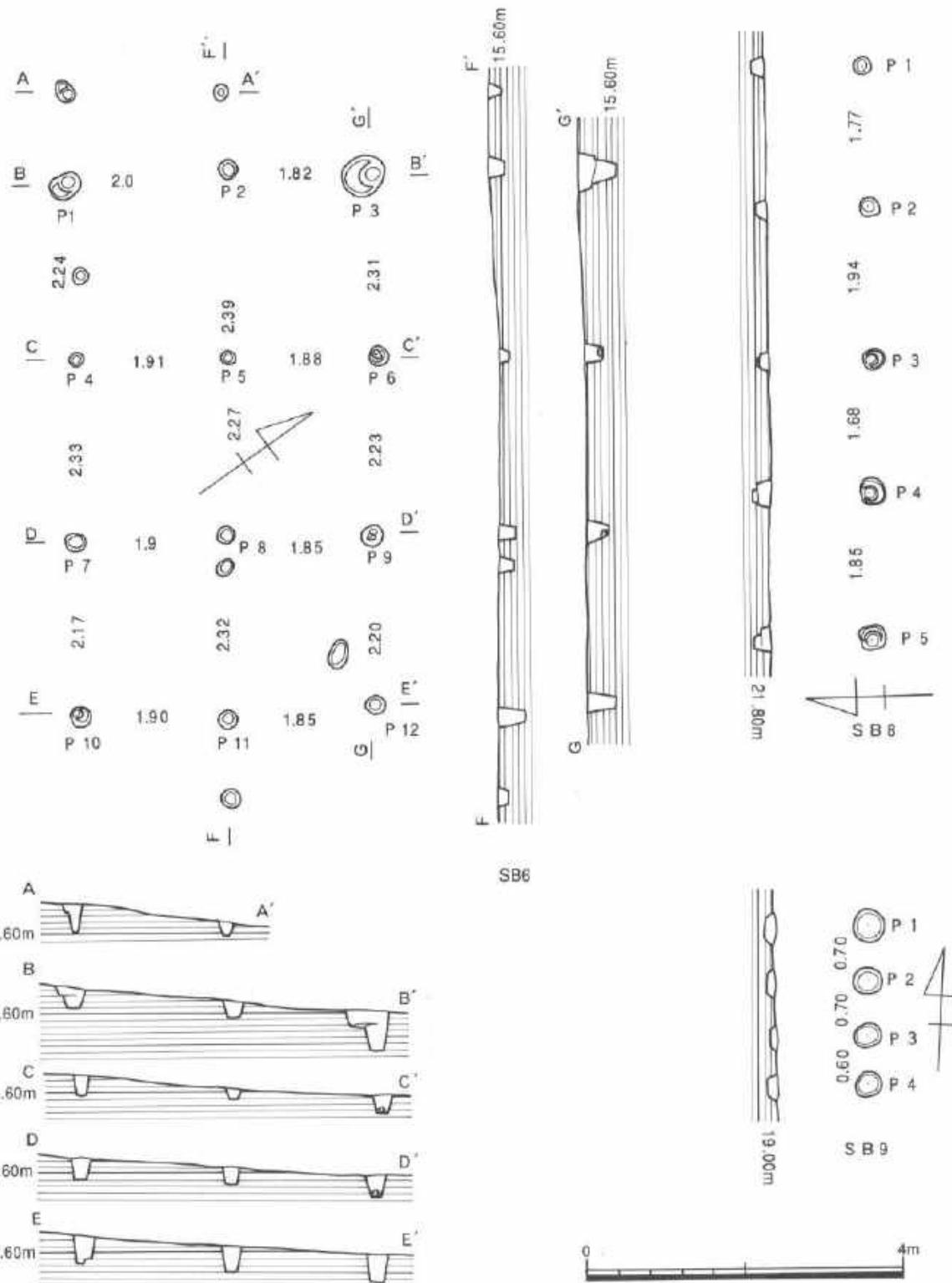
第94図 SB 4・5 遺構実測図 (1/80)

SB 9 (遺構・第94図、遺物772・第95図、第16表、図版16)

SB 9 は、E区の南東側より 4基の遺構が南北方向にほぼ30cmの間隔で検出された。検出状況から柵列状の柱列と考えたが、遺構の構造が柵列としたSB 8 とは異なり、検出面が広く床面の断面が椀状を呈していたことから、土坑が 4基縦に並んで検出したとも考えられる。そのうちP 2 の埋土内より越州窯系の青磁椀が出土した。出土状況は、椀の底部が立った状態であり、意図的に据えたものではない。



第95図 SB 9 遺物実測図 (1/3)



第96図 SB 6・8・9 造構実測図 (1/80)

6. 溝および井戸

溝は、畑の開墾に伴う溝、畑を区画する溝と中世以降の溝とに分けられる。畑の開墾および区画溝が最も新しく昭和30年代に掘られたものである。AとCとL区ではほぼ南北方向に掘られ、FとGとHとI区では東西方向に掘られている。

中世の溝はSD 1～6と6条検出された。埋土や特徴が共通する溝についてはまとめて報告する。

SD 1・2・3

B区のSC19と20と21の直上で検出されたSD 1と、D区のSC11やSC 7の直上で検出されたSD 2・3は、埋土や形状に共通点が認められる。いずれも住居埋土より掘り込まれており、埋土は灰褐色の細砂粒質土である。深さは、5～10cm程度で浅く、断面形は一型を呈している。時期的には、SK 8とほぼ同時期と考えている。

SD 4・5

H区とI区の東側にSD 4・5が2条平行して検出された。ほぼ南北方向に延びていて南端と北端では削平によって認められない。畑の溝や区画溝には切られているがその外の遺構はすべて切っている。道路状の遺構ではないかとも考えられるが詳細は不明である。

SD 6 (遺構・第97・98図、図版7、遺物773～795、第100図、第17表、図版16)

SD 6は、J区の西側より検出された。J区は丘陵の北西端に位置しており西側へ下る部分を確認のためトレンチを設定した結果、地山は急激に落ち込み最も深い部分では敷石を検出した。トレンチの数を増やして確認したが状況は同じだったため面的調査を実施した。

溝の東側は、常に140～160cmの法面状となっていて、丘陵を意図的に削り出している。西側は、本来丘陵の裾部で立ち上がりが15cm以下である。床面は2～3条の溝が施され中央部分には幅1mほどの石敷きが続いている。石は10～2cm大の角礫で厚さ10cm前後にわたって敷かれており、一部下層には小礫を上層には中礫を使用している。

遺物は、石敷きに混じって青磁や白磁等が出土したがいずれも破損している。

SE 1 (遺構・第99図、図版7、遺物795～801、第100図、第17表、図版16)

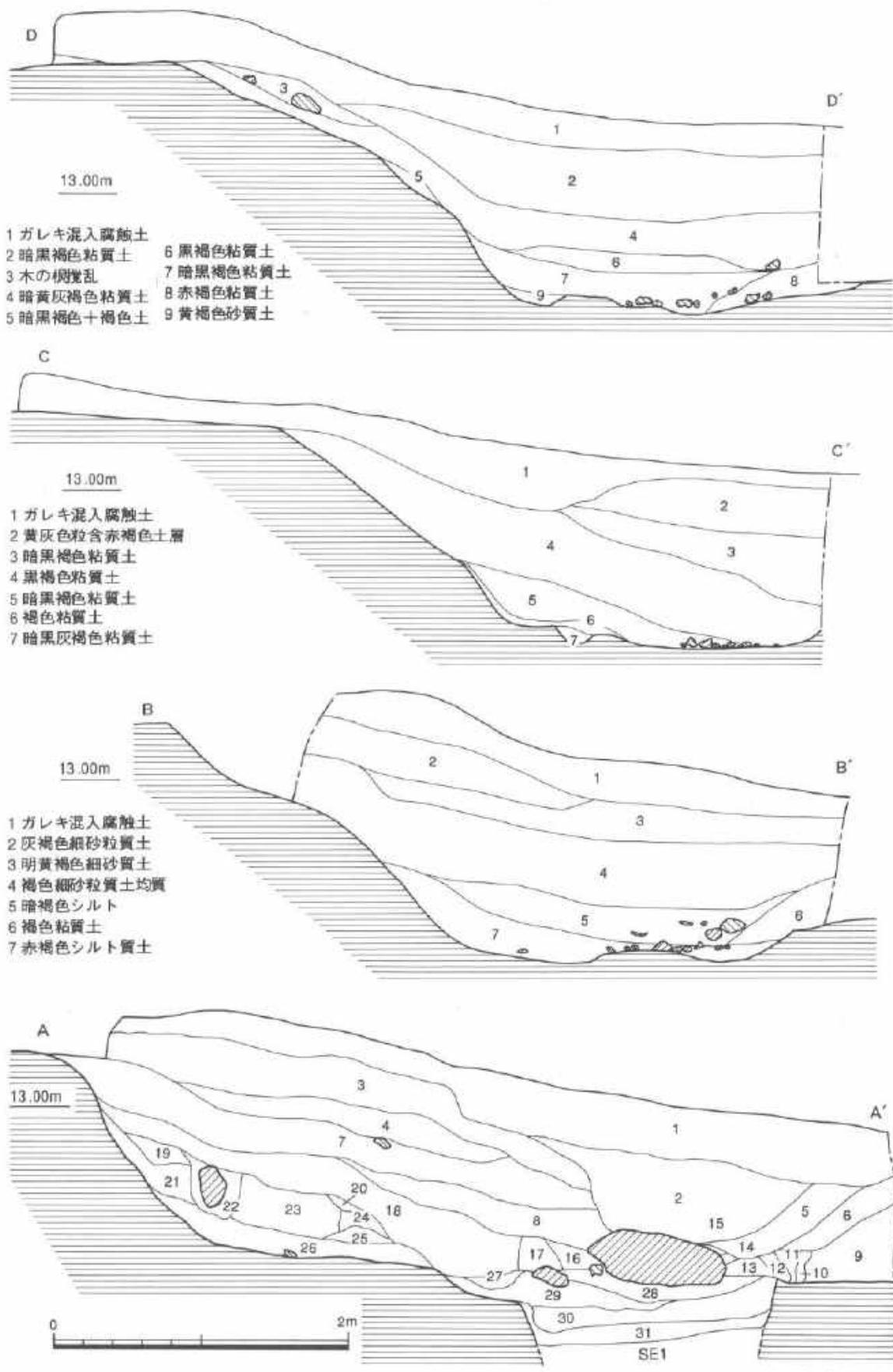
SE 1は、SD 6の北端から検出された石組みの井戸である。平面形は、楕円形を呈していると考えられるが北東側が調査区外となっている。井戸は石敷きを切って検出された。

トレンチ調査の段階で、井戸の口から南西に50cmほどずれた所に、長軸94cm、短軸55cm、厚さ40cmの巨礫が検出されており、蓋だったものと考えられる。

掘りかたから80cm下がったところで石組みが認められ、石組みの上面から2m下がったところに平らな石材を検出し、底の部分と判断した。

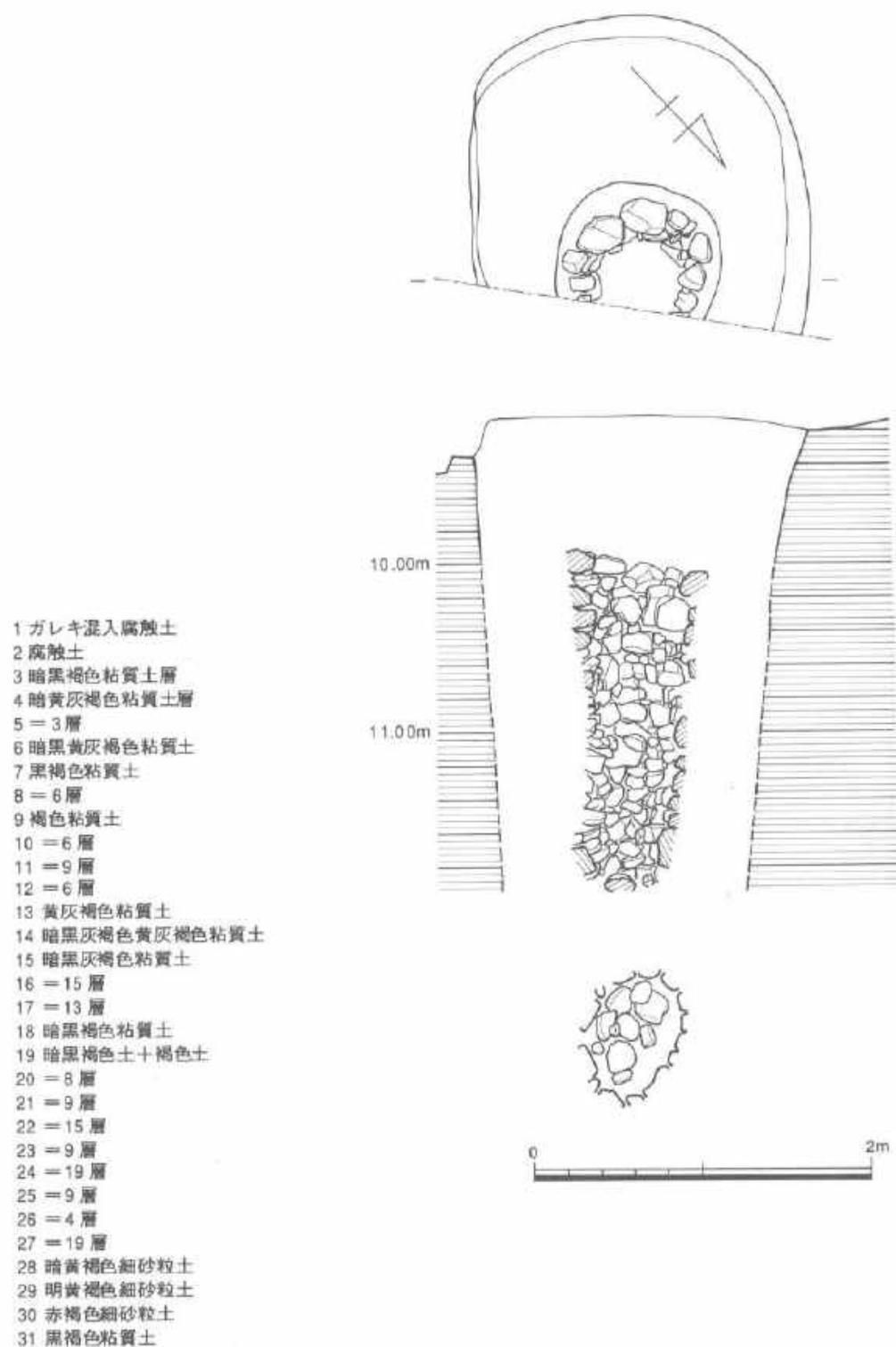


第97図 SD 6 遺構実測図 (1/120)

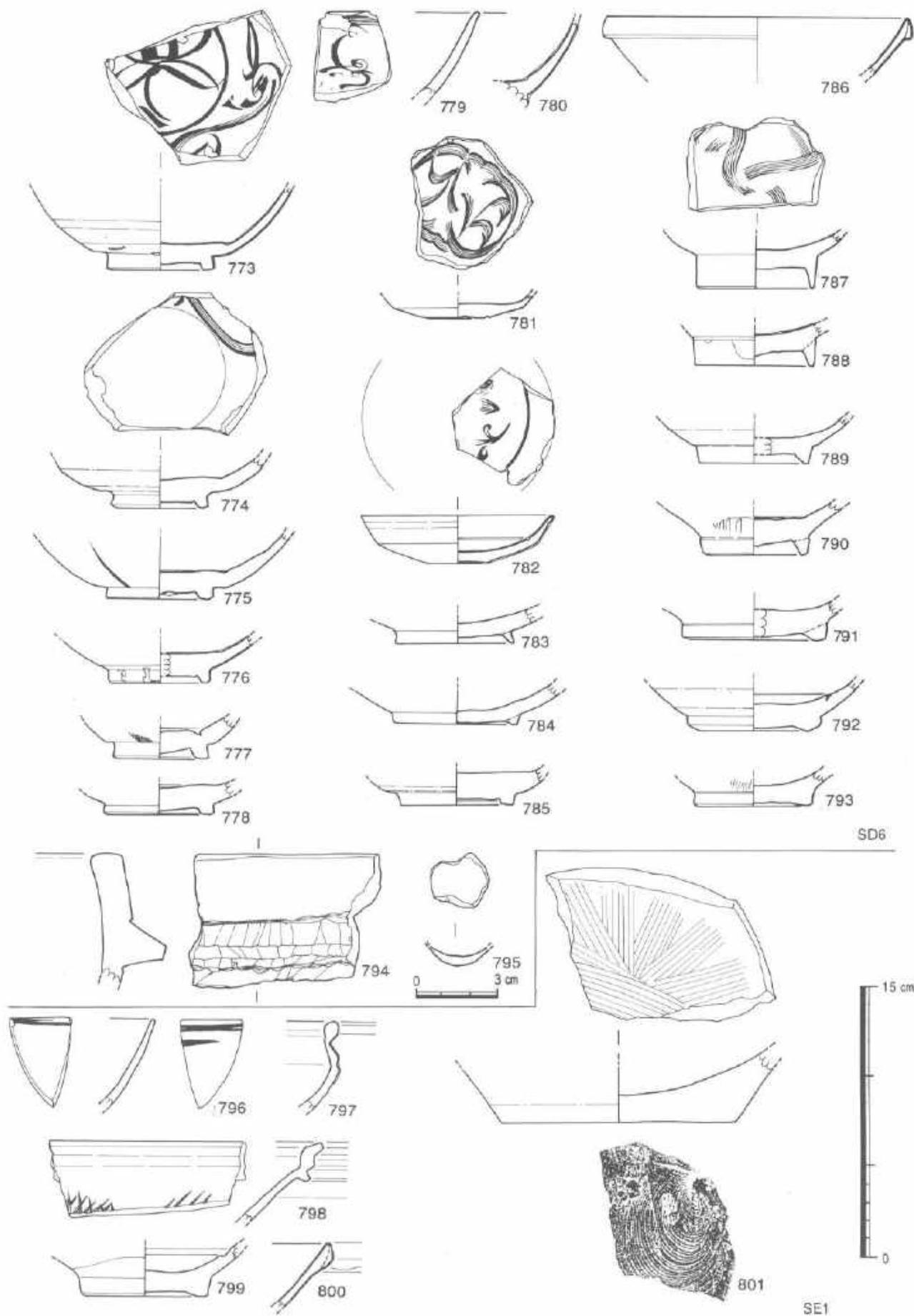


土層名は次ページ

第98図 SD 6 土層実測図 (1/40)



第99図 SE 1遺構実測図 (1/40)



第100図 SD 6・SE 1遺物実測図 (795は1/2・他1/3)

7. 古墳

1号墳 (遺構・第102図、第12表、図版7、遺物802~836・第101図、第18・19表、図版16)

1号墳は、L区周辺の造成に伴って崖を掘削中に石室が検出され、N区として調査を実施した。このほかにも東側には未調査の古墳が1基所在していて2基並んでいる。これらは、久原澤田古墳群の最も北に位置するものと考えられ、本丘陵内ではこの古墳より北には造られていない。

墳丘は、すでに削平され確認できなかった。

主体部は、羨道部をもつ横穴式石室である。現状では、墓道側がかなり削平されていて、天井石はなく特に右側壁が腰石を残してほとんどを失っている。

玄室のプランはほぼ長方形を呈していて、腰石は奥壁1石、両側壁の腰石3石で構成している。

左側壁の腰石は3石あり、墓道側2石が敷石から40cmの高さにあわせ、奥壁側1石が敷石から80cmとほぼ倍の高さがあり、墓道側の2石の上に1段積み上げて奥壁側の腰石に高さを合わせている。上には懷石積みで2段から3段認められる。

奥壁側の腰石は1石で、左側壁の奥壁側の腰石と同じ高さを保っている。楕円形の石材を使用し低い部分は小礫で隙間を埋めている。上には、懷石積みで1~3段残っているが右側が大きく崩壊する。

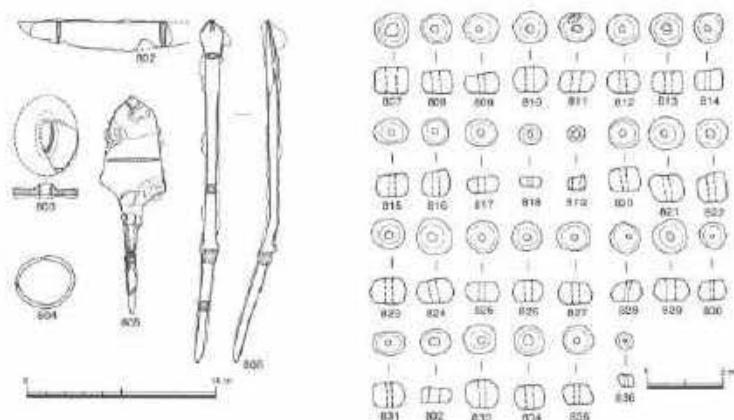
右側壁の腰石は3石で、墓道側2石が敷石から30~40cmの高さで、奥壁側1石が敷石から60cmとほぼ高くなっているが、左腰石ほど高低差に大きな変化はない。

玄門部の袖石は、両墓道側腰石と高さが同じで、上に石材を積み上げて造られていたと考えられる。

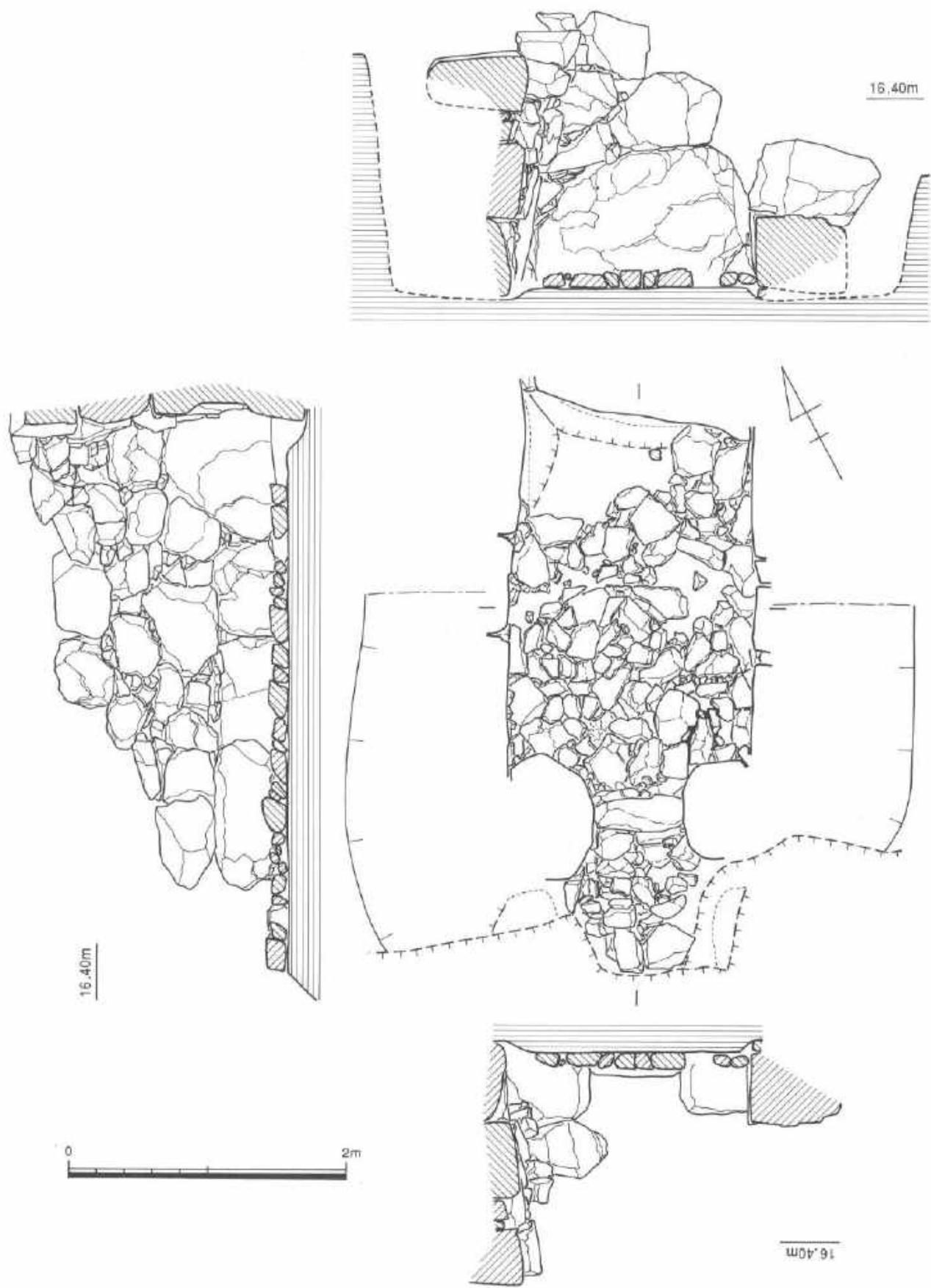
敷石は、20~40cm大の石材で平らな面を上にして敷かれている。玄室の左側コーナーは、盜掘の際に石材が抜かれていた。

羨道部は、両腰石がすでに失われていて床面の敷石のみ残っている。

遺物は、玄室床面より鉄鏃、刀の鶴の小片、耳輪、ガラス玉などが出土した。



第101図 SO 1遺物実測図 (玉 1/2・金属器 1/4)



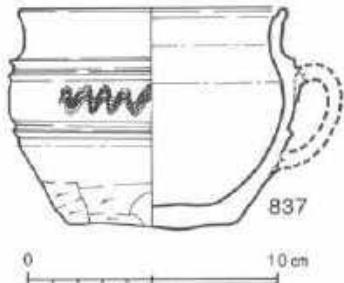
第102図 SO 1 遺構実測図 (1/40)

8. 包含層 (遺物837、第103図、図版16)

包含層は、E区とO区の谷部より検出された。

E区包含層はD区の住居跡群の生活遺構からの堆積で、厚さ約80cmを測る。遺物は、土師器・須恵器・滑石製臼玉・黒曜石片などである。図面や写真などは住居から出土した遺物の時期と差が認められないため割愛した。

O区包含層は、P区Q区の住居跡や土坑などの生活遺構からの堆積で、厚さ約50cmを測る。遺物は、土師器や須恵器などで、そのなかに陶質土器と考えられる取手付鉢が1点出土した。出土地点に関しては、重機による掘下げ途中で出土したために現位置を抑えられていない。



第103図 包含層出土遺物実測図 (1/3)

第8表 古墳時代土坑計測表

単位m

NO	遺構番号	調査区	遺構	平面プラン	長軸	短軸	深さ	主軸方位	遺構挿図番号	遺物挿図番号
1	SK3	B区	土坑	楕円形	3.70+α	2.10+α	0.47	N-90°-W	第74図	第76-77図
2	SK25	L区	土壙墓?	不定楕円形	1.43	0.83	0.84	N-82°-E	第74図	第78図
3-1	SK30A	P区	土坑	楕円形	1.69	1.43	0.71	N-20°-E	第74図	第79図
3-2	SK30B	P区	土坑	隅丸方形	1.42	1.22	0.30	N-11°-E	第74図	第79図
3-3	SK30C	P区	土坑	楕円形	1.11+α	1.12	0.36	N-15°-W	第74図	第79図
3-4	SK30D	P区	土坑	不定長方形	1.17	0.87	0.31	N-11°-E	第74図	第79図
3-5	SK30E	P区	土坑	不定楕円形	1.88	0.67	0.21	N-4°-E	第74図	第79図
4-1	SK31A	P区	土坑	不定方形	4.05	3.80	0.83	N-43°-W	第74図	第79-80図
4-2	SK31B	P区	土坑	不定楕円形	4.64	3.69+α	1.09	N-84°-W	第74図	第81図
5	SK32	Q区	土坑	不定楕円形	5.76	2.80	0.72	N-2°-E	第75図	第82-83図

第9表 中世土坑計測表

単位m

NO	遺構番号	調査区	遺構	平面プラン	長軸	短軸	深さ	主軸方位	遺構挿図番号	遺物挿図番号
1	SK1	A区	土坑	円形	1.02	0.97	0.62	N-0°	第84図	-
2	SK2	A区	土坑	不定楕円形	3.23	2.55	0.56	N-24°-W	第84図	-
3	SK4	C区	土坑	円形	1.22	1.15	0.45	N-34°-E	第84図	第87図
4	SK5	D区	土坑	隅丸長方形	1.64	1.00	0.14	N-54°-E	第84図	-
5	SK6	D区	土坑	隅丸方形	1.65	1.62	0.71	N-21°-E	第84図	第85図
6-1	SK14A	G区	土坑	不定楕円形	1.74	1.01	0.18	N-83°-E	第84図	第86図
6-2	SK14B	G区	土坑	不定台形	1.75	1.46	0.24	N-16°-E	第84図	-
6-3	SK14C	G区	土坑	方形	1.60	1.90+α	0.26	N-88°-E	第84図	第86図
6-4	SK14D	G区	土坑	方形	1.10	1.08+α	0.16	N-19°-W	第84図	-
7	SK15	H区	土坑	隅丸方形	1.24	0.88	0.21	N-64°-W	第84図	第85図
8	SK16	H区	土坑	不定方形	0.98	0.65	0.21	N-19°-W	第84図	-
9	SK17	H区	土坑	楕円形	1.05	1.36	0.57	N-56°-W	第84図	第85図
10	SK18	H区	土坑	楕円形	0.78	0.47	0.13	N-67°-W	第84図	第85図
11	SK19	H区	土坑	円形	1.05	0.81	0.31	N-43°-W	第84図	第85図
12	SK20	H区	土坑	楕円形	3.47	2.00	0.91	N-4°-E	第84図	第85図
13	SK24	L区	土坑	不定方形	1.14	1.11	0.19	N-79°-W	第84図	第87図

第10表 土壙墓計測表

単位m

NO	遺構番号	調査区	遺構	平面プラン	長軸	短軸	深さ	主軸方位	遺構挿図番号	遺物挿図番号
1	SK7	D区	土壙墓	隅丸長方形	1.85	1.08	0.25	N-87°-W	第88図	-
2	SK8	D区	土壙墓	楕円形	1.28+α	0.61	0.17	N-30°-W	第88図	第89図
3	SK21	H区	土壙墓	長方形	1.70	0.64	0.11	N-69°-W	第88図	第89図
4	SK22	I区	土壙墓	隅丸長方形	1.57	0.57	0.42	N-76°-W	第88図	第89図

第11表 火葬墓計測表

単位m

NO	遺構番号	調査区	遺構	平面プラン	長軸	短軸	深さ	主軸方位	遺構挿図番号	遺物挿図番号
1	SK26	M区	火葬墓	不定長方形	0.65	0.46	0.05	N-0°	第90図	-
2	SK27	M区	火葬墓	不定楕円形	0.91	0.45	0.32	N-1°-W	第90図	-
3	SK28	M区	火葬墓	不定長方形	1.14	0.73	0.15	N-18°-E	第90図	第89図
4	SK29	M区	火葬墓	不定長方形	0.34	0.21	0.15	N-35°-W	第90図	-

第12表 古墳計測表

単位m

NO	古墳番号	区	墳形	主体部	玄室規模	主軸	遺構挿図番号	遺物挿図番号
1	SO1	N区	円墳	羨道をもつ横穴式石室	長軸2.73・短軸1.76	N-28°-E	第102図	第101図

第13表 古墳時代土坑出土遺物計測表

単位はcm、()は反転復元による計測数値

遺物番号	調査区	出土遺構と位置	器質	器種	口径 底径	網部容 くずれ量	器高	調整・袖調・文様	色調	胎土	焼成	その他の特徴
第76回 5.0.9	B区	SK3	土師器	脚付楕	(14.5) 外10.5	- 3.3	12.3	受部内面横文口縁部ナデ脚部 外面タテ方向のケズリ内面ヨ コ方向のケズリ掘ナデ	全体的に赤色から赤褐色	所々白色粒子を含むほかシルト質土	やや不良	口縁部外反する
第76回 5.1.0	B区	SK3	土師器	脚付楕	(14.2) -	- 3.3	-	内外面ともにやや風化する脚 部外表面タテ方向のケズリ	全体的に橙色で受部外表面の 一部黒褐色	所々白色粗砂粒を含むほかシルト質土	やや不良	口縁部外反する
第76回 5.1.1	B区	SK3	土師器	脚付楕	14.0 -	- 3.7	-	口縁部ヨコナデ脚部外表面タテ 方向のケズリ	内外面ともに赤褐色 受部の一部黒褐色	白色の粗砂粒を含むほかシルト質土	やや不良	口縁部外反する
第76回 5.1.2	B区	SK3	土師器	脚付楕	(15.3) -	- 2	-	内外面ともにやや風化する	内面明赤褐色外表面に赤褐色	白色の粗砂粒を含むほか細砂粒質土	やや不良	口縁部外反する
第76回 5.1.3	B区	SK3	土師器	楕	(12.0) -	(12.8) -	(5.3)	内外面ともに風化著しい	内外面ともに赤褐色	全体的に細砂粒質土	やや不良	
第76回 5.1.4	B区	SK3	土師器	楕	(12.8) -	- 13.1	5.4	内外面ともに風化著しい	内面に赤褐色から暗褐色 外面に赤褐色から黒褐色	白色砂粒を所々含むほか細砂粒質土	やや良	
第76回 5.1.5	B区	SK3	土師器	楕	(13.7) -	- 2	4.8	内外面ともに複数ミガキ口縁 部ヨコナデ	内外面ともに赤褐色から暗褐色 外表面底部の一部赤褐色	白色の粗砂粒を含むほかシルト質土	良	
第76回 5.1.6	B区	SK3	土師器	楕	(12.2) -	- 2	5.9	内外面ともにやや風化する	内面橙色外表面に赤褐色	褐色粒子を含むほか砂粒から細砂粒質土	やや良	
第76回 5.1.7	B区	SK3	土師器	楕	(13.8) -	- 2	4.9	内外面ともにやや風化する	内外面ともに橙色外表面の 一部黒褐色	所々砂粒を含むほかシルト質土	やや良	
第76回 5.1.8	B区	SK3	土師器	楕	- -	(11.8) -	-	内外面ともに風化著しい	内面明赤褐色から暗褐色 外表面黒褐色から褐色	全体的に細砂粒質土	やや不良	
第76回 5.1.9	B区	SK3	土師器	楕	(14.5) -	- 2	4.8	内外面ともにやや風化する	内面灰褐色外表面橙色から 赤褐色	細砂粒からシルト質土	やや良	
第76回 5.2.0	B区	SK3	土師器	楕?	(13.8) -	- 2	-	内外面ともにやや風化する	内外面ともに赤褐色	白色粗砂粒を含む ほかシルト質土	やや不良	
第76回 5.2.1	B区	SK3	土師器	楕	- 2	- 2	-	内外面ともにやや風化するが 内面に暗紋が認められる	内外面ともに赤褐色	粗砂粒を所々見ら れるほか細砂粒からシルト質土	やや良	
第76回 5.2.2	B区	SK3	土師器	楕	(13.7) -	- 2	5.4	内外面ともにやや風化する	内面に赤褐色外表面口縁 部付近に赤褐色底部橙 色	白色の粗砂粒を所々含む ほか細砂粒質土	やや不良	口縁部外反する
第76回 5.2.3	B区	SK3	土師器	楕	(13.4) -	- 2	5.4	内外面ともに風化著しい	内面口縁部赤褐色で下部 明赤褐色外表面暗赤褐色から 赤褐色	白色の粗砂粒を一部含む ほか細砂粒質土	やや不良	口縁部外反する
第76回 5.2.4	B区	SK3	土師器	楕	14.4 -	- 2	6.1	内面放射状に暗紋あり外表面 口縁部ヨコナデほかやや風化す る	内外面ともに明赤褐色	白色の粗砂粒を所々含む ほかシルト質土	やや良	口縁部大きく外反する

第76回 5.2.5	B区	SK 3	土師器	椀	(10.1) —	—	7.1	内外面ともに風化著しく表面がひび割れ状に剥がれている	内外面ともに表面橙色で断面にぶい赤褐色	白色の細砂粒を含むほかシルト質土	やや不良	口縁部外反する
第76回 5.2.6	B区	SK 3	土師器	壺	11.5 — 102	12.2 10.5	11.7	内外面ともにやや風化する	内面にぶい橙色から褐灰色 外面にぶい黄褐色から褐色	白色の細砂粒を含むほかシルトから細砂粒質土	やや良	
第76回 5.2.7	B区	SK 3	土師器	壺	(13.6) —	(15.0) —	—	口縁部ヨコナデ胸部内面粘土帯の離ぎ目が確認できる	内外面ともににぶい赤褐色 内面口縁下部褐色	5mm以下の赤色粒を含むほか砂粒から細砂粒質土	やや良	
第76回 5.2.8	B区	SK 3	土師器	椀	—	—	—	外面ヨコナデ内面やや風化する	内外面ともに橙色	全体的に細砂粒質土	やや良	
第76回 5.2.9	B区	SK 3	土師器	碗	—	—	—	内外面ともに風化著しく表面がひび割れ状に剥がれている	内外面ともに赤褐色	細砂粒からシルト質土	やや不良	
第76回 5.3.0	B区	SK 3	土師器	壺	—	—	—	内外面ともに風化著しく表面がひび割れ状に剥がれている	内外面ともに赤褐色	細砂粒からシルト質土	やや不良	
第76回 5.3.1	B区	SK 3	土師器	壺	—	—	—	内外面ともに風化著しく表面がひび割れ状に剥がれている	内面にぶい橙色から暗赤褐色 外面にぶい赤褐色と赤褐色	白色の砂粒を含むほか細砂粒質土	やや不良	
第76回 5.3.2	B区	SK 3	土師器	壺	—	—	—	内外面ともにやや風化する	内面にぶい橙色から淡黄橙色 外面にぶい橙色	赤色粒子を多く含むほか細砂粒質土	やや良	
第77回 5.3.3	B区	SK 3	土師器	壺	(13.6) —	(19.6) (13.0)	—	口縁部ヨコナデ胸部内面左上方向のケズリ外面胸部タテ方向の調整痕	内面にぶい橙色から橙色 外面褐灰色から灰褐色	2mm大の赤色粒子を多く含むほか細砂粒質土	やや良	
第77回 5.3.4	B区	SK 3	土師器	壺	(14.4) —	(19.4) (12.8)	—	内外面ともにやや風化するが胸部内面左上方のケズリ頭部付近粘土帯の離ぎ目あり	内面橙色からにぶい赤褐色 外面にぶい橙色から褐色	赤色粒や白色粒を含むほか砂粒から細砂粒質土	やや良	
第77回 5.3.5	B区	SK 3	土師器	壺	—	—	—	内面風化著しい粘土帯の離ぎ目あり口縁部外面ヨコナデ胸部ハケ	内面にぶい橙色からにぶい褐色 外面褐灰色から黒褐色	赤色粒や粗砂粒を含むほか砂粒から細砂粒	やや良	
第77回 5.3.6	B区	SK 3	土師器	壺	(16.2) —	— (14.8)	—	口縁部ヨコナデほか内外面ともにやや風化する	内外面ともににぶい橙色からにぶい赤褐色	白色の粗砂粒を含むほか細砂粒質土	やや良	
第77回 5.3.7	B区	SK 3	土師器	壺	(15.8) —	(14.0) —	—	内外面ともにやや風化する	内面にぶい褐色で頭部褐色 外面橙色で胸部暗赤褐色	5mm大の赤褐色粒子を含むほか細砂粒質土	やや良	
第77回 5.3.8	B区	SK 3	土師器	壺?	—	—	—	内外面ともにやや風化するが外面頭部から胸部にかけて粗いハケ	内外面ともに橙色	セキエイ窓ほかの 細砂粒を含むほか細砂粒質土	やや良	
第77回 5.3.9	B区	SK 3	土師器	壺?	—	—	—	内外面ともにやや風化する	内面橙色外面にぶい黄橙色	褐色粒子を含むほか 細砂粒質土	やや良	
第77回 5.4.0	B区	SK 3	須恵器	壺	—	—	—	内外面ともに回転ヨコナデ	内面青灰色外面灰褐色	細砂や粗砂粒を含むほか 細砂粒からシルト質土	やや良	
第77回 5.4.1	B区	SK 3	土師器	壺	—	—	—	口縁部ヨコナデ胸部内面左上方向のケズリ外面胸部タテ方向のハケが確認できる	内面暗褐色外面にぶい赤褐色	全体的に砂粒から 細砂粒質土	やや良	
第77回 5.4.2	B区	SK 3	滑石土器	壺	—	—	—	内外面ともに風化する 口縁部肥厚させる	内外面ともに橙色	粗砂粒砂粒を多く含む	やや良	
第78回 5.4.3	L区	SK 2.5	鉄器	鍔具	幅4.1 7.6 — 5.0	—	—	—	—	—	—	
第79回 5.4.4	P区	SK 3.0	須恵器	环身	(10.9) —	受部径 (13.0)	—	内外面ともに回転ヨコナデ	立ち上がり部分と内面灰褐色 外面暗灰褐色	白色の砂粒を多く含むほかシルト質土	やや良	
第79回 5.4.5	P区	SK 3.0	須恵器	环身	(11.5) —	受部径 (14.4)	(4.0)	内外面ともに上位回転ヨコナデ内面下半不定方向ナデ外面下左回転のヘラケズリ	内外面ともに青灰色断面暗灰褐色	全体的に細砂粒を多く含むほかシルト質土	やや良	
第79回 5.4.6	P区	SK 3.0	土師器	椀	(14.4) —	14.8 —	5.7	口縁部内外面ともにヨコナデ 外面放射状に工具痕外面不定 方向の離かいハケ調整	内外面ともに橙色	2mm大の赤色粒子と 白色砂粒を含む ほか細砂粒質土	良	
第79回 5.4.7	P区	SK 3.0	土師器	椀	(12.4) —	—	—	内外面ともに風化著しい	外面橙色内面明赤褐色	白色粗砂粒を含む ほか砂粒から細砂 粒質土	やや良	
第79回 5.4.8	P区	SK 3.0	土師器	壺	(11.5) —	— (10.6)	—	内外面ともに風化著しい	内面にぶい褐色外面灰褐色	赤色粒子および白 色砂粒を多く含む ほか細砂粒質土	やや不良	
第79回 5.4.9	P区	SK 3.0	土師器	壺	(10.0) —	— (9.6)	—	内外面ともに風化するが内面 胸部右上方向のケズリ	内外面ともに浅黄橙色	白色砂粒を含むほ かシルトから細砂 粒質土	やや良	
第79回 5.5.0	P区	SK 3.0	土師器	壺	(13.9) —	— (12.0)	—	口縁部内外面ともにヨコナデ 胸部内面ヨコ方向のケズリ外 面粗いハケ	内面橙色から明赤褐色 外面暗色と黒褐色が複 合	所々黒斑を含むほ かシルトから細砂 粒質土	やや良	
第79回 5.5.1	P区	SK 3.0	土師器	壺	(11.2) —	—	—	口縁部内外面ともにヨコナデ と考えられるが全体的に風化 する	内面にぶい橙色から褐色外 面赤褐色からにぶい褐色で 一部黒褐色	赤色粒と白色砂粒 を含むほか細砂 粒質土	やや良	
第79回 5.5.2	P区	SK 3.0	土師器	壺	(19.6) —	(15.8) —	—	口縁部内外面ともにヨコナデ 内面胸部ケズリ	内外面ともににぶい橙色	赤色粒と白色砂粒 を含むほかシルト から細砂粒質土	良	

第79回 5.5.3	P区	SK3.0	土師器	甕	— —	— —	— —	内外面ともに風化著しい	内面に赤い赤褐色から黒褐色 外表面橙色	赤色粒子が白色砂粒を多く含む	やや不良		
第79回 5.5.4	P区	SK3.0	土師器	高坏	外径 (13.0)	— —	— —	内外面ともに風化する脚部三方に円形の穿孔	内外面ともに橙色	赤色粒子を多く含む白色砂粒を含む	やや良		
第79回 5.5.5	P区	SK3.0	土師器	高坏	— —	— —	— —	内面工具によるヨコ方向のケズリ外表面工具によるタテ方向の調整	内外面ともに橙色からに赤い橙色	褐色粒子を多く含むほか細砂粒質土	やや良		
第79回 5.5.6	P区	SK3.0	土師器	手捏土器	外3.0 外2.9	— 1.2	3.4	外面ヘラによる調整	内外面ともに赤い黄橙色	砂粒から細砂粒質土	やや良	高坏および器台の形状を呈す	
第79回 5.5.7	P区	SK3.0	弥生土器?	甕	— 外6.0	— —	— —	内外面ともに風化する	内面橙色からに赤い橙色外表面橙色から黄褐色	白色粗砂粒および円錐を含むほか細砂粒質土	やや良		
第79回 5.5.8	P区	SK3.0	土師器	手捏土器	(3.9) 外2.6	— —	3.2	内面見込み指による調整外面下半指頭压痕	内外面ともに赤い褐色	シルトから細砂粒質土	やや良	變形を呈す	
第79回 5.5.9	P区	SK3.0	土師器	手捏土器	— 2.8	— —	— —	内外面ともに指による調整	内外面ともに赤褐色	赤色粒子および白色砂粒を含むほか細砂粒質土	やや良	鉢形を呈す	
第79回 5.6.0	P区	SK3.0	土師器	手捏土器	(4.9) —	— —	4.1	内外面ともに指による調整口部擴んで整形	内面口縁橙色脚部下半浅黄 橙色外表面橙色	赤色粒と白色粒を含むほか細砂粒質土	やや良	鉢形を呈す	
第79回 5.6.1	P区	SK3.0	土師器	手捏土器	2.5 2.0	— —	3.4	3.0	内外面ともに指による調整	内外面ともに灰白色を呈し 外面の一部黒色	白色砂粒を含むほか細砂粒質土	やや良	鉢形を呈す
第79回 5.6.2	P区	SK3.0	土師器	手捏土器	2.2~ 3.0 —	— —	— —	3.0	内外面ともに指による調整	内外面ともに赤い橙色	白色砂粒を多く含むほか細砂粒質土	やや良	鉢形を呈す
第79回 5.6.3	P区	SK3.1A	須恵器	坏蓋	(11.7) —	— —	— —	3.1	内面および外面天井部1/3回転ナデ調整天井部右回り回転ヘラケズリ	内外面ともに暗青灰色	白色細砂粒を含む ほかシルト質土	やや良	
第79回 5.6.4	P区	SK3.1A	須恵器	坏蓋	(14.5) —	— —	— —	3.7	内面および外面口縁部回転ナデ見込み不定方向ナデ調整天井部左回り回転ヘラケズリ	内外面ともにやや黄を帯びた 灰白色	白色の斑駁を含む ほか砂質土	やや良	
第79回 5.6.5	P区	SK3.1A	須恵器	坏蓋	つまみ 外径 3.3	— —	— —	— —	内面回転ナデ見込み不定方向 ナデ調整天井部回転ヘラケズリ	内外面ともに灰色	全体的に細砂粒からシルト質土	やや良	
第79回 5.6.6	P区	SK3.1A	須恵器	坏身	(11.1) —	受部径 (13.0)	—	—	口縁部内外面ともに回転ナデ	内外面ともに灰色	全体的に細砂粒からシルト質土	やや良	
第79回 5.6.7	P区	SK3.1A	須恵器	坏身	(10.8) —	受部径 (12.8)	—	—	内外面ともに回転ナデ調整外 面天井部左回りの回転ヘラケズリ	内面および外面立ち上がり 橙色外表面に赤い褐色	白色砂粒を含む ほか細砂粒からシルト質土	やや良	
第79回 5.6.8	P区	SK3.1A	須恵器	坏身	(11.6) —	受部径 (13.8)	3.6	—	内面および外面天井部1/3回転ナデ 天井部粗い調整は右回り細かい調整 は左回りの回転ヘラケズリ	内外面ともにオリーブ黒色 断面赤灰色	粗砂粒を含むほか 細砂粒質土	やや良	
第79回 5.6.9	P区	SK3.1A	須恵器	坏身	11.4 —	受部径 (13.8)	4.3	—	内面および外面受部下部回転 ナデ見込み不定方向ナデ天井 部左回り回転ヘラケズリ	内外面ともに灰色	粗砂粒を含むほか 細砂粒質土	やや良	
第79回 5.7.0	P区	SK3.1A	須恵器	坏身	12.8 —	受部径 (15.0)	—	—	回転ナデ調整外面天井部ヘラ ケズリ	内外面ともに黄灰色	全体的に細砂粒からシルト質土	やや良	
第79回 5.7.1	P区	SK3.1A	須恵器	坏身	(13.2) —	受部径 (15.0)	—	—	口縁部内外面ともに回転ナデ	内外面ともに灰色	砂粒を含むほか 細砂粒質土	やや良	
第79回 5.7.2	P区	SK3.1A	須恵器	坏身	(13.2) —	受部径 (15.2)	—	—	内面および外面天井部1/3回 転ナデ天井部左回りの回転ヘラ ケズリ	内外面ともに黒褐色	全体的に細砂粒からシルト質土	やや良	
第79回 5.7.3	P区	SK3.1A	須恵器	坏身	(12.7) —	受部径 (14.8)	3.5	—	内面および外面受部下部回転 ナデ見込み不定方向ナデ天井 部右回り回転ヘラケズリ	内外面ともに暗赤灰色断面 に赤い褐色	砂粒を含むほか 細砂粒からシルト質土	やや良	
第79回 5.7.4	P区	SK3.1A	須恵器	坏身	(12.6) —	受部径 (15.4)	5.0	—	内面および外面天井部1/2回 転ナデ内面不定方向ナデ天井 部左回りの回転ヘラケズリ	内面に赤い褐色外表面灰白色	全体的に細砂粒からシルト質土	やや良	
第79回 5.7.5	P区	SK3.1A	須恵器	甕	(19.0) —	(14.5)	—	—	口縁部内外面ともに回転ナデ	内外面ともに暗灰色	白色の砂粒を含む ほか細砂粒質土	やや良	
第80回 5.7.6	P区	SK3.1A	土師器	椭	11.4 —	—	4.7	内外面ともに工具によるミガキ 外表面風化する	内外面ともに橙色から明赤 褐色外表面部の一部黒色	全体的に砂粒から 細砂粒質土	良		
第80回 5.7.7	P区	SK3.1A	土師器	椭	(14.8) —	—	5.8	内面風化著しく外表面一部ナデ	内面に赤い褐色外表面に 赤い褐色から橙色底部黒色	白色の砂粒を多く含む ほか細砂粒質土	やや良		
第80回 5.7.8	P区	SK3.1A	土師器	椭	— —	— —	— —	内外面ともに風化著しい	内外面ともに赤い褐色から 橙色	赤褐色粒子を含む ほか砂粒から細砂粒	やや良		
第80回 5.7.9	P区	SK3.1A	土師器	椭	— —	— —	— —	内外面ともに風化し外表面一部 ナデ	内外面ともに赤い褐色	赤褐色粒子を含む ほか砂粒から細砂粒	やや良		
第80回 5.8.0	P区	SK3.1A	土師器	椭	— —	— —	— —	口縁部つまみながらヨコ方向 ナデ内面工具による擦痕外表面 全体部上半部ハケ	内外面ともに赤い褐色	赤褐色粒子を含む ほか砂粒から細砂粒質土	やや良		

第80回 5.8.1	P区	SK31A	土師器	壺	—	—	—	内外面ともに風化著しい	内面褐色外面部明赤褐色 底部灰褐色	粗砂粒を多く含む ほか砂粒質土	やや良
第80回 5.8.2	P区	SK31A	土師器	手程土器	— 3.8	6.8 —	—	外面部やや風化し内面指により カキ取る	内面褐色外面部に赤い黄褐色 から一部灰色	白色の砂粒を含む ほか細砂粒質土	やや良 鉢形を呈す
第80回 5.8.3	P区	SK31A	土師器	甕	(11.4) —	— (10.2)	—	口縁部ヨコナデ胸部から口縁 部にかけて粘土の離ぎ目	内面に赤い褐色外面部に赤い 黄褐色	赤色粒子や金雲母 を所々含むほか細 砂粒質土	やや良
第80回 5.8.4	P区	SK31A	土師器	甕	(14.0) —	— (11.7)	—	口縁部ヨコナデ	内外面ともに褐色からに赤 い褐色	砂粒が目立つほか細 砂粒	やや良
第80回 5.8.5	P区	SK31A	土師器	甕	(12.2) —	— (10.4)	—	口縁部ヨコナデほかやや風化 する	内面に赤い褐色から口縁部 黒褐色外面部褐色と褐灰色	赤色粒子と繊維を 少量含むほか細砂 粒質土	やや良
第80回 5.8.6	P区	SK31A	土師器	甕	(14.1) —	— (11.2)	—	内外面ともに風化著しい	内面に赤い褐色から灰黃 褐色外面部に赤い赤褐色	全体的に砂粒から 細砂粒質土	やや不 良
第80回 5.8.7	P区	SK31A	土師器	甕	16.3 —	14.0 (22.4)	—	口縁部から脚部ヨコナデ胸部 内面ケズリ外面部ハケでハケメ 調整後ヨコナデ	内外面ともに赤褐色 から黒褐色	纏が所々含まれる ほか砂粒から細 砂粒質土	やや良
第80回 5.8.8	P区	SK31A	土師器	高坏	—	—	—	内外面ともにやや風化	内外面ともに褐色	赤褐色粒を少量含 むほか砂粒から細 砂粒質土	やや良
第80回 5.8.9	P区	SK31A	土師器	高坏	— 外径 (10.0)	— 2.7	—	脚部内面工具によるヨコ方向 のケズリ外面部やや風化する脚 柱部間に円形の穿孔3ヶ所	内外面ともに褐色から明赤 褐色	褐色粒子白色砂粒 を含むほか細砂粒 質土	やや良
第80回 5.9.0	P区	SK31A	土師器	高坏	— (9.0)	— (2.8)	—	脚部内面工具によるヨコ方向 のケズリ外面部やや風化する	外面上に赤褐色内面に赤 い褐色	白色砂粒を多く含 むほか細砂粒質土	やや良
第80回 5.9.1	P区	SK31A	土師器	高坏	—	— 2.7	—	脚部内面工具によるヨコ方向 のケズリ外面部やや風化する脚 柱部間に円形の穿孔3ヶ所	内面浅黄褐色 外面上に赤褐色	全体的に砂粒から 細砂粒質土	やや良
第80回 5.9.2	P区	SK31A	土師器	高坏	—	— 3.3	—	脚部内面工具によるヨコ方向 のケズリ外面部やや風化する	内面褐色外面部褐色からに赤 い褐色	全体的に細砂粒質 土	やや良
第80回 5.9.3	P区	SK31A	土師器	高坏	—	— 2.9	—	脚部外面部タテ方向のケズリ	内外面ともに褐色からに赤 い褐色	赤褐色粒子や白色 砂粒を含むほか細 砂粒質土	やや良
第80回 5.9.4	P区	SK31A	土師器	高坏	—	— 5.3	—	脚部内面工具によるヨコ方向 のケズリ外面部方向丁寧なケズ リ脚柱部間に円形の穿孔3ヶ所	内外面ともに赤褐色断面に 赤い褐色	白色の砂粒を含む ほかシルトから細 砂粒質土	やや良
第80回 5.9.5	P区	SK31A	土師器	高坏	—	5.8 4.1	—	指頭圧による調整	外面上に赤褐色から褐灰色	全体的に砂粒から 細砂粒質土	やや良
第80回 5.9.6	P区	SK31A	土師器	甕	—	—	—	口縁部ヨコナデ内面ケズリ外 面粗いハケ	内面褐色外面部褐色から明褐色 灰色	褐色粒子を含むほ か砂粒から細砂粒 質土	やや良
第80回 5.9.7	P区	SK31A	土師器	甕	—	—	—	口縁部ヨコナデ内面上方向に ケズリ外面部ハケ	内外面ともに明赤褐色一部 黒褐色	全体的に砂粒から 細砂粒質土	やや良
第80回 5.9.8	P区	SK31A	土師器	甕	18.6 —	25.1 15.9	31.1	口縁部ヨコナデ胸部内面右上 方向のケズリ外面部ハケ	内面上に赤褐色外面部に赤 い褐色からに赤褐色一部 黒褐色	全体的に砂粒から 細砂粒質土	良
第81回 5.9.9	P区	SK31B	須恵器	坏蓋	(14.0) —	—	4.1	内面口縁部ヨコナデ天井部不定 方向ナデ×印めら記号外面部 脚部回転ナデ×印めら記号ハケズリ	内外面ともに灰色	一部粗砂粒を含む ほか細砂粒質土	やや良
第81回 6.0.0	P区	SK31B	須恵器	坏身	12.9 —	受部径 15.4	4.3	内面口縁部回転ナデ見込み不 定方向ナデ外面部脚部回転ナ デほか左回りの回転ハケズリ	内面青灰色から黄灰色外面部 青黑色	内面黑色粒子が目 立つほか全体的に 砂粒からシルト質土	やや良
第81回 6.0.1	P区	SK31B	須恵器	坏身	(13.6) —	受部径 (15.4)	—	内外面ともに口縁部回転ナデ 外面部回転ハケズリ	内外面ともに灰色	全体的に細砂粒室 土	やや良
第81回 6.0.2	P区	SK31B	須恵器	甕	—	8.9 —	—	脚部上半回転ナデ下半回転ハ ケズリ中央2条の枕線の間に刺 突を施す	全体的に青灰色	底部に黑色粒子が 目立つほか細砂粒 質土	やや良
第81回 6.0.3	P区	SK31B	土師器	甕	(13.2) —	—	5.4	口部がやや外反・内面一部 ミガキはや風化する	内面赤褐色からに赤い褐色 外面上に赤い褐色から一部 に赤い褐色	白色砂粒および粗 砂粒を含むほか細 砂粒質土	やや良
第81回 6.0.4	P区	SK31B	土師器	高坏	— (11.0)	— 3.8	—	脚部外面縦方向のケズリ内面 横方向のケズリ脚部ナデ	内外面ともに赤褐色からに赤 い褐色	赤色粒子および粗 砂粒を多く含むほ か細砂粒質土	やや良
第81回 6.0.5	P区	SK31B	土師器	甕	—	—	—	脚部ヨコナデほか脚部内外面 ともに叩き	内外面ともに赤褐色からに赤 い褐色	全体的に砂粒から 細砂粒質土	やや良
第81回 6.0.6	P区	SK31B	土師器	支脚	— 7.4	— 4.6	—	外面部および脂圧による調 整一部工具使用か?	褐色から赤褐色	粗砂粒を含むほか 細砂粒質土	やや良
第81回 6.0.7	P区	SK31B	土師器	甕	—	—	—	内面ナデ外面部格子目叩き	内面褐色外面部褐色	砂粒から細砂粒質 土	やや良
第81回 6.0.8	P区	SK31B	土師器	甕	13.8 —	16.8 11.8	17.0	内面脚部ハケズリ外面部脚部 一部ハケでほかやや風化する	内外面ともに褐色と淡黃褐色	全体的に砂粒から 細砂粒質土	やや良

第81回 6.0.9	P区	SK31B	土師器	甕	(11.0) —	13.0 10.7	11.7	口縁部内外面ともにヨコ方向 ナデ胴部内面丁寧なケズリ外 面や風化する	内外面ともに赤褐色外面底 部にぶい黄褐色から黒色	粗砂粒を多く含む ほか砂粒質土	やや良	
第81回 6.1.0	P区	SK31B	土師器	甕	(12.6) —	— (12.0)	—	口縁部内外面ともにヘラによ るミガキ	内外面ともに褐色から暗赤 褐色	細礫を所々含むほ か細砂粒質土	やや良	
第81回 6.1.1	P区	SK31B	土師器	甕	(12.6) —	— (11.0)	—	全体的に風化し一部口縁部ヨ コ方向ナデが認められる	内面口縁部褐色灰色肩部にぶ い褐色外面上にぶい褐色	褐色粒子を多く含むほ か砂粒質土	やや良	
第81回 6.1.2	P区	SK31B	土師器	甕	(20.0) —	(19.6) (17.0)	—	口縁部内外面ともにヨコ方向 ナデ胴部内面粗いヘラケズリ 外面粗いハケ	内面にぶい褐色外面上褐色か ら黒褐色	赤色粒子および白 色砂粒を多く含むほ か細砂粒質土	やや良	
第81回 6.1.3	P区	SK31B	土師器	甕	— —	— —	—	口縁部内外面ともにヨコナデ 胴部外面細かいハケ	内外面ともに浅黃褐色	細礫を所々含むほ か砂粒から細砂粒 質土	やや不 良	
第81回 6.1.4	P区	SK31B	土師器	甕	(19.2) —	— (15.8)	—	口縁部内外面ともにヨコ方向 ナデ胴部内面ケズリほか風化 する	内外面ともに鮮やかな褐色	白色砂粒を一部含 むほか細砂粒から シルト質土	やや良	
第81回 6.1.5	P区	SK31B	土師器	甕	(15.6) —	— (14.0)	—	口縁部内外面ともにヨコ方向 ナデ胴部外面タテ方向のハケ	内外面ともにぶい褐色か ら褐色	3mm前後の赤褐色粒 子を多く含むほか砂 粒から細砂粒質土	やや良	
第81回 6.1.6	P区	SK31B	土師器	甕	— —	— —	—	口縁部内外面ともにヨコ方向 ナデ胴部内面タテ方向のケズ リ外面粗いハケ	内面灰白色から明褐色外 面浅褐色から褐色	一部粗砂粒を含む ほか砂粒から細砂 粒質土	やや良	
第81回 6.1.7	P区	SK31B	土師器	甕	— —	— —	—	口縁部内外面ともにヨコ方向 ナデ胴部内面タテ方向のケズ リ外面粗いハケ	内面灰白色から明褐色外 面浅褐色から赤褐色	全体的に粗砂粒か ら細砂粒質土	やや良	
第81回 6.1.8	P区	SK31B	玄武岩	砥石	現存長 3.8	粗 2.9	厚さ 2.5	2面ミガキ面として使用する	—	—	—	
第82回 6.1.9	Q区	SK32	須恵器	环蓋	(12.9) —	—	3.7	口縁部外面から内面にかけて 回転ナデ調整外面天井部右回 転のヘラケズリ	内面青灰色外面上に 断面暗灰色	黒色粒子が多く溶 解しているほか砂 粒からシルト質土	やや良	端部に段を有するが外 面には段を有さない
第82回 6.2.0	Q区	SK32	須恵器	环蓋	14.4 —	—	4.0	口縁部外面から内面にかけて回 転ナデ天井部不定方向ナデ調整 外面上部右回転のヘラケズリ	内外面ともに暗灰色	全体的に砂粒から 細砂粒質土	やや良	端部から内面に段を有 し外面には回転場の段 を有す
第82回 6.2.1	Q区	SK32	須恵器	环蓋	13.9 —	—	4.3	口縁部外面から内面にかけて回 転ナデ天井部不定方向ナデ調整 外面上部回転ヘラケズリ	内外面ともに暗灰色	黒色および白色の 砂粒を含むほか細 砂粒質土	やや良	端部に段を有さず外面 の段は屈曲する程度
第82回 6.2.2	Q区	SK32	須恵器	环蓋	(13.8) —	—	4.1	外面天井下半から内面回転ナ デ外面天井部右回りのヘラケ ズリ内面にヘラ記号有り	内面灰白色から灰白色外面上 灰白色から暗灰色	全体的に細砂粒質 土	やや良	端部から内面に幅広の 段を有し外面には段を 有す
第82回 6.2.3	Q区	SK32	須恵器	环蓋	13.4 —	—	4.0	外面天井下半から内面回転ナ デ天井部不定方向ナデ外面天 井部回転ヘラケズリ	内面暗灰色外面上 暗灰色	はむ難い砂粒を 所々含むほか細砂 粒質土	やや良	端部から内面に幅広の 段を有し外面には段は被 打つ程度
第82回 6.2.4	Q区	SK32	須恵器	环蓋	(13.2) —	—	4.4	口縁部外面から内面回転ナ デ天井部不定方向ナデヘラ記号有り 外面上部回転ヘラケズリ	内外面ともに青灰色断面紫 灰色	白色砂粒を含むほ か細砂粒からシルト 質土	やや良	端部に段を有し外面の 段は屈曲後凹縫を有す
第82回 6.2.5	Q区	SK32	須恵器	环蓋	(14.2) —	—	4.0	口縁部内外面と内面回転ナ デ調整外面上部回転ヘラケズリ	内面灰色外面上 暗灰色	黒色粒子が溶解し ているほか砂粒から 細砂粒質土	やや良	端部に大きな段を有し 外面は段および凹線を 有す
第82回 6.2.6	Q区	SK32	須恵器	环蓋	(13.9) —	—	4.4	口縁部内外面と内面回転ナ デ調整天井部不定方向ナデ外面上 部回転ヘラケズリ	内面灰色外面上 暗灰色	黒色粒子を所々含 むほか全体的に細 砂粒質土	やや良	端部に沈線場の段を有 し外面の段は凹縫から 沈線である
第82回 6.2.7	Q区	SK32	須恵器	环蓋	(13.8) —	—	4.2	外面下半から内面回転ナ デ内面天井部斜く不定方向ナデ外 面上天井部回転ヘラケズリ	内面青灰色外面上 暗灰色	白色的細砂粒を含 むほかシルト質土	やや良	端部に内側に幅広の 段を有し外面の段は屈曲 している
第82回 6.2.8	Q区	SK32	須恵器	环蓋	(14.2) —	—	3.8	外面下半から内面回転ナ デ外面上天井部右回転のヘラケズリ	内面にぶい褐色外面上 暗褐色	白色的細砂粒を含 むほかシルト質土	やや良	端部に段を有し外面の 段は屈曲する
第82回 6.2.9	Q区	SK32	須恵器	环蓋	(13.6) —	—	4.8	外面下半から内面回転ナ デ外面上天井部回転ヘラケズリ	内面にぶい褐色外面上 暗褐色	赤色粒子を含むほ か細砂粒質土	やや不 良	端部のやや内側に沈 線を有し外面の段は比較 的明瞭
第82回 6.3.0	Q区	SK32	須恵器	环蓋	(13.8) —	—	4.0	外面下半から内面回転ナ デ内面天井部斜く不定方向ナデ外 面上天井部回転ヘラケズリ	内面青灰色外面上 暗紫色	白色的細砂粒を 所々含むほか細砂 粒質土	やや良	端部は尖り内側に軽い 段を有す外面は明瞭な 段はない
第82回 6.3.1	Q区	SK32	須恵器	环身	11.4 ~9.8	受部径 13.6~ 12.4	4.2	外面上半から内面回転ナ デ外面上部回転ヘラケズリ	内面紫灰色外面上 暗灰色	全般的に砂粒から 細砂粒質土	やや良	焼き亞み
第82回 6.3.2	Q区	SK32	須恵器	环身	11.8 —	受部径 14.2	4.4	外面上半から内面回転ナ デ外面上部右回転のヘラケズリ	内面灰色外面上 暗灰色	黒色粒子は溶解し 白色砂粒を多く含 むほか細砂粒質土	やや良	
第82回 6.3.3	Q区	SK32	須恵器	环身	11.8 —	14.3	4.4	外面上半から内面回転ナ デ外面上部回転ヘラケズリ単位不 明瞭	内面灰褐色外面上 暗灰色	白色的砂粒から細 砂粒を多く含むほ か細砂粒質土	やや良	
第82回 6.3.4	Q区	SK32	須恵器	环身	(11.8) —	14.0	4.0	外面上半から内面回転ナ デ内面底部に「の」字のヘラ記号 外面上部回転ヘラケズリ	内面青灰色外面上 暗灰色	全般的に砂粒から 細砂粒質土	やや良	
第82回 6.3.5	Q区	SK32	土師器	碗	10.4 —	—	3.9	内外面ともにやや風化する	内面褐色外面上 暗褐色	赤色粒子を所々含 むほか砂粒から細 砂粒質土	やや良	
第82回 6.3.6	Q区	SK32	土師器	碗	11.5 —	—	4.7	内外面ともにやや風化するが 外面上部粗いハケメ調整	内外面ともにぶい褐色か らぶい黄褐色	全般的に砂粒質土	やや良	底部がやや肉厚

第82回 637	Q区	SK3-2	土師器	楕	11.2 —	—	4.6	内外面ともにやや風化する	内外面ともに墨色で粘土の 斑があり外面一部黒色	細砂を所々含むほ か砂粒から細砂粒 質土	やや良	底部がやや肉厚
第82回 638	Q区	SK3-2	土師器	楕	13.2 —	—	5.1	内外面ともに風化著しい	内外面にぶい橙色から灰褐色 外面口縁部底設赤褐色	白色の粗砂粒を多 く含むほか細砂粒 質土	やや良	外面二次焼成
第82回 639	Q区	SK3-2	土師器	楕	13.7 —	—	5.2	内外面ともに風化著しい	内面橙色外面部からにぶ い橙色底部黒色	白色の砂粒や粗砂 粒を多く含むほか細 砂粒質土	やや良	
第82回 640	Q区	SK3-2	土師器	楕	10.9 —	—	5.2	内外面ともに風化著しい	内外面ともに浅黄褐色から にぶい橙色外面部一部黒色	赤色粒子および粗砂 粒を多く含むほか砂 粒から細砂粒質土	やや良	
第82回 641	Q区	SK3-2	土師器	楕	(11.6) —	—	5.3	内外面ともにやや風化する	内面浅黄褐色から橙色底部 一部赤褐色	砂粒を所々含むほ か細砂粒質土	やや良	
第82回 642	Q区	SK3-2	土師器	楕	12.8 —	—	4.4	内面赤褐色の筋状の略紋が放 射状にあり外面ミガキ	内面明赤褐色外面赤褐色か ら灰褐色底黒褐色	白色粒や赤褐色粒 子を含むほか細砂 粒質土	良	
第82回 643	Q区	SK3-2	土師器	楕	(13.2) —	—	5.5	内外面ともにやや風化するが 内面の一部ナデ	内外面ともに橙色からにぶ い橙色外面部一部黒色	暗赤褐色粒子を含 むほか砂粒から細 砂粒質土	やや良	
第82回 644	Q区	SK3-2	土師器	楕	(14.4) —	—	(5.8)	内外面ともにやや風化する外 面底部はハケメが認められる	内外面ともににぶい黄褐色か らにぶい橙色底部一部灰色	2から5mmの大赤褐色 粒子を多く含むほ か細砂粒質土	やや良	
第82回 645	Q区	SK3-2	土師器	楕	13.4 —	—	5.4	内外面ともにやや風化する外 面底部はミガキ調整	内外面ともににぶい褐色	全体的に砂粒から 細砂粒質土	やや良	
第82回 646	Q区	SK3-2	土師器	手捏土器	3.6 —	—	2.5	内面指圧による調整	内面暗灰色外面部灰白色から にぶい橙色	全体的に細砂粒質 土	良	楕形を呈す
第82回 647	Q区	SK3-2	土師器	手捏土器	3.6 外3.4	—	1.9	全体的に指圧による調整	内面および外面部灰白色か ら黒灰色ほかにぶい黄褐色	全体的に砂粒から 細砂粒質土	良	高坏形を呈す
第82回 648	Q区	SK3-2	土師器	楕	(17.2) — (16.2)	—	—	口縁部ヨコナデ調整洞部内面 ヨコ方向のケズリ外面やや風 化するがハケメが認められる	内面橙色から明赤褐色 外面橙色から赤褐色一部 灰褐色	赤褐色粒子が所々 認められるほか砂 粒から細砂粒質土	やや良	
第83回 649	Q区	SK3-2	土師器	甕	15.2 —	17.4 13.9	—	口縁部ヨコナデ洞部内面上方 向のケズリ外面底部ケズリ調 整	内面に橙色で外面一 部浅黄褐色から黒色	白色粒子と赤褐色 粒子を含むほか細 砂粒質土	やや良	
第83回 650	Q区	SK3-2	土師器	甕	(16.4) — (16.8) (14.6)	(16.8) — (14.6)	—	口縁部内面から洞部上半部ま でヨコナデ外面やや風化する が一部粗いハケメ調整	内面褐灰色外面褐色から灰 褐色	粗砂粒を所々含む ほか砂粒質土	やや良	
第83回 651	Q区	SK3-2	土師器	甕	14.0 —	(15.4) (13.4)	—	内外面ともにやや風化する	内外面ともに赤褐色から黒 褐色	砂粒を多く含むほ か細砂粒質土	やや良	
第83回 652	Q区	SK3-2	土師器	甕	(16.5) —	(16.7) (13.6)	—	口縁部ヨコナデ内面ケズリ外 面縫かいハケ	内面にぶい褐色から暗褐色 外面褐色から黒褐色	白色砂粒を所々含 むほか細砂粒から シルト質土	良	
第83回 653	Q区	SK3-2	土師器	甕	(19.0) —	— (15.8)	—	口縁部ヨコナデ洞部内面上方 向のケズリ外面丁寧なハケメ 調整	内面にぶい褐色	白色および赤色粒 子を含むほか細砂 粒質土	良	
第83回 654	Q区	SK3-2	土師器	甕	20.2 —	(25.8) 17.5	(36.0)	口縁部内外面ともにヨコ方向のナ デ内面底部一部ハケメ洞部内面上 方向のケズリ外面ハケメ底部ナデ	内面橙色外面褐色から褐色 一部方形に黒色	白色砂粒を含むほ か全体的に細砂粒 質土	良	
第83回 655	Q区	SK3-2	土師器	甕	17.3 —	26.3 14.3	33.4	口縁部内外面ともにヨコ方向のナ デ内面上方のケズリ外面上 半部ハケメ下半部風化する	内面にぶい褐色外面上半部 にぶい橙色下半部灰褐色か ら黒褐色	赤褐色粒子および 白色粗砂粒を含む ほか細砂粒質土	良	

第14表 中世土坑出土遺物計測表

単位はcm。()は反転復元による計測数値

遺物 番号	調査区	出土遺構と位置	器質	器種	口径 底径 くびれ径	高 さ	器 高	調整・難調・文様	色 調	胎 土	焼成	その他の特徴
第85回 656	D区	SK6	白磁	楕	— —	—	—	内外面とも施釉・口縁部玉縁	胎土灰白色 釉やオリーブ灰色	均質で所々黒色粒 子を含む	良	
第85回 657	D区	SK6	白磁	楕	— —	—	—	内外面とも施釉・口縁部玉縁	胎土灰白色 釉や黄に透った透明	均質で所々黒色粒 子を含む	良	
第85回 658	D区	SK6	白磁	楕	— —	—	—	内外面とも薄く施釉し全体的に 貫入・口縁部外反させる	胎土浅黄褐色 釉白褐する	均質で所々黒色 および褐色粒子を含 む	やや良	
第85回 659	D区	SK6	白磁	楕	— (6.0)	—	—	内面施釉見込みに施釉あり外 面高台の少し上に施釉が終る 施釉に縫隙の調整痕あり	胎土灰白色 釉浅黄色に溝る	黑色粒を若干含み 断面所々空洞があ る	良	
第85回 660	D区	SK6	瓦器	楕	(17.2) 5.7	—	6.1	口縁部の一部ヨコナデほかや り風化している・高台は貼り 付けている	内外面ともに灰白色と灰褐色	白色の細砂粒ほか シルト質土	やや良	
第85回 661	D区	SK6	瓦器	楕	— —	—	—	内外面ともにやや風化する	内面灰褐色と黒褐色がまばら 外面灰褐色一部赤みを帯び る	粗砂粒と砂粒を含 むほかシルト質土	やや良	
第85回 662	D区	SK6	瓦器	楕	— —	—	—	ペラ状工具によるヨコ方向の ミガキ	内外面灰褐色一部暗青灰 色	細砂粒からシルト 質土	良	

第85回 6.6.3	D区	SK6	瓦器	輪	—	—	—	口縁部内外面ともヨコ方向のナデ	内面淡黄灰色外面灰白色で灰黃褐色が一部認められる	細砂粒からシルト質土	やや良	
第85回 6.6.4	D区	SK6	瓦器	輪	—	—	—	口縁端部が外へ折り曲がる	内面灰黃褐色外面にぶい褐色	赤色粒子を多く含むほかシルト質土	やや良	
第85回 6.6.5	D区	SK6	瓦器	輪	—	—	—	内外面ともにやや風化する	内外面ともに暗灰色と灰色のまだら	シルト質土	やや良	
第85回 6.6.6	D区	SK6	瓦器	輪	—	—	—	内外面ともにやや風化する	内外面ともに灰褐色からぶい褐色	細砂粒質からシルト質土	やや良	
第85回 6.6.7	D区	SK6	瓦器	輪	—	—	—	内外面ともにヨコナデ	内外面ともに灰色から暗灰色	白色の細砂粒を含むほかシルト質土	やや良	
第85回 6.6.8	D区	SK6	瓦器	輪	—	—	—	内外面ともにヨコナデ	内外面ともにぶい褐色からぶい黄褐色	赤色粒子を含むほかシルト質土	やや良	
第85回 6.6.9	D区	SK6	瓦器	輪	—	—	—	内面ミガキ外表面洗いすぎによる擦痕	内面黒褐色外面暗灰色	砂粒を少量含むほかシルト質土	やや良	見込みに炭化物が付着する
第85回 6.7.0	D区	SK6	瓦器	輪	—	—	—	内面見込み丁寧なミガキ外表面ナデ高台端部に板目压痕	内外面ともに黄灰色	シルト質で均質	良	
第85回 6.7.1	D区	SK6	瓦器	輪	—	—	—	内外面ともにやや風化する高台は貼付け	内面灰黄色外面暗灰色	褐色粒子を所々含むほかシルトから細砂粒質土	やや良	
第85回 6.7.2	D区	SK6	瓦器	輪	—	—	—	内外面ともにやや風化する	内面灰色外面灰色から黄灰色	褐色粒子をより白色砂粒を含むほかシルト質土	やや良	
第85回 6.7.3	D区	SK6	瓦器	輪	—	—	—	内面丁寧なミガキ外表面ナデ高台端部に板目压痕	内外面ともに灰色から灰白色	シルトから細砂粒質土	やや良	
第85回 6.7.4	D区	SK6	瓦器	輪	—	—	—	内外面ともに風化著しい高台は貼付け	内面灰白色外面灰白色からぶい褐色	砂粒を含むほか細砂粒質土	やや不良	
第85回 6.7.5	D区	SK6	土師器	皿	(9.4) (7.4)	—	1.0	内外面ともに風化著しい	内外面ともにぶい褐色からぶい褐色	3mm前後の赤色粒と白色粗砂粒を多く含むほか細砂粒質土	やや不良	
第85回 6.7.6	D区	SK6	土師器	皿	— (4.8)	—	—	底部板目压痕	内外面とも褐色からぶい褐色	砂粒を多く含むほか細砂粒質	やや良	
第85回 6.7.7	H区	SK15	土師器	杯	15.0 10.3	—	3.6	内外面ともに回転ヨコナデ、底部糸切り	内外面ともにぶい褐色	泥質からシルト質土	やや良	
第85回 6.7.8	H区	SK15	土師器	杯	(15.0) 10.0	—	2.7~ 3.1	内外面ともに回転ヨコナデ底部糸切り	内面浅黄褐色 外面にぶい褐色	泥質からシルト質土	やや良	
第85回 6.7.9	H区	SK15	土師器	杯	(14.8) 10.8	—	2.7	内外面ともに回転ヨコナデ底部糸切りと考えられるが風化著しい	内外面ともにぶい褐色	赤色粒子を若干含むほか泥質からシルト質土	やや良	
第85回 6.8.0	H区	SK15	瓦器	輪	(15.5) —	—	—	外表面回転ヨコナデ後所々ヘラによるヨコ方向の縫隙内面粗いミガキ	内外面ともに青灰色	均質なシルト質土	やや良	
第85回 6.8.1	H区	SK15	瓦器	輪	—	—	—	外表面回転ヨコナデ内面ミガキ	内外面ともに青灰色から暗青灰色断面灰白色	細砂粒質からシルト質土	やや良	
第85回 6.8.2	H区	SK15	土師器	杯	—	—	—	内外面ともに回転ヨコナデ底部糸切り	内外面ともにぶい褐色底部褐色	シルト質で一部細砂粒を含む	やや良	
第85回 6.8.3	H区	SK17	白磁	輪	—	—	—	内面と外面上半施釉下半露胎でケズリ	露胎灰白色 釉黄から白色に濁る	灰色の粒子を多く含み断面に空洞部分が認められる	やや良	口縁部玉縁
第85回 6.8.4	H区	SK18	白磁	輪	— (5.6)	—	—	内面全面施釉沈線が遡る外面上半施釉下半ケズリでケズリ出し高台	露胎灰白色 釉やや白濁する	黒色の粒子を所々含むほか一部空洞が認められる	やや良	
第85回 6.8.5	H区	SK19	青磁	皿	—	—	—	内外面ともに施釉貫入底部釉をケズリ露胎	胎土褐灰色 釉オリーブ灰色で透明	黒色の微粒子を含み均質	やや良	
第85回 6.8.6	H区	SK20	青磁	輪	—	—	—	内外面ともに施釉外面露胎	胎土灰白色 釉綠灰色で濁る	褐色の微粒子を含み均質	やや良	
第85回 6.8.7	H区	SK20	白磁	輪	—	—	—	内外面ともに施釉	胎土灰白色 釉白から淡い黄色に濁る	気泡状の空洞が目立つ	やや良	
第85回 6.8.8	H区	SK20	白磁	輪	—	—	—	内外面ともに施釉	胎土灰白色 釉白く濁る	黒色粒子を含む	やや良	
第85回 6.8.9	H区	SK20	瓦器	鉢	—	—	—	内面口縁部ヨコほか左斜め上方向の細かい力キ目外面ナデ	内外面ともに灰白色	妙竈から細砂粒を含むほかシルト質土	やや良	口縁端部玉縁状
第85回 6.9.0	H区	SK20	陶器	不明	—	—	—	内面鉄泥釉外面胎釉	細外面培オリーブ灰内面黒褐色	シルトから細砂粒質土	やや良	

第85回 6.9.1	H区	SK2.0	瓦器	錫	—	—	—	同心円圧痕後ナデ外面格子状タタキ	内面灰色外面暗灰色から灰色断面灰白色	全体的にシルト質	やや良	
第85回 6.9.2	H区	SK2.0	白磁	焼	— (5.4)	—	—	内面施釉外面高台一部種付着高台部分ケズリ	露胎灰白色 釉青身がかった白色で漫る	褐色粒子を含み気泡の空洞が目立つ	やや良	
第85回 6.9.3	H区	SK2.0	青磁	焼	— 3.5	—	—	内外面ともに高台部分まで施釉	露胎灰白色 釉オリーブ灰色	黒色の粒子を少量含むほか均質	やや良	
第85回 6.9.4	H区	SK2.0	土師器	皿	(8.8) (7.1)	—	1.0	内外面ともやや風化している	内外面ともににぶい橙色	赤色粒子を若干含むほかシルト質土	やや良	
第85回 6.9.5	H区	SK2.0	土師器	皿	— —	—	—	内外面ともやや風化しているが底部剥切	内外面ともににぶい黄褐色	赤色粒子を若干含むほかシルト質土	やや良	
第85回 6.9.6	H区	SK2.0	瓦器	焼	— 7.2	—	—	内外面ともやや風化している	内面灰色外面黄褐色	赤色粒子を若干含むほかシルト質土	やや良	外面底部二次焼成
第86回 6.9.7	G区	SK1.4A	青磁	皿	10.3 5.0	—	2.1	内面全面施釉見込み三方擗によるジグザグ文様外面回転ヘラケズリ後施釉底部露胎	胎土黄灰色 釉オリーブ灰色	黒色微粒子を所々含む以外均質空洞による空洞が目立つ	良	口縁部の一部を打ち欠くがほぼ完形、輪は全面貫入
第86回 6.9.8	G区	SK1.4A	青磁	皿	10.1 5.0	—	2.3	内面全面施釉見込み三方擗によるジグザグ文様と交叉文様外面回転ヘラケズリ後施釉底部露胎	胎土灰褐色 釉オリーブ灰色	黒色微粒子を所々含む以外均質	良	口縁部の一部が変形し打ち欠くがほぼ完形
第86回 6.9.9	G区	SK1.4A	青磁	皿	9.8 5.0	—	2.5	内面ナデ後全面施釉見込み無文外面回転ヘラケズリ後施釉底部露胎	胎土灰黄色 釉オリーブ灰色	全体的に均質	良	完形
第86回 7.0.0	G区	SK1.4	青磁	皿	— (5.8)	—	—	内面全面施釉見込み擗によるジグザグ文様と交叉文様外面回転ヘラケズリ後施釉底部露胎	胎土灰白色 釉明緑灰色	全体的に均質	良	
第86回 7.0.1	G区	SK1.4	青磁	皿	— —	—	—	内面全面施釉見込み擗によるジグザグ文様外面回転ヘラケズリ後施釉底部露胎	胎土灰色 釉オリーブ灰色	全体的に均質	良	
第86回 7.0.2	G区	SK1.4	青磁	焼	— —	—	—	内外面ともに施釉内面ヘラによる片彫りで蓮草文	胎土灰色 釉暗オリーブ灰色で透明	全体的に均質	良	
第86回 7.0.3	G区	SK1.4	青磁	焼	— —	—	—	内外面ともに施釉外面鏡面	胎土灰白色 釉オリーブ灰色でやや濁る	全体的に均質	良	
第86回 7.0.4	G区	SK1.4	白磁	焼	— —	—	—	内外面ともに施釉口縁部玉縁	胎土灰白色 釉やや白濁する	黒色の微粒子を含み気泡状の空洞が目立つ	やや良	
第86回 7.0.5	G区	SK1.4C	白磁	焼	— —	—	—	内外面ともに施釉口縁部玉縁	胎土灰白色 釉やや白灰色に濁る	黒色の微粒子を多く含む	やや良	
第86回 7.0.6	G区	SK1.4	白磁	焼	— —	—	—	内外面ともに施釉口縁部玉縁	胎土灰白色 釉やや灰黄色に濁る	黒色の微粒子を含み気泡状の空洞が目立つ	やや良	
第86回 7.0.7	G区	SK1.4	白磁	焼	— —	—	—	内外面ともに施釉やや黄入がある口縁部玉縁	胎土灰黄色 釉やや浅黄色に濁る	気泡状の空洞が目立つ	やや不良	
第86回 7.0.8	G区	SK1.4	白磁	焼?	— —	—	—	内外面ともに施釉口縁部外反させる	胎土灰白色 釉やや白濁する	黒色の微粒子を含む	やや良	
第86回 7.0.9	G区	SK1.4	青磁	焼	— 3.9	—	—	内面施釉外面底部露胎	胎土灰白色 釉オリーブ灰色	褐色の微粒子を含むほか全体にシルト質	やや不良	
第86回 7.1.0	G区	SK1.4	瓦器	鉢	(28.6) (9.3)	—	(8.2)	内外面ともに回転ヨコナデ	内外面ともに灰黄色を呈し口縁部暗青灰色	白雲母が目立ち細砂粒を含むほかシルト質土	やや良	
第86回 7.1.1	G区	SK1.4	瓦器	鉢	— —	—	—	内外面ともに回転ヨコナデ	内外面ともに灰黄色を呈し口縁部暗青灰色	全体的に細砂粒質土	やや良	
第86回 7.1.2	G区	SK1.4	瓦器	鉢	— —	—	—	内外面ともに回転ヨコナデ	内外面ともに灰黄色を呈し口縁部暗青灰色	細砂粒を含むほかシルト質	やや良	
第86回 7.1.3	G区	SK1.4A	瓦器	焼	— —	—	—	内外面ともに回転ヨコナデ	内外面ともに灰黄色を呈し口縁部暗青灰色	シルト質で均質	やや良	
第86回 7.1.4	G区	SK1.4	瓦器	焼?	— —	—	—	内外面ともに回転ヨコナデ	内外面ともに灰白色	砂粒を所々含むほかシルト質	やや良	
第86回 7.1.5	G区	SK1.4	瓦器	焼	— (7.4)	—	—	内外面ともにやや風化する	内面黒褐色外面灰色	細砂粒からシルト質土	やや良	
第86回 7.1.6	G区	SK1.4	漆器	鉢	— —	—	—	外面側面下部指痕圧痕認められる	内面灰褐色外面灰褐色から灰黄色断面両者に挟まれ灰色	白色砂粒を含むほか細砂粒質土	やや良	
第86回 7.1.7	G区	SK1.4	瓦器	皿	(8.9) (6.9)	—	1.8	内外面ともに回転ヨコナデ底部ヘラ切り	内面と外面口縁部暗青灰色外面下半から底部灰色	砂粒を所々含むほかシルト質	やや良	
第86回 7.1.8	G区	SK1.4	土師器	皿	(10.5) (7.5)	—	1.7	内外面ともにやや風化する	内外面ともににぶい橙色からにぶい褐色	赤色と白色粒子を少量含むほかシルト質土	やや良	

第86図 7.19	G区	SK1.4	土師器	Ⅲ	— (6.1)	—	—	内面回転ナデ外面底部一部余切	内外面ともに浅黄橙色	赤色粒子を所々含むほかシルト質土	やや良	
第86図 7.20	G区	SK1.4	土師器	Ⅲ	— (9.1)	—	—	内面回転ナデ外面底部余切	内外面ともににぶい黄橙色	砂粒を所々含むほかシルト質土	やや良	
第86図 7.21	G区	SK1.4	土師器	Ⅲ	—	—	—	内面回転ナデ外面底部余切底部には粘土が別に付着する	内面にぶい橙色外面にぶい黄橙色	白色の微粒子を含むほかシルト質土	やや良	
第86図 7.22	G区	SK1.4A	土師質	Ⅳ	—	—	—	内面下半不定方向にハケメ外面ヨコナデ後工具による擦痕	内面橙色外面黒褐色	赤色粒やセキエイほかの粗砂粒を多く含む	やや良	
第87図 7.23	C区	SK4	白磁	椭	(15.0) 外6.9	—	6.4	内面全面と外面上半部施釉口縁部玉縁高台幅広くケズりが浅い内面に見込み欠陥認る	胎土灰白色 雜白濁色	褐色粒子を多く含む	やや良	
第87図 7.24	C区	SK4	白磁	椭	(15.6) —	—	—	内外面とも施釉・口縁部玉縁	胎土灰白色 雜白濁色	褐色粒子を多く含む	やや良	
第87図 7.25	C区	SK4	白磁	椭	(17.4) —	—	—	内外面とも施釉・口縁部「く」字状に外反し内面体部上位の枕縁1条と下位に擦目文	胎土灰白色 雜やや薄緑色の白濁色	黒色粒子を含むほか均質	やや良	
第87図 7.26	C区	SK4	瓦器	椭	(16.8) (6.9)	—	5.5	内面丁寧なミガキ外面回転ヨコナデ高台貼付け	内面暗灰色外面灰褐色	細砂粒からシルト質土	良	
第87図 7.27	C区	SK4	瓦器	椭	(16.6) —	—	—	内外面ともにヨコナデ外面工具によるX印が認められる	内面灰褐色から淡褐色	全体的にシルト質で均質	やや良	
第87図 7.28	C区	SK4	瓦器	椭	(16.6) —	—	—	内外面ともにやや風化する	内外面ともに灰色から淡褐色	全体的にシルト質で均質	やや良	
第87図 7.29	C区	SK4	瓦器	椭	— (7.0)	—	—	内外面ともにやや風化する高台は貼付け	内外面ともに灰褐色	赤色粒子を所々含むほかシルト質土	やや良	
第87図 7.30	C区	SK4	瓦器	椭	— (6.4)	—	—	内外面ともにやや風化する高台は貼付け	内外面ともに黄灰色断面にぶい黄褐色	全体的にシルト質土	やや良	
第87図 7.31	C区	SK4	瓦器	椭	— (7.0)	—	—	内面ミガキ外面回転ヨコナデ底部に工具によるX印が認められる	外面と内面半分灰褐色で残り黒褐色	全体的にシルト質土	やや良	
第87図 7.32	C区	SK4	土師器	Ⅲ	8.8 6.8	—	1.3~ 1.0	内外面ともに粗化著しいまた全体的に歪む	内外面ともにぶい黄褐色	全体的にシルト質土	やや不良	
第87図 7.33	C区	SK4	土師器	Ⅲ	8.2 6.2	—	1.3	内外面ともにやや風化する底部に糸切は認められない	内外面ともにぶい橙色	全体的にシルト質土	やや良	完形
第87図 7.34	C区	SK4	土師器	Ⅲ	8.4 5.9	—	1.2~ 1.3	内外面ともにやや風化する底部に糸切は認められない	内外面ともに橙色で口縁部の一部褐色	全体的に砂粒から細砂粒質土	やや良	
第87図 7.35	C区	SK4	土師器	Ⅲ	8.5 7.1	—	1.0~ 1.5	内外面ともに回転ヨコナデ底部余切	内外面ともにぶい橙色	全体的にシルト質土	やや良	
第87図 7.36	C区	SK4	土師器	Ⅲ	8.0 5.7	—	1.1	内外面ともに回転ヨコナデ底部余切	内面にぶい橙色から褐灰色 外面にぶい橙色	全体的にシルト質土	良	
第87図 7.37	C区	SK4	土師器	Ⅲ	8.7 5.8	—	1.3	内外面ともに回転ヨコナデ底部余切	内面にぶい黄褐色 外面浅黄褐色	全体的にシルトから細砂粒質土	やや良	
第87図 7.38	C区	SK4	土師器	Ⅲ	(9.0) (6.7)	—	1.3	内外面ともにやや風化する底部余切	内外面ともにぶい黄褐色	全体的に砂粒から細砂粒質土	やや良	
第87図 7.39	C区	SK4	土師器	坏	(15.4) (11.2)	—	2.5	内外面ともにやや風化する	内外面ともにぶい橙色	全体的に砂粒から細砂粒質土	やや良	
第87図 7.40	C区	SK4	土師器	手捏土器	(4.4) —	(5.2) —	3.0	内外面ともに指頭圧痕	内外面ともにぶい黄褐色 内面一部褐反色	シルトから細砂粒質土	やや良	
第87図 7.41	C区	SK4	滑石	石鍋	— (22.6)	—	—	内面ミガキの際の擦痕外面のみ痕	内外面ともに灰褐色で断面光沢がある	—	—	
第87図 7.42	C区	SK4	滑石	石鍋	—	—	—	内面大きくのみで塑形後ミガキの際の擦痕外面取手をケズりだし取手の中央穿孔その他のみ痕	内外面ともに暗灰色から灰褐色	—	—	外面スス付着
第87図 7.43	C区	SK4	滑石	石鍋	—	—	—	内面ミガキの際の擦痕外面のみ痕	内外面ともに光沢のある灰褐色外面一部黒色	—	—	外面スス付着
第87図 7.44	L区	SK2.4	瓦器	椭	(16.5) 6.6	—	5.9	内面ミガキで見込み工具による擦痕外面風化する高台貼付け	内面灰褐色外面口縁部灰褐色	白色粒子を所々含むほかシルト質土	やや良	
第87図 7.45	L区	SK2.4	瓦器	椭	(16.0) —	—	—	内外面ともにやや風化するが外面ヨコナデ内面工具によるX印が認められる	内外面ともに口縁部から上半部暗灰色下半部灰色	白色の細砂粒を多く含むほかシルト質土	やや良	
第87図 7.46	L区	SK2.4	白磁	椭	— (6.1)	—	—	内面全面施釉外面高台外面上半まで施釉	露胎灰白色 釉や灰白色で半透明	黒色粒子を若干含み所々気泡状の空洞が認められる	やや良	

第87回 747	L区	SK3-4	瓦器	楕	— (6.7)	— —	— —	内外面ともにやや風化する	内面灰色外面灰黄色	全体的に細砂粒質土	やや不良	
第87回 748	L区	SK2-4	瓦器	楕	— (6.7)	— —	— —	内外面ともにやや風化する	内面灰色外面灰黄色	全体的に細砂粒質土	やや不良	
第87回 748	L区	SK2-4	瓦器	楕	— (6.8)	— —	— —	内外面ともにやや風化する	内面暗灰色と灰黄色が斑になる外面浅黄色	白色の砂粒を含む外細砂粒質土	やや不良	
第87回 749	L区	SK2-4	滑石	石鍋	— —	— —	— —	内面ミガキの跡の擦痕外面のみ痕	内面断面光沢のある灰色外面黑色	—	—	外面スス付着
第87回 750	L区	SK2-4	滑石	石鍋	— (31.2)	— —	— —	内面ミガキの跡の擦痕外面のみ痕	断面やや赤身を帯び光沢のある灰色外面黑色から灰色	—	—	内外面ともにスス付着

第15表 土塙墓・火葬墓出土遺物計測表

単位はcm. () は反転復元による計測数値。

遺物番号	調査区	出土遺構と位置	器質	器種	口径 底径	脚部径 くびれ径	器 高	調整・釉調・文様	色 調	胎 土	焼成	その他の特徴
第89回 751	D区	SK8	青磁	楕	16.5 6.2	— —	7.3	内外面と真台外面に施釉一部質見込みキノコ状文様3個片影体部内面2本の沈線によって分離する	胎土灰白色から浅黄褐色 釉オリーブ灰色	均質	やや良	
第89回 752	D区	SK8	土師器	小皿	7.4 6.4	— —	0.9	内外面ともに回転ヨコナデ底部糸切	内面褐灰色一部黒褐色外面に赤い褐色	全体的にシルトから細砂粒質土	良	
第89回 753	D区	SK8	土師器	小皿	(7.8) (7.2)	— —	0.9	内外面ともに回転ヨコナデ底部糸切	内面に赤い褐色外面灰黄色	砂粒を所々含むほ か細砂粒質土	やや良	
第89回 754	D区	SK8	土師器	小皿	(8.2) (7.0)	— —	0.8	内外面ともに回転ヨコナデ底部糸切	—	—	やや良	
第89回 755	D区	SK8	土師器	小皿	(8.0) (6.9)	— —	0.8	内外面ともに回転ヨコナデ底部糸切	内外面ともに赤い黄褐色	シルトから細砂粒質土	やや良	
第89回 756	D区	SK8	鉄器	釘	長さ 2.0+α	厚さ 2~3mm	—	下半部木質付着	—	—	—	断面長方形
第89回 757	D区	SK8	鉄器	釘	長さ 2.2+α	厚さ 3~4mm	—	全体に木質付着	—	—	—	断面長方形
第89回 758	D区	SK8	鉄器	釘	長さ 1.1+α	厚さ 3mm	—	全体に木質付着	—	—	—	断面方形
第89回 759	D区	SK8	鉄器	釘	長さ 2.0+α	厚さ 2~3mm	—	全体に木質付着	—	—	—	断面長方形
第89回 760	D区	SK8	鉄器	釘	長さ 1.2+α	厚さ 2~3mm	—	全体に木質付着	—	—	—	断面長方形
第89回 761	I区	SK2-2	青磁	楕	16.8 5.3	— —	7.6~ 7.2	内面と外面全体上半施釉内面6ヶ所に擦によるジグザグ文様外面にによるカギ目文様	胎土灰褐色 釉オリーブ灰色	黑色粒子を多く含む	良	口縁端部の一部を外側から打ち欠く
第89回 762	I区	SK2-2	瓦器	楕	17.6 7.0	— —	6.4	口縁部ヨコナデ見込みヘラ状工具によるミガキ	内面見込み灰白色口縁部および外面灰褐色から暗灰色	白色および褐色粒子を含むシルト質土	良	
第89回 763	I区	SK2-2	瓦器	皿	9.3 6.6	— —	2.1	内外面ともに回転ヨコナデによ 考えられるが底部とともに風化著しい	内外面ともに灰白色で外面の一部灰色	白色および黑色粒子を含むほ か細砂粒質土	やや良	
第89回 764	I区	SK2-2	瓦器	楕	(16.0) (6.4)	— —	5.3	内面回転ヨコナデ後ヘラ状工具の先端でヨコ方向に擦いミガキ外面に赤い回転ヘラミガキ	内面黄灰色外面黄褐色から灰色	白色粒や褐色粒子を含むほ かシルト質土	良	
第89回 765	H区	SK2-1	白磁	楕	— —	— —	— —	口縁部玉縁	胎土灰白色 釉オリーブ灰色	黑色粒子を含む気泡状の空洞あり	良	
第89回 766	M区	SK2-8	土陣器	皿	9.3 5.4	— —	2.0~ 1.8	内外面ともに風化著しい底部糸切	内面褐色から赤い橙色外 面に赤い褐色	白色砂粒を含むほ か細砂粒質土	やや良	

第16表 挖立柱建物跡出土遺物計測表

単位はcm. () は反転復元による計測数値。

遺物番号	調査区	出土遺構と位置	器質	器種	口径 底径	脚部径 くびれ径	器 高	調整・釉調・文様	色 調	胎 土	焼成	その他の特徴
第93回 767	E区	SB4-P3	白磁	楕	16.0 —	— —	— —	口縁部玉縁・内面全面と外面上半に施釉うすい質入	胎土灰黄色 釉オリーブがかった灰白色	気泡状の空洞が多い	やや良	
第93回 768	E区	SB5-P3	土師器	小皿	(7.8) 6.2	— —	1.2	口縁部内外面ともに回転ナデ見込み1方向のナデ底部糸切	内外面ともに赤い黄褐色	細砂粒質土からシルト質土	やや良	
第93回 769	E区	SB5-P3	白磁	楕?	— —	— —	— —	口縁部の一部で端部斜めにやや丸く仕上げ外面1条縁い凸縁内外面施釉	胎土灰白色 釉不透明な白色	気泡状の空洞が多い	やや良	

第93回 770	F区	SB5-P3	瓦器	椭	—	—	—	口縁部画板ナデ見込みミガキ	内外面ともに口縁部灰白色 下半部青灰色	細砂粒質からシルト質土	やや良	
第93回 771	F区	SB5-P2	黒曜石	石器	残存長 1.5	幅 1.2	厚さ 0.5	打製で先端部分が欠損する	—	—	—	
第95回 772	E区	SB9-P2	青磁	椭	— (7.1)	—	—	内面全面施釉一部目跡外面露 胎ナデ	胎土灰色から一部に赤褐色 胎に残る黄色からオリーブ黄色	細砂粒質土	良	越州窯系

第17表 溝・井戸出土遺物計測表

単位はcm。()は反転復元による計測値。

遺物 番号	調査区	出土遺構と位置	器質	器種	口径 底径	側部径 くびれ径	器 高	調整・描調・文様	色 調	胎 土	焼成	その他の特徴
第100回 773	J区	SD6	青磁	椭	— 5.3	—	—	内面蓮華文を片彫り・内面全 面と外面全面および高台外面 に施釉	胎土褐灰色から灰白色 釉オリーブ灰色	シルト質で均質	良	
第100回 774	J区	SD6	青磁	椭	— 4.7	—	—	内外面全面と高台外面まで施 釉	胎土灰色 釉オリーブ灰色	均質	良	
第100回 775	J区	SD6	青磁	椭	— 5.5	—	—	内外面全面と高台外面まで施 釉し高台内側まで釉が流れ込 む	胎土灰白色から灰白色 釉灰オリーブ色が抜け白く 渦る	シルト質で均質	良	
第100回 776	J区	SD6	青磁	椭	— 5.0	—	—	内外面全面と高台外面まで施 釉	胎土灰白色から灰白色 釉暗オリーブ灰色	堅緻で均質	良	
第100回 777	J区	SD6	青磁	椭	— (4.9)	—	—	内面の体部に見込みの窓の状 態の大きな抉れ・内面施釉・外商 胎で体部に擦拭工具による力が付 く	胎土黄灰色 釉オリーブ灰色	黒色粒子を含むほ かやや均質	やや良	
第100回 778	J区	SD6	青磁	椭	— (5.5)	—	—	内外面全面と高台外面まで施 釉し高台内側まで釉が流れ込 む	胎土白色に近い灰白色 釉灰オリーブ色	所々気泡状の空洞 が認められるほか 均質	やや良	
第100回 779	J区	SD6	青磁	椭	—	—	—	内面口縁部側に3条の枕線と 大部に飛雲文・内外面ともに 施釉	胎土灰白色から灰黄色 釉灰オリーブ黄色	シルト質で均質	良	
第100回 780	J区	SD6	青磁	椭	—	—	—	外面銷連弁・内外面ともに施 釉	胎土明青灰色 釉灰オリーブ灰色	所々気泡状の空洞 が認められるほか 均質	やや良	釉がやや厚い
第100回 781	J区	SD6	青磁	皿	— 3.0	—	—	内面見込み柳状施文具による 花文を施す・内外面とも施釉 で底部釉を力抜取る	胎土灰白色 釉オリーブ黄色	堅緻で均質	良	体部を細かく打ち欠い ている
第100回 782	J区	SD6	白磁	皿	(10.6) (3.1)	—	2.6	内面見込み蘿草・松葉状の文 様を施す・内外面とも施釉で 底部釉を力抜取る	胎土灰白色から明青灰色 釉灰色で半透明	黒色粒子を含み所々 気泡状の空洞が認め られるほか均質	やや良	
第100回 783	J区	SD6	瓦器	椭	— 6.3	—	—	内外面ともにやや風化著 しい	内面灰白色外面暗灰色	黒色および灰色の 砂粒を含むはかば シルト質土	やや良	
第100回 784	J区	SD6	瓦器	椭	— (6.4)	—	—	内面ミガキ？外面やや風化著 しい	内外面ともに灰白色と灰色	シルトから細砂粒 質土	やや良	
第100回 785	J区	SD6	青磁	椭	— (6.2)	—	—	見込みにスタンプ状の浮彫り を施す・内外面全面と高台外 面まで施釉	胎土青灰色と灰色が層のよ うになっている・釉灰オ リーブ色で白く渦る	細砂粒質	やや良	
第100回 786	J区	SD6	白磁	椭	(16.4) —	—	—	口縁部玉締・内外面ともに施 釉	胎土灰白色 釉灰黄色に渦った半透明	黒色粒子を多く含 むほか堅緻で均質	やや良	
第100回 787	J区	SD6	白磁	椭	— (6.2)	—	—	内面見込み模目・内外面全 面と高台外面まで施釉	胎土白に近い灰白色 釉灰黄色に渦った半透明	黒色粒子を含み 所々気泡状の空洞 が認められる	やや良	
第100回 788	J区	SD6	白磁	椭	— (6.1)	—	—	内外面全面と高台外面の一帯 施釉	胎土白に近い灰白色 釉オリーブ色に近い灰白色 で半透明	堅緻で均質	やや良	あらゆる部分を細かく 打ち欠く
第100回 789	J区	SD6	白磁	椭	— (5.4)	—	—	内面施釉外面ケズリ	胎土灰白色 釉灰白渦した半透明	黒色粒子を含み 所々気泡状の空洞 が認められる	やや良	
第100回 790	J区	SD6	青磁	椭	— 4.8	—	—	内外面施釉外面下半露胎・外 面体部削り後施釉	胎土浅黄色 釉オリーブ黄色	細砂粒子を多く含 み所々気泡状の空 洞が認められる	やや不良	
第100回 791	J区	SD6	白磁	椭	— (7.0)	—	—	内面施釉外面ケズリ	胎土浅黄褐色に近い灰白 色・釉淡黄褐色に渦って透 明ではない	気泡状の空洞が認め られる	不良	
第100回 792	J区	SD6	白磁	椭	— 5.9	—	—	見込みに沈線・内面施釉外 面下半は露胎でケズリ	胎土灰白色 釉灰白渦した半透明	褐色粒子を含み 所々気泡状の空洞 が認められる	やや良	
第100回 793	J区	SD6	白磁	椭	— 6.0	—	—	内面施釉外面下半は露胎でケ ズリ	胎土灰白色 釉灰白渦した半透明	栗色粒子を含むほ か堅緻で均質	やや良	
第100回 794	J区	SD6	滑石	石器	—	—	—	内面ノミ痕を研磨外面受部で ノミ痕が認められる	全般的に灰白色から灰黄色	—	—	
第100回 795	J区	SD6	銅	仏具？	幅 2.2cm	厚さ 3mm	—	緑青が吹き風化著しい	青緑色から深緑色	—	—	

第100回 796	J区	SE1	磁器	楕	—	—	染付	口縁部に施文	—	良		
第100回 797	J区	SE1	陶器	鉢?	—	—	—	外面体部上半に萬葉軸内面回転ヨコナデ	胎土にぶい赤褐色 雅灰白色	シルト質で均質	良	
第100回 798	J区	SE1	陶器	すり鉢	—	—	—	口縁部は立ち上がり外面2条の凹部に斜泥角・内外面ともに回転ヨコナデ内面体部カキ目	胎土にぶい赤褐色 釉輪端赤褐色	白色砂粒を含むほ か繊維粒質土	良	
第100回 799	J区	SE1	白磁	楕	— (5.6)	—	—	内面体部下半に沈線・内外面に施釉外面下半露胎・ケズリ後施釉	胎土白に近い灰白色 釉白色に濁った半透明	黒色粒子を含み気 泡状の空洞が認め られる	やや良	
第100回 800	J区	SE1	白磁	楕	—	—	—	口縁部玉縁・内外面ともに施釉	胎土白に近い灰白色 釉白色に濁った半透明	黒色粒子を含み均 質	やや良	
第100回 801	J区	SE1	陶器	すり鉢	— (12.6)	—	—	内面7条を単位とするカキ目・ 外面体部回転ヨコナデ・底部 糸切	内外面ともにぶい橙色で 所々黒褐色を呈す	全体的に纏砂質 土	やや良	
第103回 837	O区	包含層	陶質土 器?	取手付鉢	10.6 6.7	11.4 10.3	8.7	後円部内面に沈線ほか内面ヨ コナデ・外面胴部上半に2条の 稜線下半に1条の稜線その間 胴部最大径の部分に波文・外周 底盤は静止ヘラケびはた取手を 囲むする縁の波文2条・底部ナデ	内外面ともに暗青灰色内面 底盤と外面の一部自然釉に よる黄白色断面紫灰色	シルトから泥質、 堅緻で緻密	良好	取手を有していたが次 第

第18表 古墳出土金属器計測表

単位cm

遺物番号	調査区	遺構	器形	材質	計測
第101回802	N区	SO1	刀子	鉄	全長 $7.4 + \alpha$ ・刃部長 $5.2 + \alpha$ ・刃部幅 1.5 ・背幅 0.3
第101回803	N区	SO1	鐔	鉄	長径 4.3 ・短径 3.3
第101回804	N区	SO1	耳環	金メッキ	長径 3.1 ・短径 2.8 ・厚さ 0.2
第101回805	N区	SO1	鉄鎌	鉄	全長 18.2 ・刃部～関部長 12.2 ・刃部幅 1.1 ・茎部厚さ 0.5
第101回806	N区	SO1	鉄撫	鉄	全長 11.6 ・刃部～関部長 6.8 ・刃部幅 3.5 ・刃部厚さ 0.2

第19表 古墳出土玉類遺物計測表

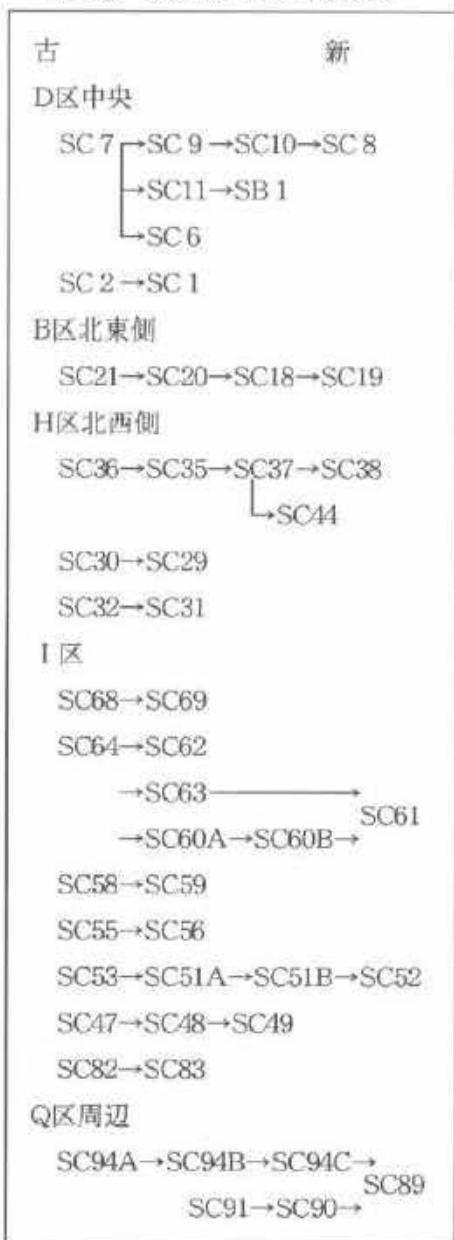
単位mm

遺物番号	調査区	遺構	器形	材質	色調	長さ(高さ)	幅(径)	孔径	重量
第101回807	N区	SO1	丸玉	ガラス	濃紺	7.0	8.0	3.0～4.0	0.7g
第101回808	N区	SO1	丸玉	ガラス	濃紺	5.5～6.0	8.0	2.0	0.5g
第101回809	N区	SO1	丸玉	ガラス	濃紺	4.5～5.5	9.0	1.0	0.6g
第101回810	N区	SO1	丸玉	ガラス	濃紺	7.0	9.0	2.0	0.7g
第101回811	N区	SO1	丸玉	ガラス	濃紺	5.5	9.0	2.0	0.6g
第101回812	N区	SO1	丸玉	ガラス	濃紺	6.0	8.5	1.5～2.0	0.6g
第101回813	N区	SO1	丸玉	ガラス	濃紺	6.0	8.0	1.5～2.0	0.65g
第101回814	N区	SO1	丸玉	ガラス	濃紺	5.0～6.0	7.0	2.0	0.6g
第101回815	N区	SO1	丸玉	ガラス	濃紺	6.0	8.0	2.0	0.55g
第101回816	N区	SO1	丸玉	ガラス	濃紺	6.0～7.0	6.5	1.5～2.0	0.5g
第101回817	N区	SO1	丸玉	ガラス	淡緑灰色	4.0～4.5	8.0	2.0	0.4g
第101回818	N区	SO1	丸玉	ガラス	濃紺	3.0	5.5	1.0～2.0	0.2g
第101回819	N区	SO1	丸玉	ガラス	濃紺	3.0～4.0	4.0	2.0	0.1g
第101回820	N区	SO1	丸玉	ガラス	濃紺	5.5～6.0	8.0	1.5	0.7g
第101回821	N区	SO1	丸玉	ガラス	濃紺	7.0	9.0	1.5～2.0	0.8g
第101回822	N区	SO1	丸玉	ガラス	濃紺	6.0～8.0	8.0	2.0	0.7g
第101回823	N区	SO1	丸玉	ガラス	濃紺	7.0	8.5	1.5～2.0	0.7g
第101回824	N区	SO1	丸玉	ガラス	濃紺	5.5～6.5	9.5	2.0	0.8g
第101回825	N区	SO1	丸玉	ガラス	濃紺	5.0	8.5	2.0	0.5g
第101回826	N区	SO1	丸玉	ガラス	濃紺	5.5	8.0	2.0	0.4g
第101回827	N区	SO1	丸玉	ガラス	濃紺	5.5	9.0	1.5	0.6g
第101回828	N区	SO1	丸玉	ガラス	濃紺	4.0～5.5	8.0	1.0	0.5g
第101回829	N区	SO1	丸玉	ガラス	濃紺	6.0	9.0	2.0	0.6g
第101回830	N区	SO1	丸玉	ガラス	濃紺	5.0～5.5	7.0	1.0	0.5g
第101回831	N区	SO1	丸玉	ガラス	濃紺	6.5	8.0	1.0	0.7g
第101回832	N区	SO1	丸玉	ガラス	紺	4.0	8.0	2.0～3.0	0.4g
第101回833	N区	SO1	丸玉	ガラス	紺	8.0	9.0	1.5	0.5g
第101回834	N区	SO1	丸玉	ガラス	青	6.0	8.0	2.5	0.6g
第101回835	N区	SO1	小玉	ガラス	青	5.0	8.0	1.0	0.3g
第101回836	N区	SO1	小玉	ガラス	淡青	3.0	4.0	1.0	0.1g以下

ま と め

今回報告した竪穴住居跡は、全遺構の約7割を占め、105棟検出された。実際は、削平などを考慮すると数は増えるものであり、現状での住居の片寄は削平を免れた範囲とも考えられる。住居が集中する範囲は、D区中央、B区北東側、H区北西側、I区は東側・北東側・北西側・西側の4ヶ所・K区北側・Q区を中心とする範囲で10ヶ所に分けることができる。ここでは住居群の成立と住居群の中での変遷について整理する。土師器の編年については、柳田康雄氏の北部九州土師器編年図を使用し、須恵器は、舟山良一氏の九州の須恵器編年^(注)を使用した。また、住居変遷図は、近隣である柏原平野周辺の弥生時代後期から7世紀までの竪穴式住居変遷図^(注)から比較した。

第20表 竪穴式住居新旧関係表



1. 竪穴式住居の変遷

各住居群で確認できた個々の住居の新旧関係は左の通りである。切り合い関係を整理した結果、各段階において変化に共通性が考えられ5段階に分けることができた。

第1段階は、SC7・SC64・SC72が該当する。竪穴部は深く検出面の平面形は方形で4隅がシャープである。周壁溝の幅は狭く、全周していない。出土土器などもいずれも比較的多くまとまって出土している。

SC7は、須恵器の出土は認められず、各器種の土師器が竪穴部の南東側床面よりまとまって出土した。

SC64は、床面に仕切り溝などが検出され、壁溝は、壁溝際の床面より杭痕を検出したことから板材を使用していたものと考えられる。竪穴部の床面西側では陶質土器と考えられる鉢が1点出土し、カマド周辺より土師器がまとまって出土した。

SC72は、陶質土器と考えられる繩蓆文を胴部器面に施す甕を出土し、このほかに竪穴部の床面の北側と東側、南西側の3ヶ所より土師器がまとまって出土した。土師器の中には壺の胴部に竹管文を施すものやII-bの特徴を持つ高杯などが同時に出土した。これと近似した遺物出土例が甘木市宮原遺跡B・C区の3号竪穴住居内土壙Aにみられる。

第2段階は、2つのタイプに分けられる。D区SC6・9、B区SC18、K区SC73は、竪穴部が比較的大形で壁溝は全周し、排水溝は認められない。これらの住居は第1段階の住居の周辺や新たに単独で出現するものである。

A区SC17、B区SC20・21、D区SC1・2、G区SC24、H区SC30・

32・35、I区SC51・55・58・60・68、K区SC74、Q区SC94は、おもに拡張を伴う住居である。この段階で各住居群の配置がほぼ群単位でまとまるものと考えられる。

第3段階は、D区SC3・12、H区SC29・31・37、I区SC56・59・61・69・66で、竪穴部の主軸が先代の住居を切っているにも関わらずやや斜めに立て替えられているもの、排水溝が著しく発達しているものなどが認められる。

第4段階は、D区SC8、H区SC33・34・39が該当し、小形の住居が単独で検出されている。また、B区SC19、H区SC38、I区SC52などは、先代の住居が何度も拡張して竪穴部の床面積を広くしたにも関わらず、この段階で確実に狭くなる状況が認められる。これ以降台地上での住居は数が減り、台地の周辺でやや傾斜した場所より検出される。

第5段階は、K区SC83、O区SC93・P区SC98・QSC102・105やP区SK30・31、Q区SK32が検出される。住居は、SC93を除き周壁溝を施さないもの、または全周しないものが多い。

以上の5段階を編年にあてはめると、第1段階は、土師器編年のⅢ-aからⅢ-bで、住居変遷図ではⅣ期とⅤ期の間であり、5世紀初頭から前半と考えられる。第2～3段階は、土師器編年のⅣ～Ⅴ期で、須恵器編年のⅠからⅡ期である。最も住居が多く検出され、久原集落の繁栄した時期と考えられる。住居変遷図ではⅤ期である。第4から5段階は、須恵器編年のⅡ期からⅢ-a期に相当し6世紀の前半から中頃で、住居変遷図ではⅣ期とⅤ期の間である。これ以降この範囲で竪穴住居の検出は認められない。

註1：古墳時代の研究 6 土師器と須恵器 石野博信ほか 1991 雄山閣出版株式会社 p34～46

註2：古墳時代の研究 6 土師器と須恵器 石野博信ほか 1991 雄山閣出版株式会社 p143～151

註3：大隈栄松遺跡 福岡県糟屋郡粕屋町所在遺跡の調査 粕屋町文化財調査報告書 第7集 粕屋町教育委員会 1994

註4：九州横断自動車道関係埋蔵文化財調査報告 14 甘木市所在宮原遺跡調査Ⅰ(B・C地区) 福岡県教育委員会 1988

参考文献

日本原始・古代住居の研究 石野博信 1990 吉川弘文館

古文化談叢 第24集 小田富士雄 1991 須恵器文化の形成と日韓交渉・総説編 西日本初期須恵器の成立をめぐってp1～92

當地原川原田Ⅰ 宗像市文化財調査報告書 第39集 宗像市教育委員会 1994

図 版

航空写真



全 景

図版2



南から全景



D区全景



L区全景



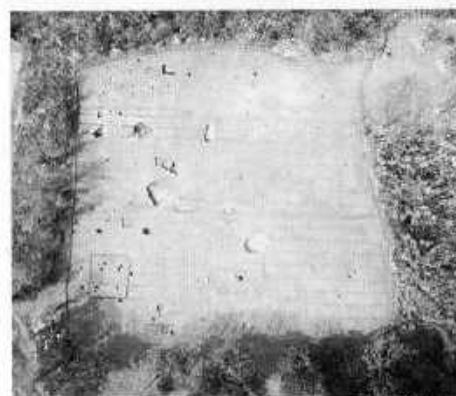
北から全景



E区全景



M区全景



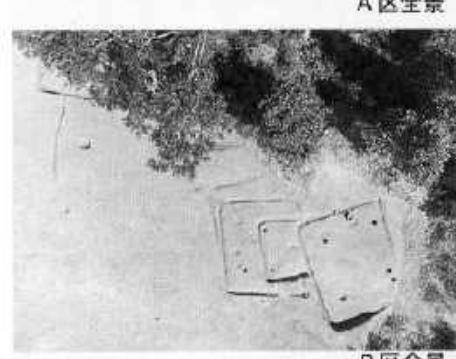
A区全景



F·G区全景



N区全景



B区全景



H·I区全景



O区全景



C区全景



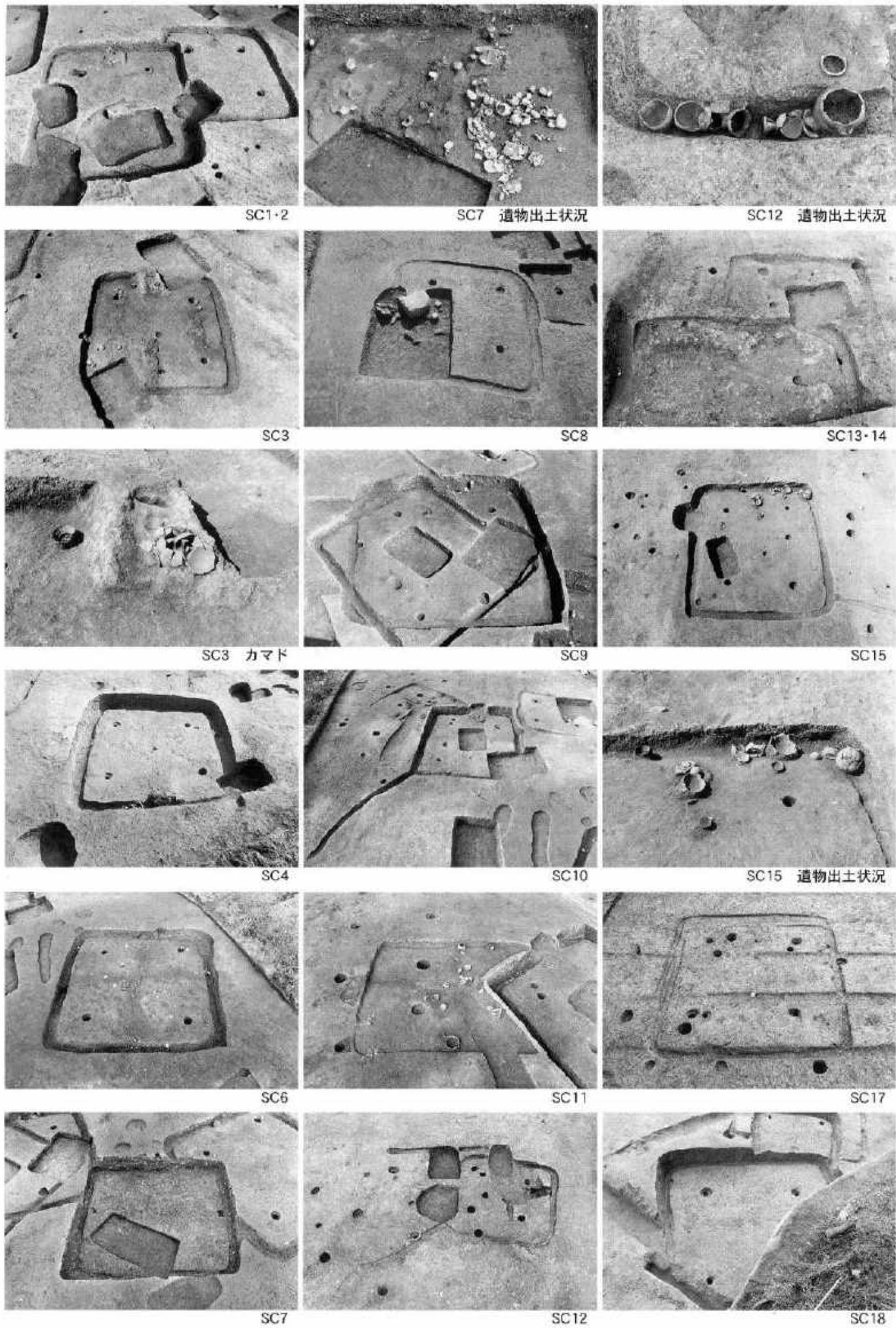
K区全景



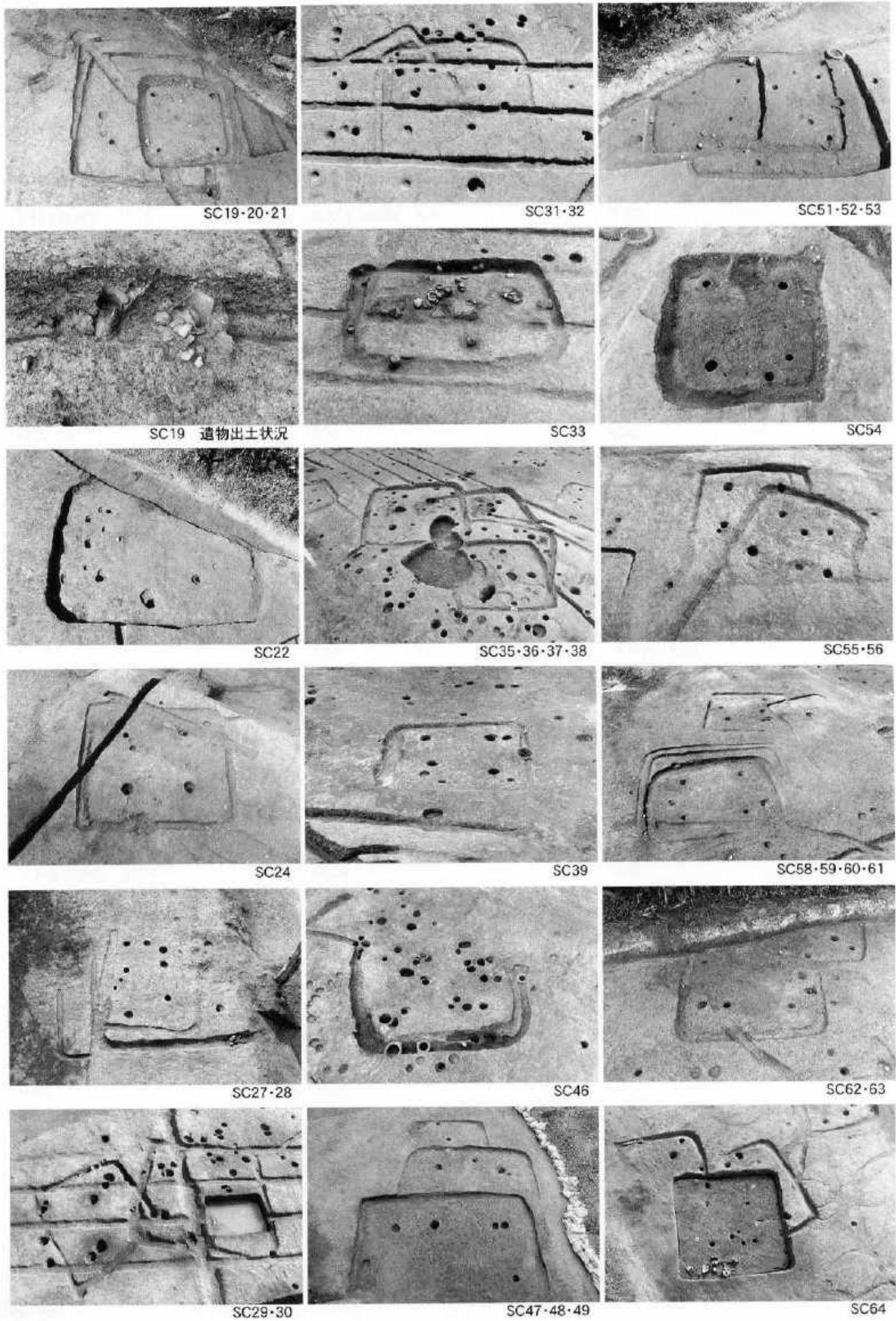
P区全景



Q区全景

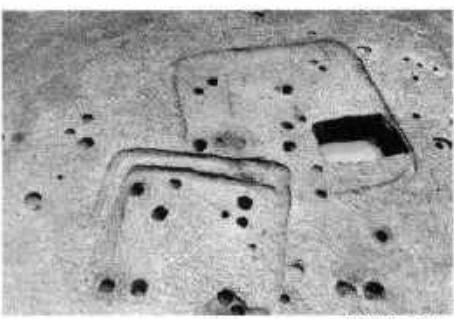


图版4

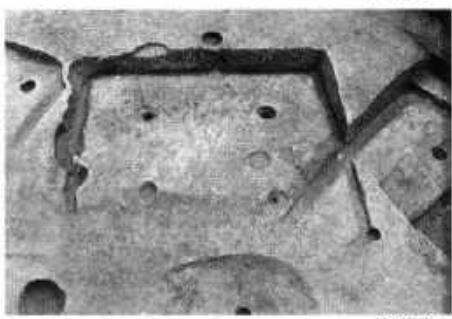




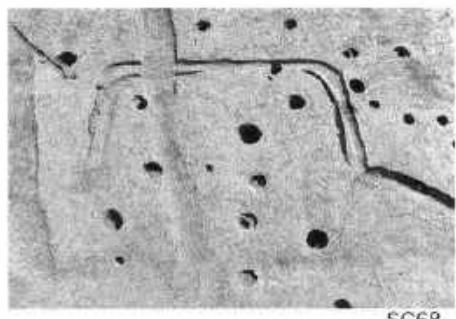
SC66



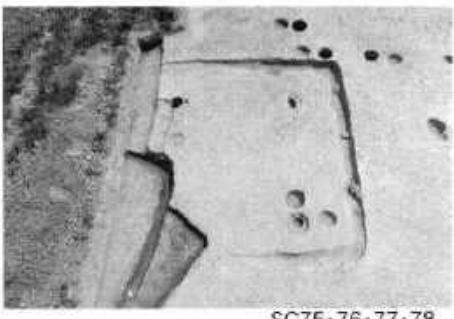
SC73-74



SC90



SC68



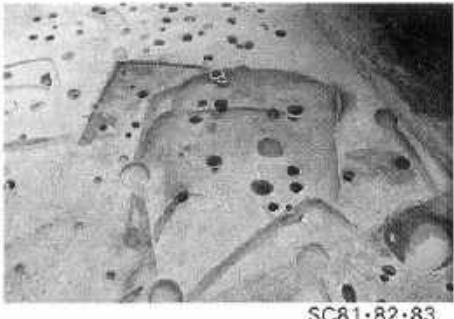
SC75-76-77-78



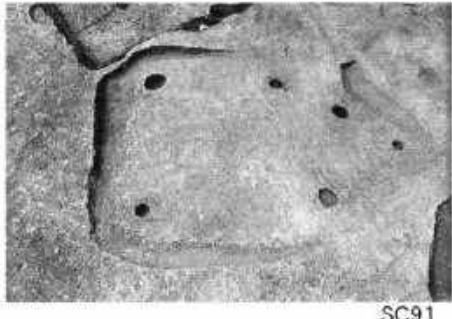
SC90 カマド遺物出土状況



SC70-71



SC81-82-83



SC91



SC72 遺物出土状況



SC84-85



SC93



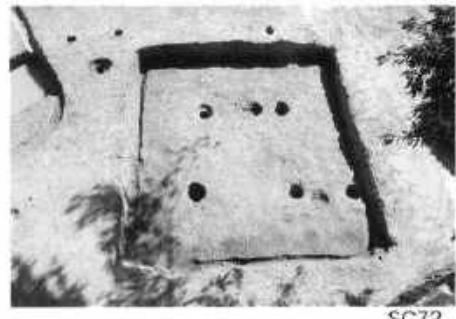
SC72 繩鬲文甕出土状況



SC86



SC94



SC72

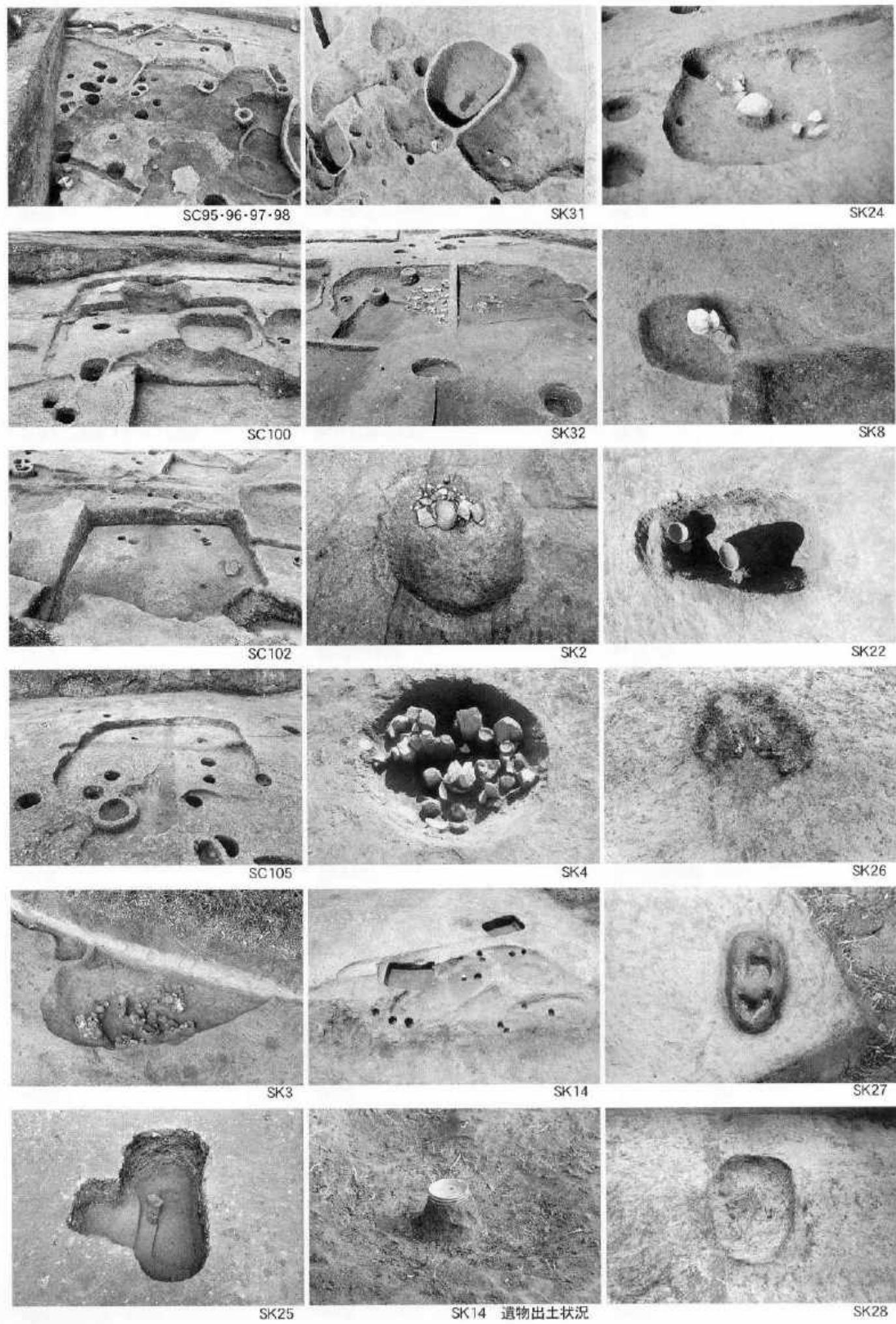


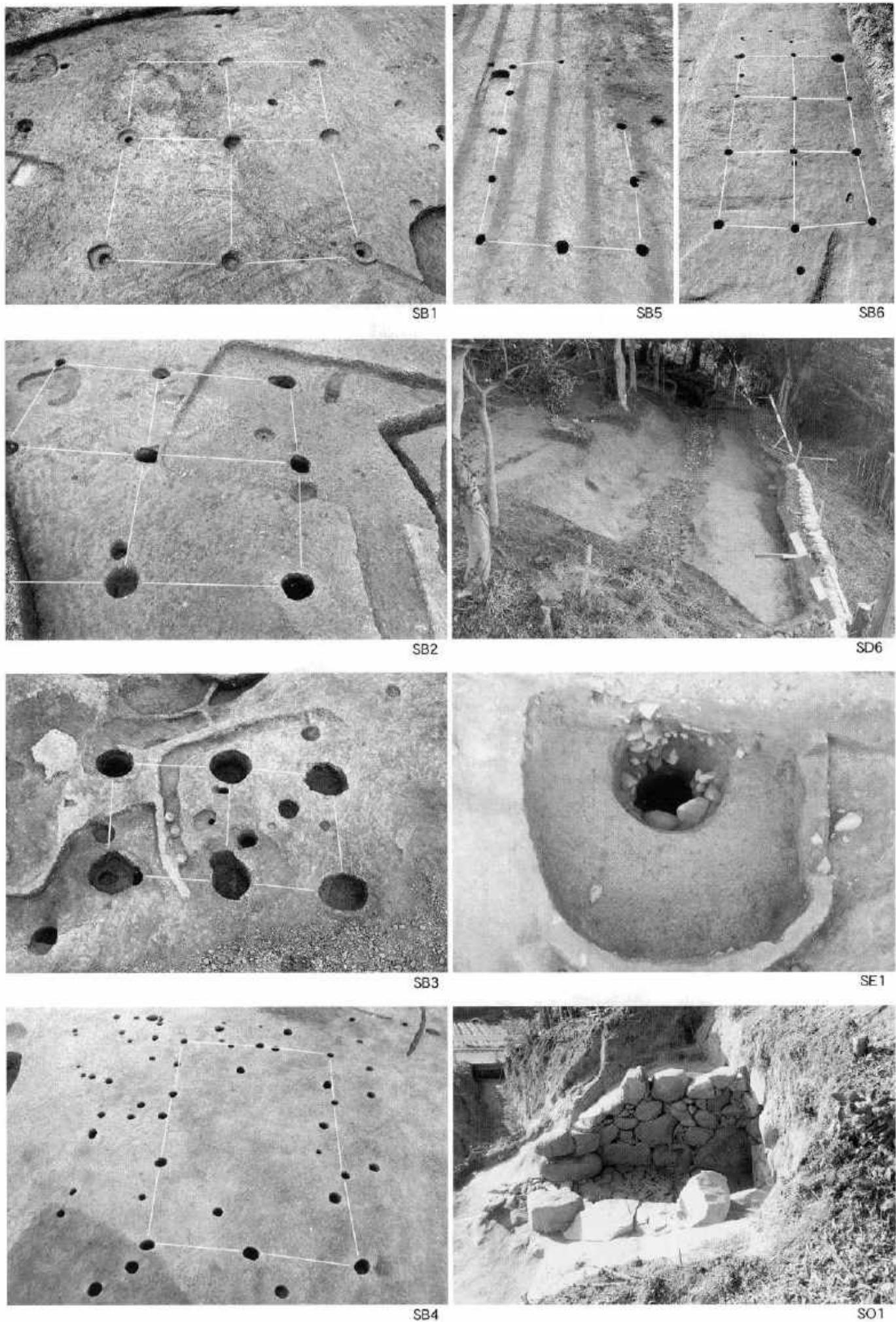
SC89



SC94 遺物出土状況

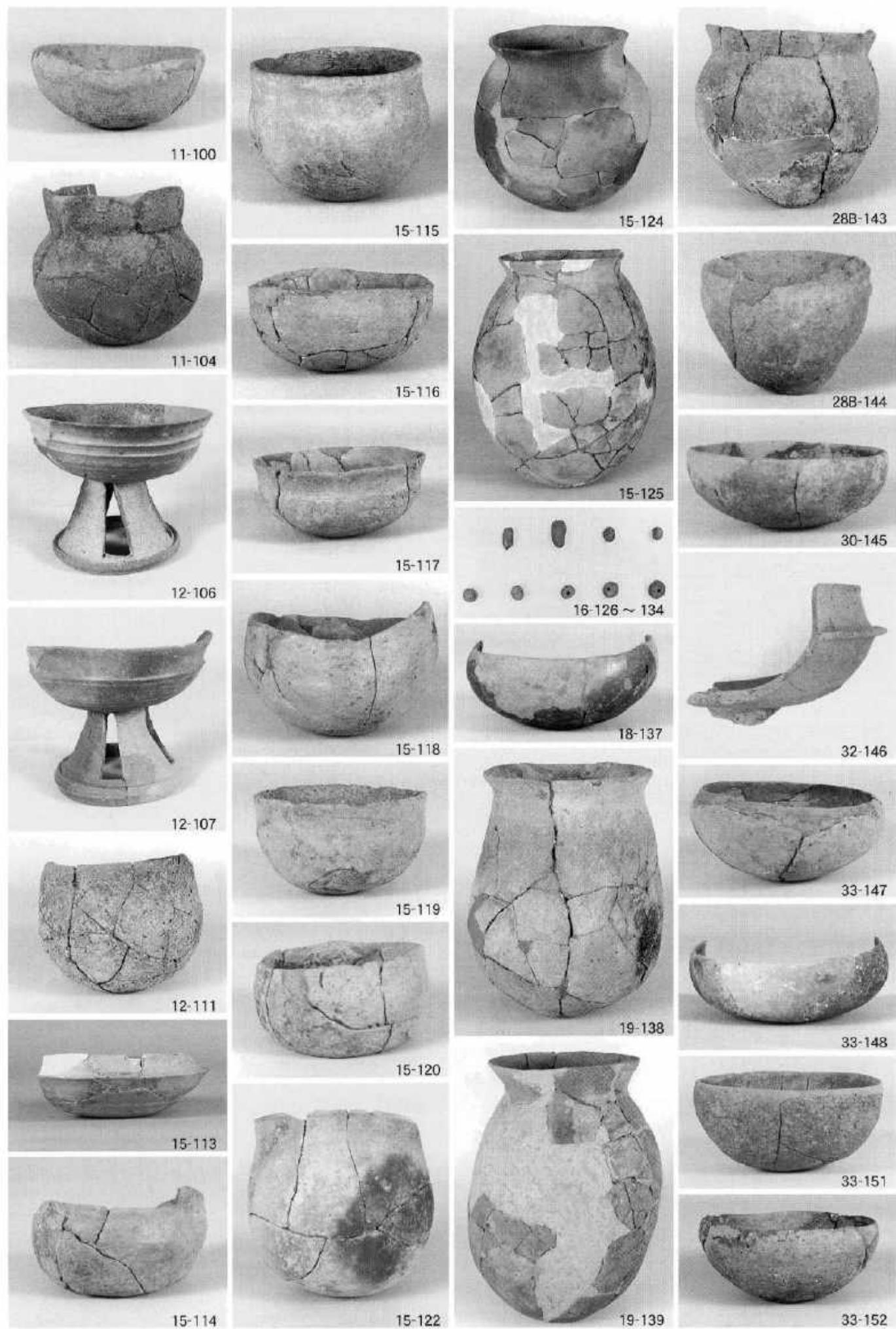
図版 6



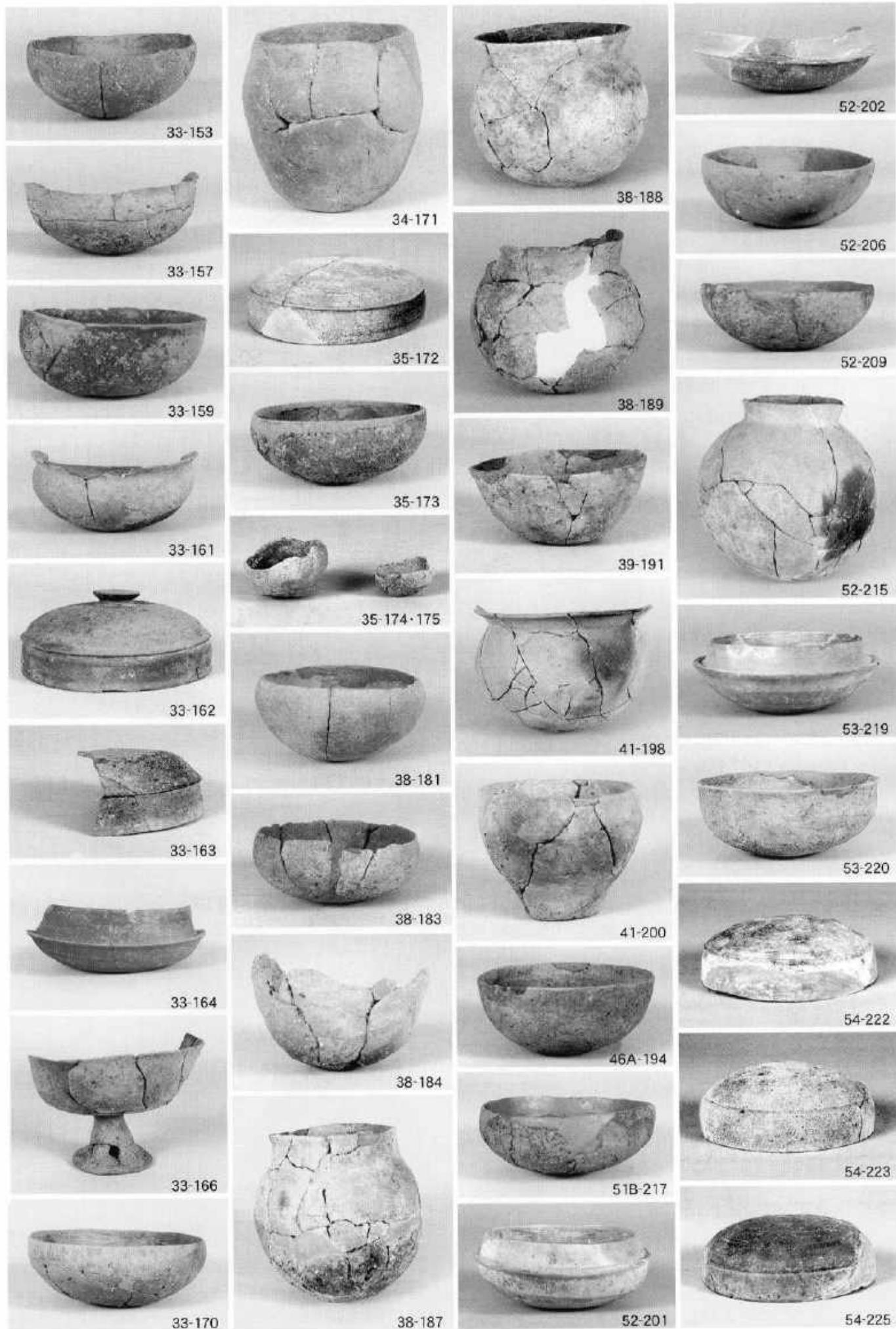


図版8



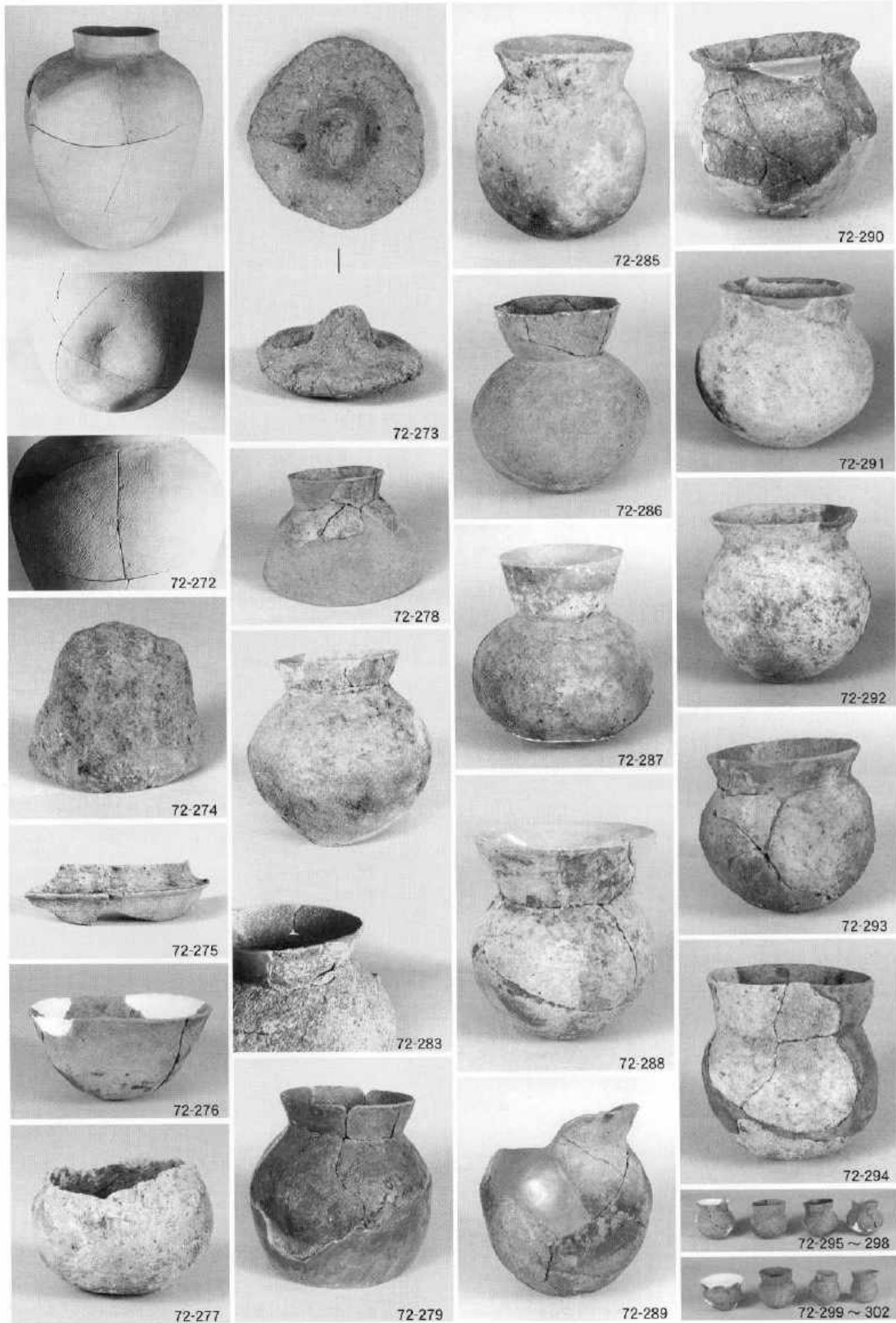


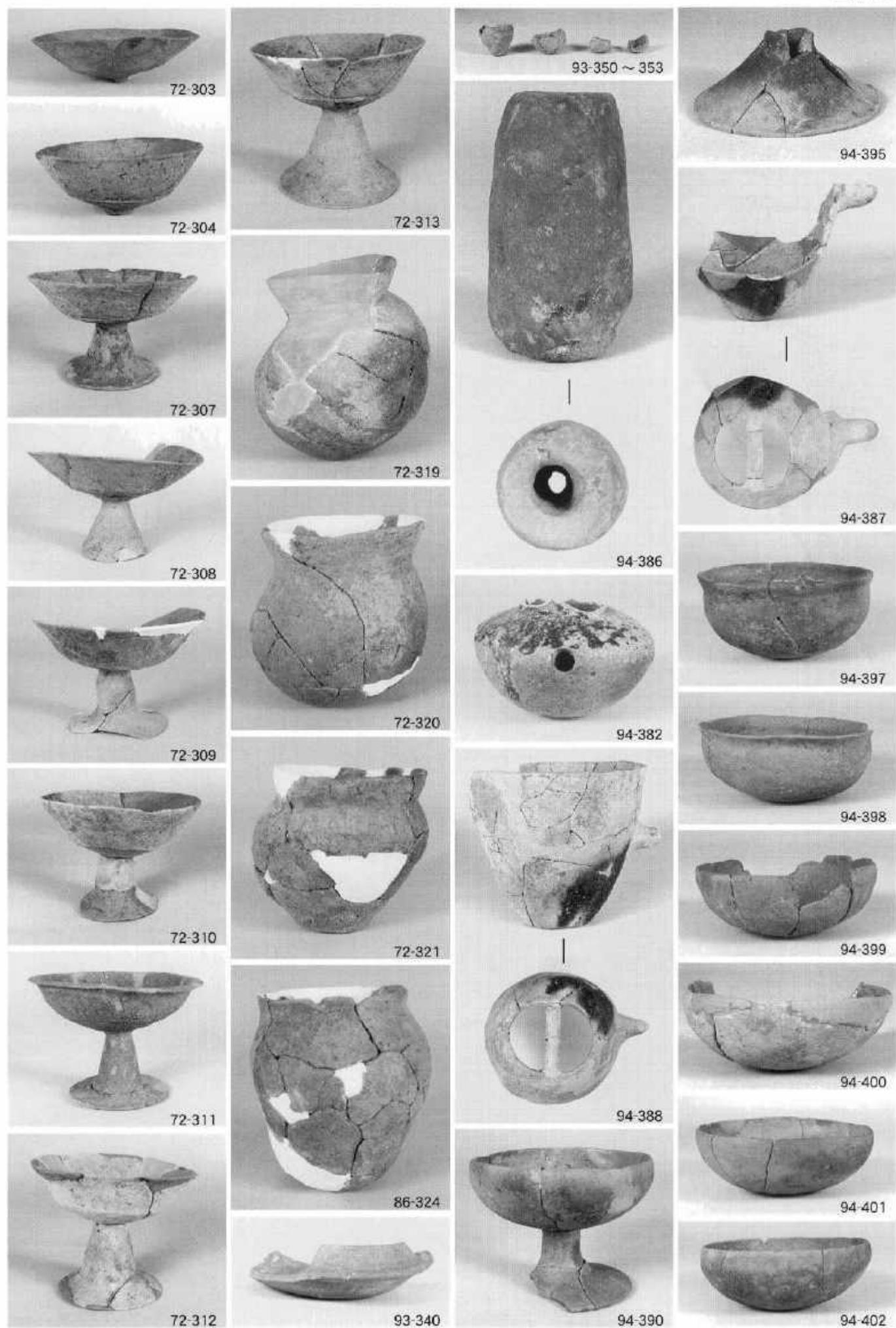
図版 10



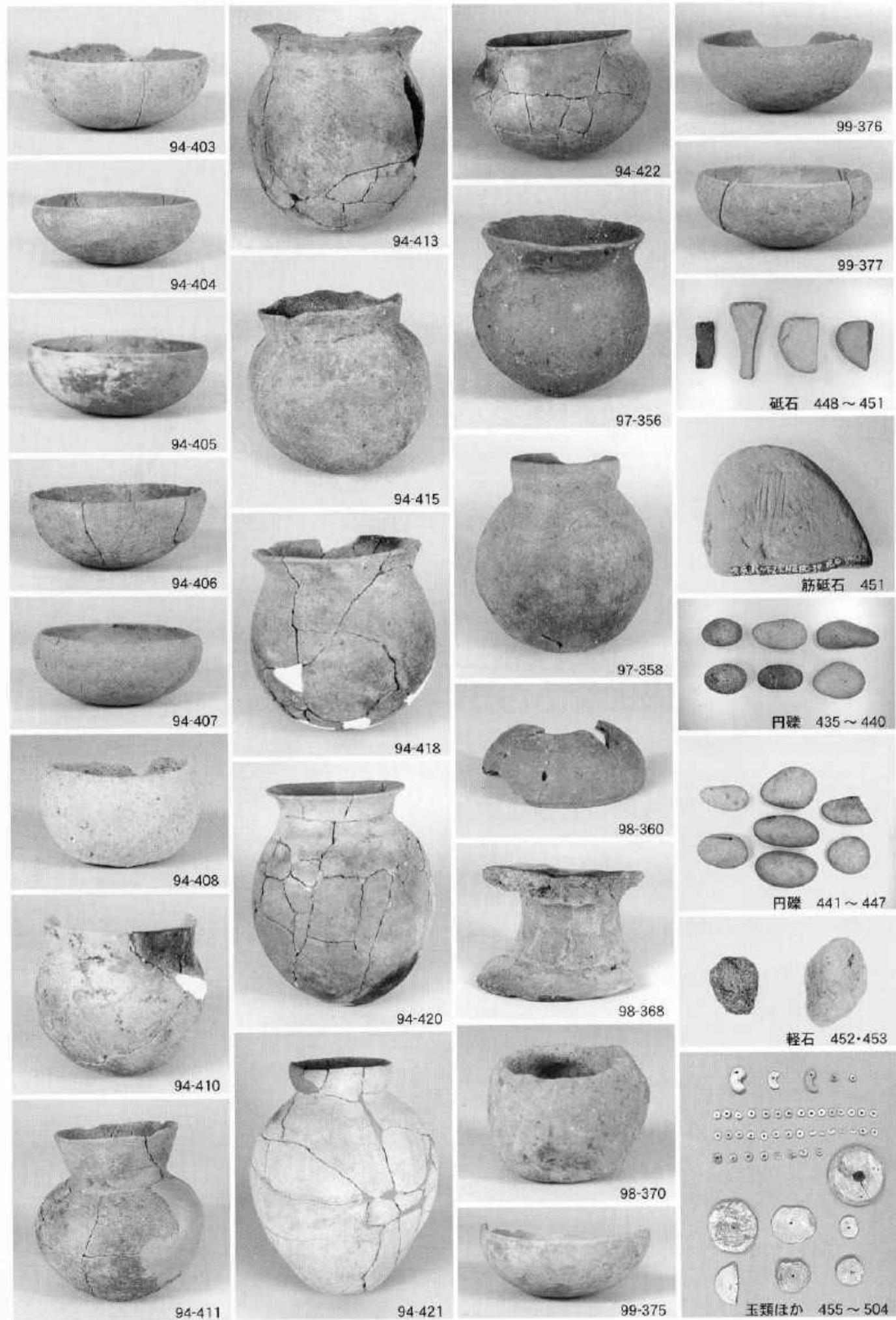


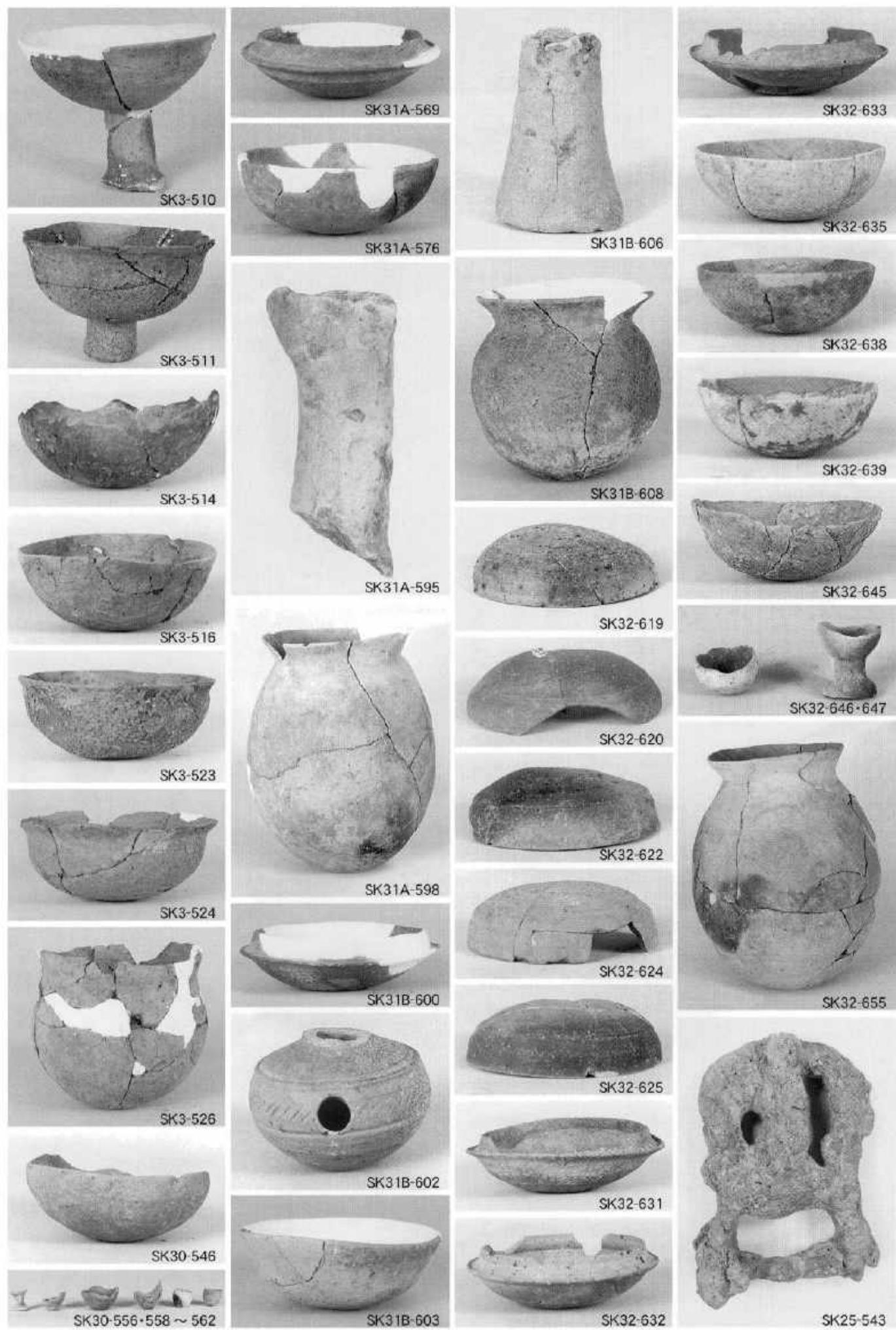
图版 12



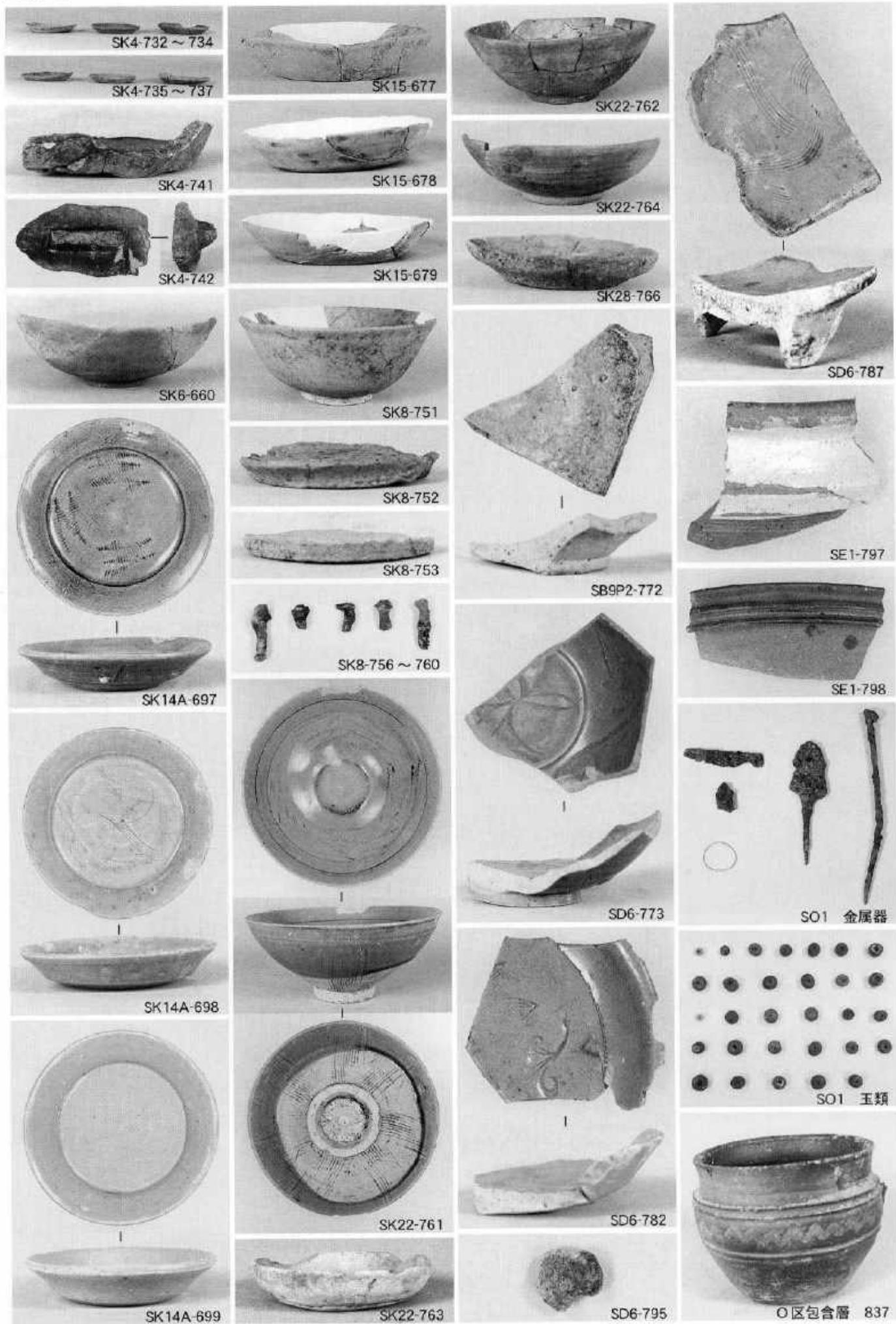


图版 14





図版 16



フリガナ	クバラタキガシタ							
書名	久原瀧ヶ下							
副書名	福岡県宗像市久原所在遺跡の発掘調査報告							
巻次								
シリーズ名	宗像市文化財調査報告書							
シリーズ番号	第48集							
編著者名	岡 崇							
編集機関	宗像市教育委員会							
所在地	〒811-0092 福岡県宗像市大字東郷995番地 TEL(0940)36-1540							
発行年月日	西暦 2000年3月31日							
フリガナ 所収遺跡	フリガナ 所在地	コード		北 緯	東 經	調査期間	調査面積	調査原因
市町村		遺跡番号						
クバラタキガシタ 久原瀧ヶ下	ムナカタシオオアザクバラ 宗像市大字 久原108他	40220	330489	33° 47° 32°	130° 33° 03°	1995.2.1 ～ 1999.5.31	約15000m ²	宗像市総合 保健福祉セ ンター建設
所収遺跡名	種別	主な時代	主な遺構	主な遺物	特記事項			
久原瀧ヶ下	古 墳	古 墳	竪穴式住居	土器・須恵器	陶質土器 3点出土			

久原瀧ヶ下

宗像市文化財報告書

第48集

平成12年3月31日

発行 宗像市教育委員会

宗像市大字東郷995番地

印刷 (有)青雲印刷

北九州市小倉北区鶴谷町4丁目1-1